

宮崎市 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
(第1号被保険者、第2号被保険者)

調査結果報告書

令和5年3月
宮崎市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の実施要領.....	1
3. 調査票の配布数・有効回答数	1
4. 調査結果利用上の注意	1
第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(第1号被保険者)の結果	2
1. 回答者の属性	2
2. 生活機能評価.....	9
3. 回答者の家族や生活状況について.....	20
4. からだを動かすことについて	25
5. 日常生活での移動について	33
6. 食べることについて	36
7. 毎日の生活について	43
8. 地域内外での活動について	52
9. たすけあいについて	65
10. 健康について	76
11. 今後の生活について.....	88
12. 認知症について.....	95
13. 権利擁護について.....	101
14. その他	106
第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(第2号被保険者)の結果	107
1. 回答者の属性	107
2. 仕事やセカンドライフ(老後)への考えについて	111
3. あなたの介護に関する考え方について	117
4. 認知症について.....	126
5. たすけあいについて	128
6. 健康づくりについて	137
7. 地域包括ケアシステムについて	149
8. 権利擁護について.....	152
9. その他	158

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

「宮崎市民長寿支援プラン(第10次高齢者福祉計画、第9期介護保険事業計画)」を策定するための基礎資料とする。

2. 調査の実施要領

(1)調査期間

令和5年1月10日～令和5年1月24日

(2)調査の種類及び調査対象者

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(第1号被保険者)

・対象:介護保険要介護認定を受けていない65歳以上の市民3,000人(住民基本台帳から無作為抽出)

②介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(第2号被保険者)

・対象:40歳～64歳の市民3,000人(住民基本台帳から無作為抽出)

(3)調査方法

調査票の発送は郵送方式。回収は郵送方式またはWEB方式。

3. 調査票の配布数・回収数

調査の種類	配布数	回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(第1号被保険者)	3,000件	1,908件	63.6%
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(第2号被保険者)	3,000件	1,162件	38.7%

※第1号被保険者のWEB回収数は108件。回収数(1,908件)のうち5.7%となっている。

第2号被保険者のWEB回収数は301件。回収数(1,162件)のうち25.9%となっている。

4. 調査結果利用上の注意

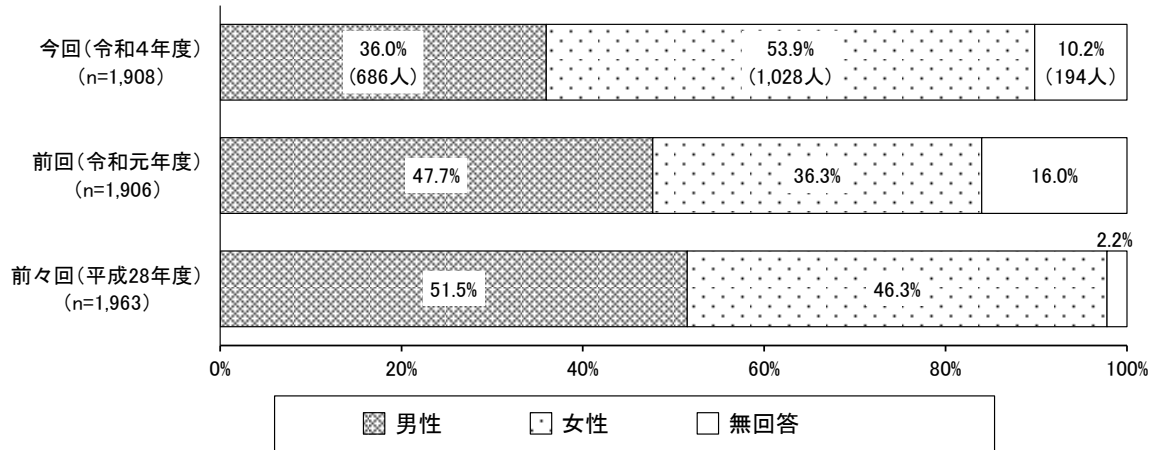
- ・各設問の集計母数(回答者数)は「n=」で示している。
- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問は、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ・令和元年度に実施した調査を「前回(令和元年度)」、平成28年度に実施した調査を「前々回(平成28年度)」と表記している。

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(第1号被保険者)の結果

1. 回答者の属性(問1)

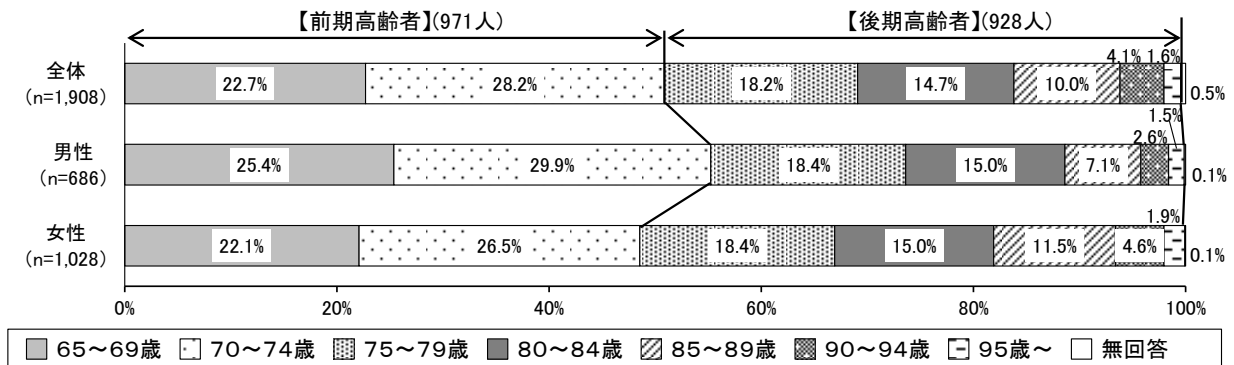
(1)性別[Q2]

図表1-1 性別



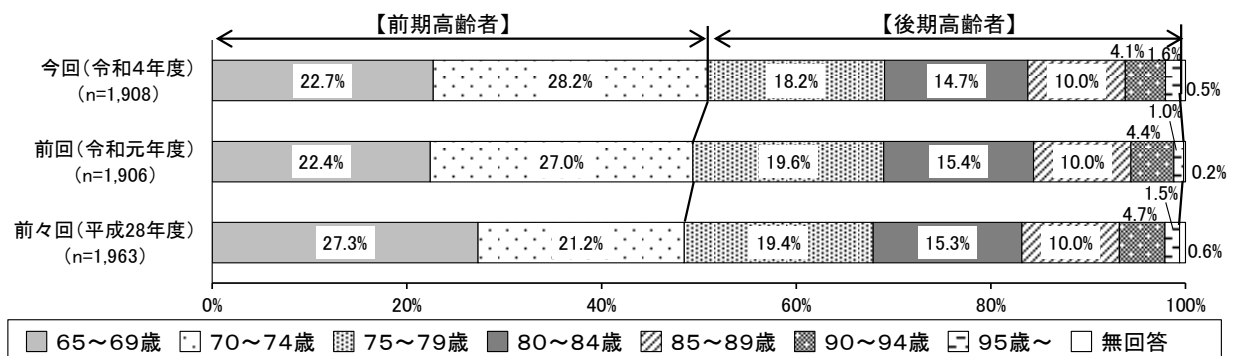
(2)年齢[Q1]

図表1-2 年齢



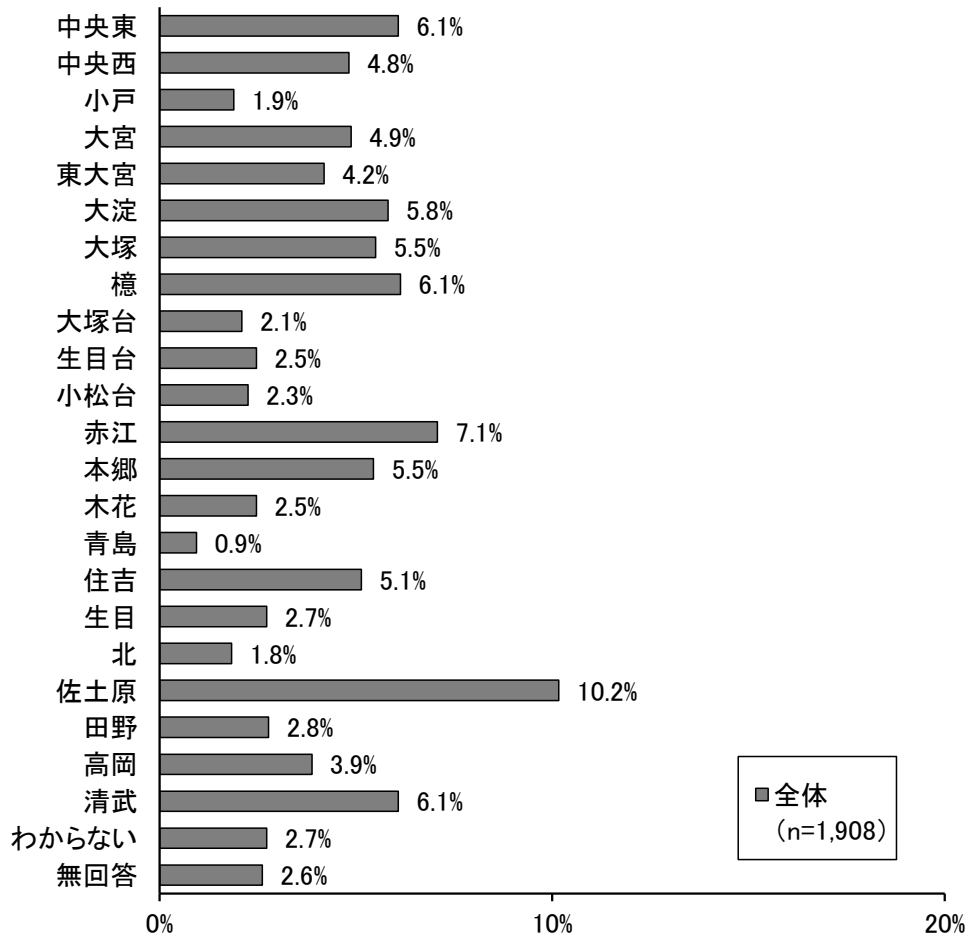
<過去2回の調査との比較>

図表1-3 年齢(過去2回の調査との比較)



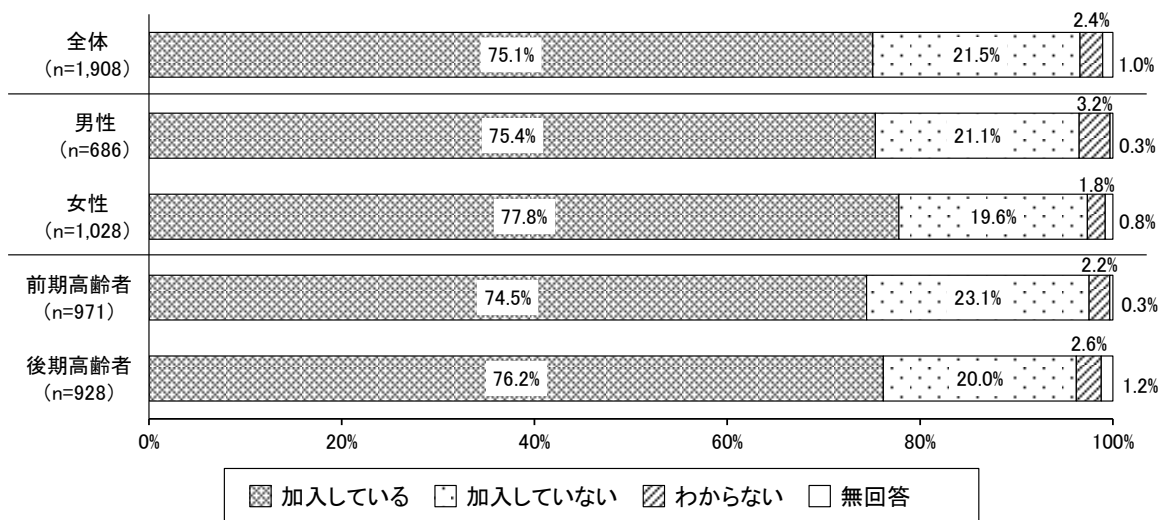
(3)住まい(地域自治区)[Q3]

図表1-4 住まい



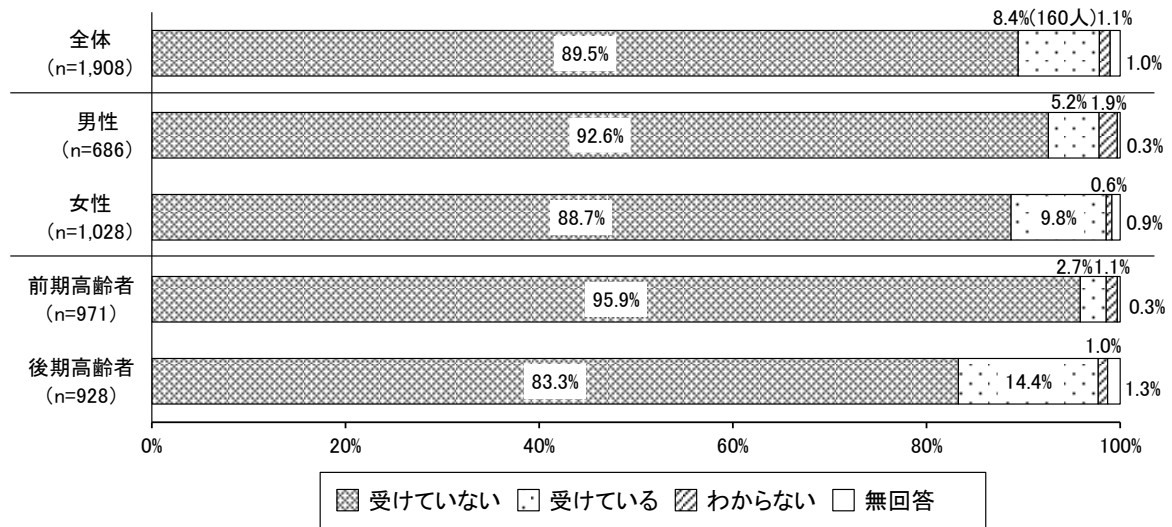
(4)自治会の加入状況[Q4]

図表1-5 自治会の加入状況



(5)要介護、要支援、事業対象者の認定の状況[Q5]

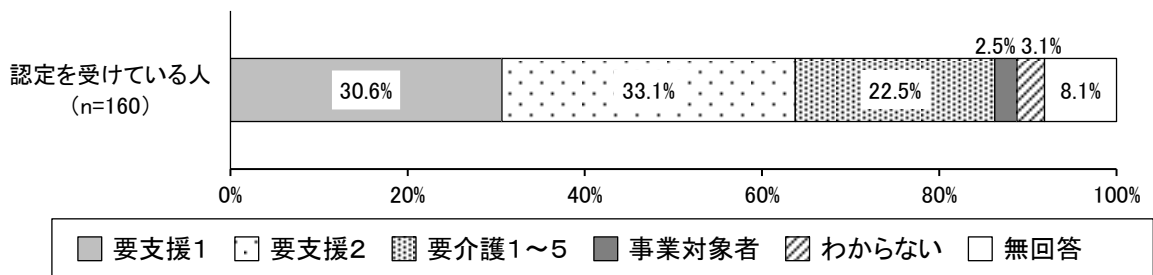
図表1-6 要介護等の認定の状況



<要介護、要支援、事業対象者の認定を受けている人>

○要介護状態区分[Q5-1]

図表1-7 要介護状態区分(認定を受けている人)



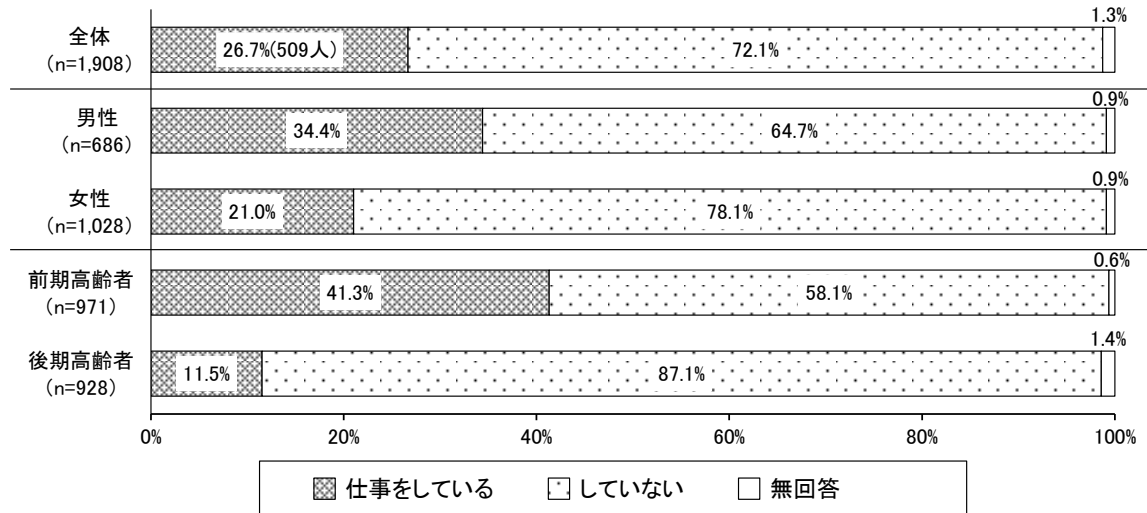
(6)就労状況[Q6]

全体では、「仕事をしている」の割合は26.7%となっている。

性別でみると、「仕事をしている」の割合(男性:34.4%、女性:21.0%)は男性が女性を13.4ポイント上回っている。

年代別では、「仕事をしている」の割合(前期高齢者:41.3%、後期高齢者:11.5%)は、前期高齢者が後期高齢者を29.8ポイント上回っている。

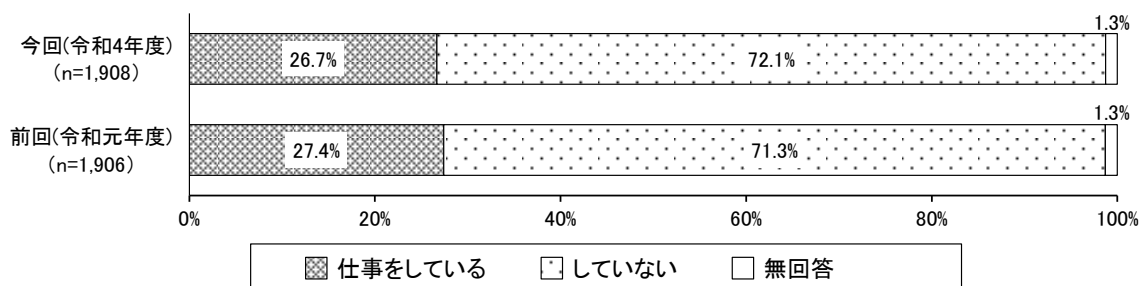
図表1-8 就労状況



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「仕事をしている」の割合は0.7ポイント低下している。

図表1-9 就労状況(前回調査との比較)

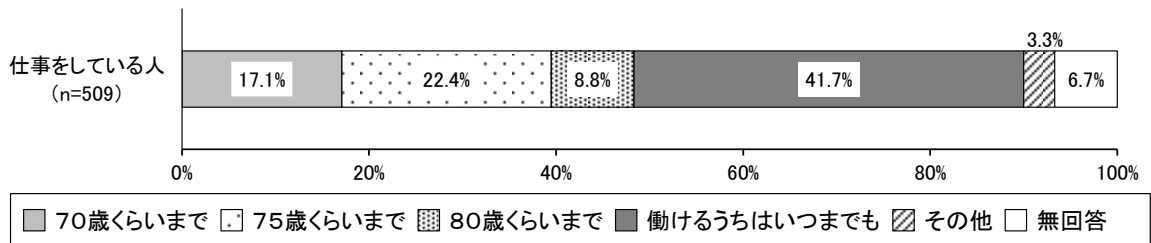


<仕事をしている人>

○何歳まで働きたいか[Q6-1]

「働けるうちはいつまでも」の割合が41.7%で最も高くなっている。

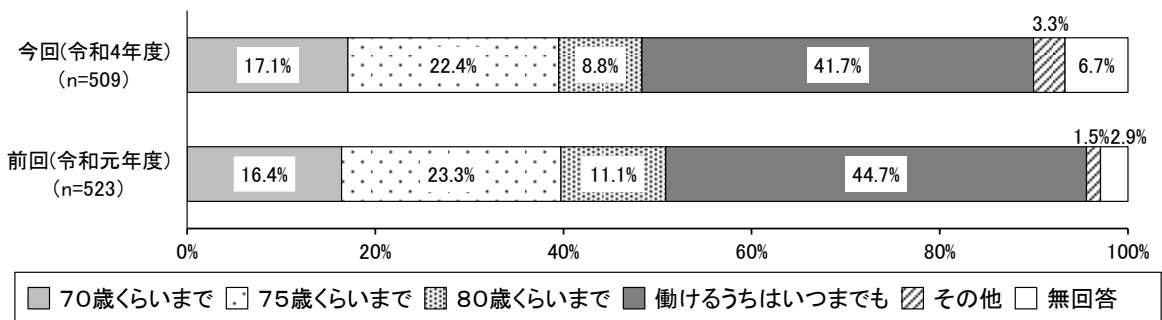
図表1-10 就労を希望する年齢



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「働けるうちはいつまでも」の割合は3.0ポイント低下している。

図表1-11 就労を希望する年齢(前回調査との比較)



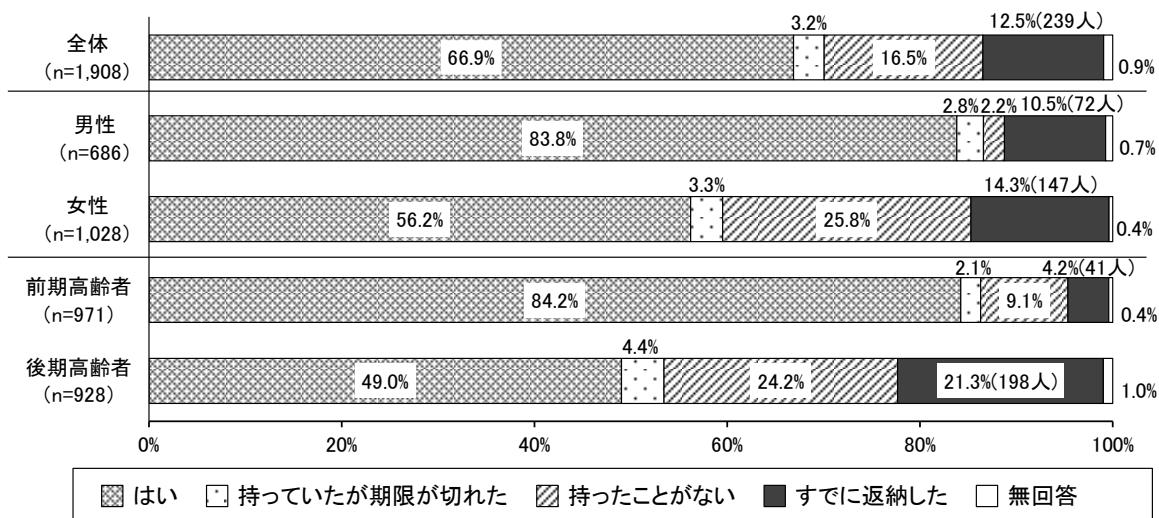
(7)車の運転免許証の所持状況[Q7]

全体では、「すでに返納した」の割合は12.5%となっている。

性別でみると、「すでに返納した」の割合(男性:10.5%、女性:14.3%)は女性が男性を3.8ポイント上回っている。

年代別では、「すでに返納した」の割合(前期高齢者:4.2%、後期高齢者:21.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を17.1ポイント上回っている。

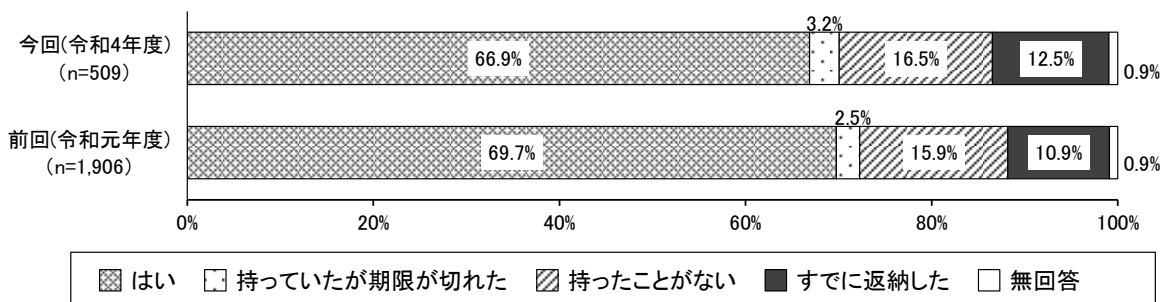
図表1-12 運転免許証の所持状況



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「すでに返納した」の割合は1.6ポイント高まっている。

図表1-13 運転免許証の所持状況(前回調査との比較)



<免許証を返納した人>

○返納した理由(複数回答)[Q7-1]

全体では、「運転に自信がなくなった」の割合が32.6%で最も高くなっている。次いで「家族等から促された」(23.8%)、「運転する必要がなくなった」(21.3%)などが続いている。

性別でみると、「運転に自信がなくなった」の割合(男性:25.0%、女性:36.1%)は、女性が男性を11.1ポイント上回っている。「家族等から促された」(男性:29.2%、女性:19.7%)は男性が女性を9.5ポイント上回っている。

年代別では、前期高齢者、後期高齢者とも「運転に自信がなくなった」の割合(前期高齢者:51.2%、後期高齢者:28.8%)が最も高く、その割合は前期高齢者が後期高齢者を22.4ポイント上回っている。また、「家族等から促された」(前期高齢者:4.9%、後期高齢者:27.8%)は、後期高齢者が前期高齢者を22.9ポイント上回っている。

図表1-14 免許証を返納した理由

	運転に自信がなくなった	家族等から促された	運転する必要がなくなった	体調不良で運転できなくなった	認知機能に不安があった	その他
免許証を返納した人 (n=239)	32.6%	23.8%	21.3%	13.4%	2.5%	13.4%
男性 (n=72)	25.0%	29.2%	16.7%	16.7%	5.6%	15.3%
女性 (n=147)	36.1%	19.7%	23.1%	12.2%	1.4%	12.9%
前期高齢者 (n=41)	51.2%	4.9%	17.1%	17.1%	0.0%	19.5%
後期高齢者 (n=198)	28.8%	27.8%	22.2%	12.6%	3.0%	12.1%

2. 生活機能評価

(1)生活機能評価の判定方法

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の回答結果について、厚生労働省が示した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、以下の判定基準により、判定を行った。

項目	設問番号	設問内容	該当する選択肢	判定基準
運動器機能の低下	問3Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない	3問以上該当する選択肢に回答した場合に該当とする
	問3Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない	
	問3Q3	15分位続けて歩いていますか。	3. できない	
	問3Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある	
	問3Q5	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である	
転倒リスク	問3Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある	該当する選択肢に回答した場合に該当とする
閉じこもり傾向	問3Q6	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回	該当する選択肢に回答した場合に該当とする
低栄養状態	問5Q1	身長・体重(BMI)	BMIが18.5未満	2問以上該当する選択肢に回答した場合に該当とする
	問5Q6	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい	
口腔機能の低下	問5Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい	2問以上該当する選択肢に回答した場合に該当とする
	問5Q3	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい	
	問5Q4	口の渇きが気になりますか。	1. はい	
認知機能の低下	問6Q1	物忘れが多いと感じますか。	1. はい	該当する選択肢に回答した場合に該当とする
うつ傾向	問9Q3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい	1問以上該当する選択肢に回答した場合に該当とする
	問9Q4	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい	
IADL(手段的日常生活動作能力)	問6Q4	バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない	該当する選択肢に回答した場合をそれぞれ1点とし、その合計が3点以下の場合、IADLが低い、4点をやや低い、5点を高いとする
	問6Q5	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない	
	問6Q6	自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない	
	問6Q7	自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない	
	問6Q8	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない	

(2)生活機能評価の判定結果

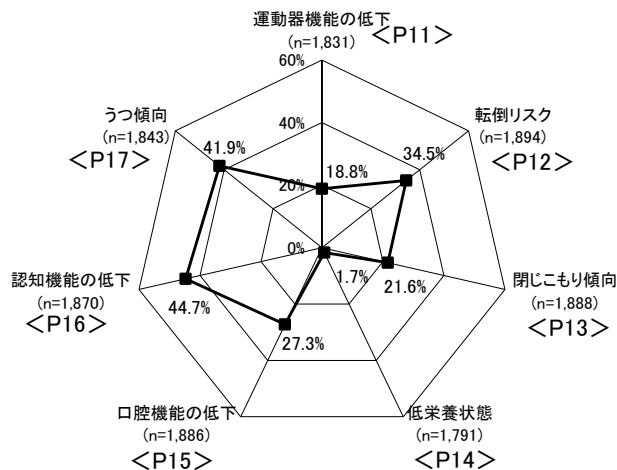
IADL(P9を参照)を除いた項目で「該当」(機能の低下等がみられる)を割合が高い順にみると、下表の通りとなっている。

過去2回の調査との比較では、項目の順位は同じとなっている。

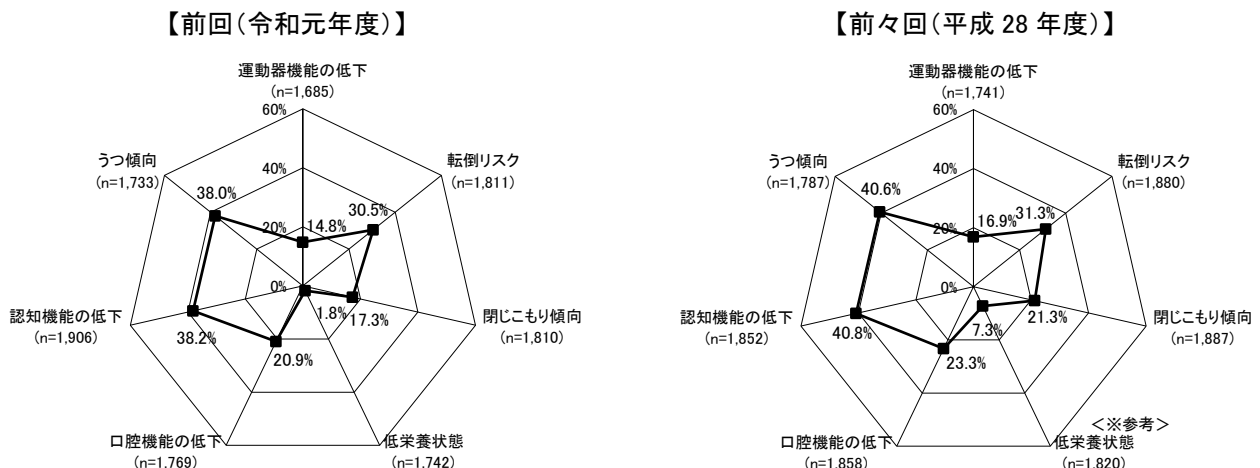
順位	今回(令和4年度)	前回(令和元年度)	前々回(平成28年度)
第1位	認知機能の低下(44.7%)	認知機能の低下(38.2%)	認知機能の低下(40.8%)
第2位	うつ傾向(41.9%)	うつ傾向(38.0%)	うつ傾向(40.6%)
第3位	転倒リスク(34.5%)	転倒リスク(30.5%)	転倒リスク(31.3%)
第4位	口腔機能の低下(27.3%)	口腔機能の低下(20.9%)	口腔機能の低下(23.3%)
第5位	閉じこもり傾向(21.6%)	閉じこもり傾向(17.3%)	閉じこもり傾向(21.3%)
第6位	運動器機能の低下(18.8%)	運動器機能の低下(14.8%)	運動器機能の低下(16.9%)
第7位	低栄養状態(1.7%)	低栄養状態(1.8%)	低栄養状態*(7.3%)

※前々回(平成28年度)の低栄養状態は判定方法が異なるため参考としている。

図表1-2-1 生活機能評価「該当」の割合(今回)



図表1-2-2 生活機能評価「該当」の割合(前回、前々回)



※前々回の低栄養状態は判定方法が異なるため参考としている。

1. 運動器機能の低下

以下の設問について、3問以上該当する選択肢に回答した場合に「該当」とする。

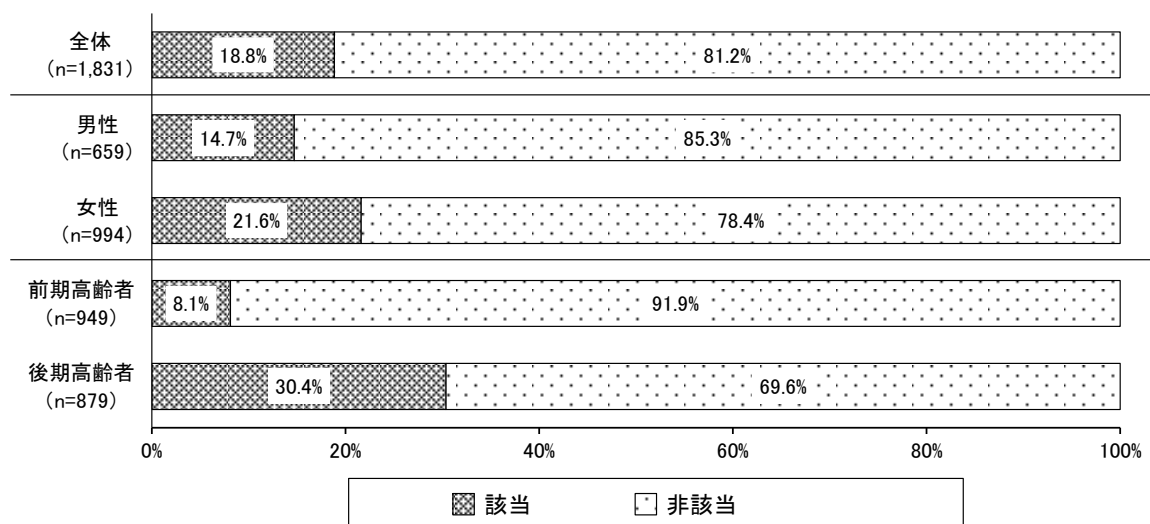
設問	該当する選択肢
問3Q1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問3Q2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問3Q3 15分位続けて歩いていますか	3. できない
問3Q4 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
問3Q5 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

全体では、「該当」の割合は18.8%となっている。

性別でみると、「該当」の割合(男性:14.7%、女性:21.6%)は女性が男性を6.9ポイント上回っている。

年代別では、「該当」の割合(前期高齢者:8.1%、後期高齢者:30.4%)は、後期高齢者が前期高齢者を22.3ポイント上回っている。

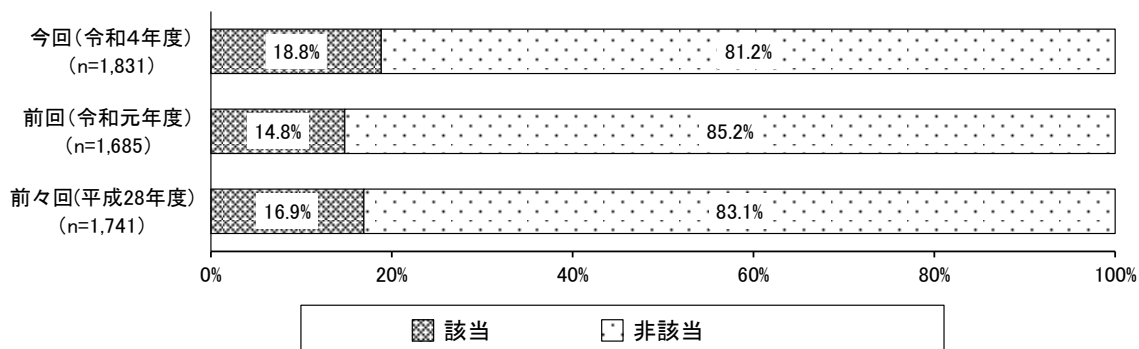
図表1-2-3 運動器機能の低下



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「該当」の割合は前々回から1.9ポイント、前回から4.0ポイント高まっている。

図表1-2-4 運動器機能の低下(過去2回の調査との比較)



2. 転倒リスク

以下の設問について、該当する選択肢に回答した場合に「該当」とする。

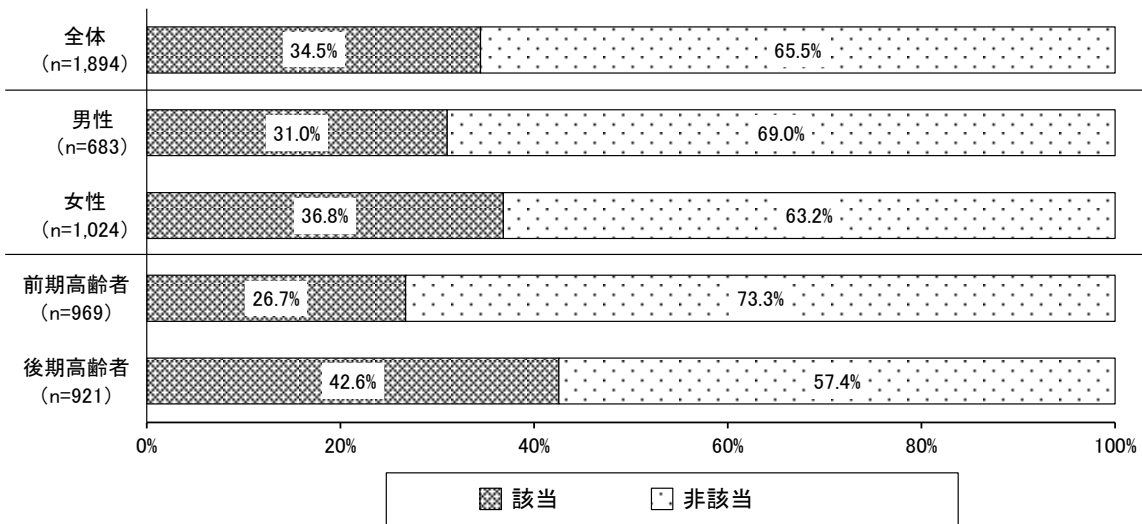
設問	該当する選択肢
問3Q4 過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある

全体では、「該当」の割合は34.5%となっている。

性別でみると、「該当」の割合(男性:31.0%、女性:36.8%)は女性が男性を5.8ポイント上回っている。

年代別では、「該当」の割合(前期高齢者:26.7%、後期高齢者:42.6%)は、後期高齢者が前期高齢者を15.9ポイント上回っている。

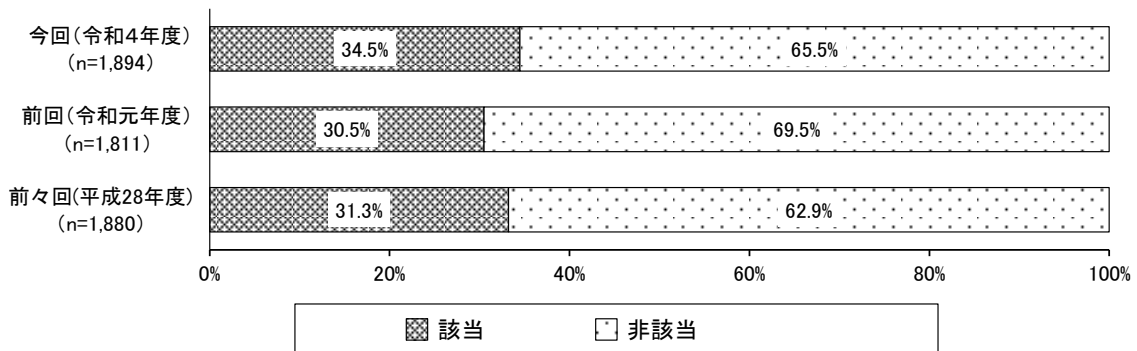
図表1-2-5 転倒リスク



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「該当」の割合は前々回から3.2ポイント、前回から4.0ポイント高まっている。

図表1-2-6 転倒リスク(過去2回の調査との比較)



3. 閉じこもり傾向

以下の設問について、該当する選択肢に回答した場合に「該当」とする。

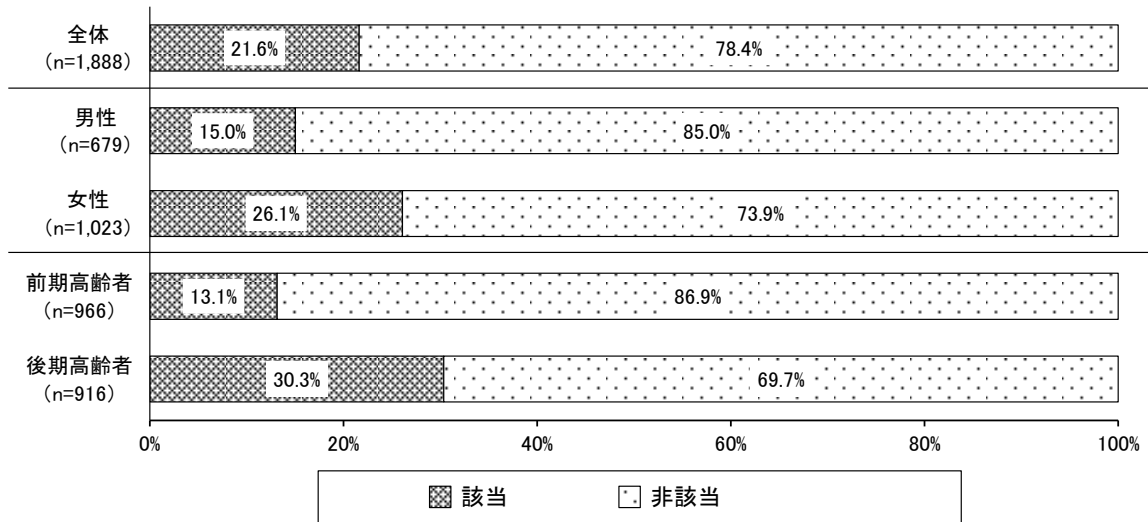
設問	該当する選択肢
問3Q6 週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

全体では、「該当」の割合は21.6%となっている。

性別でみると、「該当」の割合(男性:15.0%、女性:26.1%)は女性が男性を11.1ポイント上回っている。

年代別では、「該当」の割合(前期高齢者:13.1%、後期高齢者:30.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を17.2ポイント上回っている。

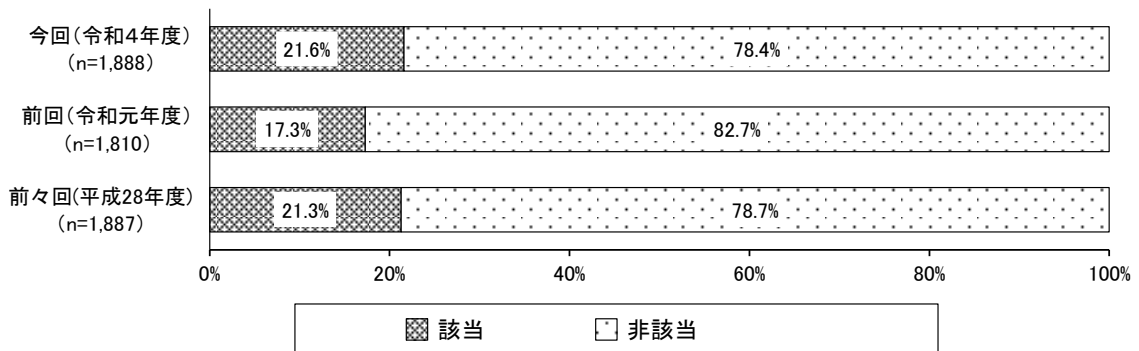
図表1-2-7 閉じこもり傾向



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「該当」の割合は前々回から0.3ポイント、前回から4.3ポイント高まっている。

図表1-2-8 閉じこもり傾向(過去2回の調査との比較)



4. 低栄養状態

以下の設問について、2問以上該当する選択肢に回答した場合に「該当」とする。

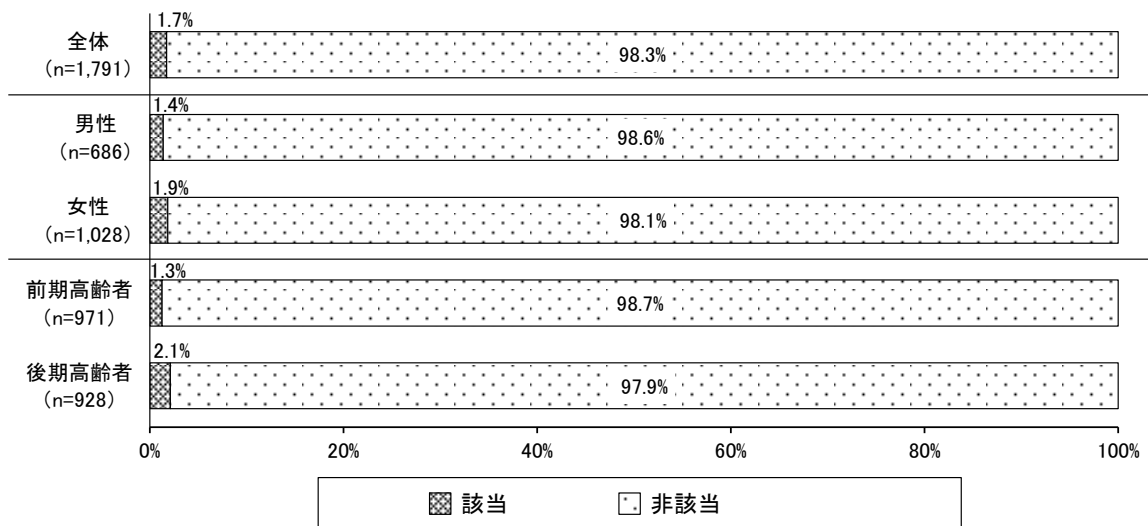
設問	該当する選択肢
問5Q1 身長・体重(BMI)	BMIが18.5未満
問5Q6 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい

全体では、「該当」の割合は1.7%で、極めて低い状況となっている。

性別でみると、「該当」の割合(男性:1.4%、女性:1.9%)は女性が男性を0.5ポイント上回っている。

年代別では、「該当」の割合(前期高齢者:1.3%、後期高齢者:2.1%)は後期高齢者が前期高齢者を0.8ポイント上回っている。

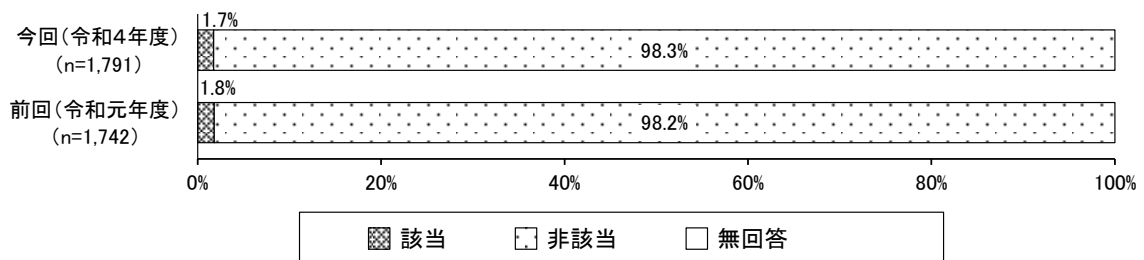
図表1-2-9 低栄養状態



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「該当」の割合は前回から0.1ポイント低下している。

図表1-2-10 低栄養状態(前回調査との比較)



※平成28年度は判定方法が異なるため掲載していない。

5. 口腔機能の低下

以下の設問について、2問以上該当する選択肢に回答した場合に「該当」とする。

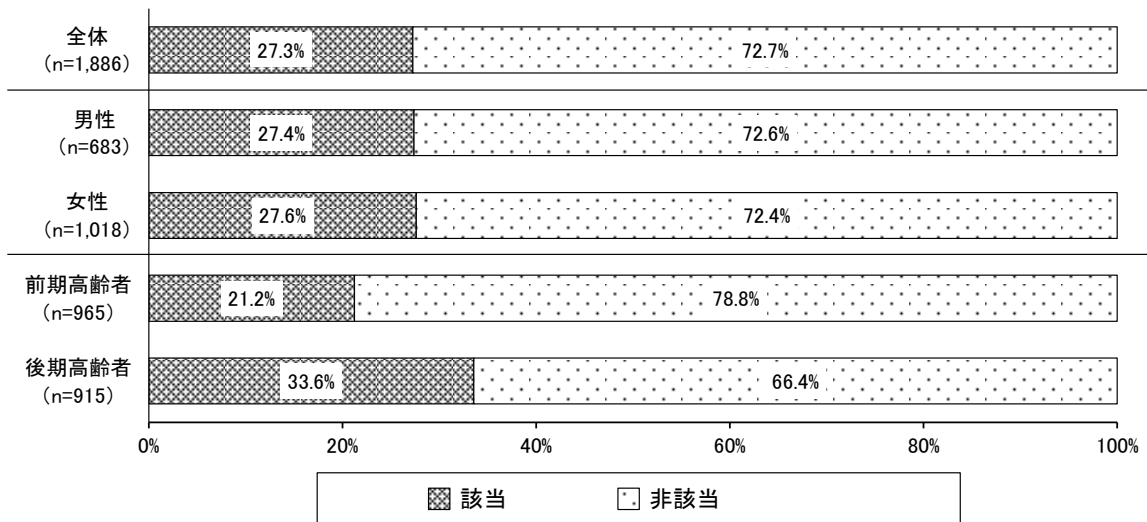
設問	該当する選択肢
問5Q2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
問5Q3 お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
問5Q4 口の渇きが気になりますか。	1. はい

全体では、「該当」の割合は27.3%となっている。

性別でみると、「該当」の割合(男性:27.4%、女性:27.6%)は女性が男性を0.2ポイント上回っている。

年代別では、「該当」の割合(前期高齢者:21.2%、後期高齢者:33.6%)は、後期高齢者が前期高齢者を12.4ポイント上回っている。

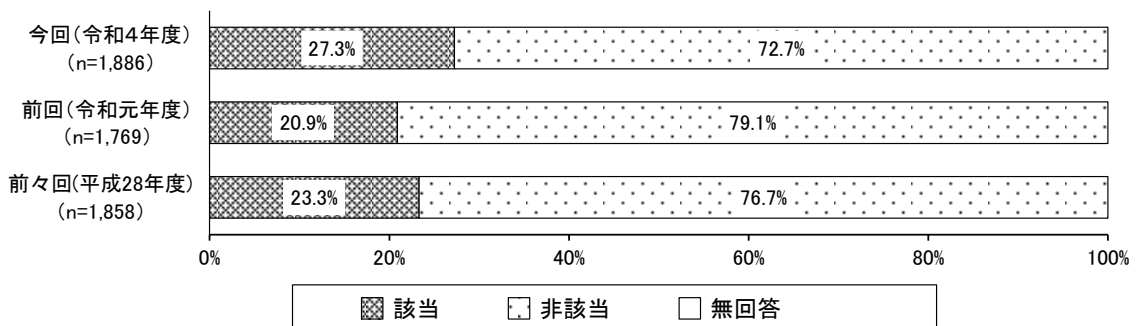
図表1-2-11 口腔機能の低下



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「該当」の割合は前々回から4.0ポイント、前回から6.4ポイント高まっている。

図表1-2-12 口腔機能の低下(過去2回の調査との比較)



6. 認知機能の低下

以下の設問について、該当する選択肢に回答した場合に「該当」とする。

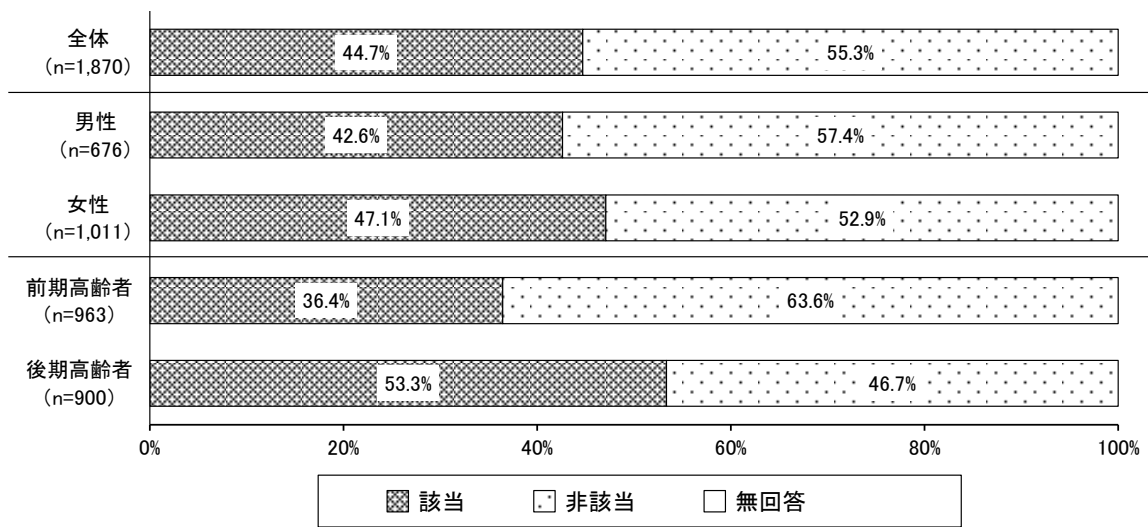
設問	該当する選択肢
問6Q1 物忘れが多いと感じますか。	1. はい

全体では、「該当」の割合は44.7%となっている。

性別でみると、「該当」の割合(男性:42.6%、女性:47.1%)は女性が男性を4.5ポイント上回っている。

年代別では、「該当」の割合(前期高齢者:36.4%、後期高齢者:53.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を16.9ポイント上回っている。

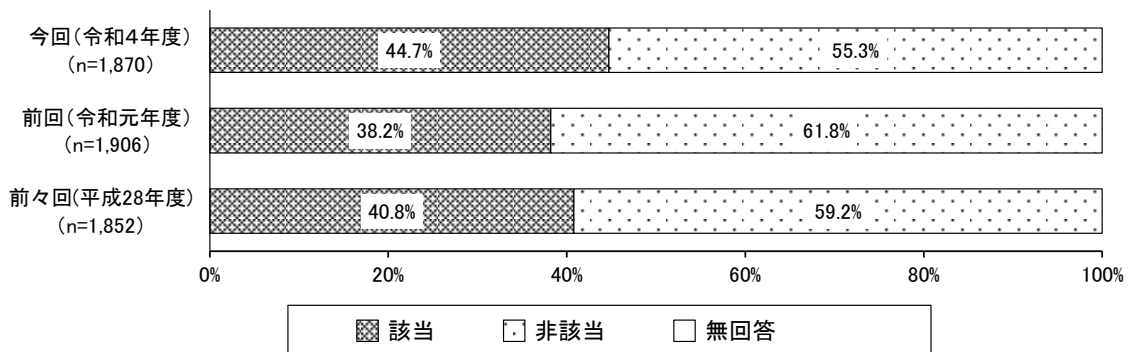
図表1-2-13 認知機能の低下



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「該当」の割合は前々回から3.9ポイント、前回から6.5ポイント高まっている。

図表1-2-14 認知機能の低下(過去2回の調査との比較)



7. うつ傾向

以下の設問について、1問以上該当する選択肢に回答した場合に「該当」とする。

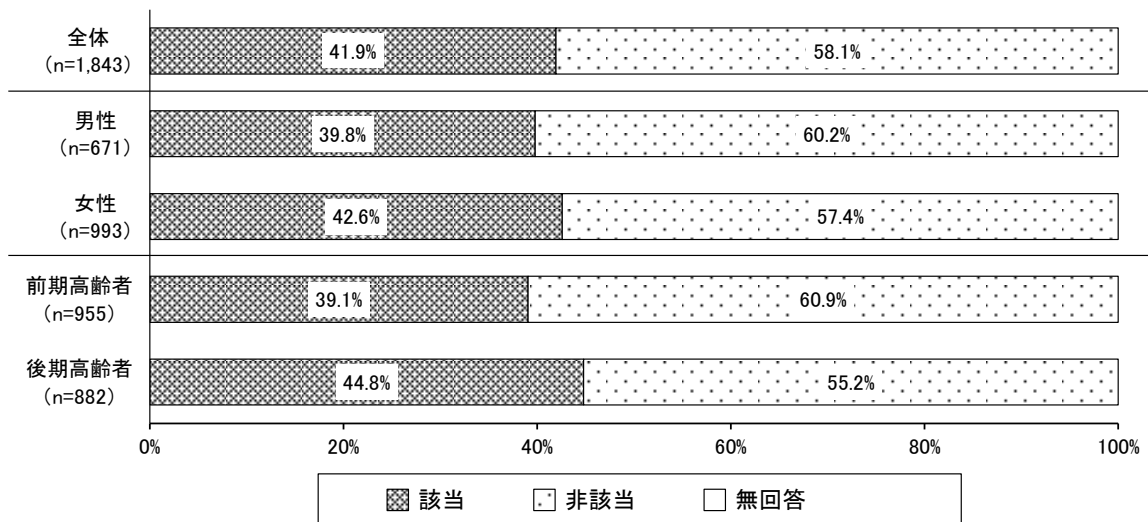
設問	該当する選択肢
問9Q3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問9Q4 の1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

全体では、「該当」の割合は41.9%となっている。

性別でみると、「該当」の割合(男性:39.8%、女性:42.6%)は女性が男性を2.8ポイント上回っている。

年代別では、「該当」の割合(前期高齢者:39.1%、後期高齢者:44.8%)は、後期高齢者が前期高齢者を5.7ポイント上回っている。

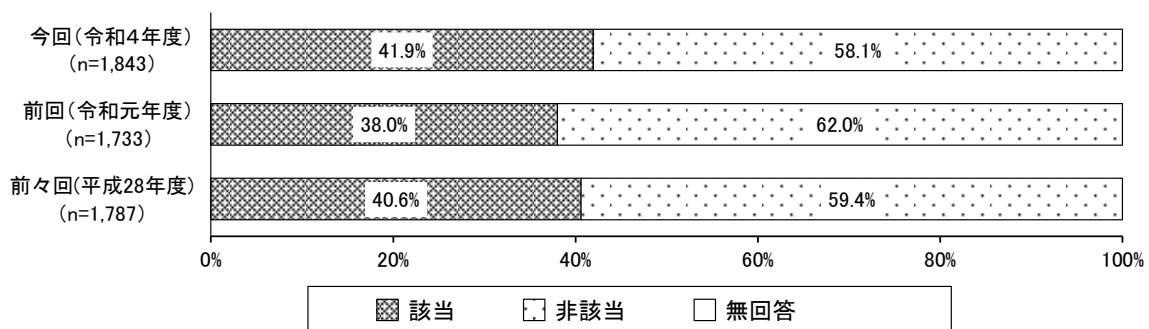
図表1-2-15 うつ傾向



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「該当」の割合は前々回から1.3ポイント、前回から3.9ポイント高まっている。

図表1-2-16 うつ傾向(過去2回の調査との比較)



8. IADL(手段的日常生活動作能力)

以下の設問について、該当する選択肢に回答した場合をそれぞれ1点とし、その合計が3点以下の場合、IADLが「低い」、4点を「やや低い」、5点を「高い」とする。

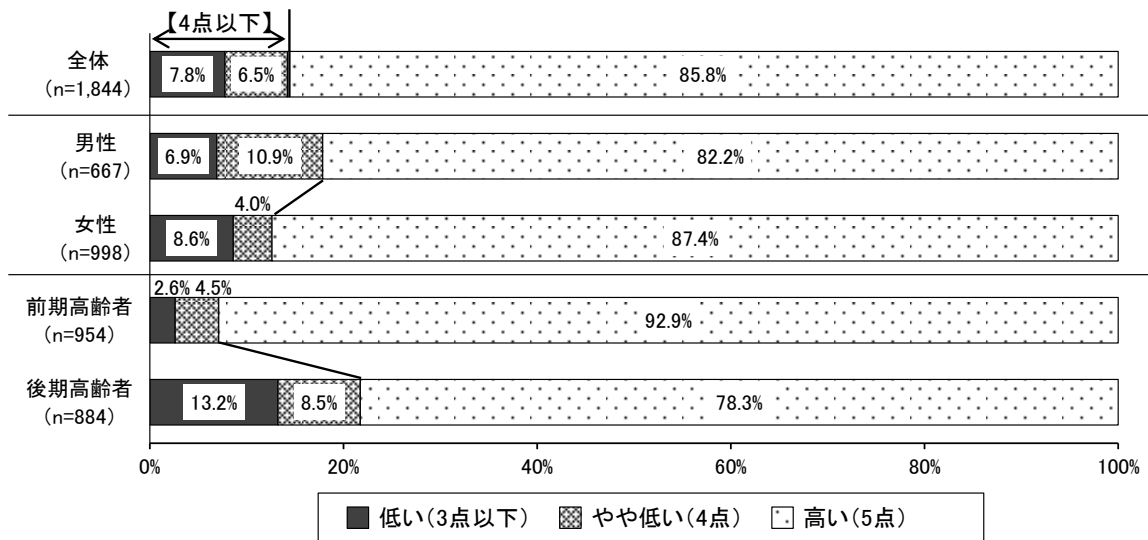
設問	該当する選択肢
問6Q4 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問6Q5 自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問6Q6 自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問6Q7 自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問6Q8 自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない

全体では、「低い」(3点以下)と「やや低い」(4点)の割合の計は14.3%となっている。

性別でみると、「低い」と「やや低い」の計(男性:17.8%、女性:12.6%)は男性が女性を5.2ポイント上回っている。

年代別では、「低い」と「やや低い」の計(前期高齢者:7.1%、後期高齢者:21.7%)は、後期高齢者が前期高齢者を14.6ポイント上回っている。

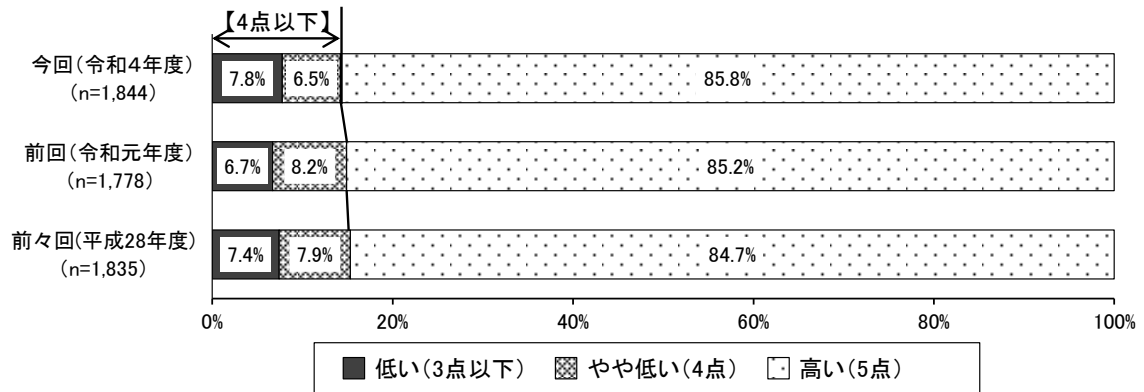
図表1-2-17 IADL(手段的日常生活動作能力)



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「低い」と「やや低い」の割合の計は前々回が15.3%、前回は14.9%で、前々回から1.0ポイント、前回から0.6ポイント低下している。

図表1-2-18 IADL(手段的日常生活能力)(過去2回の調査との比較)



3. 回答者の家族や生活状況について(問2)

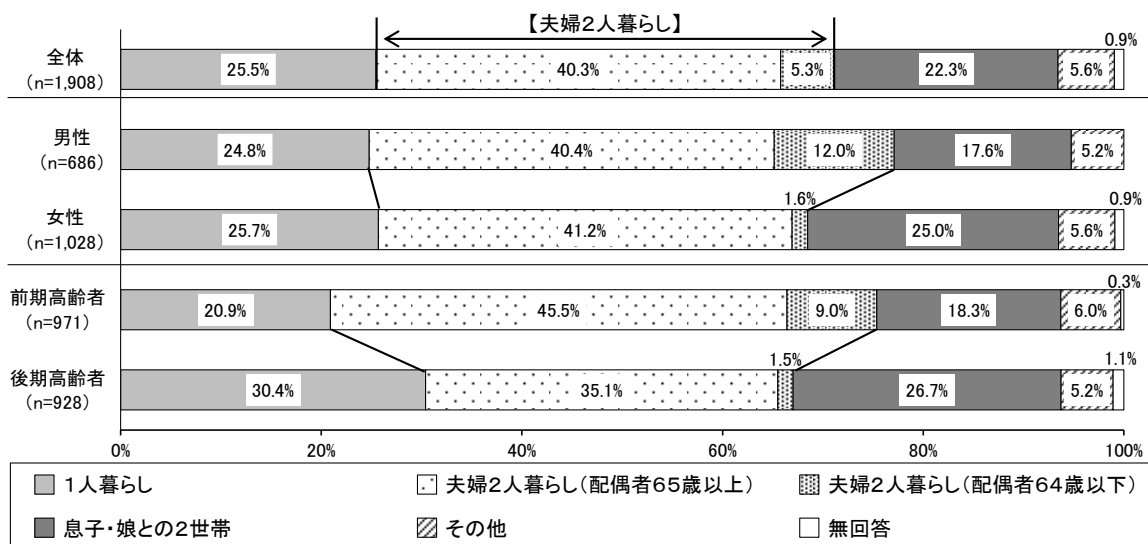
Q1. 家族構成を教えてください。

全体では、「夫婦2人暮らし」(「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」と「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」の計:以下同じ)の割合は45.6%で最も高くなっている。次いで「1人暮らし」(25.5%)、「息子・娘との2世帯」(22.3%)が続いている。

性別でみると、男女とも「夫婦2人暮らし」の割合(男性:52.4%、女性:42.8%)が最も高くなっている。男性が女性を9.6ポイント上回っている。

年代別では、前期高齢者、後期高齢者とも「夫婦2人暮らし」の割合(前期高齢者:54.5%、後期高齢者:36.6%)が最も高く、前期高齢者が後期高齢者を17.9ポイント上回っている。また、「1人暮らし」の割合(前期高齢者:20.9%、後期高齢者:30.4%)は、後期高齢者が前期高齢者を9.5ポイント上回っている。

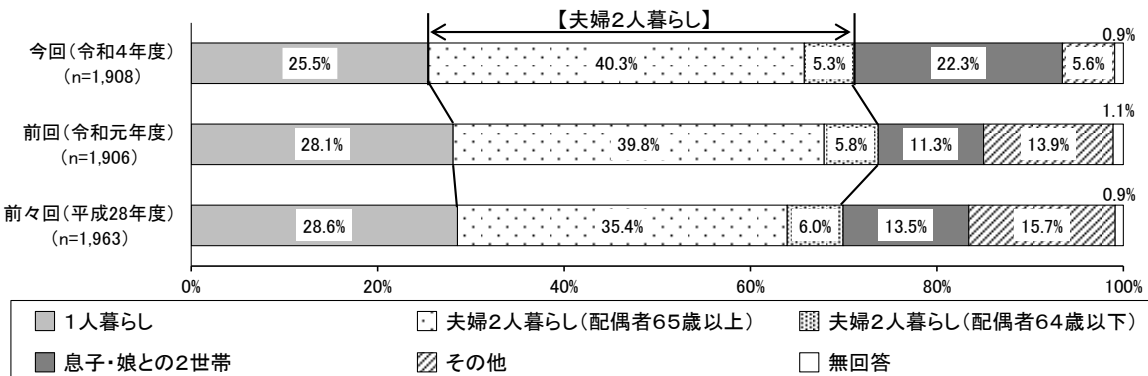
図表1-3-1 家族構成



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「夫婦2人暮らし」の割合は前々回が41.4%、前回は45.6%で、前々回から4.2ポイント高まっており、前回とは同ポイントとなっている。「一人暮らし」は前々回から3.1ポイント、前回から2.6ポイント低下している。

図表1-3-2 家族構成(過去2回の調査との比較)



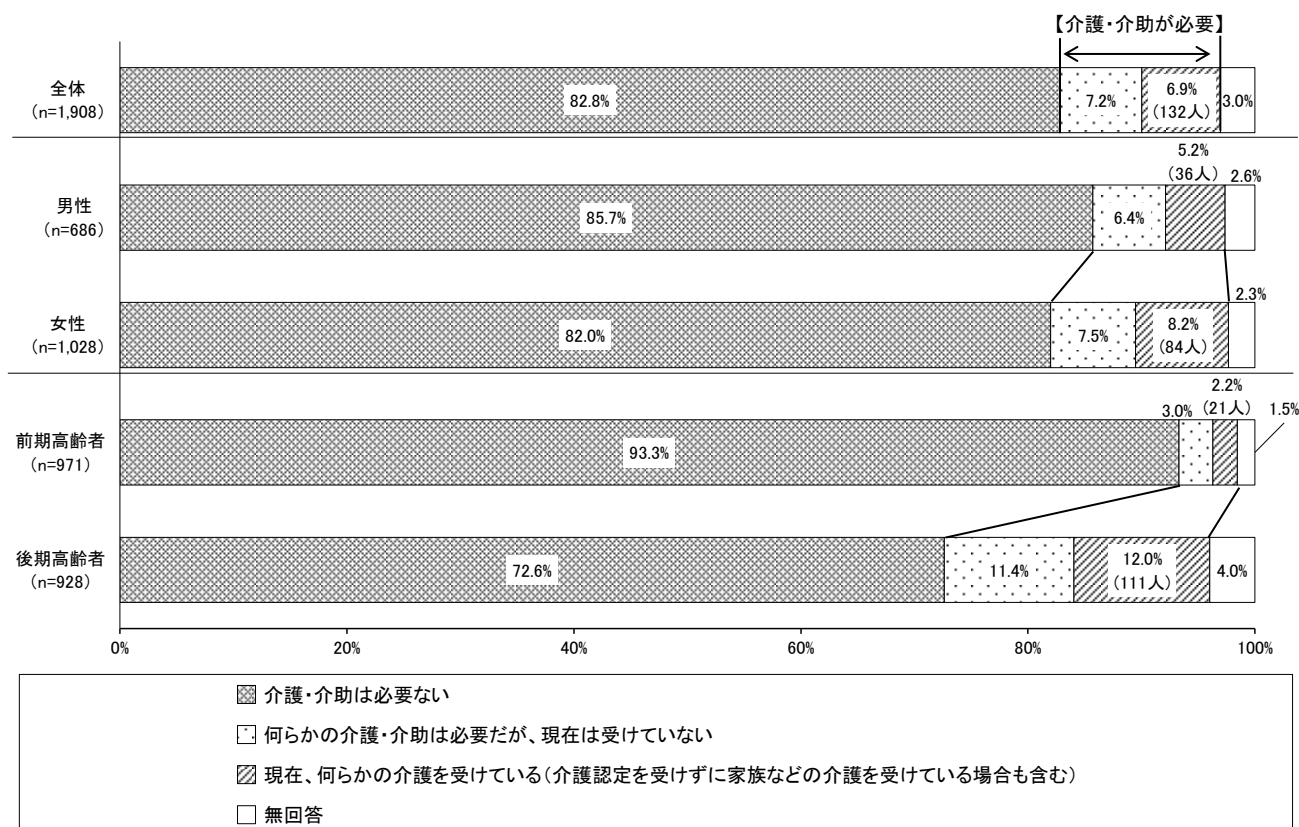
Q2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

全体では、「介護・介助が必要」「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」の計：以下同じの割合は14.1%となっている。

性別でみると、「介護・介助が必要」の割合（男性：11.6%、女性：15.7%）は女性が男性を4.1ポイント上回っている。

年代別では、「介護・介助が必要」の割合（前期高齢者：5.2%、後期高齢者：23.4%）は後期高齢者が前期高齢者を18.2ポイント上回っている。

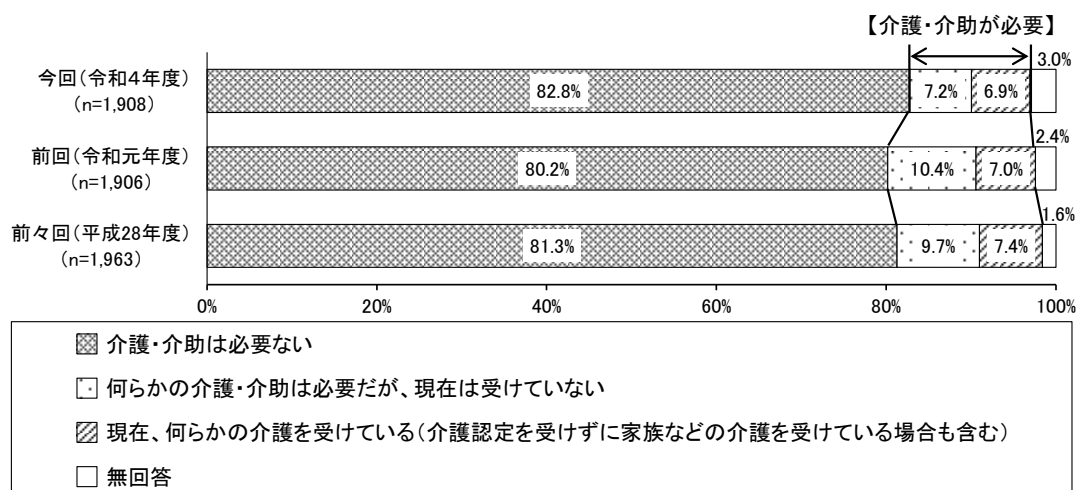
図表1-3-3 介護・介助の必要性



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「介護・介助が必要」の割合は前々回が17.1%、前回は17.4%で、前々回から3.0ポイント、前回から3.3ポイント低下している。

図表1-3-4 介護・介助の必要性(過去2回の調査との比較)



<現在、何らかの介護を受けている人>

Q2-1. 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(複数回答)

全体では、「娘」の割合が34.8%で最も高く、次いで「配偶者(夫・妻)」(30.3%)、「介護サービスのヘルパー」(20.5%)となっている。

図表1-3-5 介護・介助をしてくれる人

	娘	配偶者 (夫・妻)	介護サービスのヘルパー	息子	その他	子の配偶者	兄弟・姉妹	孫
※P21を参照								
何らかの介護を受けている人 (n=132)	34.8%	30.3%	20.5%	16.7%	11.4%	6.1%	5.3%	2.3%
男性 (n=36)	13.9%	41.7%	19.4%	11.1%	16.7%	2.8%	11.1%	0.0%
女性 (n=84)	44.0%	26.2%	19.0%	21.4%	8.3%	7.1%	3.6%	2.4%
前期高齢者 (n=21)	23.8%	57.1%	14.3%	0.0%	9.5%	4.8%	9.5%	0.0%
後期高齢者 (n=111)	36.9%	25.2%	21.6%	19.8%	11.7%	6.3%	4.5%	2.7%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、前々回の割合から「娘」は10.5ポイント、「配偶者(夫・妻)」は12.8ポイント、「介護サービスのヘルパー」は9.5ポイント高まっている。

前回の割合から「娘」は3.3ポイント、「配偶者(夫・妻)」は3.2ポイント高まっており、「介護サービスのヘルパー」は8.8ポイント低下している。

図表1-3-6 介護・介助をしてくれる人(過去2回の調査との比較)

	娘	配偶者 (夫・妻)	介護サービスのヘルパー	息子	その他	子の配偶者	兄弟・姉妹	孫
今回(令和4年度) (n=132)	34.8%	30.3%	20.5%	16.7%	11.4%	6.1%	5.3%	2.3%
前回(令和元年度) (n=133)	31.5%	27.1%	29.3%	18.8%	13.5%	9.0%	1.5%	3.8%
前々回(平成28年度) (n=337)	24.3%	17.5%	11.0%	15.7%	11.3%	4.7%	4.2%	4.5%

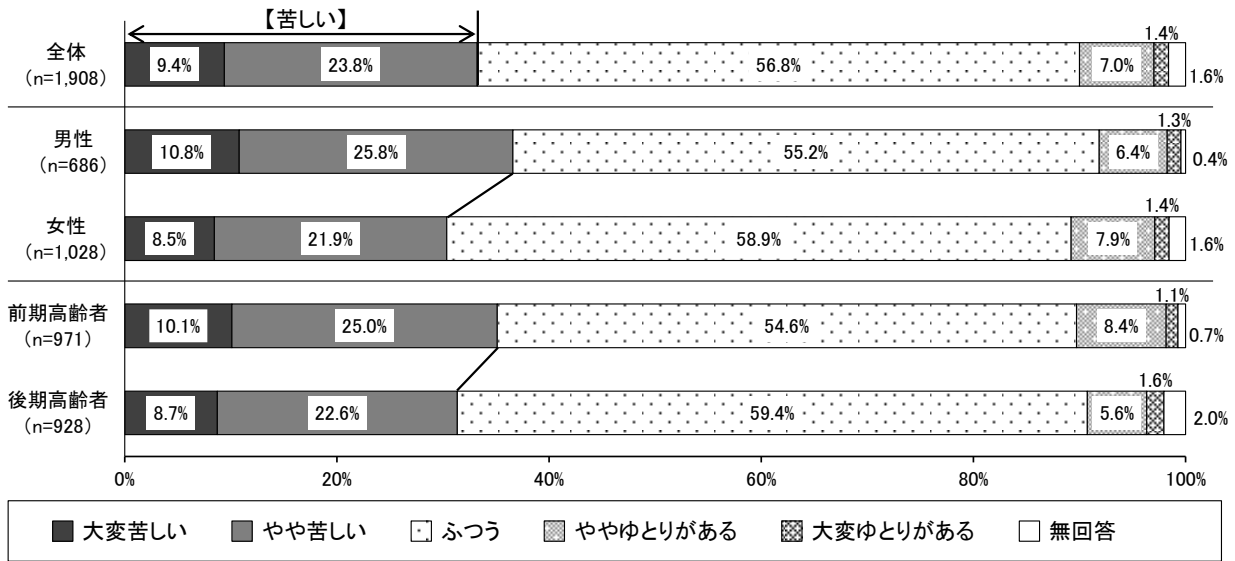
Q3. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

全体では、「ふつう」の割合が56.8%で最も高い。「苦しい」(「大変苦しい」と「やや苦しい」の計:以下同じ)の割合が33.2%となっている。

性別で見ると、「苦しい」の割合(男性:36.6%、女性:30.4%)は、男性が女性を6.2ポイント上回っている。

年代別では、「苦しい」の割合(前期高齢者:35.1%、後期高齢者:31.3%)は、前期高齢者が後期高齢者を3.8ポイント上回っている。

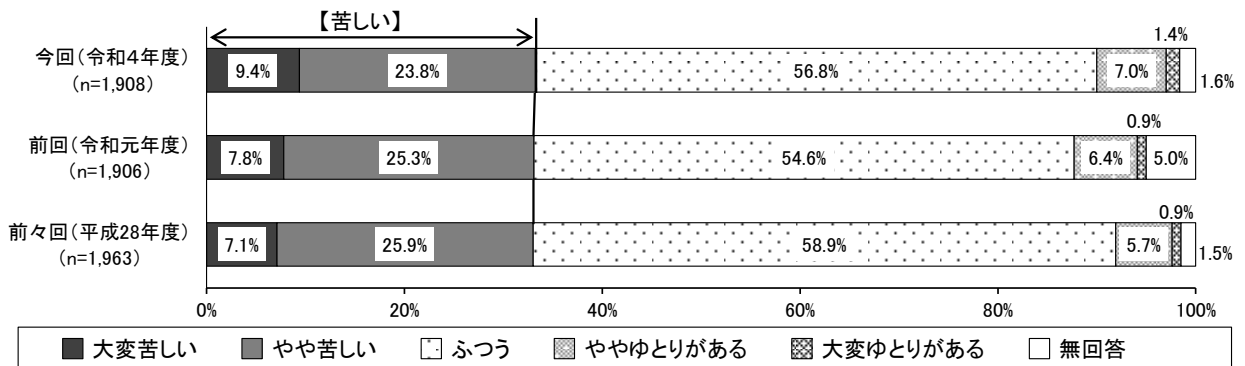
図表1-3-7 暮らしの経済状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「苦しい」の割合は前々回が33.0%、前回は33.1%で、前々回から0.2ポイント、前回から0.1ポイント高まっている。

図表1-3-8 暮らしの経済状況(過去2回の調査との比較)



Q4. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

全体では、「持家(一戸建て)」の割合が75.1%で最も高くなっている。

性別でみると、「持家(一戸建て)」の割合(男性:73.8%、女性:77.7%)は、女性が男性を3.9ポイント上回っている。

年代別では、「持家(一戸建て)」の割合(前期高齢者:72.7%、後期高齢者:77.9%)は、後期高齢者が前期高齢者を5.2ポイント上回っている。

図表1-3-9 住宅の形態

	持家 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅	借家	民間賃貸住宅 (一戸建て)	その他	無回答	合計
全体 (n=1,908)	75.1%	7.2%	6.1%	5.1%	2.3%	1.2%	2.1%	0.9%	100.0%
男性 (n=686)	73.8%	9.5%	6.0%	5.2%	1.6%	1.9%	2.0%	0.0%	100.0%
女性 (n=1,028)	77.7%	5.1%	5.7%	5.5%	2.3%	0.7%	2.1%	0.8%	100.0%
前期高齢者 (n=971)	72.7%	9.0%	7.5%	5.0%	2.8%	1.2%	1.4%	0.3%	100.0%
後期高齢者 (n=928)	77.9%	5.4%	4.7%	5.2%	1.7%	1.2%	2.9%	1.0%	100.0%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、上位2項目は同じとなっている。

図表1-3-10 住宅の形態(過去2回の調査との比較)

	持家 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅	借家	民間賃貸住宅 (一戸建て)	その他	無回答	合計
今回(令和4年度) (n=1,908)	75.1%	7.2%	6.1%	5.1%	2.3%	1.2%	2.1%	0.9%	100.0%
前回(令和元年度) (n=1,906)	73.6%	6.7%	4.4%	4.9%	2.2%	1.5%	2.1%	4.7%	100.0%
前々回(平成28年度) (n=1,963)	77.7%	6.5%	4.6%	4.4%	2.4%	1.4%	2.3%	0.7%	100.0%

4. からだを動かすことについて(問3)

※設問の内容に応じて回答の選択肢を分類している。

[設問の内容:〇〇をしていますか?→回答:「できるし、している」と「していない」に分類]…以下同じ

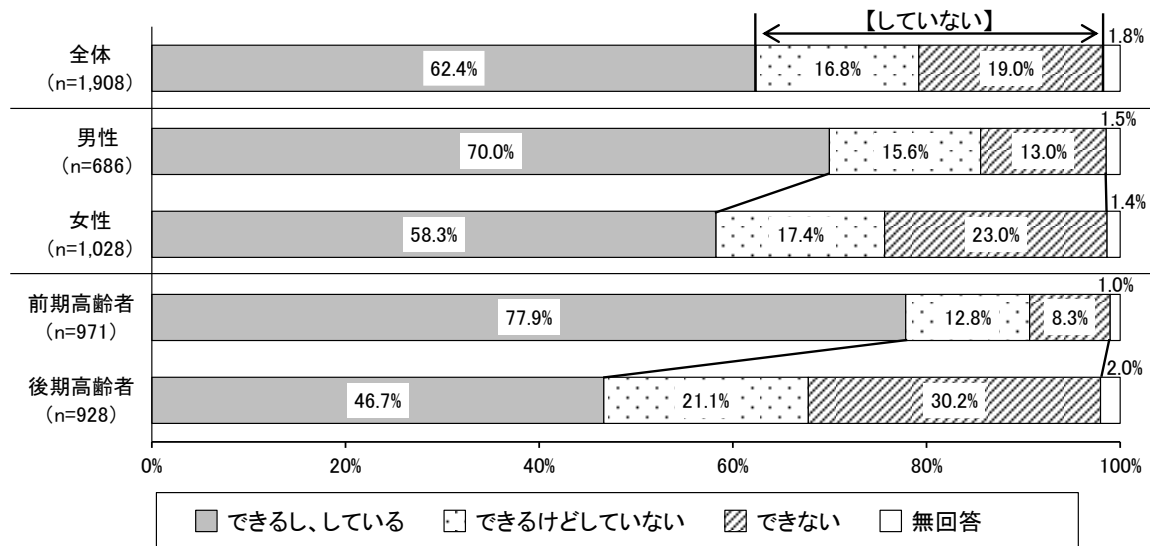
Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

全体では、「できるし、している」の割合は62.4%となっている。「していない」(「できるけどしていない」と「できない」の計:以下同じ)は35.8%となっている。

性別でみると、「していない」の割合(男性:28.6%、女性40.4%)は、女性が男性を11.8ポイント上回っている。

年代別では、「していない」の割合(前期高齢者:21.1%、後期高齢者:51.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を30.2ポイント上回っている。

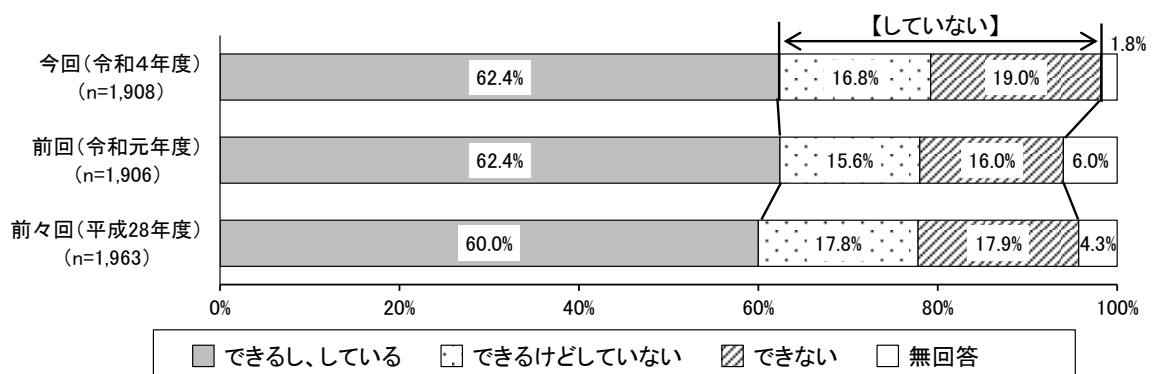
図表1-4-1 階段を昇る状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「していない」の割合は前々回が35.7%、前回は31.6%で、前々回から0.1ポイント、前回から4.2ポイント高まっている。

図表1-4-2 階段を昇る状況(過去2回の調査との比較)



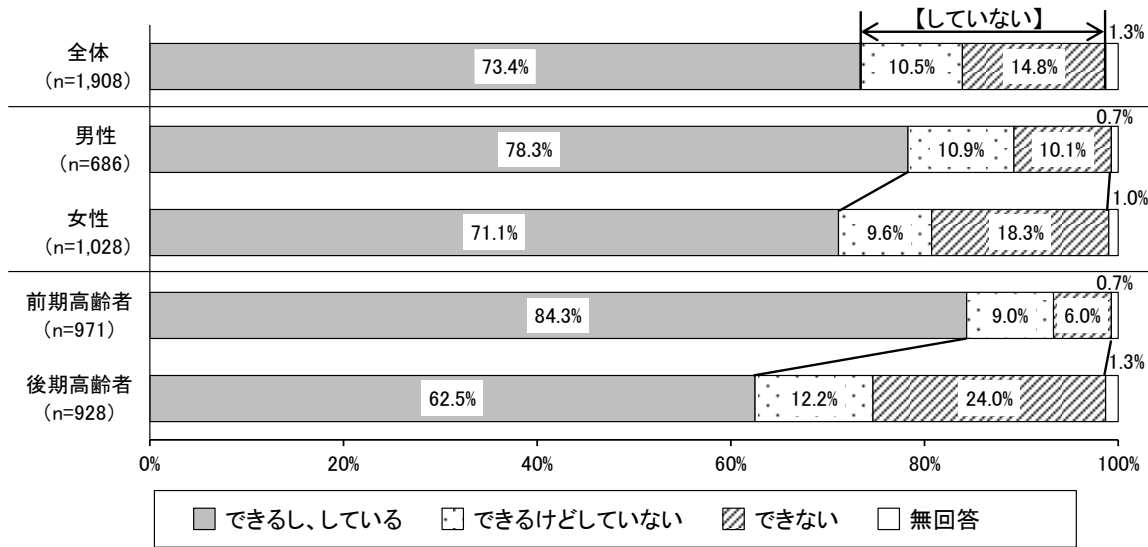
Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

全体では、「できるし、している」の割合が73.4%となっている。「していない」(「できるけどしていない」と「できない」の計:以下同じ)は25.3%となっている。

性別でみると、「していない」の割合(男性:21.0%、女性:27.9%)は、女性が男性を6.9ポイント上回っている。

年代別では、「していない」の割合(前期高齢者:15.0%、後期高齢者:36.2%)は、後期高齢者が前期高齢者を21.2ポイント上回っている。

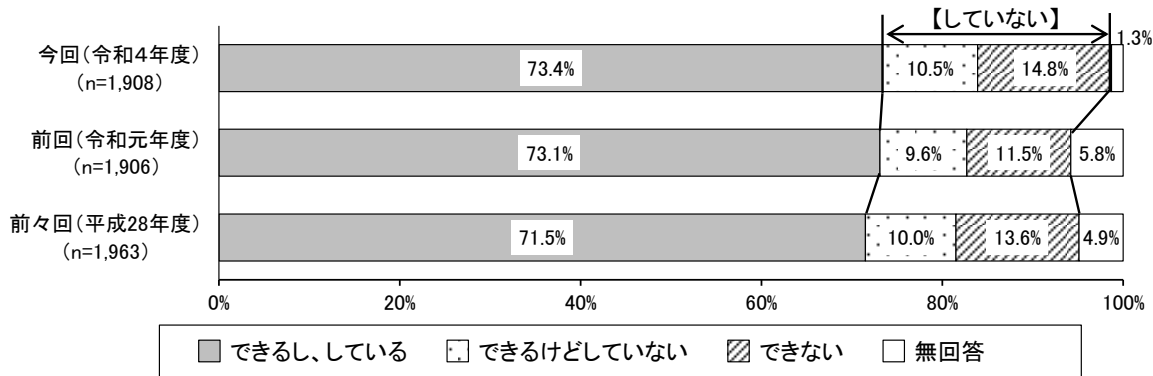
図表1-4-3 椅子から立ち上がる状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「していない」の割合は前々回が23.6%、前回は21.1%で、前々回から1.7ポイント、前回から4.2ポイント高まっている。

図表1-4-4 椅子から立ち上がる状況(過去2回の調査との比較)



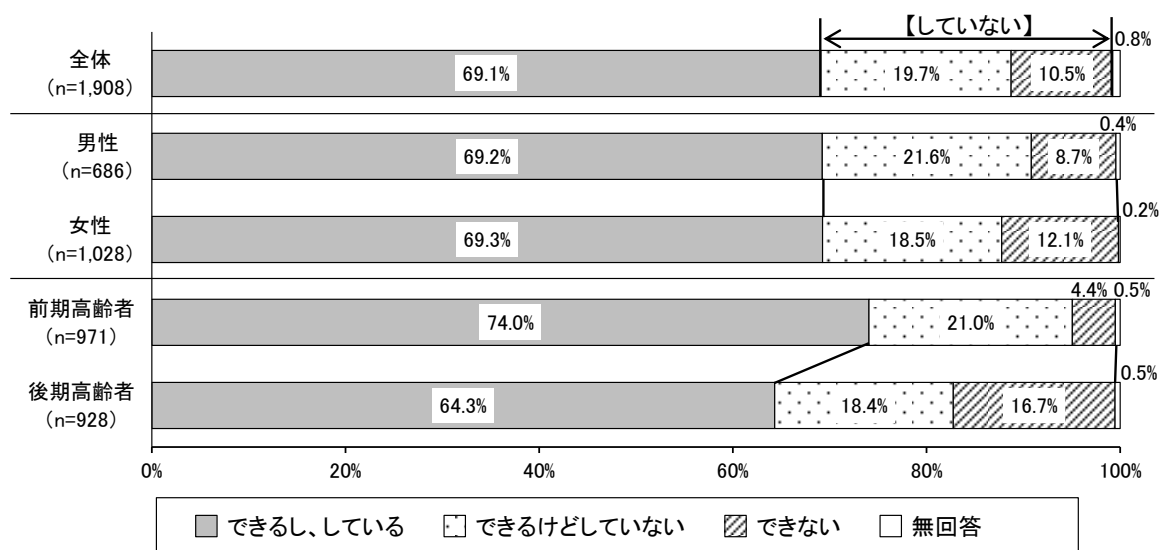
Q3. 15分位続けて歩いていますか。

全体では、「できるし、している」の割合が69.1%となっている。「していない」(「できるけどしていない」と「できない」の計:以下同じ)は30.2%となっている。

性別でみると、「していない」の割合(男性:30.3%、女性:30.6%)は、女性が男性を0.3ポイント上回っている。

年代別では、「していない」の割合(前期高齢者:25.4%、後期高齢者:35.1%)は、後期高齢者が前期高齢者を9.7ポイント上回っている。

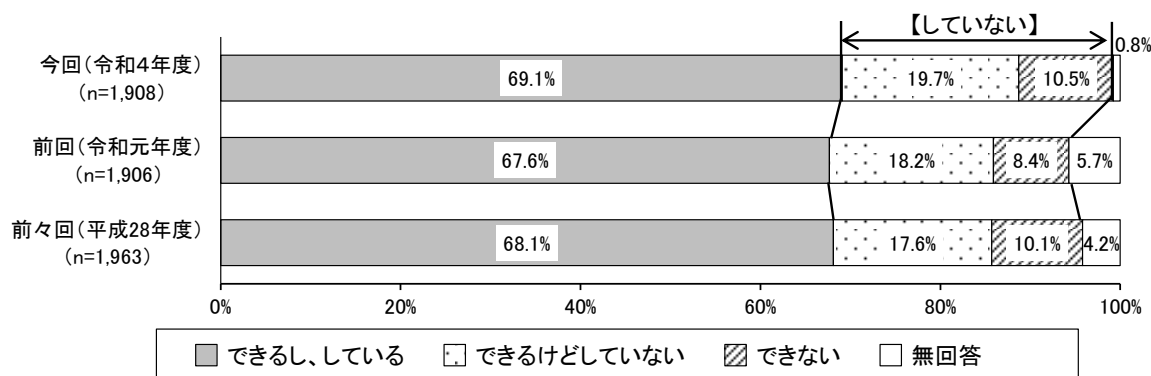
図表1-4-5 15分位続けて歩けるか



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「していない」の割合は前々回が27.7%、前回は26.6%で、前々回から2.5ポイント、前回から3.6ポイント高まっている。

図表1-4-6 15分位続けて歩けるか(過去2回の調査との比較)

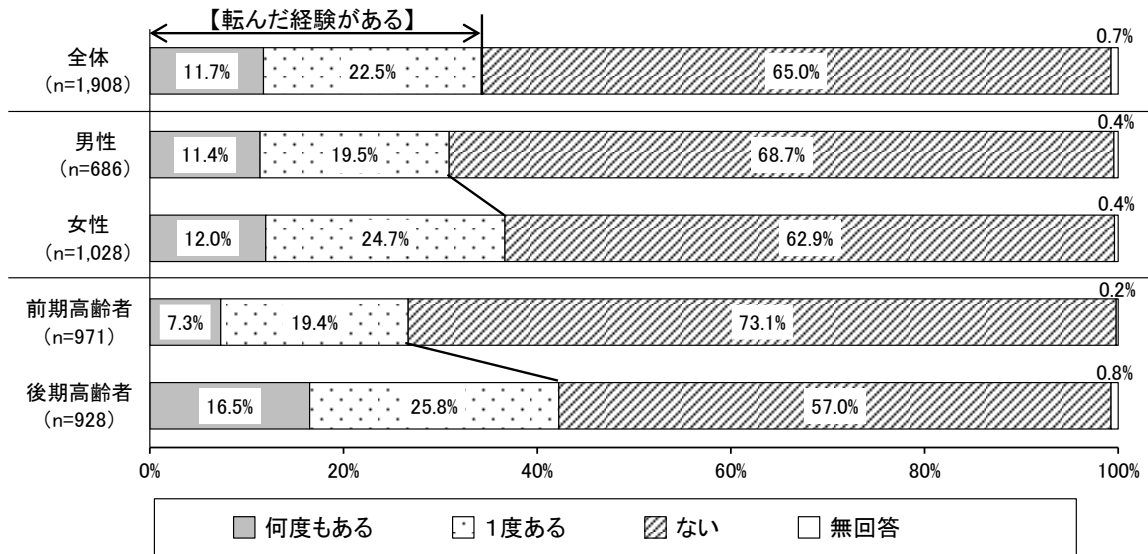


Q4. 過去1年間に転んだ経験がありますか。

全体では、「転んだ経験がある」(「何度もある」と「1度ある」の計:以下同じ)の割合が34.2%となっている。性別でみると、「転んだ経験がある」の割合(男性:30.9%、女性:36.7%)は、女性が男性を5.8ポイント上回っている。

年代別では、「転んだ経験がある」の割合(前期高齢者:26.7%、後期高齢者:42.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を15.6ポイント上回っている。

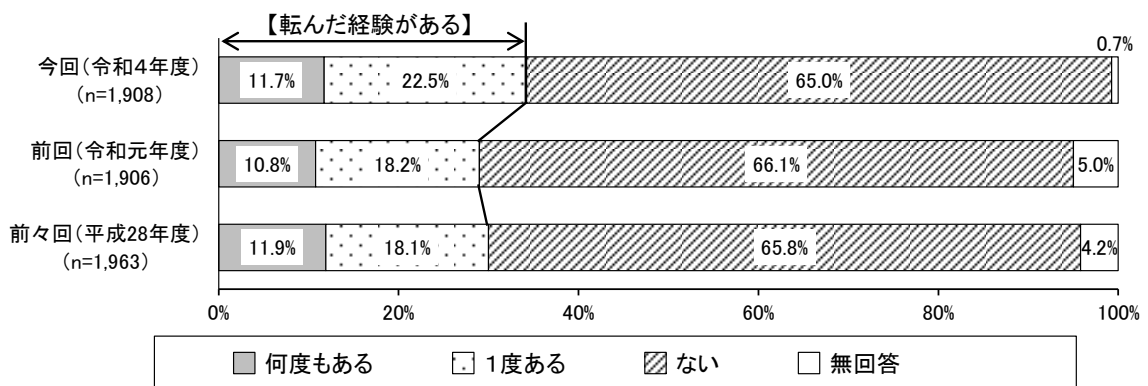
図表1-4-7 過去1年間に転んだ経験



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「転んだ経験がある」の割合は前々回が30.0%、前回は29.0%で、前々回から4.2ポイント、前回から5.2ポイント高まっている。

図表1-4-8 過去1年間に転んだ経験(過去2回の調査との比較)



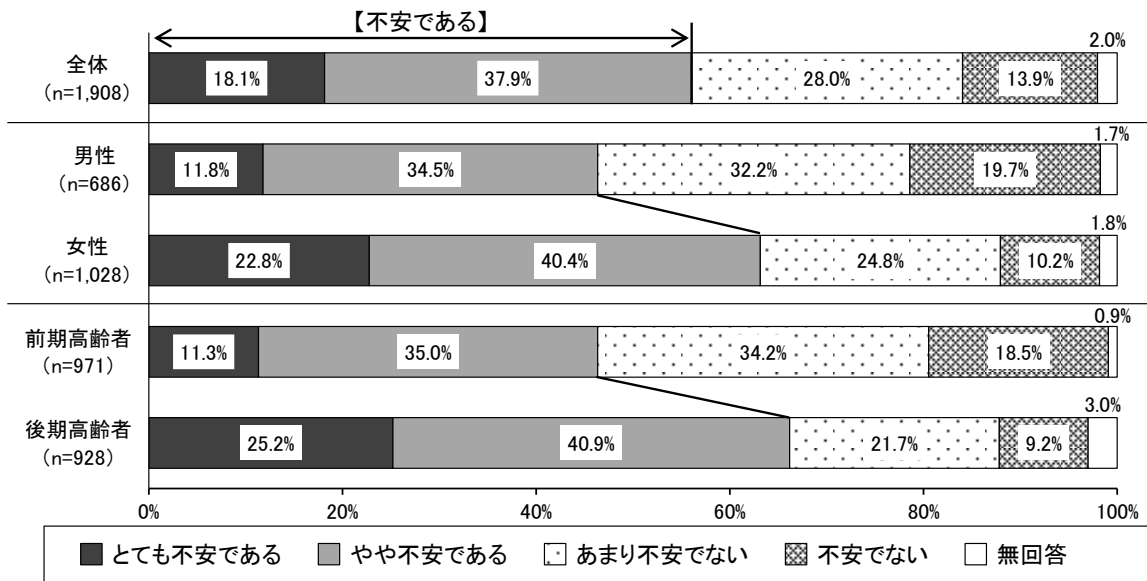
Q5. 転倒に対する不安は大きいですか。

全体では、「不安である」（「とても不安である」と「やや不安である」の計：以下同じ）の割合が56.0%で最も高くなっている。

性別で見ると、「不安である」の割合（男性：46.3%、女性63.2%）は、女性が男性を16.9ポイント上回っている。

年代別では、「不安である」の割合（前期高齢者：46.3%、後期高齢者：66.1%）は、後期高齢者が前期高齢者を19.8ポイント上回っている。

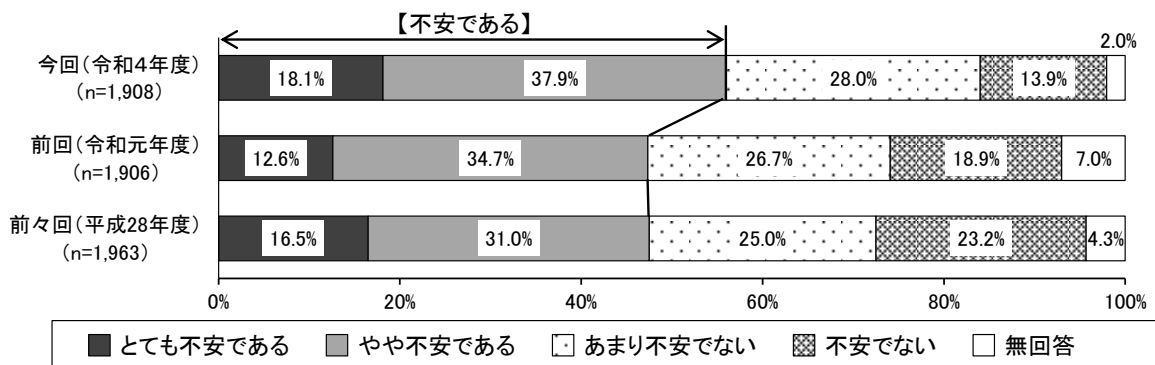
図表1-4-9 転倒に対する不安



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「不安である」の割合は前々回が47.5%、前回は47.3%で、前々回から8.5ポイント、前回から8.7ポイント高まっている。

図表1-4-10 転倒に対する不安(過去2回の調査との比較)



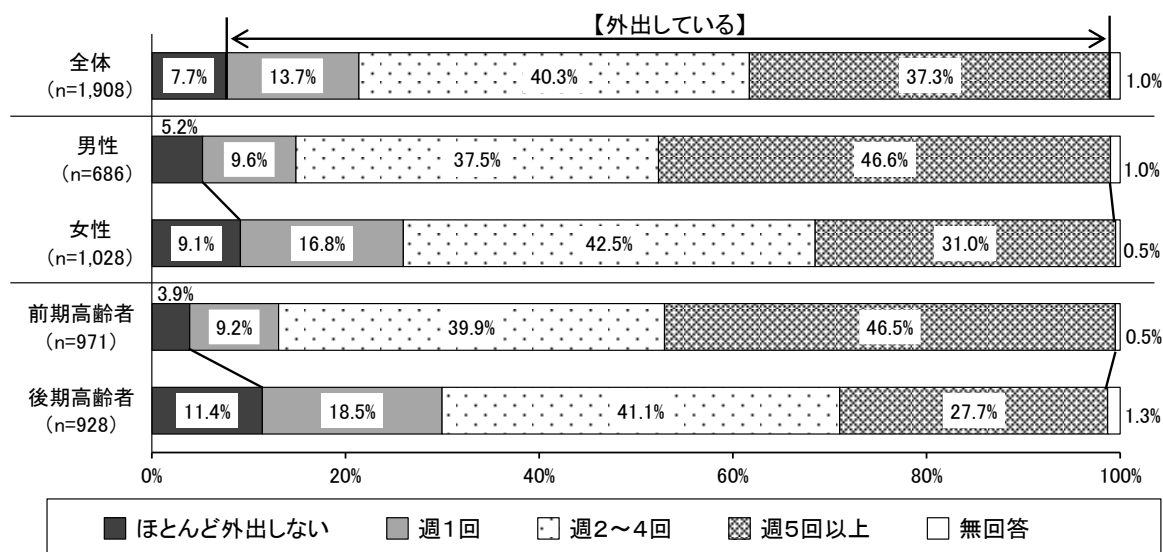
Q6. 週に1回以上は外出していますか。

全体では、「外出している」（「週1回」と「週2～4回」と「週5回以上」の計：以下同じ）の割合は91.3%となっている。また、「ほとんど外出しない」は7.7%となっている。

性別で見ると、「ほとんど外出しない」の割合（男性：5.2%、女性：9.1%）は、女性が男性を3.9ポイント上回っている。

年代別では、「ほとんど外出しない」の割合（前期高齢者：3.9%、後期高齢者：11.4%）は、後期高齢者が前期高齢者を7.5ポイント上回っている。

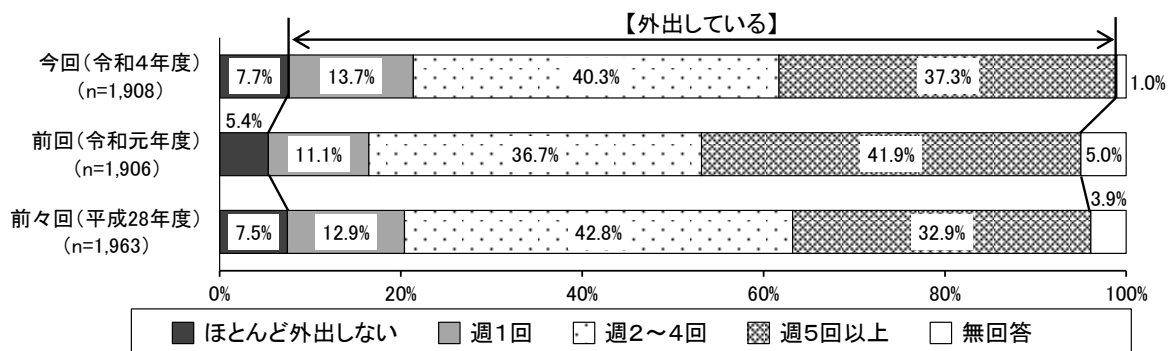
図表1-4-11 1週間あたりの外出の頻度



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「ほとんど外出しない」の割合は前々回から0.2ポイント、前回から2.3ポイント高まっている。

図表1-4-12 1週間あたりの外出の頻度(過去2回の調査との比較)



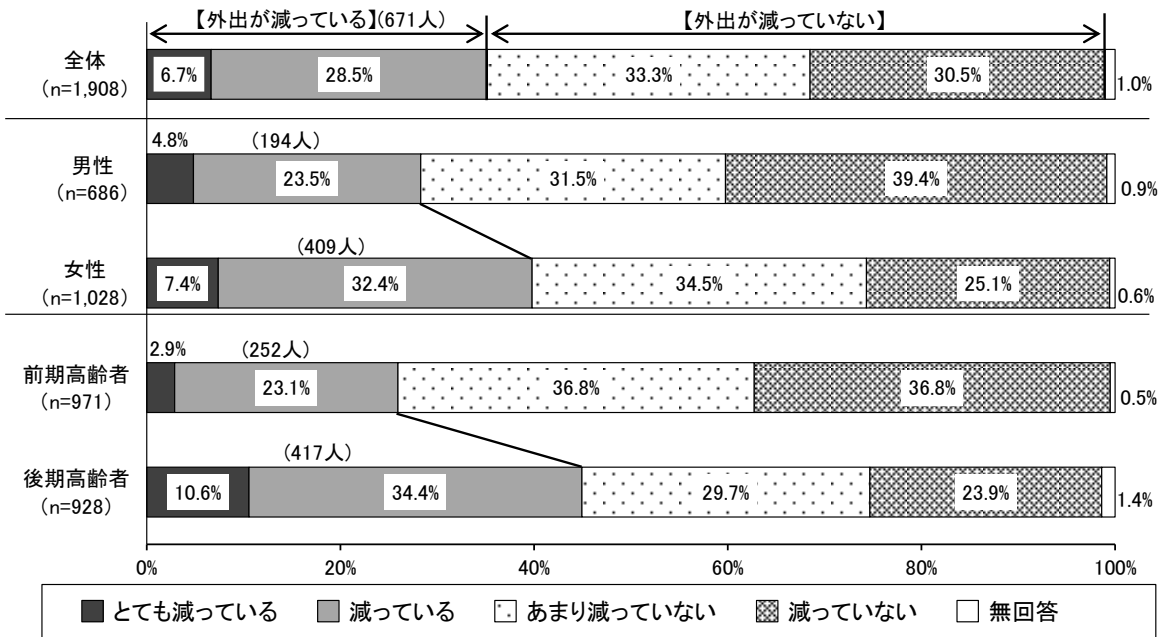
Q7. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

全体では、「外出が減っていない」（「あまり減っていない」と「減っていない」の計：以下同じ）の割合は63.8%となっている。「外出が減っている」（「とても減っている」と「減っている」の計：以下同じ）は35.2%となっている。

性別でみると、「外出が減っている」の割合（男性：28.3%、女性：39.8%）は、女性が男性を11.5ポイント上回っている。

年代別では、「外出が減っている」の割合（前期高齢者：26.0%、後期高齢者：45.0%）は、後期高齢者が前期高齢者を19.0ポイント上回っている。

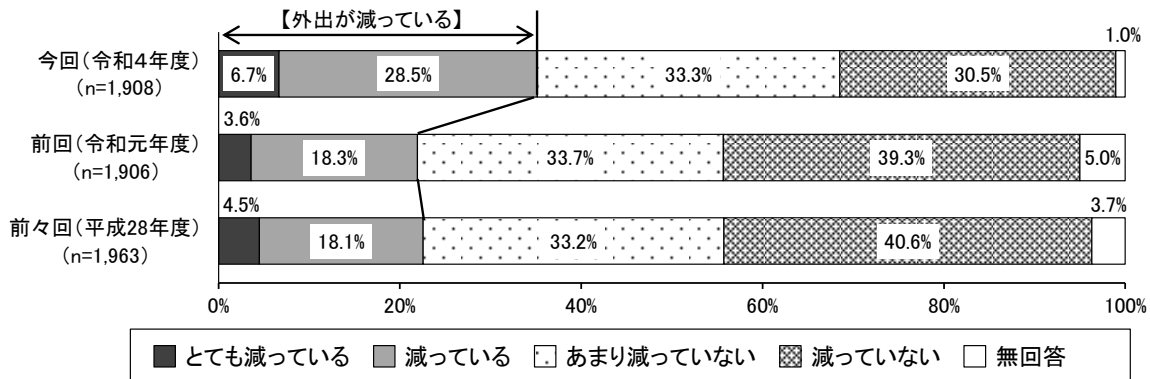
図表1-4-13 昨年と比べて外出の回数



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「外出が減っている」の割合は前々回が22.6%、前回は21.9%で、前々回から12.6ポイント、前回から13.3ポイント高まっている。

図表1-4-14 昨年と比べて外出の回数（過去2回の調査との比較）



<外出が減っている人>

Q7-1. 外出を控えている理由は、次のどれですか。(複数回答)

全体では、「新型コロナウイルス感染対策」の割合が66.5%で最も高くなっている。次いで「足腰などの痛み」(30.7%)、「外での楽しみがない」(11.2%)などが続いている。

性別でみると、「新型コロナウイルス感染対策」を除けば男女とも「足腰などの痛み」の割合(男性:27.3%、女性:32.5%)が最も高くなっている。

年代別では、「新型コロナウイルス感染対策」を除けば前期高齢者、後期高齢者とも「足腰などの痛み」の割合(前期高齢者:18.7%、後期高齢者:37.6%)が最も高くなっている。後期高齢者の割合は前期高齢者を18.9ポイント上回っている。

図表1-4-15 外出を控えている理由

	新型コロナウイルス感染対策	足腰などの痛み	外での楽しみがない	交通手段がない	病気	トイレの心配(失禁など)	経済的に出られない	耳の障がい(聞こえの問題など)	障がい(脳卒中の後遺症など)	目の障がい	その他
外出が減っている人 (n=671)	66.5%	30.7%	11.2%	9.2%	8.5%	8.5%	6.3%	4.3%	2.8%	2.2%	8.6%
男性 (n=194)	57.2%	27.3%	14.4%	6.2%	13.4%	8.8%	11.3%	2.6%	3.1%	2.1%	9.8%
女性 (n=409)	71.1%	32.5%	9.3%	11.2%	5.9%	9.0%	3.4%	5.6%	2.7%	2.0%	8.1%
前期高齢者 (n=252)	72.6%	18.7%	11.1%	4.4%	8.7%	2.0%	9.1%	0.8%	1.2%	1.2%	10.7%
後期高齢者 (n=417)	63.1%	37.6%	11.0%	12.2%	8.2%	12.2%	4.6%	6.5%	3.8%	2.9%	7.4%

5. 日常生活での移動について(問4)

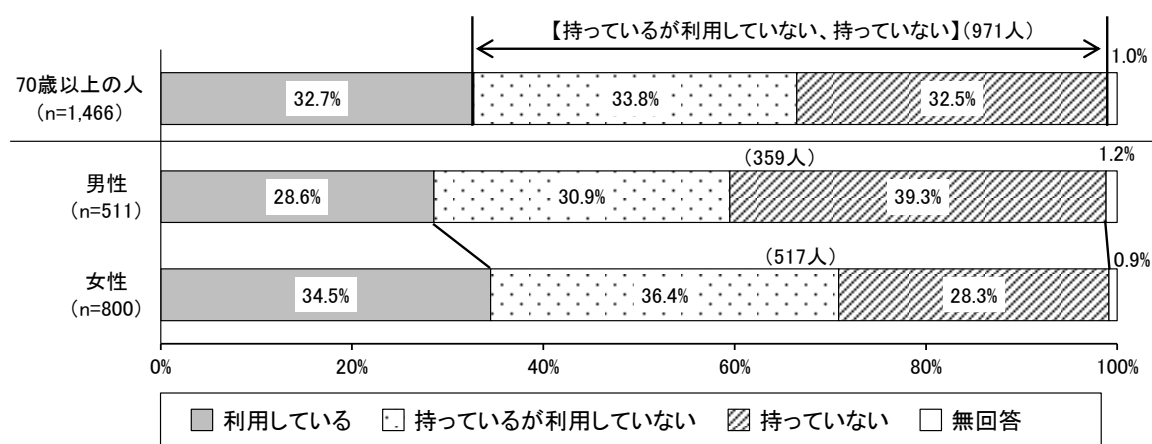
Q1. 70歳以上の市民が路線バスを利用する際、乗り降りのいずれかが市内である場合に運賃が100円となる「敬老バスカ」を利用していますか。

<70歳以上の人>

全体では、「利用している」の割合は32.7%となっている。また、「持っているが利用していない」と「持っていない」の計は66.3%となっている。

性別でみると、「持っているが利用していない」と「持っていない」の計の割合(男性:70.2%、女性:64.7%)は男性が女性を5.5ポイント上回っている。

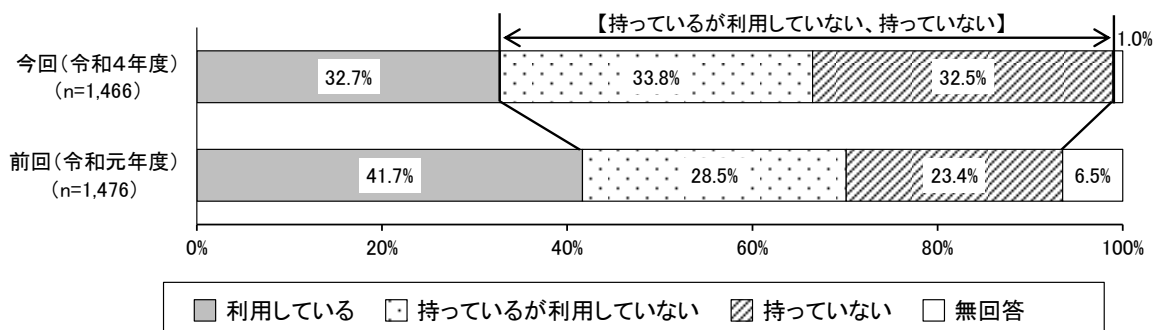
図表1-5-1 敬老バスカの利用状況



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「持っているが利用していない」と「持っていない」の計は前回は51.9%で、14.4ポイント高まっている。

図表1-5-2 敬老バスカの利用状況(前回調査との比較)



<敬老バスカを「持っているが、利用していない」または「持っていない」人>

Q1-1. 利用していない理由は、次のどれですか。(複数回答)

全体では、「他の方法で移動している(自分で車を運転、家族等による送迎、車以外で外出)」の割合が77.0%で最も高くなっている。

性別で見ると、「他の方法で移動している(自分で車を運転、家族等による送迎、車以外で外出)」の割合(男性:78.6%、女性:78.1%)は、男性が女性を0.5ポイント上回っている。

図表1-5-3 敬老バスカを利用していない理由

	送(他の方法で移動している) 迎、自分で車を運転、車以外で外出、家族等による	バス停が遠い	乗病 気や 障が い な ど に よ り バ ス に	「敬老バスカ」を知らない	その他
※P33を参照					
持っているが利用していない、 持っていない人 (n=971)	77.0%	7.0%	5.5%	4.4%	6.5%
男性 (n=359)	78.6%	7.0%	3.3%	7.0%	4.7%
女性 (n=517)	78.1%	7.2%	7.2%	2.3%	7.4%

<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「他の方法で移動している(自分で車を運転、家族等による送迎、車以外で外出)」の割合は0.9ポイント高まっている。

図表1-5-4 敬老バスカを利用していない理由(前回調査との比較)

	送(他の方法で移動している) 迎、自分で車を運転、車以外で外出、家族等による	バス停が遠い	乗病 気や 障が い な ど に よ り バ ス に	「敬老バスカ」を知らない	その他
今回(令和4年度) (n=971)	77.0%	7.0%	5.5%	4.4%	6.5%
前回(令和元年度) (n=765)	76.1%	9.3%	5.2%	2.4%	8.4%

Q1-2. 普段の生活で、食料品や日用品の買物に行く際は、主にどの交通手段で行きますか。(〇は2つまで)

全体では、「自動車(自分で運転)」の割合が52.9%で最も高くなっている。次いで「徒歩」(25.8%)、「自動車(人に乗せてもらう)」(18.3%)、「自転車」(13.7%)などが続いている。

性別で見ると、交通手段の上位2項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。「自動車(自分で運転)」の割合(男性:68.1%、女性:43.4%)は男性が女性を24.7ポイント上回っている。一方、「自動車(人に乗せてもらう)」(男性:8.6%、女性:26.5%)は女性が男性を17.9ポイント上回っている。なお、男性は「自転車」(14.0%)が第3位となっている。

年代別では、交通手段の上位2項目の順位は前期高齢者、後期高齢者とも全体と同じとなっている。「自動車(自分で運転)」の割合(前期高齢者:64.0%、後期高齢者:41.6%)は前期高齢者が後期高齢者を22.4ポイント上回っている。一方、「自動車(人に乗せてもらう)」(前期高齢者:12.0%、後期高齢者:25.0%)は後期高齢者が前期高齢者を13.0ポイント上回っている。なお、前期高齢者は「自転車」(13.9%)が第3位となっている。

図表1-5-5 日常の主な交通手段

	自動車 (自分で運転)	徒歩	自動車 (人に乗せてもらう)	自転車	バス	タクシー	バイク	電車	自分では買物に行かない	その他
全体 (n=1,908)	52.9%	25.8%	18.3%	13.7%	5.5%	3.6%	2.1%	0.1%	6.7%	2.9%
男性 (n=686)	68.1%	20.1%	8.6%	14.0%	3.5%	1.6%	3.1%	0.0%	6.3%	1.0%
女性 (n=1,028)	43.4%	29.9%	26.5%	12.8%	7.0%	5.2%	1.3%	0.1%	7.2%	3.7%
前期高齢者 (n=971)	64.0%	25.2%	12.0%	13.9%	2.5%	1.1%	2.8%	0.1%	2.2%	1.0%
後期高齢者 (n=928)	41.6%	26.6%	25.0%	13.7%	8.7%	6.3%	1.5%	0.0%	11.3%	4.7%

6. 食べることについて(問5)

Q1. BMI※

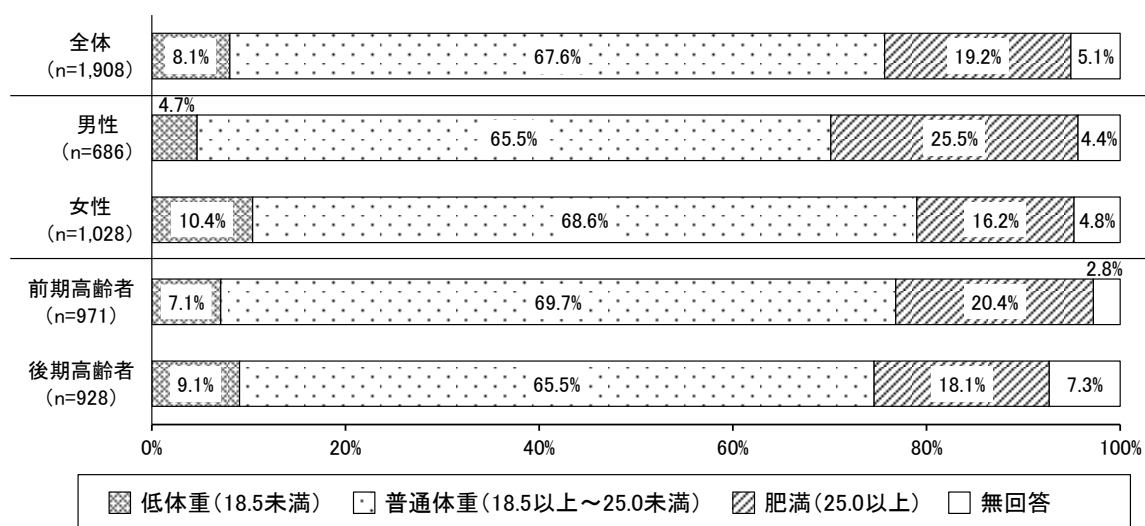
※BMI(Body Mass Index)とは、「体重(kg)÷身長(m)の2乗」によって算出される「体重(体格)指数」である。低体重(やせ)や肥満の判定に用いられる。「18.5未満」が「低体重」、「18.5以上～25.0未満」が「普通体重」、「25.0以上」が「肥満」として区分される。

全体では、「普通体重」の割合が67.6%で最も高くなっている。「肥満」は19.2%、「低体重」は8.1%となっている。

性別で見ると、「肥満」の割合(男性:25.5%、女性:16.2%)は、男性が女性を9.3ポイント上回っている。

年代別では、「肥満」の割合(前期高齢者:20.4%、後期高齢者:18.1%)は、前期高齢者が後期高齢者を2.3ポイント上回っている。

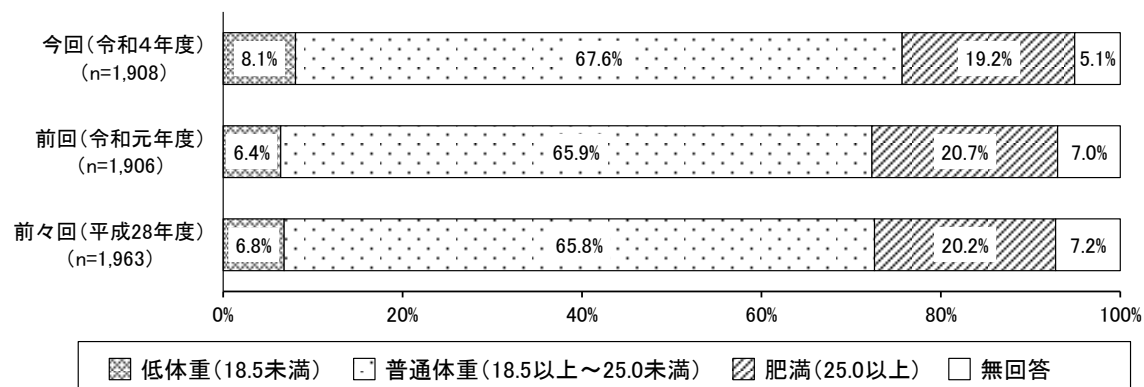
図表1-6-1 BMI



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「肥満」の割合は前々回から1.0ポイント、前回から1.5ポイント低下している。

図表1-6-2 BMI(過去2回の調査との比較)



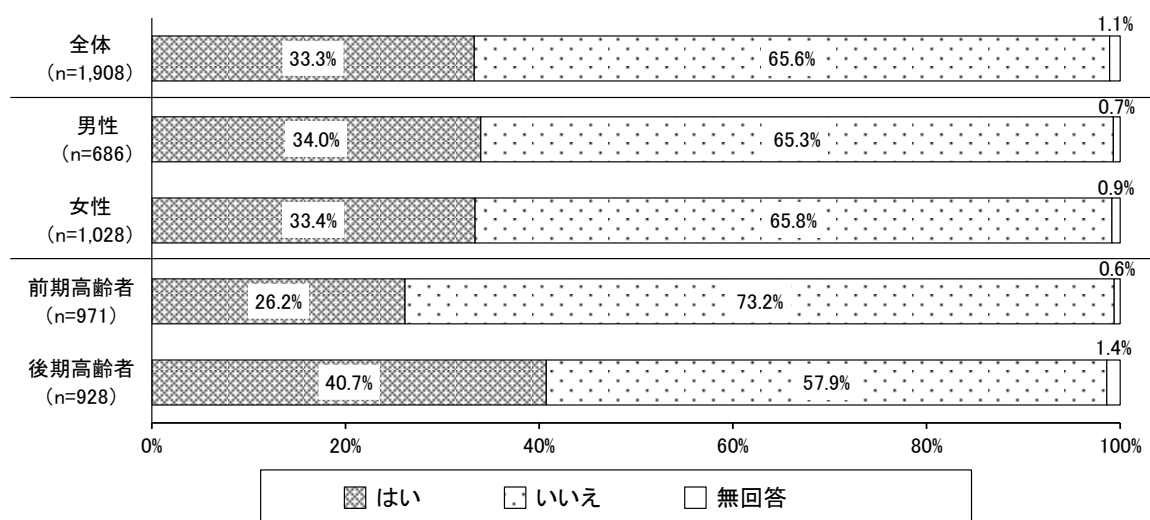
Q2. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

全体では、「いいえ」の割合が65.6%、「はい」が33.3%となっている。

性別で見ると、「はい」の割合(男性:34.0%、女性:33.4%)は、男性が女性を0.6ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:26.2%、後期高齢者:40.7%)は、後期高齢者が前期高齢者を14.5ポイント上回っている。

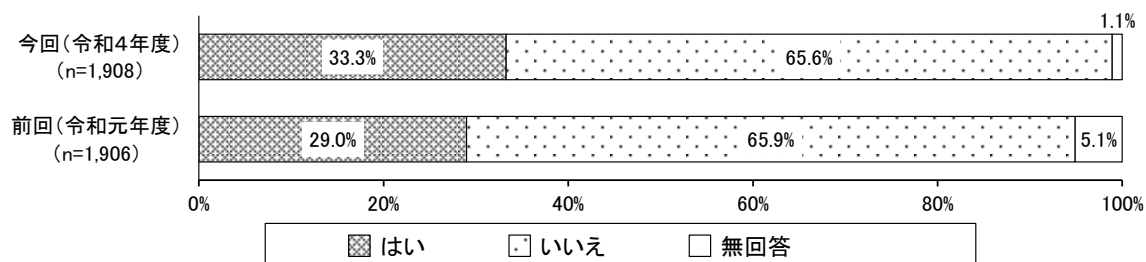
図表1-6-3 半年前と比べた固いものの食べにくさ



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「はい」の割合が4.3ポイント高まっている。

図表1-6-4 半年前と比べた固いものの食べにくさ(前回調査との比較)



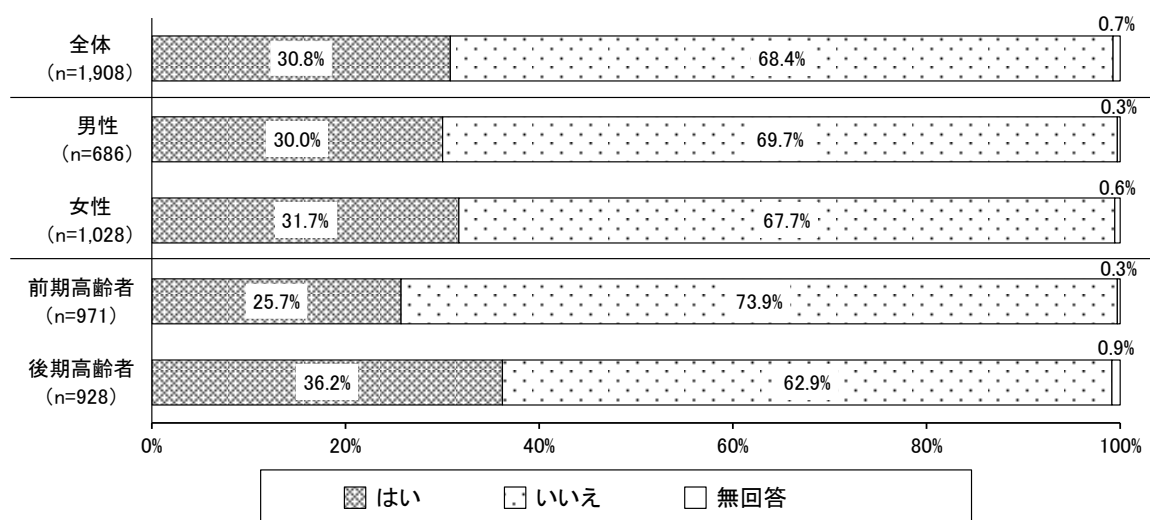
Q3. お茶や汁物等でむせることがありますか。

全体では、「いいえ」の割合が68.4%、「はい」が30.8%となっている。

性別でみると、「はい」の割合(男性:30.0%、女性:31.7%)は、女性が男性を1.7ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:25.7%、後期高齢者:36.2%)は、後期高齢者が前期高齢者を10.5ポイント上回っている。

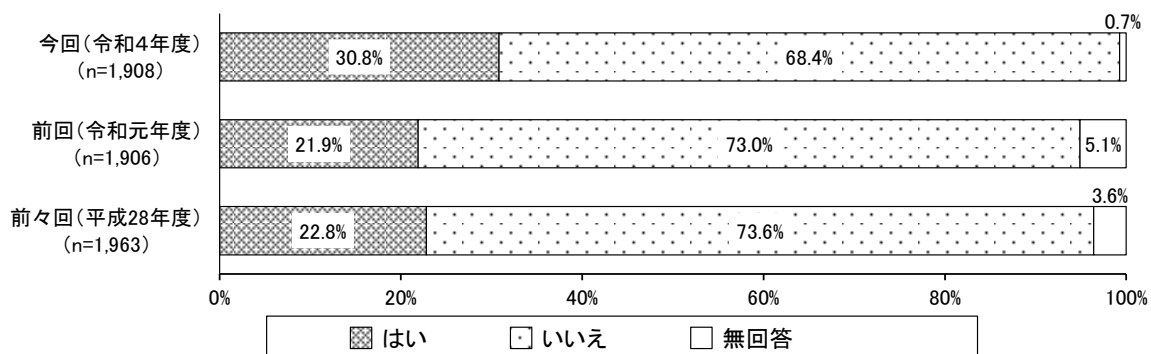
図表1-6-5 お茶や汁物等でむせること



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「はい」の割合は前々回から8.0ポイント、前回から8.9ポイント高まっている。

図表1-6-6 お茶や汁物等でむせること(過去2回の調査との比較)



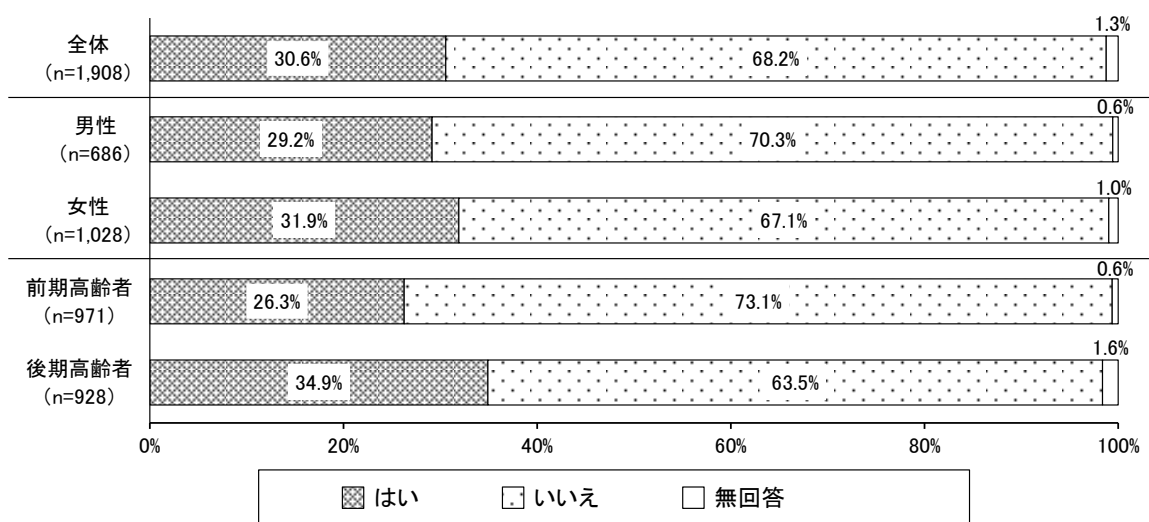
Q4. 口の渇きが気になりますか。

全体では、「いいえ」の割合が68.2%、「はい」が30.6%となっている。

性別でみると、「はい」の割合(男性:29.2%、女性:31.9%)は、女性が男性を2.7ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:26.3%、後期高齢者:34.9%)は、後期高齢者が前期高齢者を8.6ポイント上回っている。

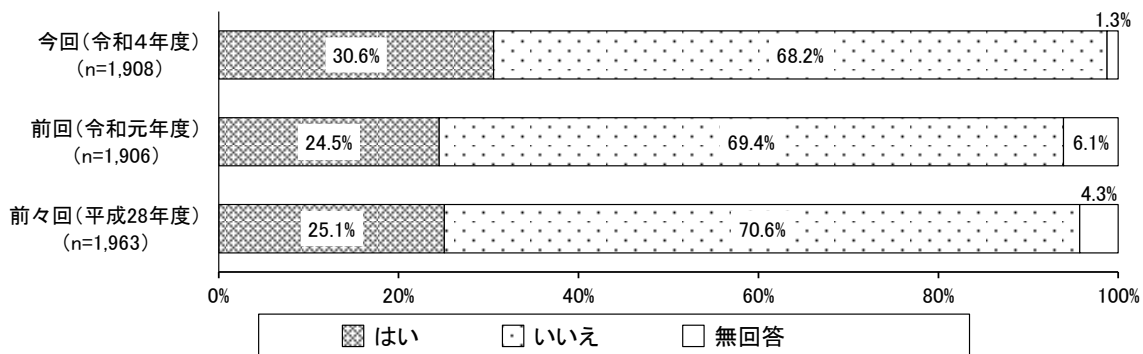
図表1-6-7 口の渇きが気になるか



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「はい」の割合は前々回から5.5ポイント、前回から6.1ポイント高まっている。

図表1-6-8 口の渇きが気になるか(過去2回の調査との比較)



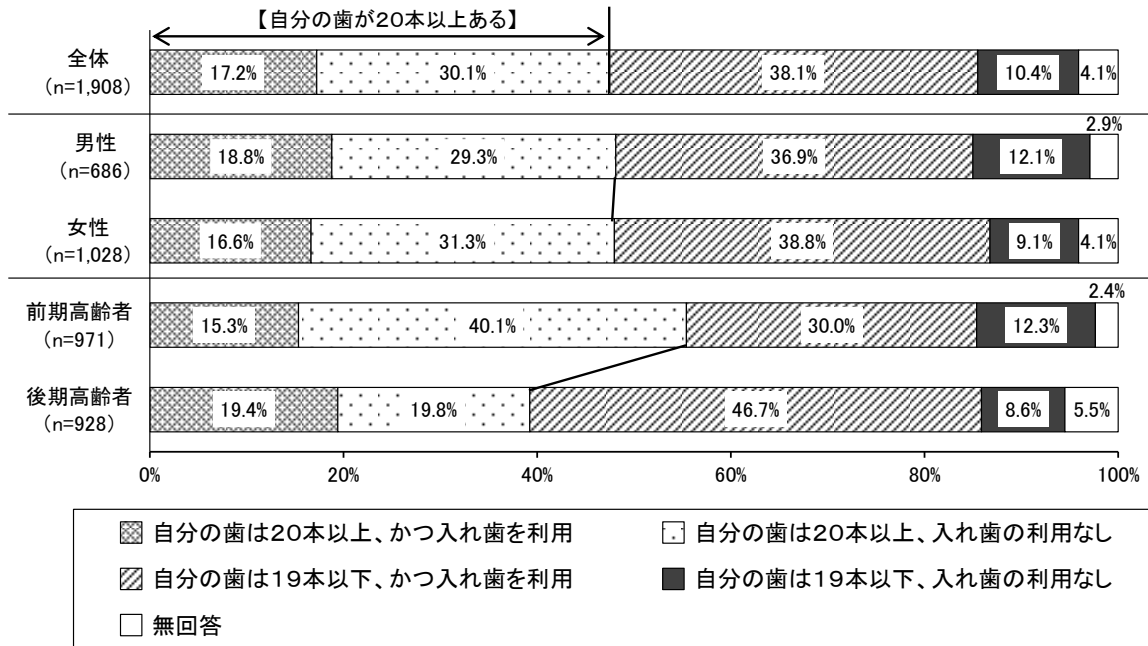
Q5. 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

全体では、「自分の歯が20本以上ある」「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の計:以下同じ)の割合は47.3%となっている。

性別でみると、「自分の歯が20本以上ある」の割合(男性:48.1%、女性:47.9%)は、男性が女性を0.2ポイント上回っている。

年代別では、「自分の歯が20本以上ある」の割合(前期高齢者:55.4%、後期高齢者:39.2%)は、後期高齢者が前期高齢者を16.2ポイント下回っている。

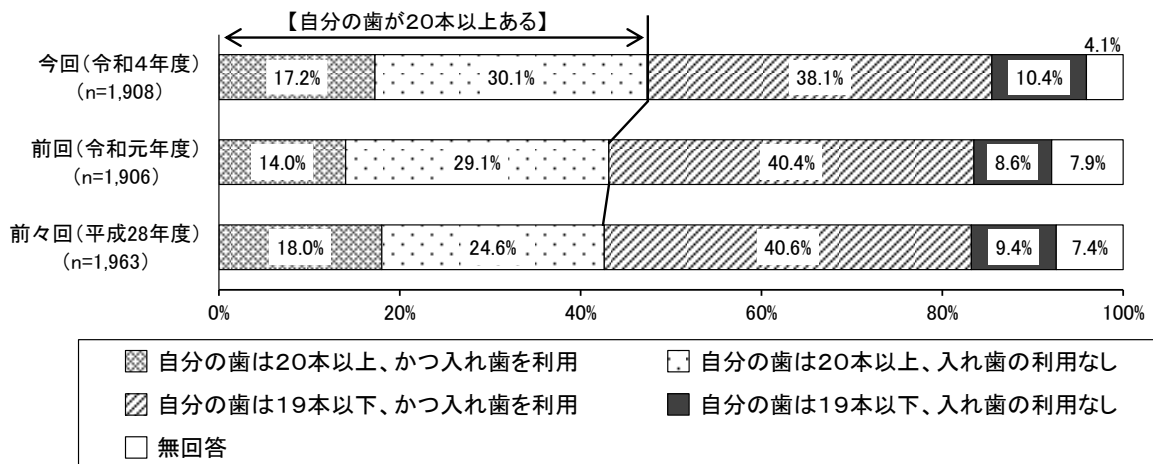
図表1-6-9 歯の数と入れ歯の利用状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「自分の歯が20本以上ある」の割合は前々回が42.6%、前回は43.1%で、前々回から4.7ポイント、前回から4.2ポイント高まっている。

図表1-6-10 歯の数と入れ歯の利用状況(過去2回の調査との比較)



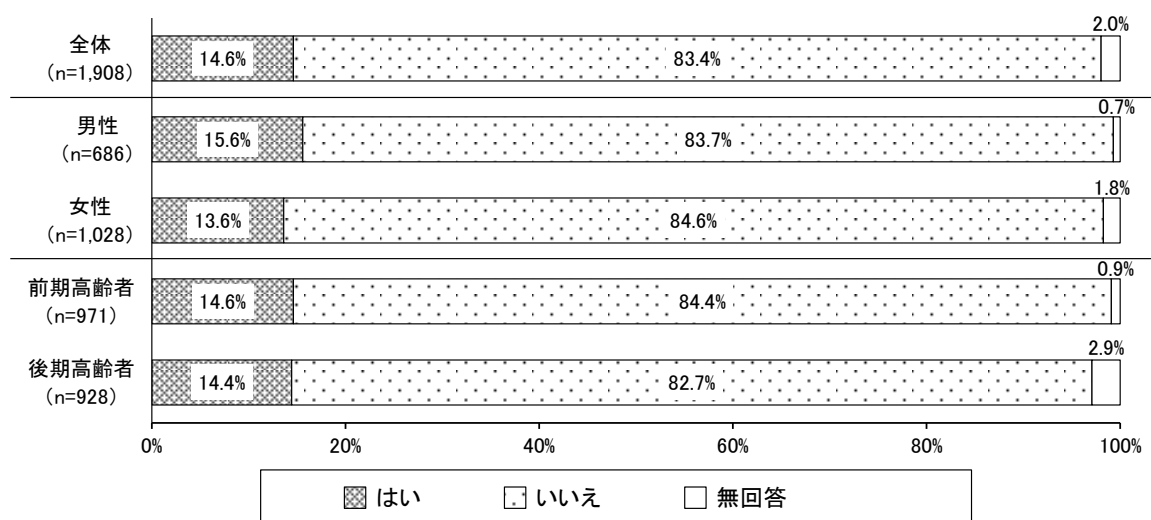
Q6. 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

全体では、「いいえ」の割合が83.4%、「はい」が14.6%となっている。

性別でみると、「はい」の割合(男性:15.6%、女性:13.6%)は、男性が女性を2.0ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:14.6%、後期高齢者:14.4%)は、前期高齢者が後期高齢者を0.2ポイント上回っている。

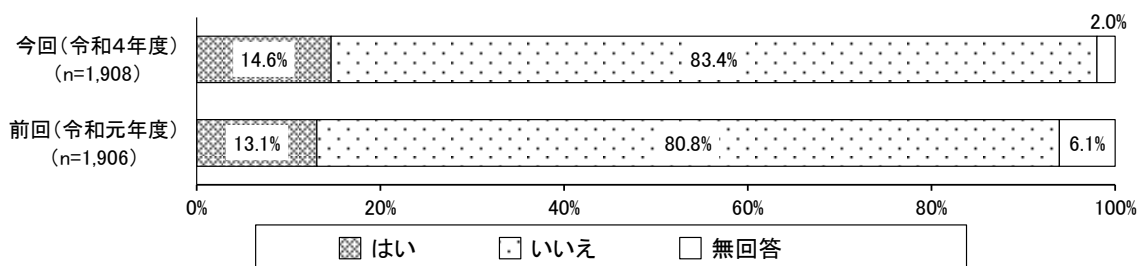
図表1-6-11 6か月間における2～3kg以上の体重減少



<前回の調査との比較>

前回の調査との比較では、「はい」の割合は1.5ポイント高まっている。

図表1-6-12 6か月間における2～3kg以上の体重減少(前回調査の比較)



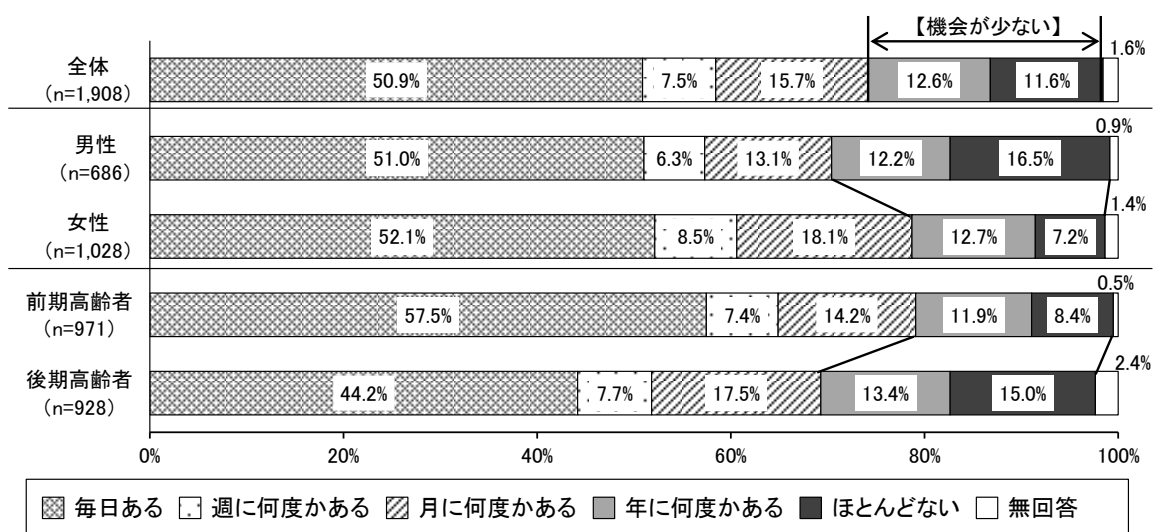
Q7. どなたかと食事をとる機会がありますか。

全体では、「毎日ある」の割合が50.9%で最も高くなっている。また、「機会が少ない」（年に何度かある」と「ほとんどない」の計:以下同じ）は24.2%となっている。

性別でみると、「機会が少ない」の割合（男性:28.7%、女性:19.9%）は、男性が女性を8.8ポイント上回っている。

年代別では、「機会が少ない」の割合（前期高齢者:20.3%、後期高齢者:28.4%）は、後期高齢者が前期高齢者を8.1ポイント上回っている。

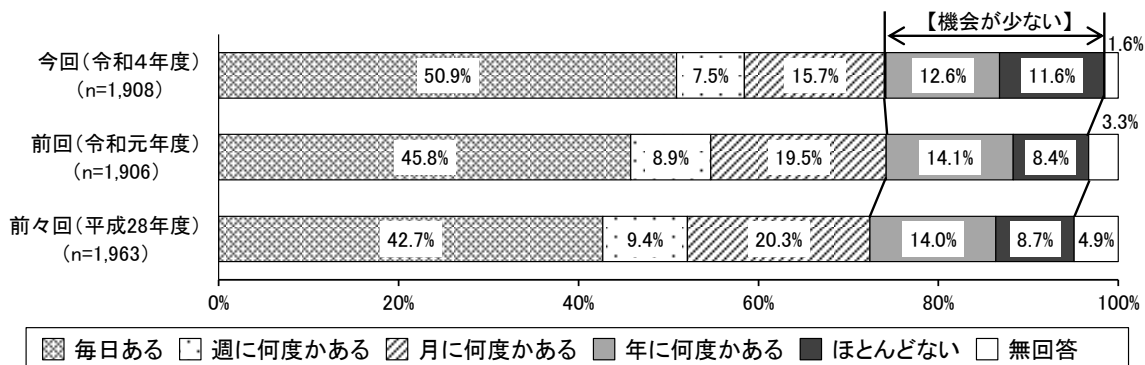
図表1-6-13 誰かと食事をとる機会



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「機会が少ない」の割合は前々回が22.7%、前回は22.5%で、前々回から1.5ポイント、前回から1.7ポイント高まっている

図表1-6-14 誰かと食事をとる機会（過去2回の調査との比較）



7. 毎日の生活について(問6)

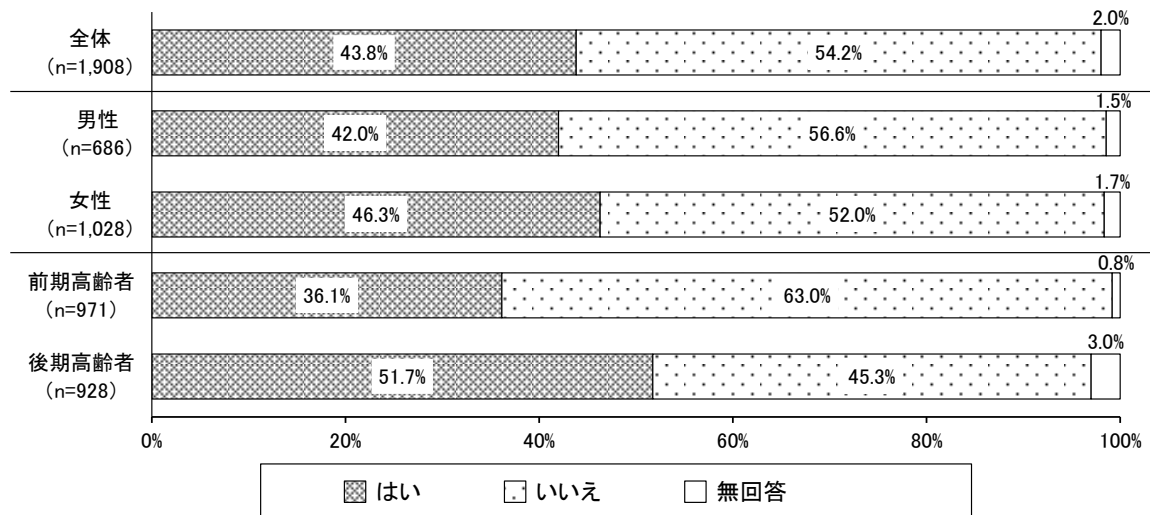
Q1. 物忘れが多いと感じますか。

全体では、「いいえ」の割合が54.2%、「はい」が43.8%となっている。

性別で見ると、「はい」の割合(男性:42.0%、女性46.3%)は、女性が男性を4.3ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:36.1%、後期高齢者:51.7%)は、後期高齢者が前期高齢者を15.6ポイント上回っている。

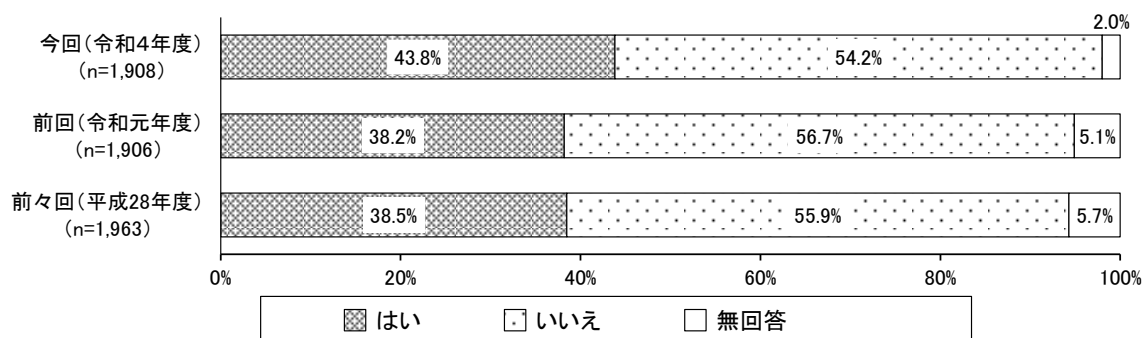
図表1-7-1 物忘れが多いと感じるか



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「はい」の割合は前々回から5.3ポイント、前回から5.6ポイント高まっている。

図表1-7-2 物忘れが多いと感じるか(過去2回の調査との比較)



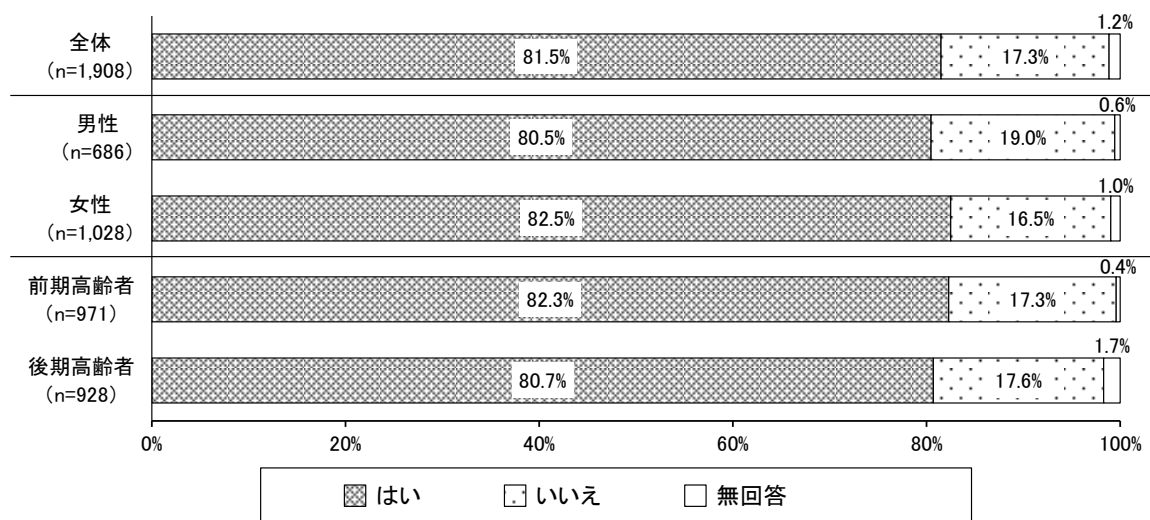
Q2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

全体では、「はい」の割合が81.5%、「いいえ」が17.3%となっている。

性別でみると、「いいえ」の割合(男性:19.0%、女性:16.5%)は、男性が女性を2.5ポイント上回っている。

年代別では、「いいえ」の割合(前期高齢者:17.3%、後期高齢者:17.6%)は、後期高齢者が前期高齢者を0.3ポイント上回っている。

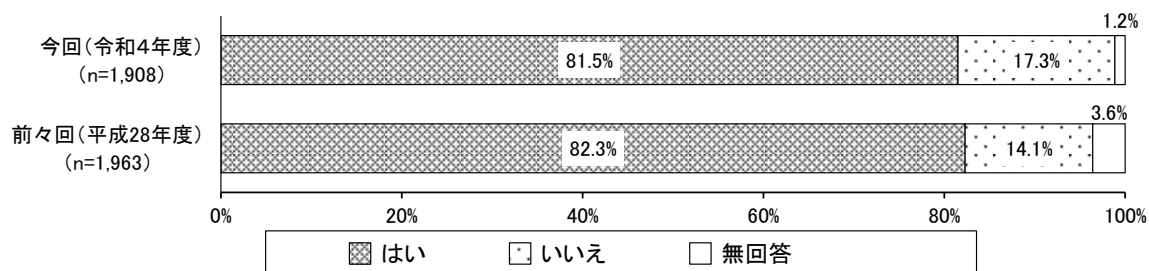
図表1-7-3 自分で電話番号を調べて電話をかけるか



<前々回調査との比較>

前々回調査との比較では、「いいえ」の割合は3.2ポイント高まっている。

図表1-7-4 自分で電話番号を調べて電話をかけるか(前々回調査との比較)



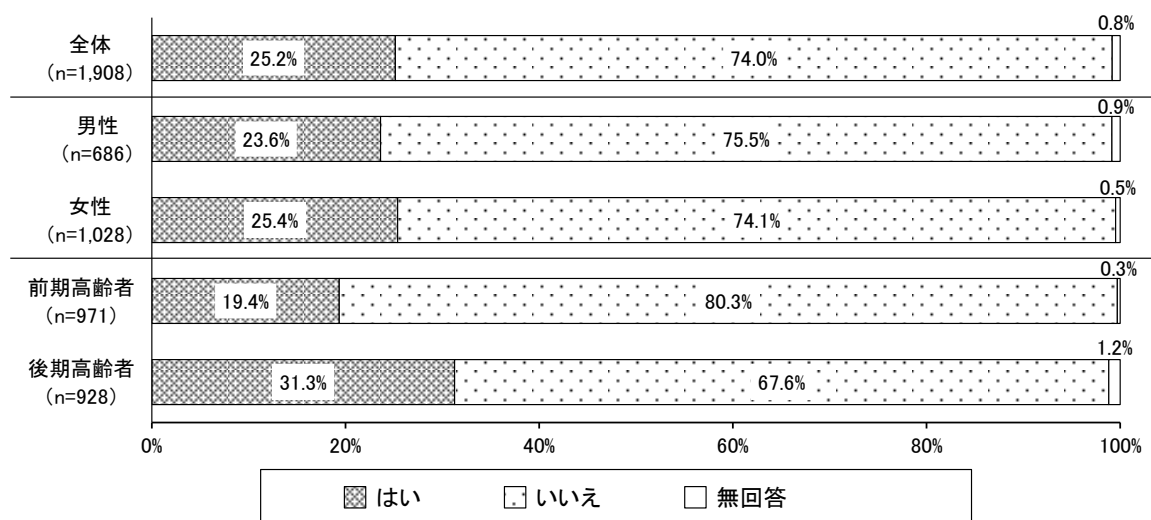
Q3. 今日が何月何日かわからない時がありますか。

全体では、「いいえ」の割合が74.0%、「はい」が25.2%となっている。

性別でみると、「はい」の割合(男性:23.6%、女性:25.4%)は、女性が男性を1.8ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:19.4%、後期高齢者:31.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を11.9ポイント上回っている。

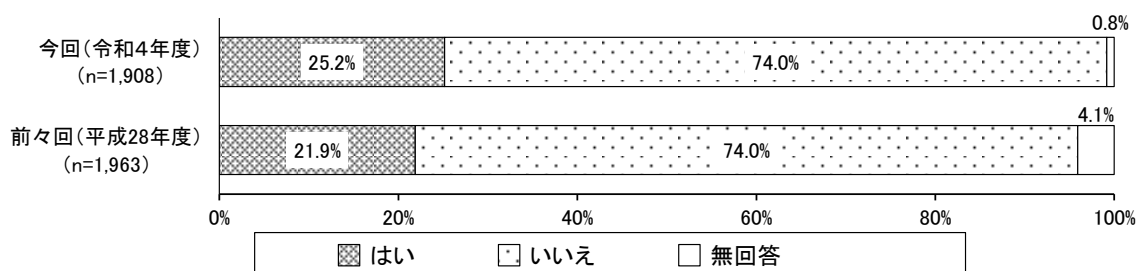
図表1-7-5 今日の日付がわからない時があるか(過去2回の調査との比較)



<前々回調査との比較>

前々回調査との比較では、「はい」の割合は3.3ポイント高まっている。

図表1-7-6 今日の日付がわからない時があるか(前々回調査との比較)



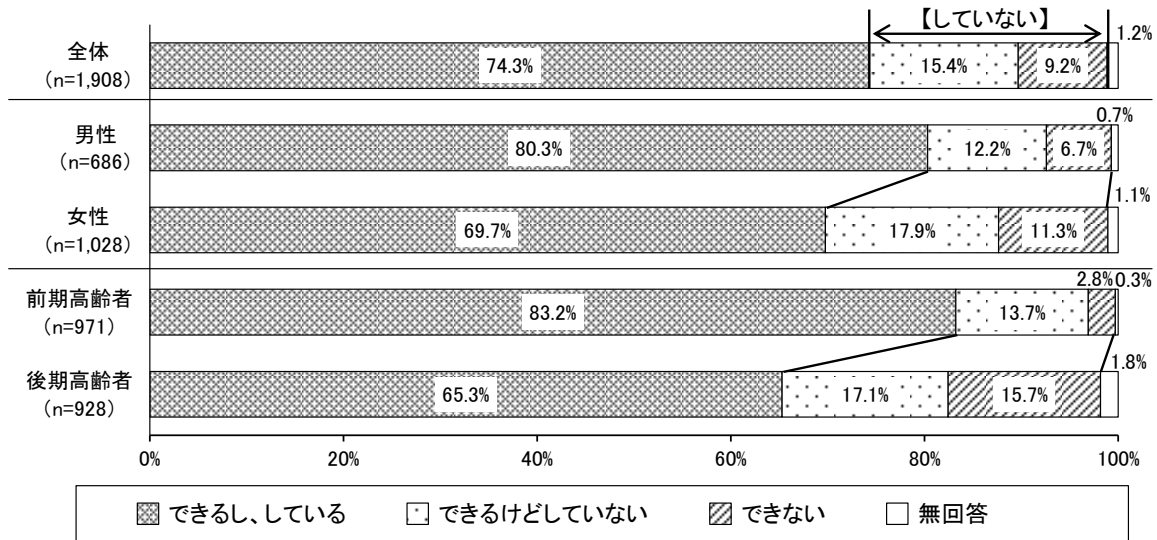
Q4. バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)

全体では、「できるし、している」の割合は74.3%となっている。「していない」(「できるけどしていない」と「できない」の計:以下同じ)は24.6%となっている。

性別でみると、「していない」の割合(男性:18.9%、女性:29.2%)は、女性が男性を10.3ポイント上回っている。

年代別では、「していない」の割合(前期高齢者:16.5%、後期高齢者:32.8%)は、後期高齢者が前期高齢者を16.3ポイント上回っている。

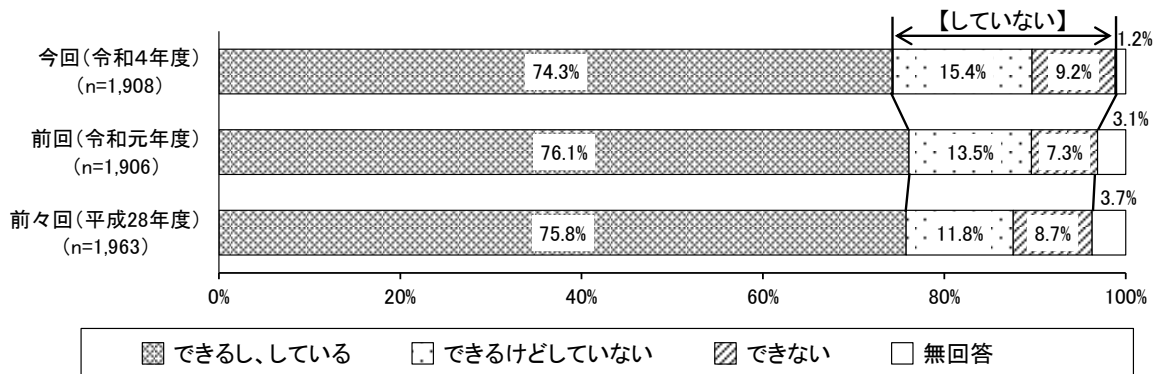
図表1-7-7 バスや電車を使って1人で外出するか



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「していない」の割合は前々回が20.5%、前回は20.8%で、前々回から4.1ポイント、前回から3.8ポイント高まっている。

図表1-7-8 バスや電車を使って1人で外出するか(過去2回の調査との比較)



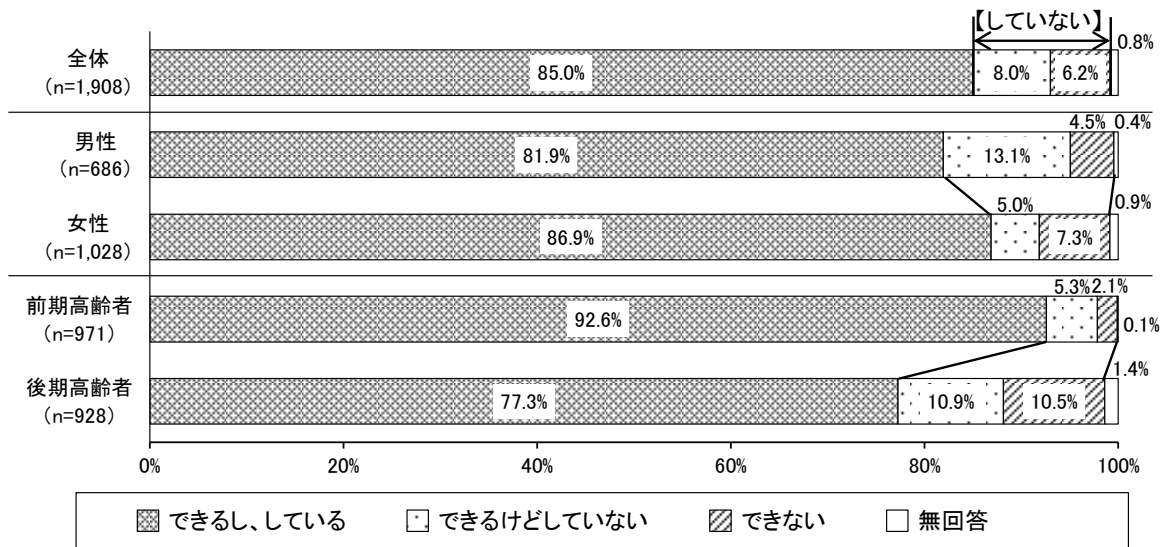
Q5. 自分で食品・日用品の買物をしていますか。

全体では、「できるし、している」の割合は85.0%となっている。「していない」(「できるけどしていない」と「できない」の計:以下同じ)は14.2%となっている。

性別でみると、「していない」の割合(男性:17.6%、女性:12.3%)は、男性が女性を5.3ポイント上回っている。

年代別では、「していない」の割合(前期高齢者:7.4%、後期高齢者:21.4%)は、後期高齢者が前期高齢者を14.0ポイント上回っている。

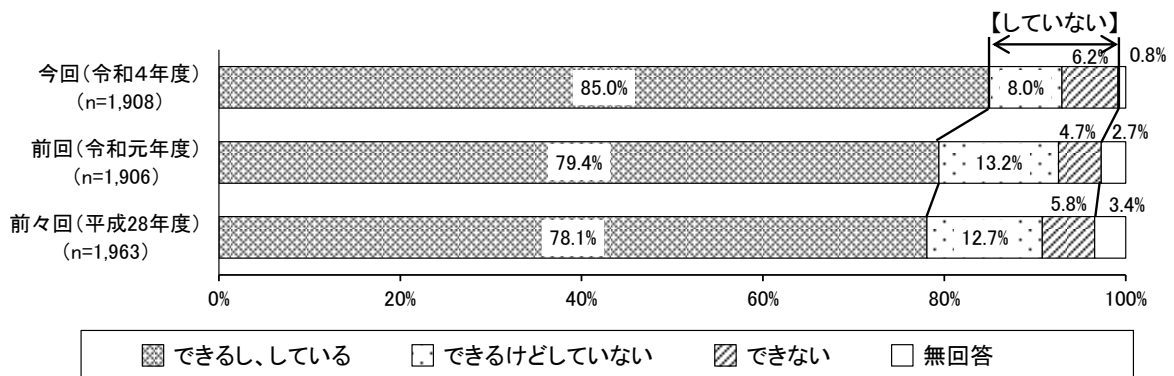
図表1-7-9 自分で食品・日用品の買い物をするか



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「していない」の割合は前々回が18.5%、前回は17.9%で、前々回から4.3ポイント、前回から3.7ポイント低下している。

図表1-7-10 自分で食品・日用品の買い物をするか(過去2回の調査との比較)



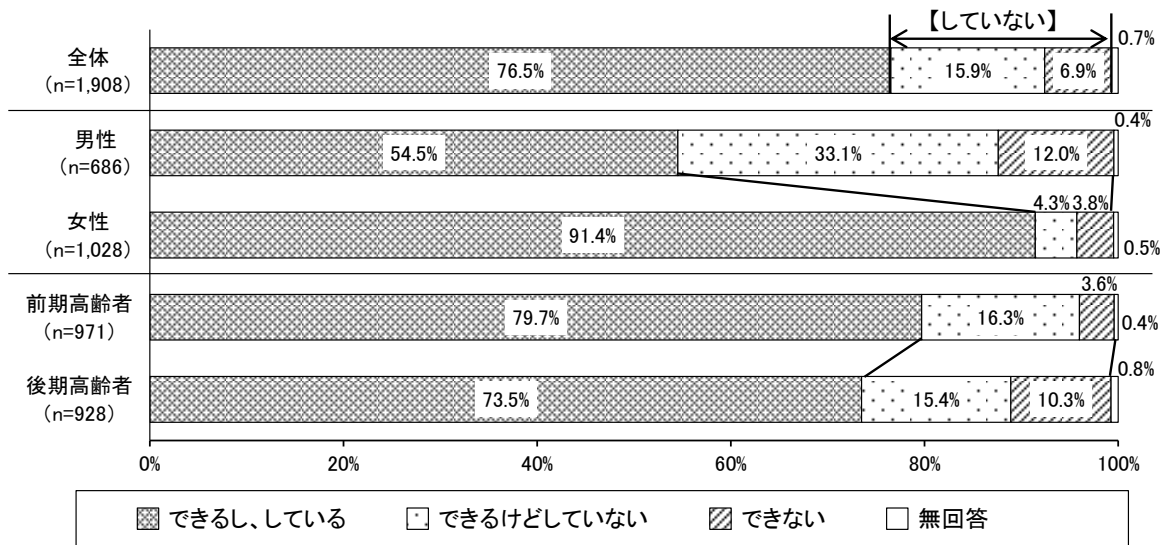
Q6. 自分で食事の用意をしていますか。

全体では、「できるし、している」の割合は76.5%となっている。「していない」(「できるけどしていない」と「できない」の計:以下同じ)は22.8%となっている。

性別でみると、「していない」の割合(男性:45.1%、女性:8.1%)は男性が女性を37.0ポイント上回っている。

年代別では、「していない」の割合(前期高齢者:19.9%、後期高齢者:25.7%)は、後期高齢者が前期高齢者を5.8ポイント上回っている。

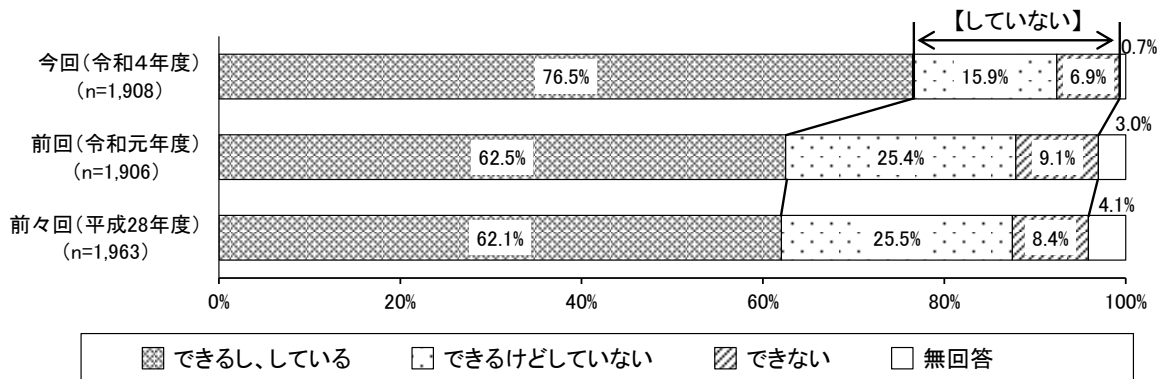
図表1-7-11 自分で食事の用意をするか



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「していない」の割合は前々回が33.9%、前回は34.5%で、前々回から11.1ポイント、前回から11.7ポイント低下している。

図表1-7-12 自分で食事の用意をするか(過去2回の調査との比較)



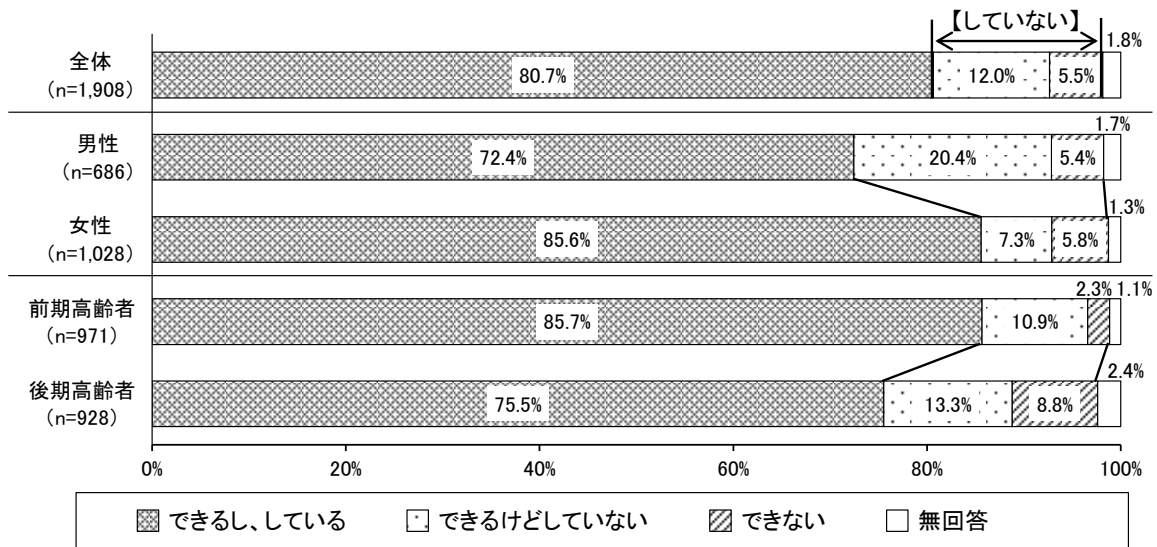
Q7. 自分で請求書の支払いをしていますか。

全体では、「できるし、している」の割合は80.7%となっている。「していない」(「できるけどしていない」と「できない」の計:以下同じ)は17.5%となっている。

性別でみると、「していない」の割合(男性:25.8%、女性:13.1%)は男性が女性を12.7ポイント上回っている。

年代別では、「していない」の割合(前期高齢者:13.2%、後期高齢者:22.1%)は、後期高齢者が前期高齢者を8.9ポイント上回っている。

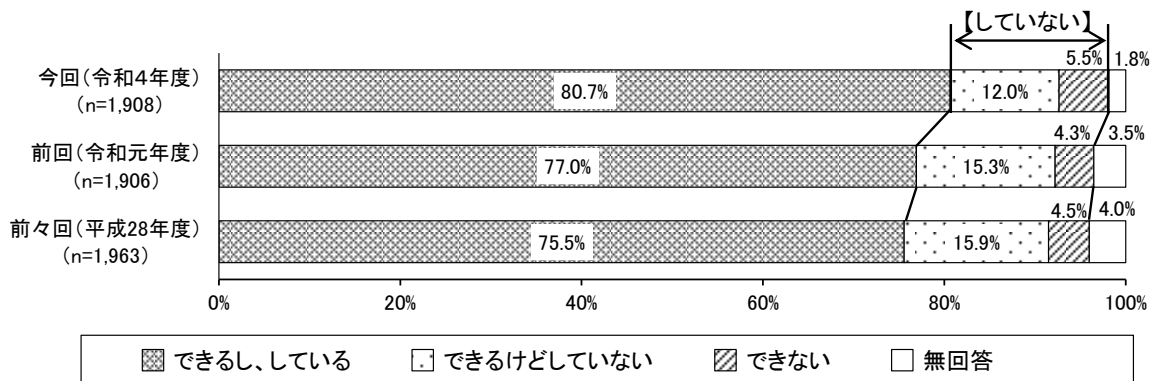
図表1-7-13 自分で請求書の支払いをするか



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「していない」の割合は前々回が20.4%、前回は19.6%で、前々回から2.9ポイント、前回から2.1ポイント低下している。

図表1-7-14 自分で請求書の支払いをするか(過去2回の調査との比較)



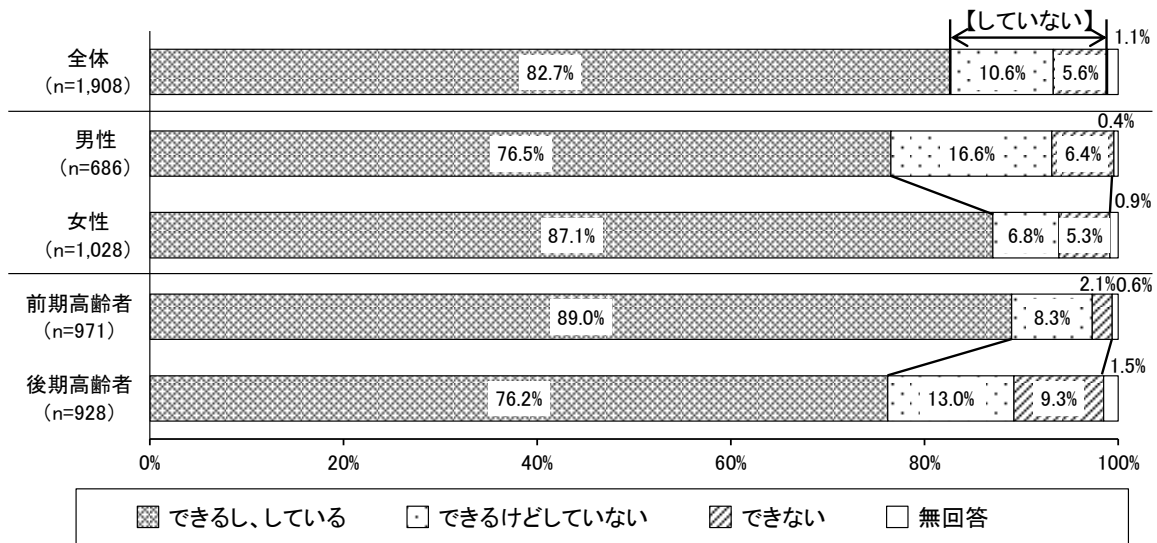
Q8. 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

全体では、「できるし、している」の割合は82.7%となっている。「していない」(「できるけどしていない」と「できない」の計:以下同じ)は16.2%となっている。

性別でみると、「していない」の割合(男性:23.0%、女性:12.1%)は男性が女性を10.9ポイント上回っている。

年代別では、「していない」の割合(前期高齢者:10.4%、後期高齢者:22.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を11.9ポイント上回っている。

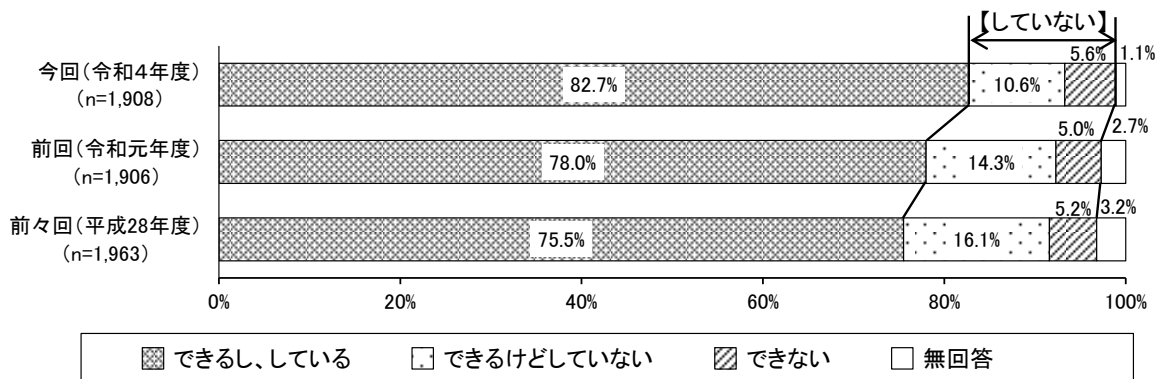
図表1-7-15 自分で預貯金の出し入れをしているか



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「していない」の割合は前々回が21.3%、前回は19.3%で、前々回から5.1ポイント、前回から3.1ポイント低下している。

図表1-7-16 自分で預貯金の出し入れをしているか(過去2回の調査との比較)



Q9. 生きがいはありますか。(複数回答)

全体では、「家族との関わり」の割合が55.0%で最も高くなっている。次いで「友人・知人との交流」(36.6%)、「趣味や娯楽」(30.8%)などが続いている。

性別で見ると、上位1項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。「友人・知人との交流」の割合(男性:27.6%、女性:42.7%)は女性が男性を15.1ポイント上回っている。一方、「趣味や娯楽」(男性:41.0%、女性24.8%)は男性が女性を16.2ポイント上回っている。

年代別では、上位1項目の順位は前期高齢者、後期高齢者とも全体と同じとなっている。「友人・知人との交流」の割合(前期高齢者:33.9%、後期高齢者:39.7%)は後期高齢者が前期高齢者を5.8ポイント上回っている。一方、「趣味や娯楽」(前期高齢者:34.1%、後期高齢者:27.4%)は前期高齢者が後期高齢者を6.7ポイント上回っている。

図表1-7-17 生きがいの内容

	家族との関わり	友人・知人との交流	趣味や娯楽	買物や旅行	スポーツ	仕事	ボランティア活動	学習や教養を高める活動	老人クラブ(さんさんクラブ)活動	地域での活動	その他	思いつかない
全体 (n=1,908)	55.0%	36.6%	30.8%	14.2%	10.3%	9.6%	3.6%	2.8%	1.9%	1.9%	3.8%	6.3%
男性 (n=686)	50.6%	27.6%	41.0%	11.1%	14.1%	11.7%	3.6%	3.5%	1.3%	1.7%	3.8%	6.9%
女性 (n=1,028)	59.8%	42.7%	24.8%	16.4%	7.8%	7.9%	3.9%	2.3%	2.5%	2.1%	4.2%	5.8%
前期高齢者 (n=971)	56.2%	33.9%	34.1%	16.8%	11.8%	12.7%	3.9%	2.7%	0.2%	2.0%	2.4%	6.0%
後期高齢者 (n=928)	54.0%	39.7%	27.4%	11.6%	8.6%	6.5%	3.2%	2.9%	3.8%	1.9%	5.4%	6.5%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、上位1項目の順位は同じ結果となっている。「家族との関わり」(前々回から8.9ポイント、前回から13.1ポイント)と「友人・知人との交流」(前々回から7.9ポイント、前回から3.3ポイント)の割合は高まっている。一方、「趣味や娯楽」(前々回から8.0ポイント、前回から0.5ポイント)と「仕事」(前々回から10.4ポイント、前回から7.9ポイント)の割合は低下している。

図表1-7-18 生きがいの内容(過去2回の調査との比較)

	家族との関わり	友人・知人との交流	趣味や娯楽	買物や旅行	スポーツ	仕事	ボランティア活動	学習や教養を高める活動	老人クラブ(さんさんクラブ)活動	地域での活動	その他	思いつかない
今回(令和4年度) (n=1,908)	55.0%	36.6%	30.8%	14.2%	10.3%	9.6%	3.6%	2.8%	1.9%	1.9%	3.8%	6.3%
前回(令和元年度) (n=1,906)	41.9%	33.3%	31.3%	24.2%	10.8%	17.5%	3.3%	3.3%	3.0%	3.4%	6.3%	4.9%
前々回(平成28年度) (n=1,532)	46.1%	28.7%	38.8%	14.6%	15.0%	20.0%	4.6%	4.6%	3.4%	2.6%	4.4%	17.2%

※「地域での活動」は前々回調査では「自治会等の活動」となっている。

8. 地域内外での活動について(問7)

Q1. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

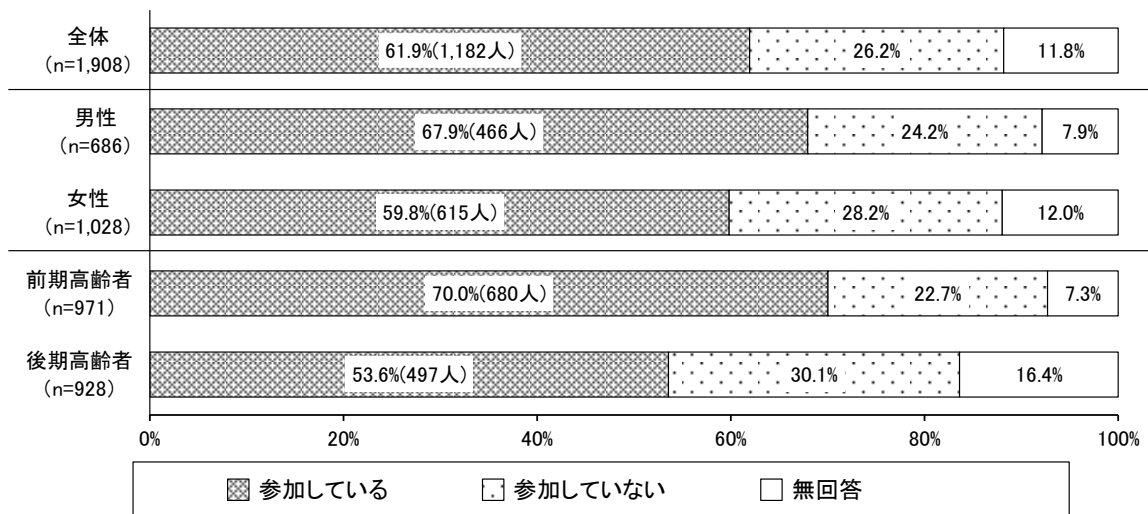
○何らかの会・グループ等への参加状況

全体では、「参加している」の割合が61.9%、「参加していない」が26.2%となっている。

性別でみると、「参加している」の割合(男性:67.9%、女性:59.8%)は男性が女性を8.1ポイント上回っている。

年代別では、「参加している」の割合(前期高齢者:70.0%、後期高齢者:53.6%)は前期高齢者が後期高齢者を16.4ポイント上回っている。

図表1-8-1 何らかの会・グループ等への参加状況



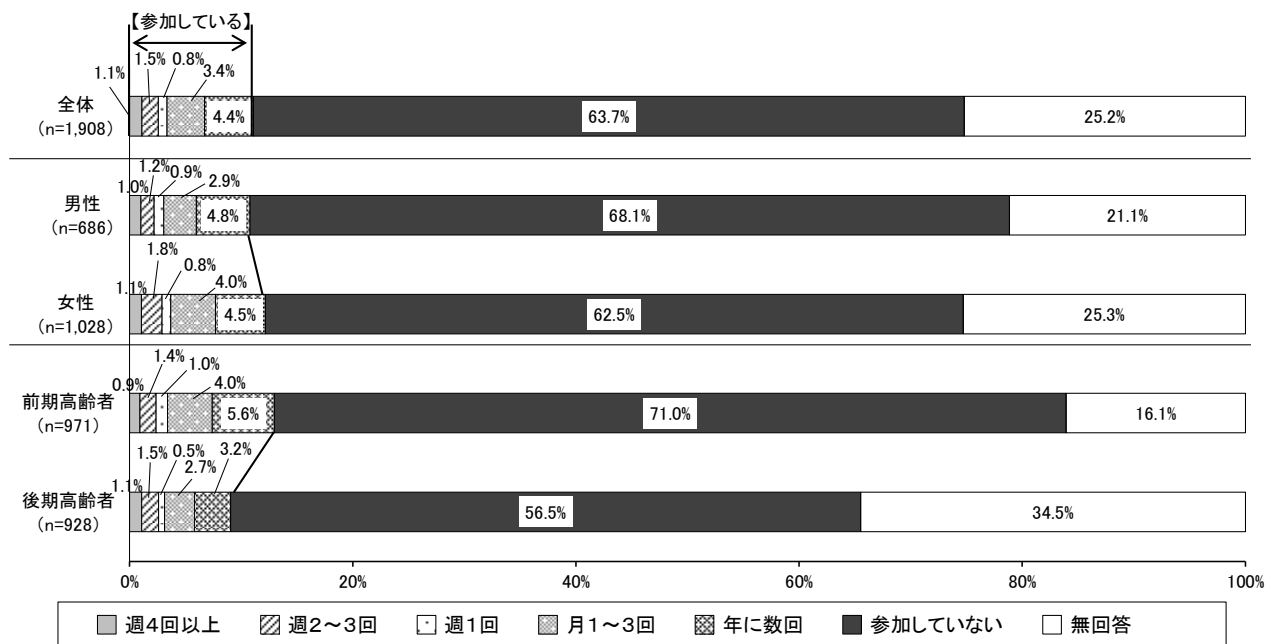
①ボランティアのグループ

全体では、「参加していない」の割合が63.7%となっている。「参加している」(「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」の計:以下同じ)は11.2%となっている。

性別でみると、「参加している」の割合(男性:10.8%、女性:12.2%)は、女性が男性を1.4ポイント上回っている。

年代別では、「参加している」の割合(前期高齢者:12.9%、後期高齢者:9.0%)は、前期高齢者が後期高齢者を3.9ポイント上回っている。

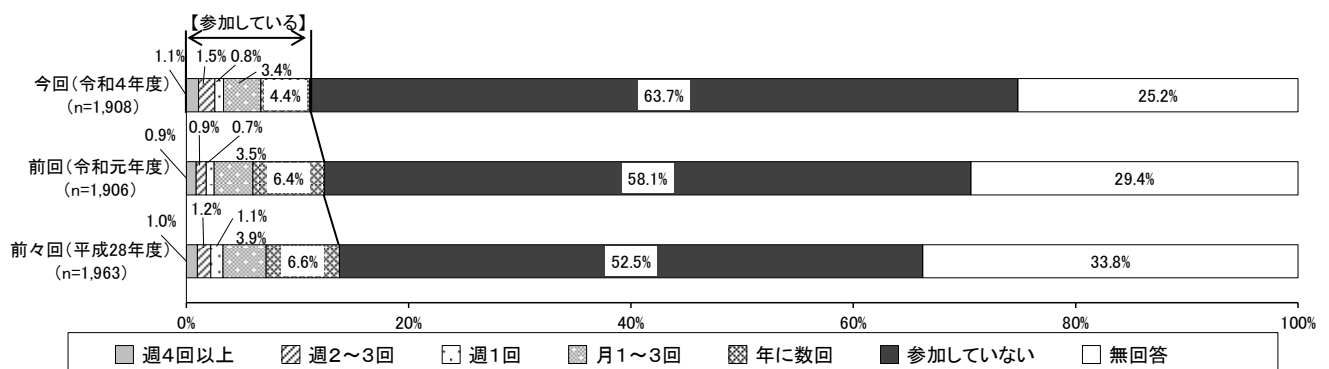
図表1-8-2 ボランティアのグループへの参加状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「参加している」の割合は前々回が13.8%、前回は12.4%で、前々回から2.6ポイント、前回から1.2ポイント低下している。

図表1-8-3 ボランティアのグループへの参加状況(過去2回の調査との比較)



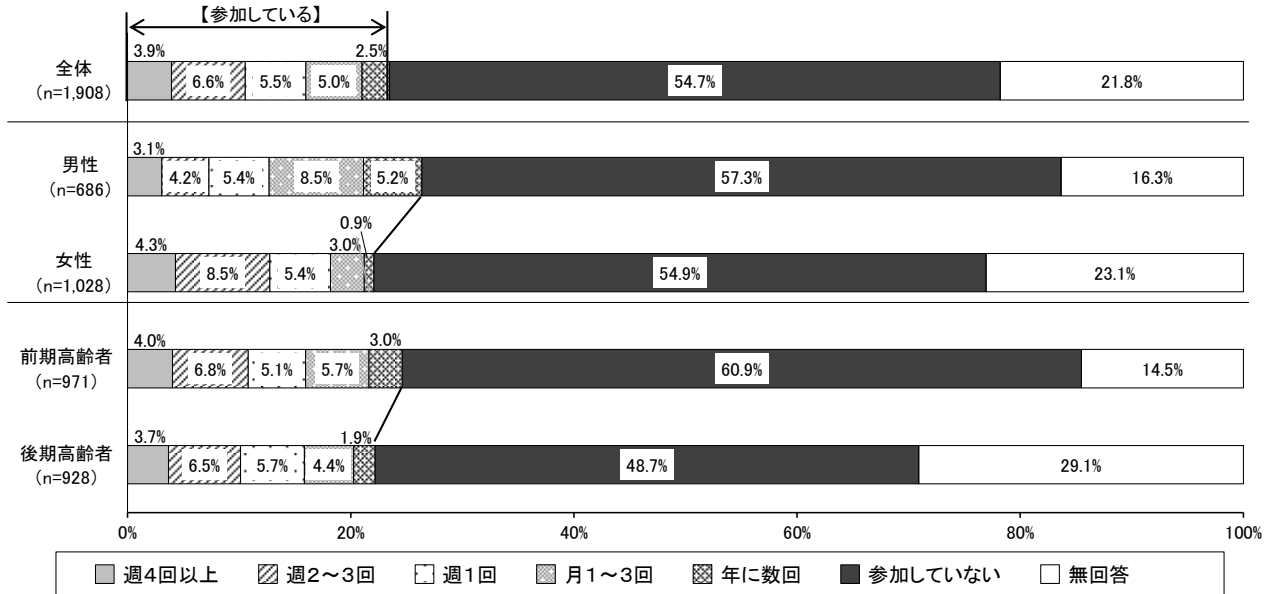
②スポーツ関係のグループやクラブ

全体では、「参加していない」の割合が54.7%となっている。「参加している」は23.5%となっている。

性別でみると、「参加している」の割合(男性:26.4%、女性:22.1%)は、男性が女性を4.3ポイント上回っている。

年代別では、「参加している」の割合(前期高齢者:24.6%、後期高齢者:22.2%)は、前期高齢者が後期高齢者を2.4ポイント上回っている。

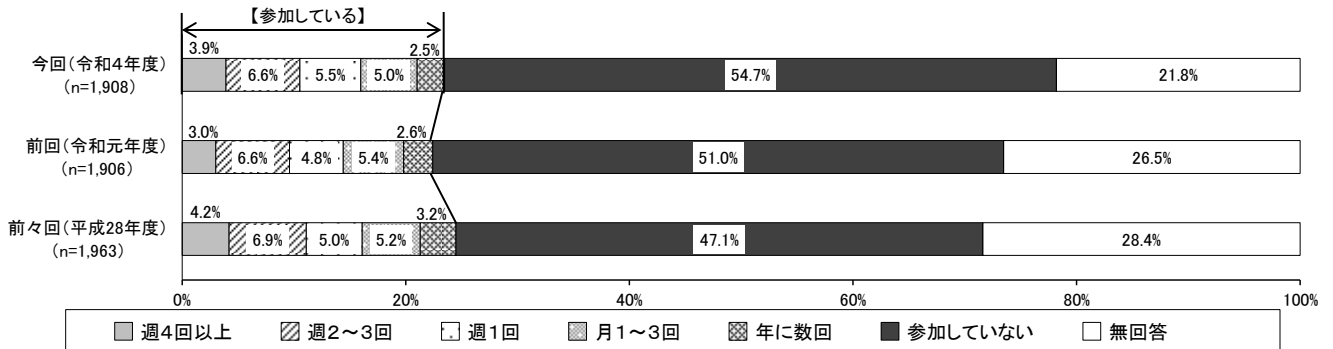
図表1-8-4 スポーツ関係のグループやクラブへの参加状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「参加している」の割合は前々回が24.5%、前回は22.4%で、前々回から1.0ポイント低下し、前回から1.1ポイント高まっている。

図表1-8-5 スポーツ関係のグループやクラブへの参加状況(過去2回の調査との比較)



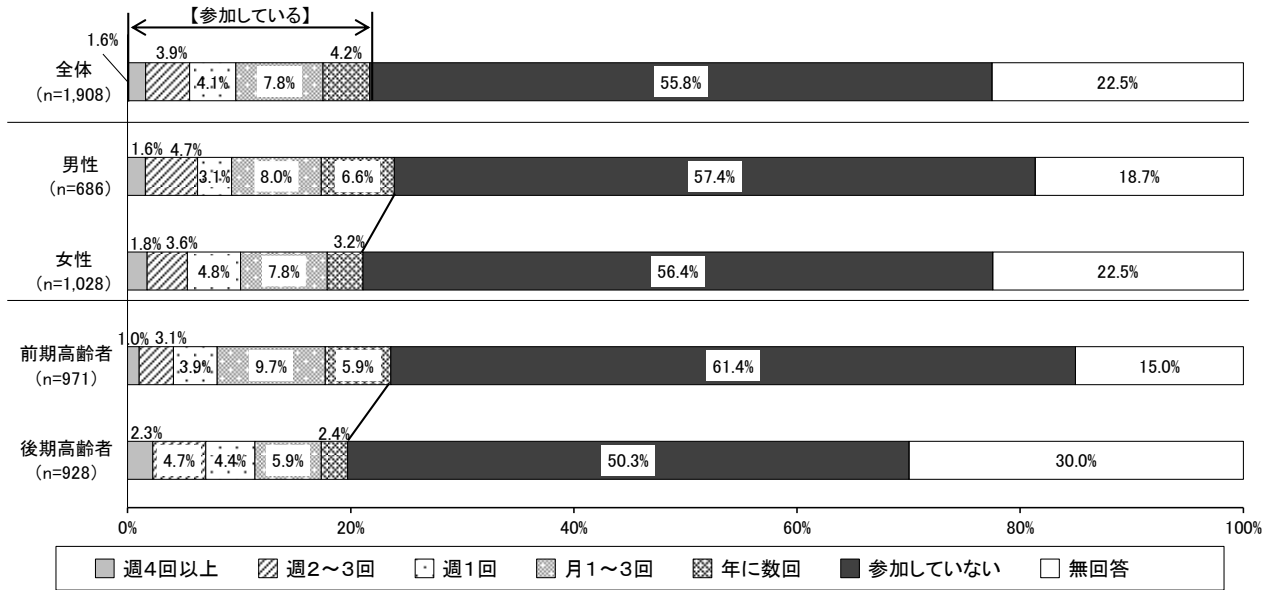
③趣味関係のグループ

全体では、「参加していない」の割合が55.8%となっている。「参加している」は21.6%となっている。

性別でみると、「参加している」の割合(男性:24.0%、女性:21.2%)は、男性が女性を2.8ポイント上回っている。

年代別では、「参加している」の割合(前期高齢者:23.6%、後期高齢者:19.7%)は、前期高齢者が後期高齢者を3.9ポイント上回っている。

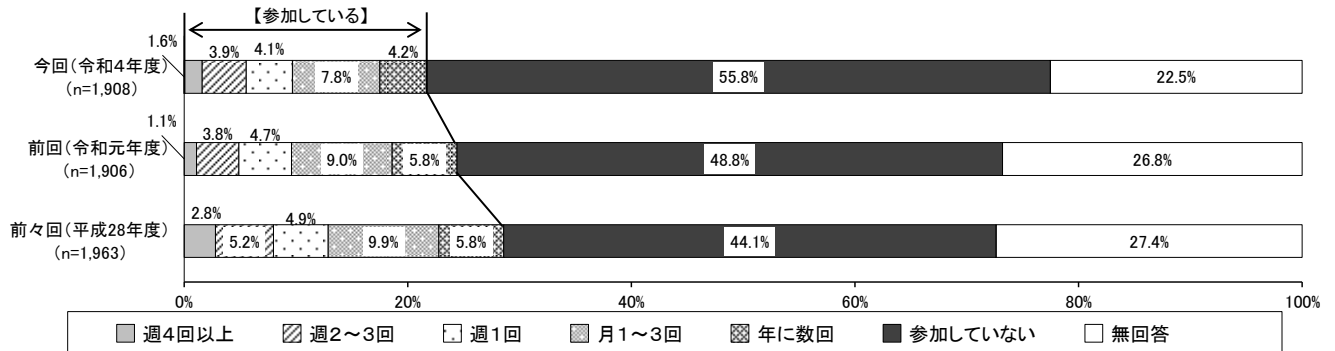
図表1-8-6 趣味関係のグループへの参加状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「参加している」の割合は前々回が28.6%、前回は24.4%で、前々回から7.0ポイント、前回から2.8ポイント低下している。

図表1-8-7 趣味関係のグループへの参加状況(過去2回の調査との比較)



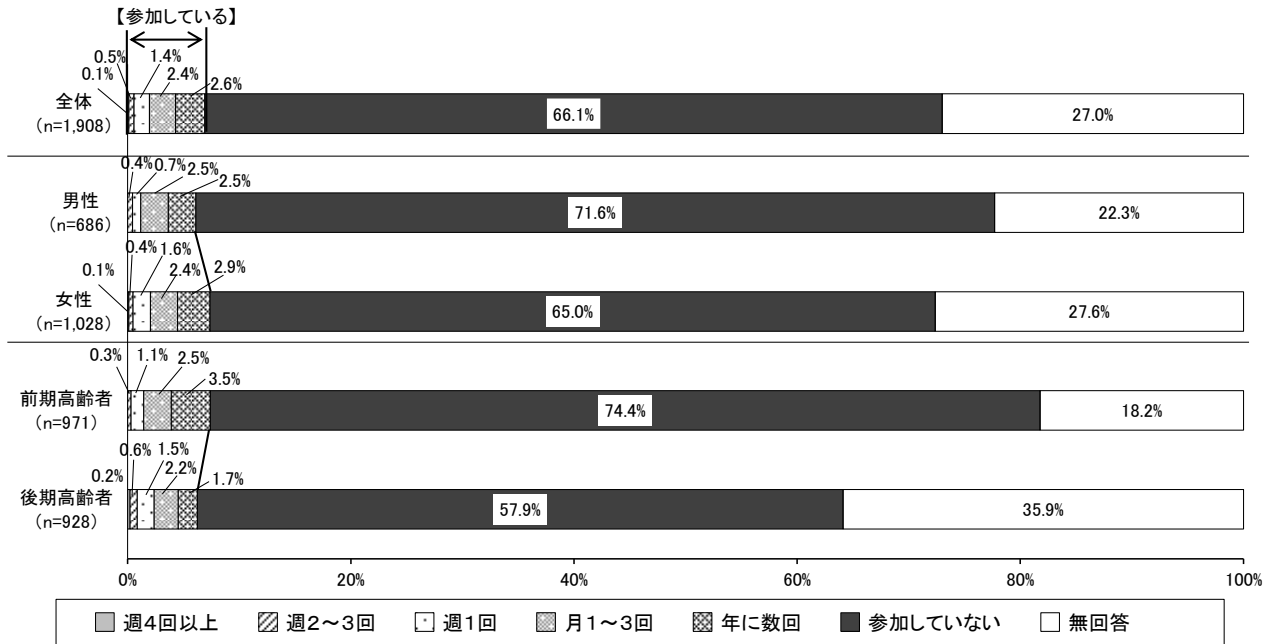
④学習・教養サークル

全体では、「参加していない」の割合が66.1%となっている。「参加している」は7.0%となっている。

性別でみると、「参加している」の割合(男性:6.1%、女性:7.4%)は、女性が男性を1.3ポイント上回っている。

年代別では、「参加している」の割合(前期高齢者:7.4%、後期高齢者:6.2%)は、前期高齢者が後期高齢者を1.2ポイント上回っている。

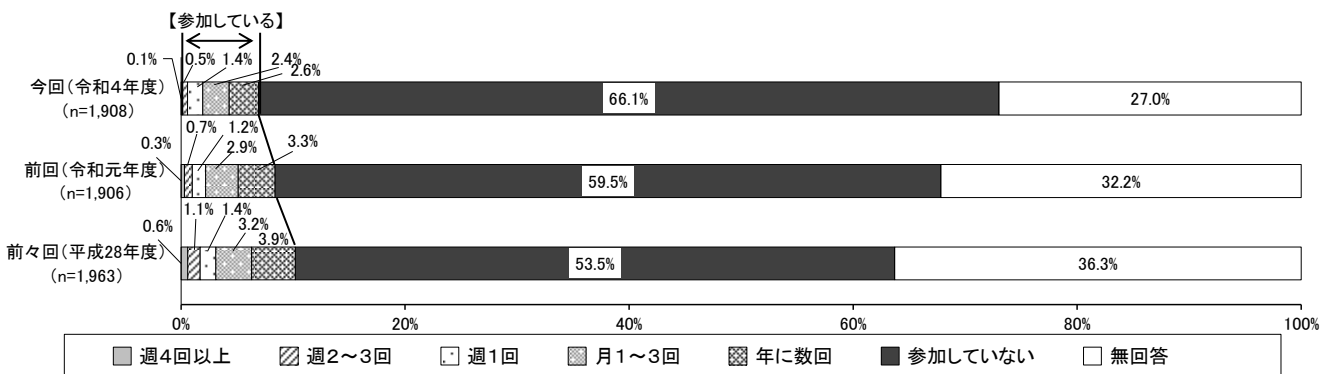
図表1-8-8 学習・教養サークルへの参加状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「参加している」の割合は前々回が10.2%、前回は8.4%で、前々回から3.2ポイント、前回から1.4ポイント低下している。

図表1-8-9 学習・教養サークルへの参加状況(過去2回の調査との比較)



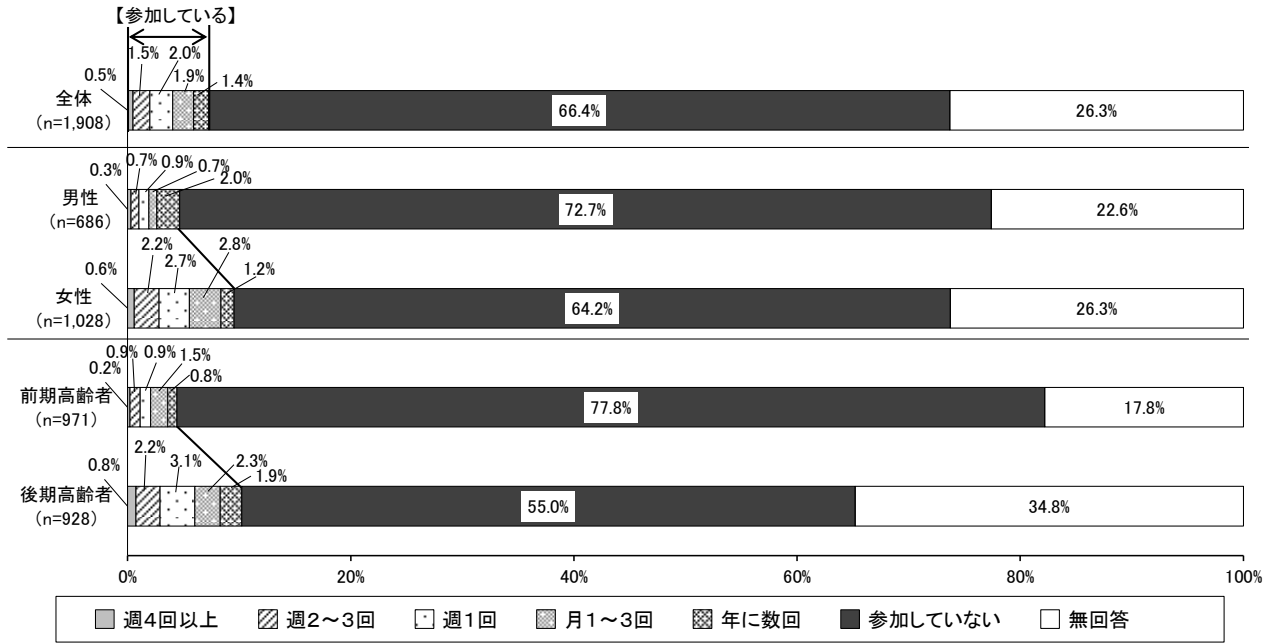
⑤(健幸運動教室など)介護予防のための通いの場

全体では、「参加していない」の割合が66.4%となっている。「参加している」は7.3%となっている。

性別でみると、「参加している」の割合(男性:4.6%、女性:9.5%)は、女性が男性を4.9ポイント上回っている。

年代別では、「参加している」の割合(前期高齢者:4.3%、後期高齢者:10.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を6.0ポイント上回っている。

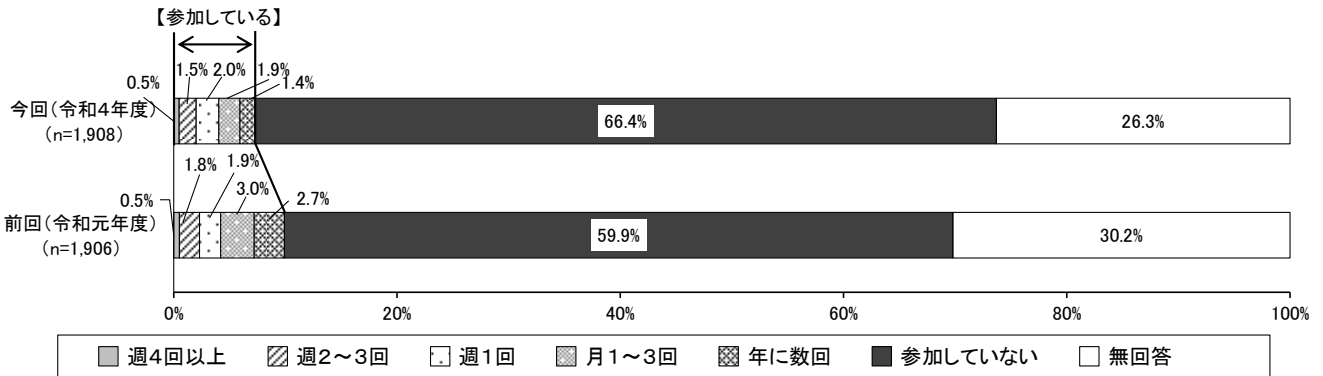
図表1-8-10 介護予防のための通いの場への参加状況



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「参加している」の割合は前回は9.9%で、前回から2.6ポイント低下している。

図表1-8-11 介護予防のための通いの場への参加状況(前回調査との比較)



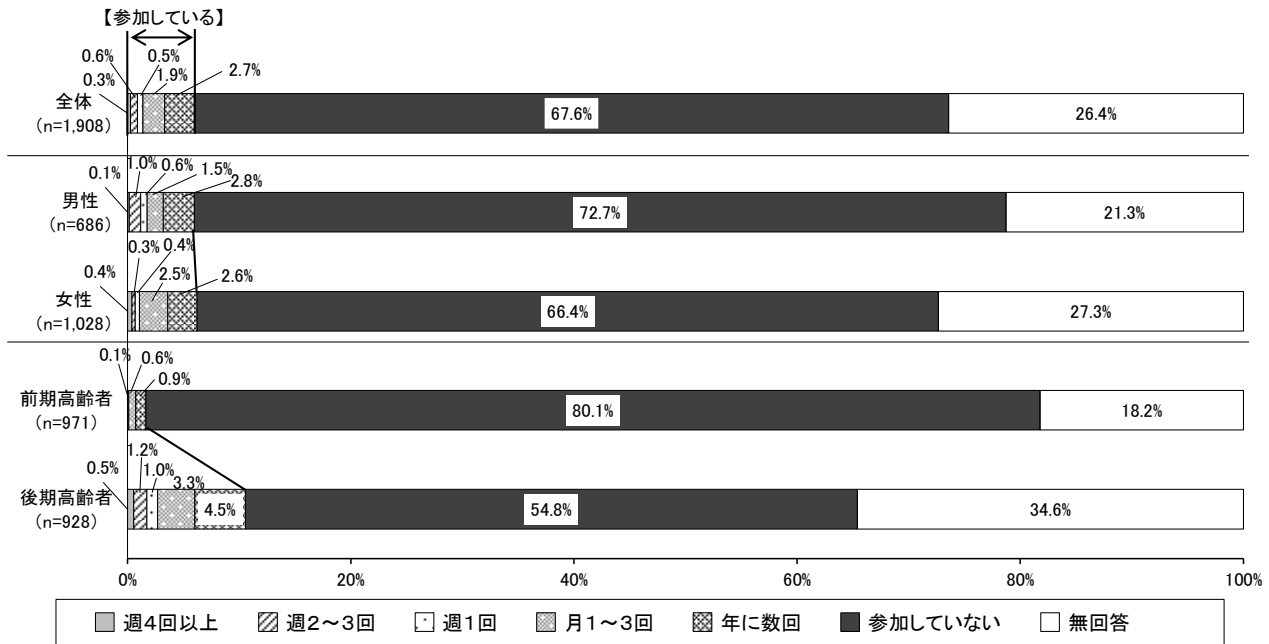
⑥老人クラブ

全体では、「参加していない」の割合が67.6%となっている。「参加している」は6.0%となっている。

性別でみると、「参加している」の割合(男性:6.0%、女性:6.2%)は、女性が男性を0.2ポイント上回っている。

年代別では、「参加している」の割合(前期高齢者:1.6%、後期高齢者:10.5%)は、後期高齢者が前期高齢者を8.9ポイント上回っている。

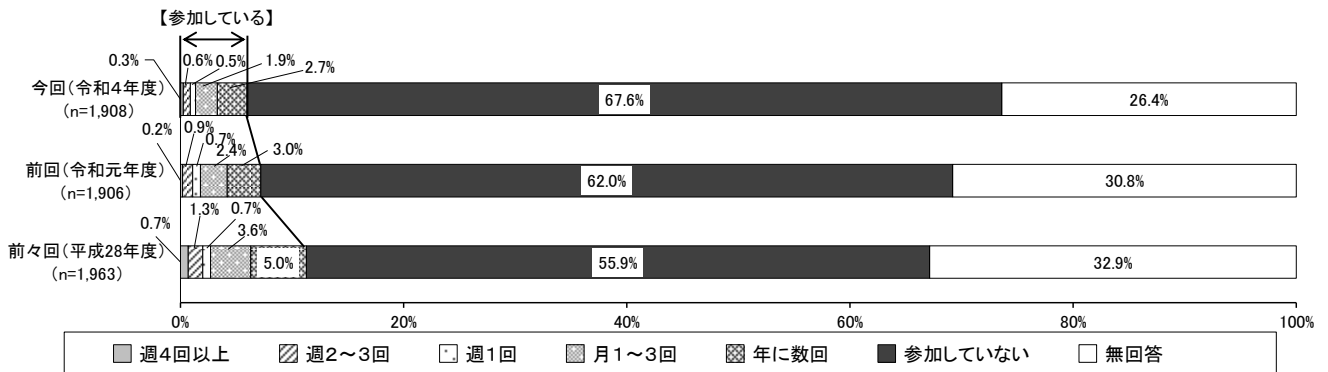
図表1-8-12 老人クラブへの参加状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「参加している」の割合は前々回が11.3%、前回は7.2%で、前々回から5.3ポイント、前回から1.2ポイント低下している。

図表1-8-13 老人クラブへの参加状況(過去2回の調査との比較)



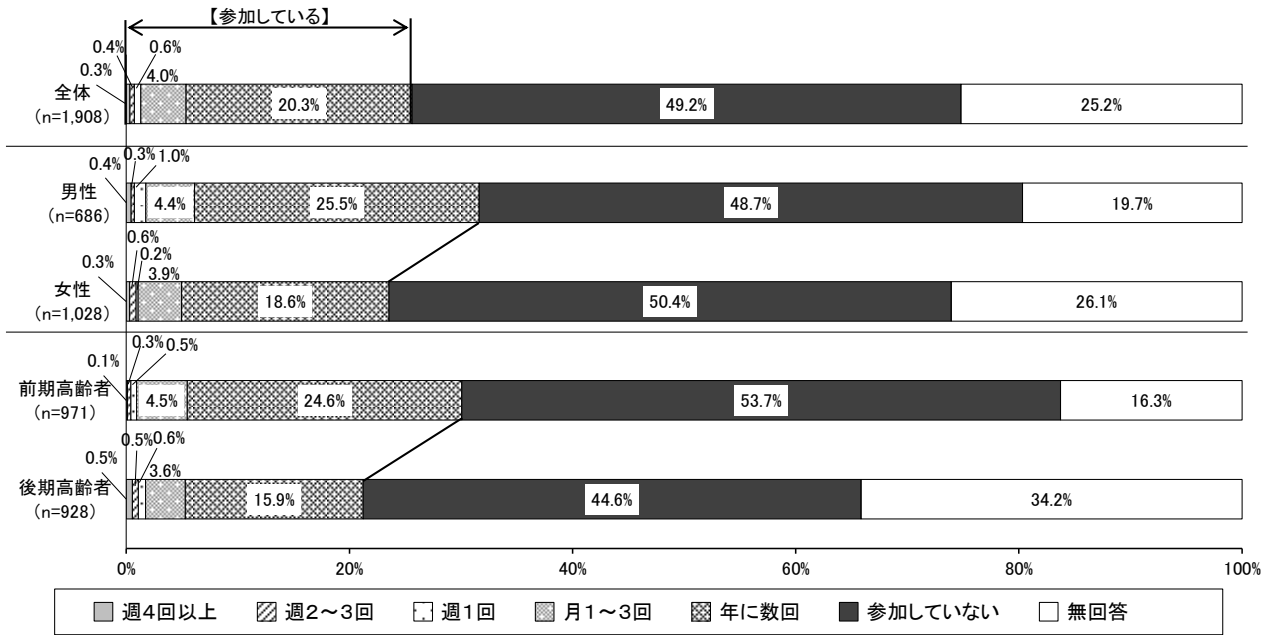
⑦町内会・自治会

全体では、「参加していない」の割合が49.2%となっている。「参加している」は25.6%となっている。

性別でみると、「参加している」の割合(男性:31.6%、女性:23.6%)は、男性が女性を8.0ポイント上回っている。

年代別では、「参加している」の割合(前期高齢者:30.0%、後期高齢者:21.1%)は、前期高齢者が後期高齢者を8.9ポイント上回っている。

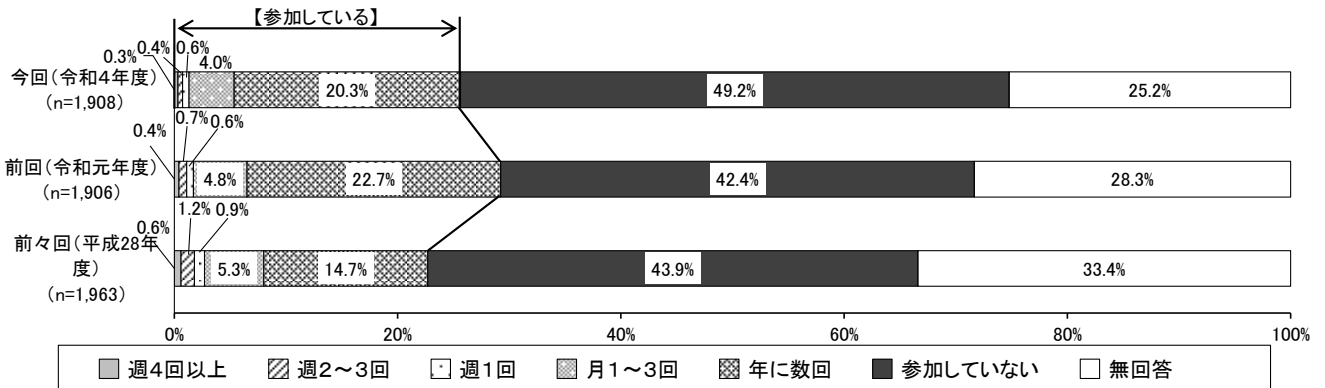
図表1-8-14 町内会・自治会への参加状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「参加している」の割合は前々回が22.7%、前回は29.2%で、前々回から2.9ポイント高まっており、前回から3.6ポイント低下している。

図表1-8-15 町内会・自治会への参加状況(過去2回の調査との比較)



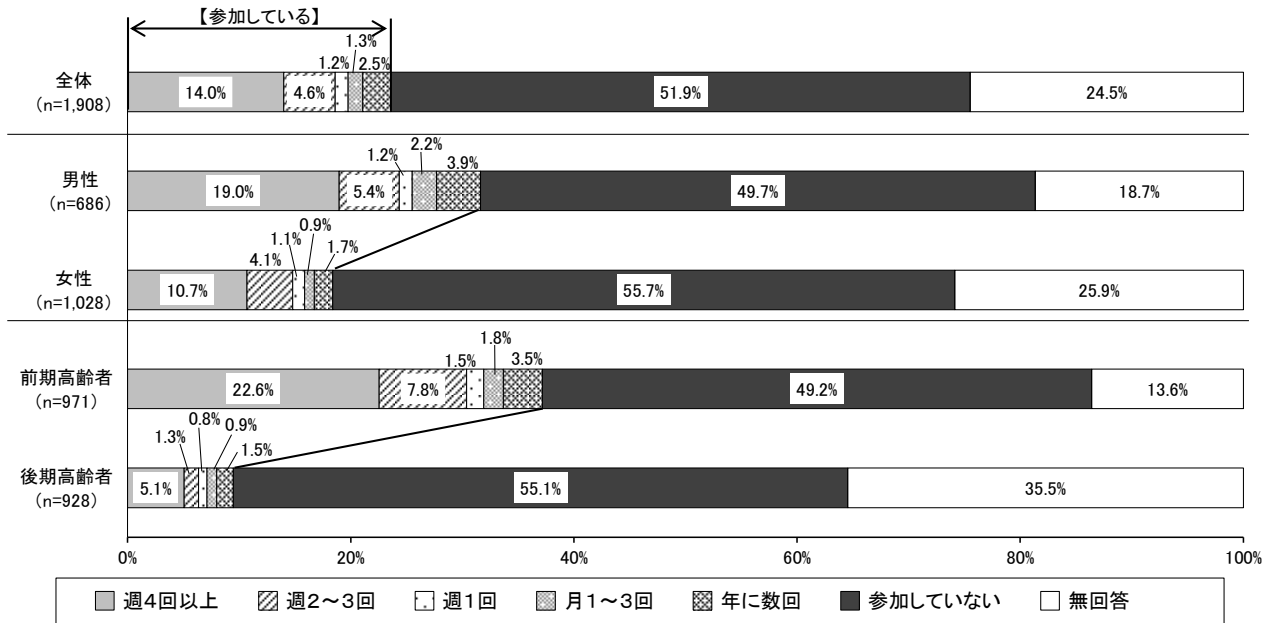
⑧収入のある仕事

全体では、「参加していない」の割合が51.9%となっている。「参加している」は23.6%となっている。

性別でみると、「参加している」の割合(男性:31.7%、女性:18.5%)は男性が女性を13.2ポイント上回っている。

年代別では、「参加している」の割合(前期高齢者:37.2%、後期高齢者:9.6%)は前期高齢者が後期高齢者を27.6ポイント上回っている。

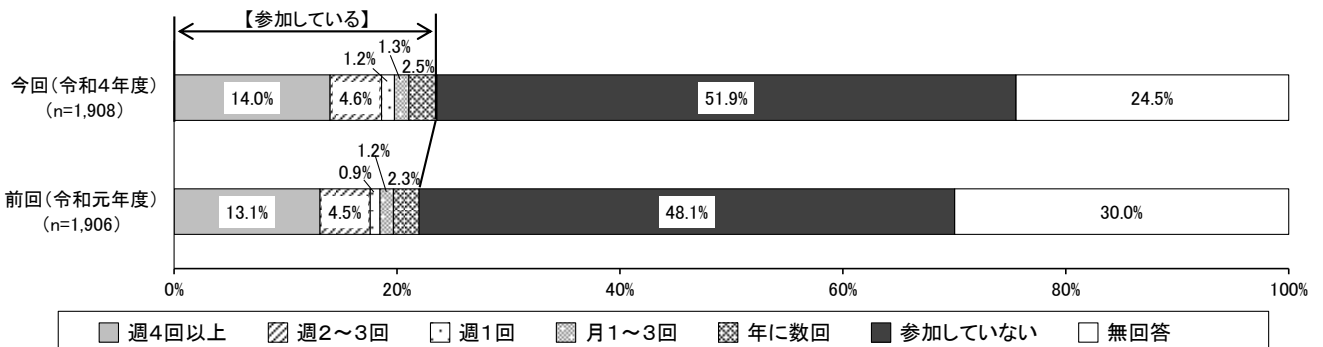
図表1-8-16 収入のある仕事の頻度



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「参加している」の割合は前回は22.0%で、前回から1.6ポイント高まっている。

図表1-8-17 収入のある仕事の頻度(前回調査との比較)



<参加している活動がある人>

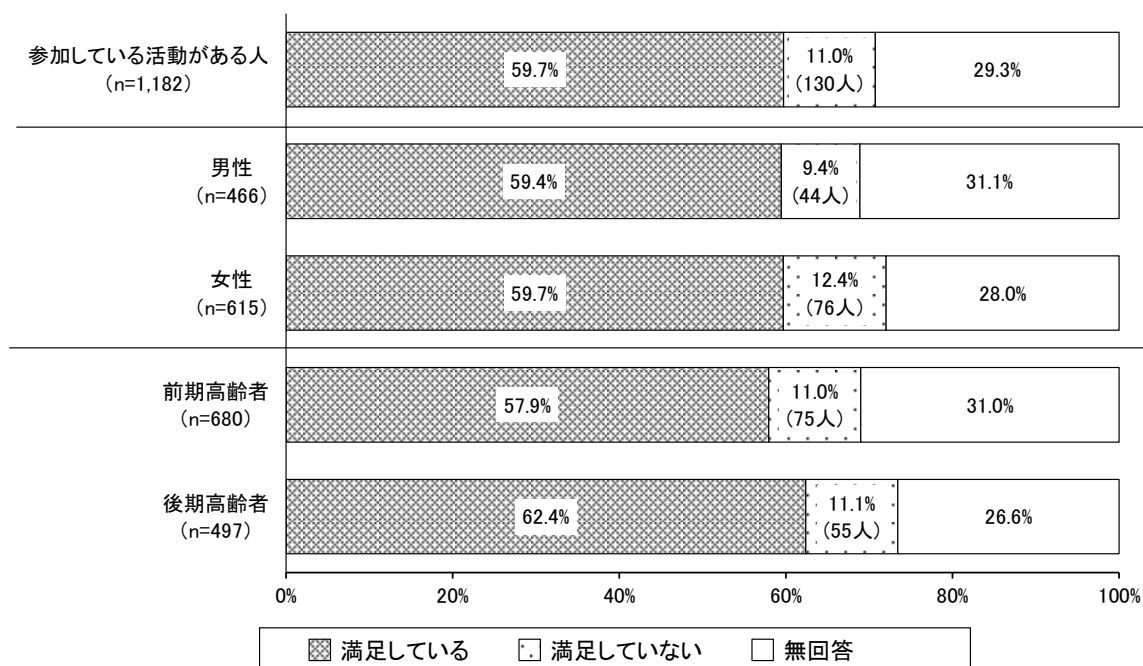
Q1-1. 現在の頻度(回数)に満足していますか。

全体では、「満足している」の割合が59.7%、「満足していない」が11.0%となっている。

性別で見ると、「満足していない」の割合(男性:9.4%、女性:12.4%)は、女性が男性を3.0ポイント上回っている。

年代別では、「満足していない」の割合(前期高齢者:11.0%、後期高齢者:11.1%)は、後期高齢者が前期高齢者を0.1ポイント上回っている。

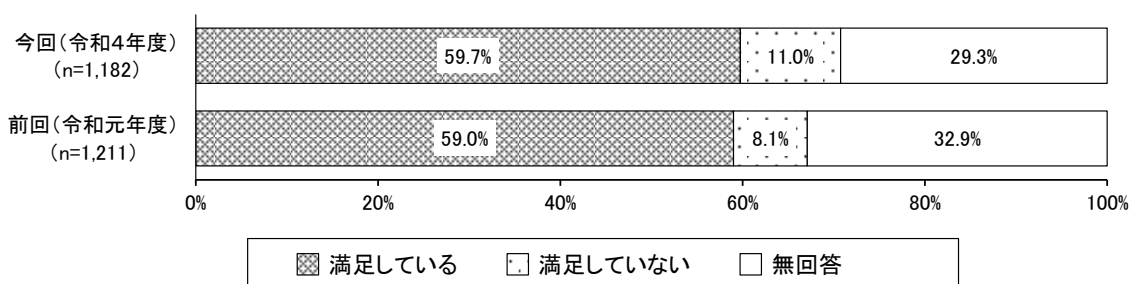
図表1-8-18 活動の頻度の満足度



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「満足していない」の割合は前回から2.9ポイント高まっている。

図表1-8-19 活動の頻度の満足度(前回調査との比較)



<活動の頻度に満足していない人>

Q1-2. 満足できる頻度(回数)で通えない理由は何ですか。(複数回答)

全体では、「行ける場がない」の割合が36.9%で最も高く、次いで「費用がかかる」が20.8%などが続いている。

図表1-8-20 満足できる頻度で通えない理由

	行ける場がない	費用がかかる	一緒に行く人がいない	移動手段がない	行く勇気が出ない	その他
※P61を参照						
参加している活動に満足していない人 (n=130)	36.9%	20.8%	14.6%	11.5%	11.5%	30.8%
男性 (n=44)	25.0%	34.1%	11.4%	6.8%	9.1%	25.0%
女性 (n=76)	44.7%	14.5%	17.1%	14.5%	13.2%	31.6%
前期高齢者 (n=75)	40.0%	22.7%	13.3%	5.3%	13.3%	32.0%
後期高齢者 (n=55)	32.7%	18.2%	16.4%	20.0%	9.1%	29.1%

<前回調査との比較>

前回調査との比較では、上位2項目の順位は同じとなっている。「行ける場がない」の割合は前回から12.4ポイント、「一緒に行く人がいない」は5.4ポイント高まっている。

図表1-8-21 満足できる頻度で通えない理由(前回調査との比較)

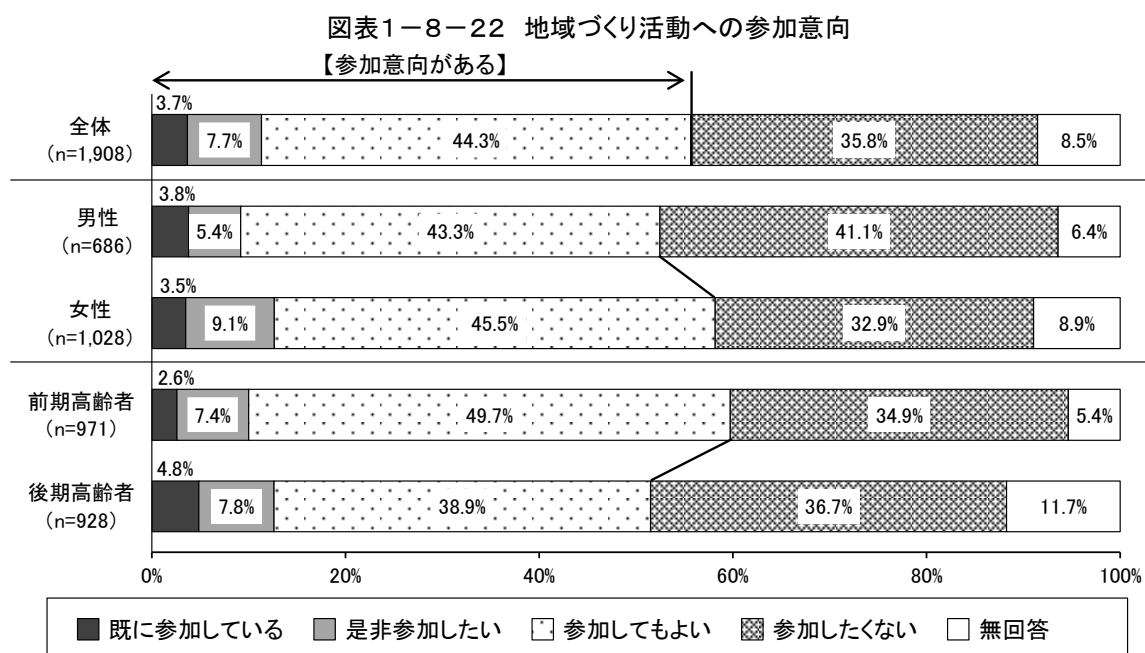
	行ける場がない	費用がかかる	一緒に行く人がいない	移動手段がない	行く勇気が出ない	その他
今回(令和4年度) (n=130)	36.9%	20.8%	14.6%	11.5%	11.5%	30.8%
前回(令和元年度) (n=98)	24.5%	19.4%	9.2%	8.2%	14.3%	25.5%

Q2. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

全体では、「参加意向がある」（「既に参加している」と「是非参加したい」と「参加してもよい」の計：以下同じ）の割合が55.7%となっている。「参加したくない」は35.8%となっている。

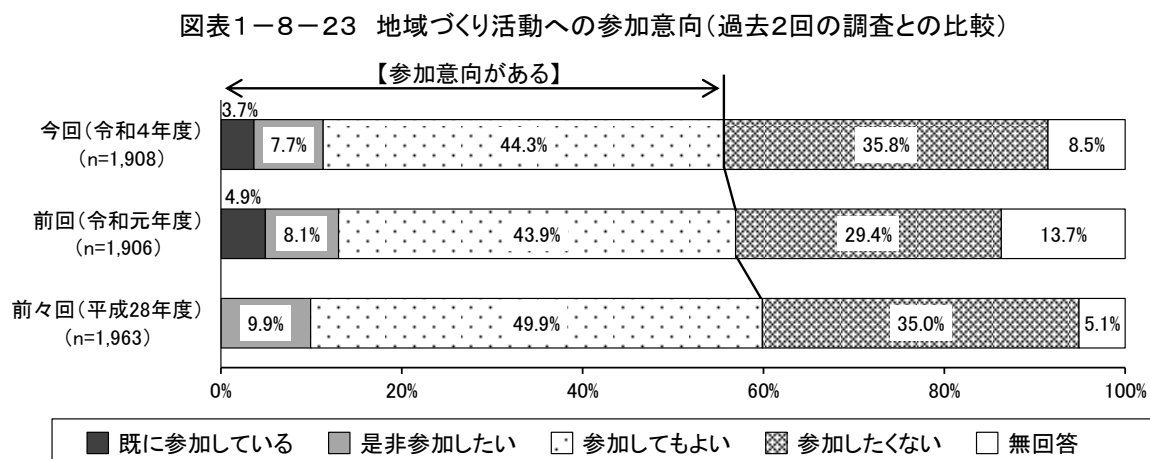
性別でみると、「参加意向がある」の割合（男性：52.5%、女性：58.1%）は女性が男性を5.6ポイント上回っている。

年代別では、「参加意向がある」の割合（前期高齢者：59.7%、後期高齢者：51.5%）は前期高齢者が後期高齢者を8.2ポイント上回っている。



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「参加意向がある」の割合は前々回が59.8%、前回は56.9%で、前々回から4.1ポイント、前回から1.2ポイント低下している。



※「既に参加している」は令和元年度に追加した選択肢

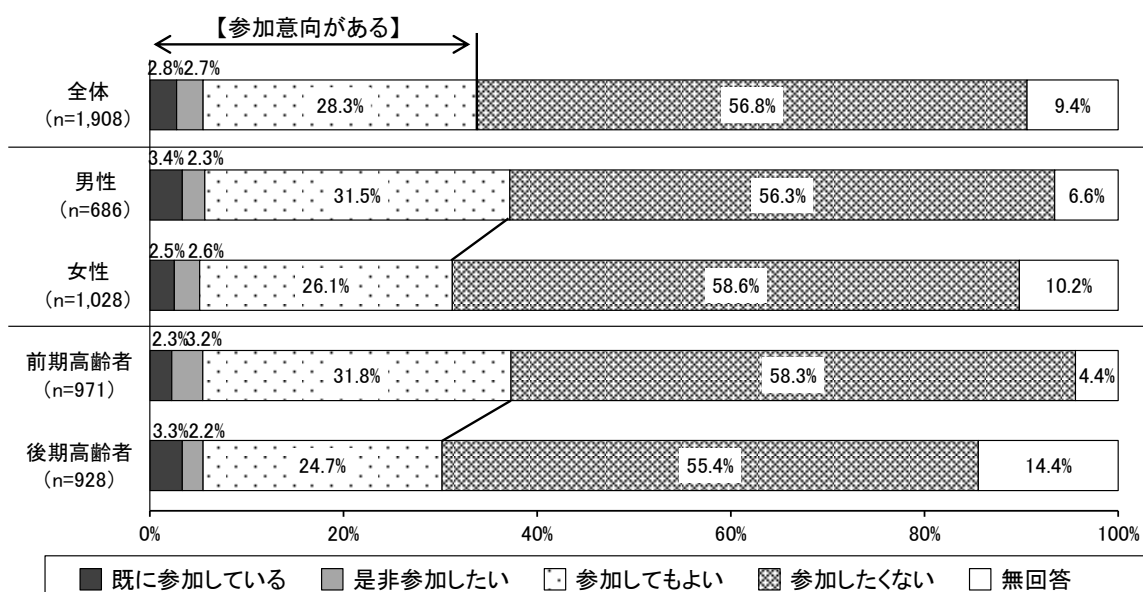
Q3. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。

全体では、「参加意向がある」(「既に参加している」と「是非参加したい」と「参加してもよい」の計:以下同じ)の割合が33.8%、「参加したくない」が56.8%となっている。

性別でみると、「参加意向がある」の割合(男性:37.2%、女性:31.2%)は男性が女性を6.0ポイント上回っている。

年代別では、「参加意向がある」の割合(前期高齢者:37.3%、後期高齢者:30.2%)は前期高齢者が後期高齢者を7.1ポイント上回っている。

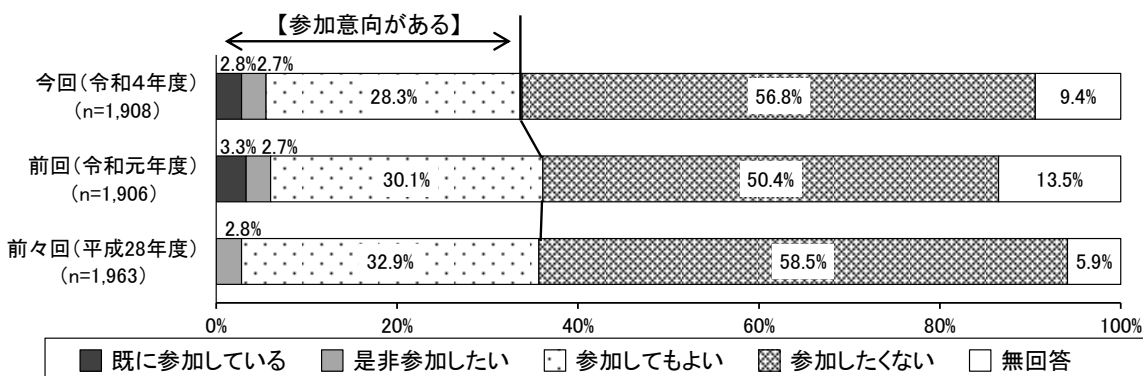
図表1-8-24 地域づくり活動への企画・運営としての参加意向



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「参加意向がある」の割合は前々回が35.7%、前回は36.1%で、前々回から1.9ポイント、前回から2.3ポイント低下している。

図表1-8-25 地域づくり活動への企画・運営としての参加意向(過去2回の調査との比較)



9. たすけあいについて(問8)

Q1. あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人。(複数回答)

全体では、「配偶者」の割合が49.3%で最も高く、次いで「友人」(44.1%)、「別居の子ども」(37.5%)などが続いている。

性別でみると、「配偶者」の割合(男性:60.5%、女性:42.7%)は男性が女性を17.8ポイント上回っている。一方、「友人」の割合(男性:35.3%、女性:51.6%)と「別居の子ども」(男性:28.4%、女性:45.1%)は女性が男性をそれぞれ16.3ポイント、16.7ポイント上回っている。

年代別では、「配偶者」の割合(前期高齢者:60.4%、後期高齢者:37.8%)と「友人」(前期高齢者:48.9%、後期高齢者:39.1%)は、前期高齢者が後期高齢者をそれぞれ22.6ポイント、9.8ポイント上回っている。

図表1-9-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人

	配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近隣	その他	そのような人はいない
全体 (n=1,908)	49.3%	44.1%	37.5%	33.3%	18.1%	10.9%	2.9%	4.4%
男性 (n=686)	60.5%	35.3%	28.4%	24.9%	12.8%	4.8%	2.8%	7.3%
女性 (n=1,028)	42.7%	51.6%	45.1%	40.5%	21.5%	15.3%	2.9%	1.9%
前期高齢者 (n=971)	60.4%	48.9%	37.5%	34.2%	14.9%	9.5%	2.5%	4.2%
後期高齢者 (n=928)	37.8%	39.1%	37.7%	32.5%	21.6%	12.4%	3.2%	4.5%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、順位は同じ結果となっている。

図表1-9-2 心配事や愚痴を聞いてくれる人(過去2回の調査との比較)

	配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近隣	その他	そのような人はいない
今回(令和4年度) (n=1,908)	49.3%	44.1%	37.5%	33.3%	18.1%	10.9%	2.9%	4.4%
前回(令和元年度) (n=1,906)	48.7%	39.1%	35.2%	27.8%	14.5%	9.1%	2.4%	4.8%
前々回(平成28年度) (n=1,963)	44.9%	39.3%	33.0%	31.1%	17.4%	10.8%	2.8%	5.2%

Q2. 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人。(複数回答)

全体では、「配偶者」の割合が47.0%で最も高く、次いで「友人」(44.0%)、「別居の子ども」(35.0%)などが続いている

性別で見ると、「配偶者」の割合(男性:59.3%、女性:39.0%)は男性が女性を20.3ポイント上回っている。一方、「友人」の割合(男性:33.4%、女性:52.6%)と「別居の子ども」(男性:29.2%、女性:39.6%)は、女性が男性をそれぞれ19.2ポイント、10.4ポイント上回っている。

年代別では、「配偶者」の割合(前期高齢者:57.7%、後期高齢者:35.8%)と「友人」(前期高齢者:50.5%、後期高齢者:37.3%)は前期高齢者が後期高齢者をそれぞれ21.9ポイント、13.2ポイント上回っている。

図表1-9-3 心配事や愚痴を聞いてあげる相手

	配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近隣	その他	そのような人はいない
全体 (n=1,908)	47.0%	44.0%	35.0%	33.6%	15.5%	13.6%	1.9%	6.9%
男性 (n=686)	59.3%	33.4%	29.2%	26.8%	12.0%	7.6%	1.3%	10.1%
女性 (n=1,028)	39.0%	52.6%	39.6%	39.8%	17.9%	18.2%	2.3%	4.5%
前期高齢者 (n=971)	57.7%	50.5%	38.7%	36.3%	14.6%	12.6%	1.6%	4.6%
後期高齢者 (n=928)	35.8%	37.3%	31.3%	31.0%	16.6%	14.4%	2.2%	9.3%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、上位2項目の順位は同じ結果となっている。

図表1-9-4 心配事や愚痴を聞いてあげる相手(過去2回の調査との比較)

	配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近隣	その他	そのような人はいない
今回(令和4年度) (n=1,908)	47.0%	44.0%	35.0%	33.6%	15.5%	13.6%	1.9%	6.9%
前回(令和元年度) (n=1,906)	44.4%	39.8%	33.9%	29.9%	13.7%	12.4%	2.4%	6.0%
前々回(平成28年度) (n=1,963)	44.0%	41.1%	32.5%	35.9%	16.2%	14.8%	2.1%	6.5%

Q3. あなたが病気で数日間寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人。(複数回答)

全体では、「配偶者」の割合が53.0%で最も高く、次いで「別居の子ども」(33.8%)、「同居の子ども」(21.8%)などが続いている

性別で見ると、上位4項目の順位は男女とも全体と同じ結果となっている。「配偶者」の割合(男性:64.0%、女性:46.7%)は男性が女性を17.3ポイント上回っている。一方、「別居の子ども」の割合(男性:26.4%、女性:40.7%)と「同居の子ども」(男性:15.2%、女性:26.3%)は、女性が男性をそれぞれ14.3ポイント、11.1ポイント上回っている。

年代別では、上位4項目の順位は前期高齢者、後期高齢者とも全体と同じ結果となっている。「配偶者」の割合(前期高齢者:65.8%、後期高齢者:39.8%)は前期高齢者が後期高齢者を26.0ポイント上回っている。一方、「別居の子ども」の割合(前期高齢者:30.1%、後期高齢者:37.9%)と「同居の子ども」(前期高齢者:17.7%、後期高齢者:26.1%)は、後期高齢者が前期高齢者をそれぞれ7.8ポイント、8.4ポイント上回っている。

図表1-9-5 病気になった時に看病してくれる人

	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近隣	その他	そのような人はいない
全体 (n=1,908)	53.0%	33.8%	21.8%	17.2%	8.3%	2.7%	2.5%	8.6%
男性 (n=686)	64.0%	26.4%	15.2%	14.7%	5.8%	1.6%	2.5%	11.1%
女性 (n=1,028)	46.7%	40.7%	26.3%	19.6%	10.3%	3.6%	2.4%	6.1%
前期高齢者 (n=971)	65.8%	30.1%	17.7%	17.1%	9.1%	1.6%	1.5%	8.0%
後期高齢者 (n=928)	39.8%	37.9%	26.1%	17.2%	7.5%	3.8%	3.4%	9.3%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、上位4項目の順位は同じ結果となっている。

図表1-9-6 病気になった時に看病してくれる人(過去2回の調査との比較)

	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近隣	その他	そのような人はいない
今回(令和4年度) (n=1,908)	53.0%	33.8%	21.8%	17.2%	8.3%	2.7%	2.5%	8.6%
前回(令和元年度) (n=1,906)	48.7%	34.3%	18.4%	15.6%	8.1%	2.7%	1.4%	6.5%
前々回(平成28年度) (n=1,963)	49.9%	34.5%	23.3%	19.3%	7.6%	2.9%	3.6%	6.9%

Q4. 反対に、看病や世話をしあげる人。(複数回答)

全体では、「配偶者」の割合が54.6%で最も高く、次いで「別居の子ども」(25.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(23.8%)などが続いている

性別でみると、上位3項目の順位は男女とも全体と同じ結果となっている。「配偶者」の割合(男性:60.3%、女性:51.8%)は男性が女性を8.5ポイント上回っている。一方、「別居の子ども」の割合(男性:20.4%、女性:29.8%)と「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(男性:19.0%、女性:28.6%)は、女性が男性をそれぞれ9.4ポイント、9.6ポイント上回っている。

年代別では、上位2項目の順位は前期高齢者、後期高齢者とも全体と同じ結果となっている。「配偶者」の割合(前期高齢者:67.1%、後期高齢者:41.5%)は25.6ポイント、「別居の子ども」(前期高齢者:30.1%、後期高齢者:20.9%)は9.2ポイント、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(前期高齢者:29.9%、後期高齢者:17.6%)は12.3ポイント前期高齢者が後期高齢者を上回っている。

図表1-9-7 看病しあげる相手

	配偶者	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	友人	近隣	その他	そのような人はいない
全体 (n=1,908)	54.6%	25.5%	23.8%	18.6%	9.4%	4.7%	1.8%	14.7%
男性 (n=686)	60.3%	20.4%	19.0%	13.8%	5.5%	2.6%	1.7%	17.5%
女性 (n=1,028)	51.8%	29.8%	28.6%	21.9%	12.2%	6.2%	1.8%	12.5%
前期高齢者 (n=971)	67.1%	30.1%	29.9%	18.1%	9.9%	3.7%	1.2%	9.6%
後期高齢者 (n=928)	41.5%	20.9%	17.6%	19.0%	8.9%	5.7%	2.5%	20.2%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「配偶者」の割合が最も高くなっている。

図表1-9-8 病気になった時に看病してくれる人(過去2回の調査との比較)

	配偶者	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	友人	近隣	その他	そのような人はいない
今回(令和4年度) (n=1,908)	54.6%	25.5%	23.8%	18.6%	9.4%	4.7%	1.8%	14.7%
前回(令和元年度) (n=1,906)	49.9%	25.0%	22.5%	14.7%	9.3%	3.8%	1.7%	12.7%
前々回(平成28年度) (n=1,963)	47.6%	23.3%	25.9%	19.5%	9.4%	4.3%	3.1%	13.5%

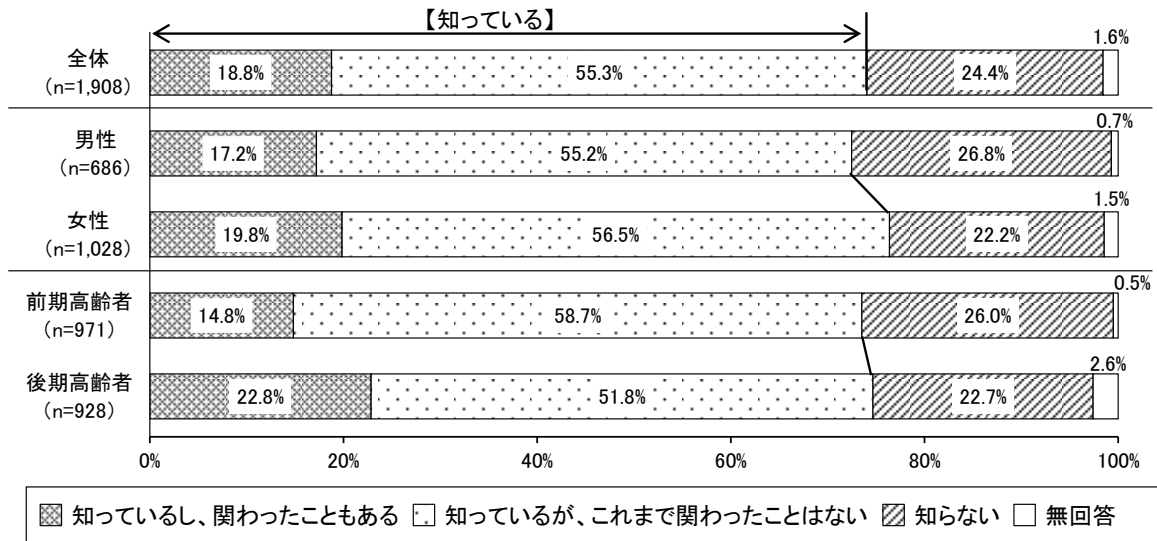
Q5. 社会福祉増進のために、地域住民の立場から生活や福祉全般に関する相談・援助活動を行っている民生委員・児童委員を知っていますか。

全体では、「知っている」（「知っているし、関わったこともある」と「知っているが、これまで関わったことはない」の計：以下同じ）の割合は74.1%となっている。

性別でみると、「知っている」の割合（男性：72.4%、女性：76.3%）は女性が男性を3.9ポイント上回っている。

年代別では、「知っている」の割合（前期高齢者：73.5%、後期高齢者：74.6%）は、後期高齢者が前期高齢者を1.1ポイント上回っている。

図表1-9-9 民生委員・児童委員の認知度



Q6. 家族や友人・知人以外で、何かあった時に相談する相手を教えてください。（複数回答）

全体では、「そのような人はいない」の割合が35.2%で最も高くなっており、次いで「医師・歯科医師・看護師」（28.6%）、「地域包括支援センター」（18.6%）、「社会福祉協議会・民生委員」（13.5%）、「市役所」（11.4%）などが続いている。

性別でみると、相談相手の上位3項目の順位は男女とも全体と同じ結果となっている。

年代別では、後期高齢者は「医師・歯科医師・看護師」の割合（30.4%）が最も高くなっている。

図表1-9-10 家族や友人・知人以外の相談相手

	医師・ 歯科医師・ 看護師	地域 包括 支援 セン ター	社会 福祉 協 議 会 ・ 民 生 委 員	市 役 所	自 治 会 ・ 町 内 会 ・ 老 人 ク ラ ブ	ケ ア マ ネ ジ ャー	そ の 他	そ の よ う な 人 は い な い
全体 (n=1,908)	28.6%	18.6%	13.5%	11.4%	9.9%	8.6%	5.2%	35.2%
男性 (n=686)	28.7%	14.7%	12.8%	12.2%	13.4%	6.1%	5.4%	38.0%
女性 (n=1,028)	29.6%	20.9%	14.2%	11.7%	8.4%	10.6%	5.0%	33.0%
前期高齢者 (n=971)	26.9%	16.4%	11.5%	13.0%	9.1%	6.2%	4.1%	42.6%
後期高齢者 (n=928)	30.4%	20.9%	15.5%	9.7%	10.8%	11.0%	6.3%	27.7%

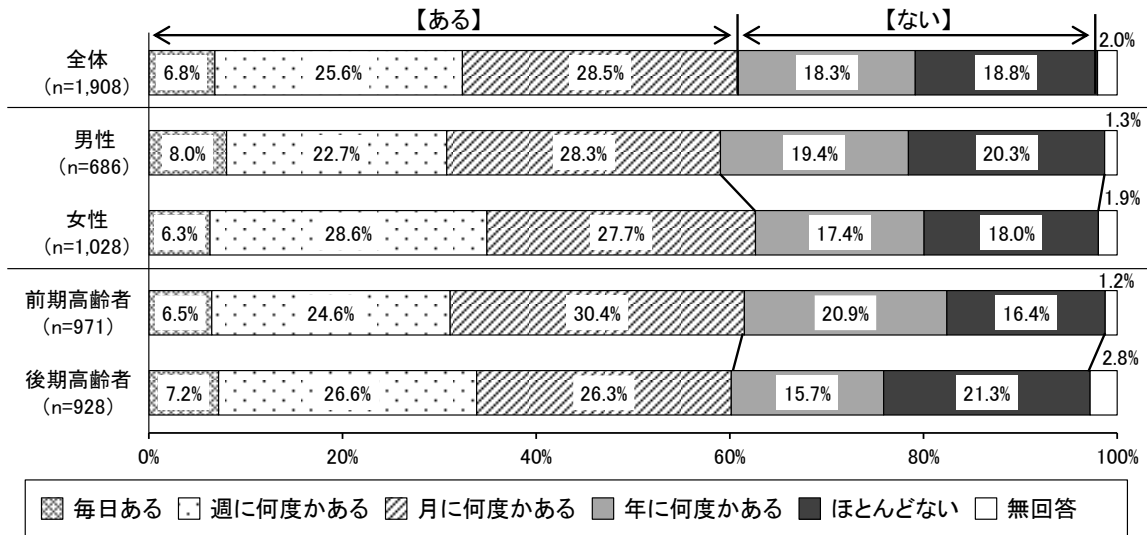
Q7. 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

全体では、「ある」（「毎日ある」と「週に何度かある」と「月に何度かある」の計：以下同じ）の割合が60.9%となっている。「ない」（「年に何度かある」と「ほとんどない」の計：以下同じ）は37.1%となっている。

性別でみると、「ある」の割合（男性：59.0%、女性：62.6%）は女性が男性を3.6ポイント上回っている。

年代別では、「ある」の割合（前期高齢者：61.5%、後期高齢者：60.1%）は、前期高齢者が後期高齢者を1.4ポイント上回っている。

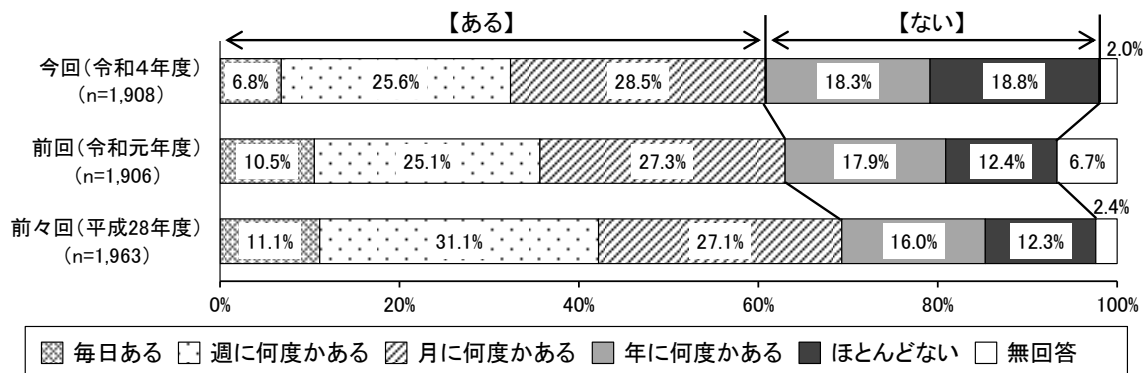
図表1-9-11 友人・知人と会う頻度



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「ある」の割合は前々回が69.3%、前回は62.9%で、前々回から8.4ポイント、前回から2.0ポイント低下している。

図表1-9-12 友人・知人と会う頻度（過去2回の調査との比較）

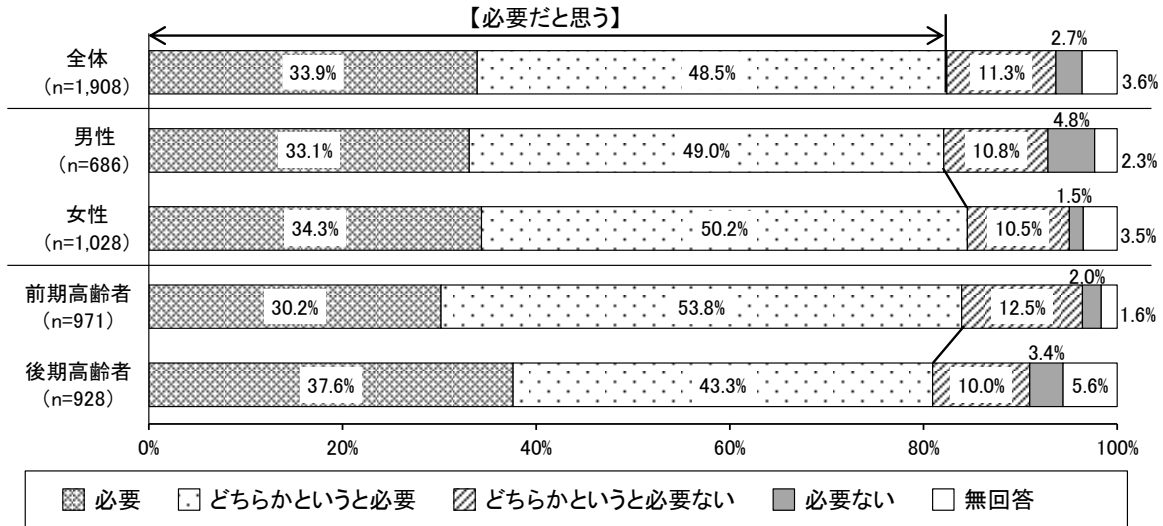


Q8. 住民同士で互いに見守り、たすけあう仕組みが必要だと思いますか。

全体では、「必要だと思う」(「必要」と「どちらかという必要」の計:以下同じ)の割合が82.4%となっている。性別でみると、「必要だと思う」の割合(男性:82.1%、女性:84.5%)は女性が男性を2.4ポイント上回っている。

年代別では、「必要だと思う」の割合(前期高齢者:84.0%、後期高齢者:80.9%)は、前期高齢者が後期高齢者を3.1ポイント上回っている。

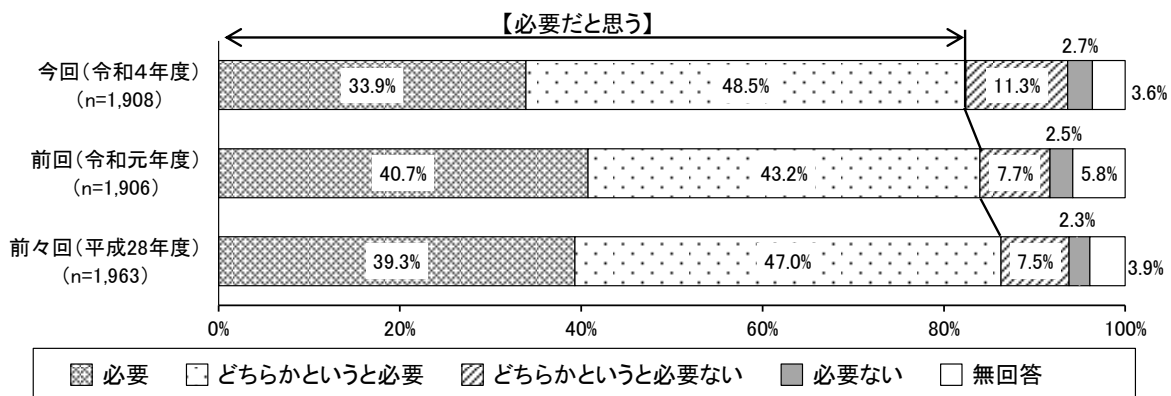
図表1-9-13 住民同士が互いに見守りたすけあう仕組みの必要性



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「必要だと思う」の割合は前々回が86.3%、前回は83.9%で、前々回から3.9ポイント、前回から1.5ポイント低下している。

図表1-9-14 住民同士が互いに見守りたすけあう仕組みの必要性(過去2回の調査との比較)



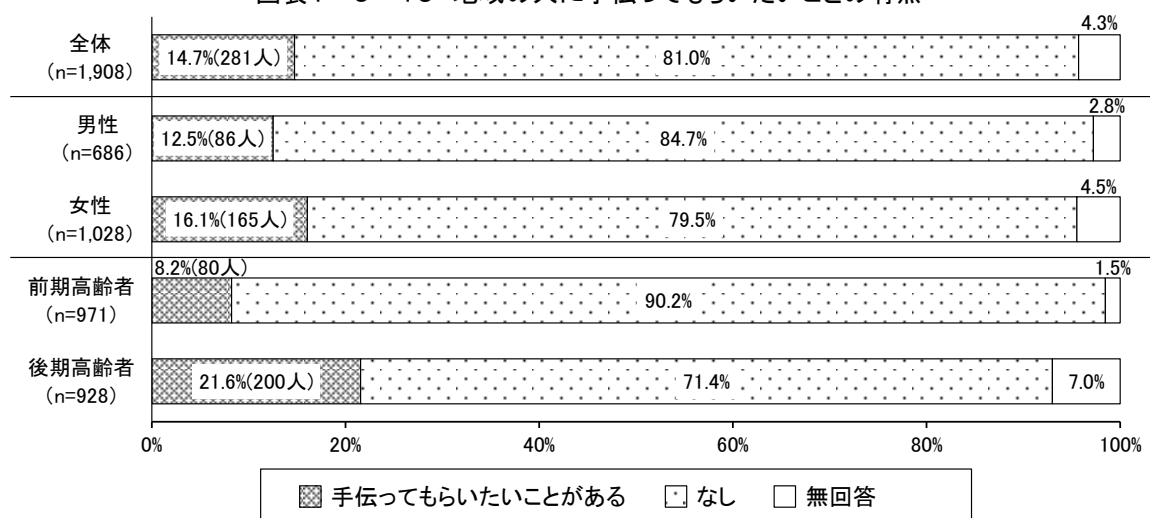
Q9. 日常生活において、地域の人に何かお手伝いしてもらいたいことはありますか(身体に触れることを除く)。

全体では、「なし」の割合が81.0%となっている。「手伝ってもらいたいことがある」は14.7%となっている。

性別でみると、「手伝ってもらいたいことがある」の割合(男性:12.5%、女性:16.1%)は女性が男性を3.6ポイント上回っている。

年代別では、「手伝ってもらいたいことがある」の割合(前期高齢者:8.2%、後期高齢者:21.6%)は、後期高齢者が前期高齢者を13.4ポイント上回っている。

図表1-9-15 地域の人に手伝ってもらいたいことの有無



＜お手伝いしてもらいたいことの内容(身体に触れることを除く)＞(○は2つまで)

全体では、「庭の除草や剪定」の割合が33.8%で最も高くなっている。次いで「買物や通院の送迎」と「話し相手」(同率で21.7%)となっている。

性別でみると、「庭の除草や剪定」の割合(男性:30.2%、女性:36.4%)は女性が男性を6.2ポイント上回っている。一方、「話し相手」(男性:29.1%、女性:17.6%)は男性が女性を11.5ポイント上回っている。

年代別では、上位1項目は前期高齢者、後期高齢者とも全体と同じ結果となっている。

図表1-9-16 地域の人に手伝ってもらいたいことの内容

	庭の除草や剪定	買物や通院の送迎	話し相手	ごみ出し	食品や日用品の買出し	室内の掃除	電球交換	食事の準備	お墓の掃除	ペットの世話	洗濯	金銭管理	その他のお手伝い
※図表1-9-15を参照													
手伝ってもらいたいことがある人 (n=281)	33.8%	21.7%	21.7%	17.1%	14.6%	12.5%	10.0%	5.7%	5.0%	2.1%	1.8%	0.0%	3.6%
男性 (n=86)	30.2%	19.8%	29.1%	15.1%	12.8%	14.0%	7.0%	9.3%	5.8%	2.3%	2.3%	0.0%	7.0%
女性 (n=165)	36.4%	23.0%	17.6%	18.2%	12.1%	12.1%	10.9%	3.6%	5.5%	2.4%	0.6%	0.0%	1.8%
前期高齢者 (n=80)	37.5%	21.3%	25.0%	16.3%	13.8%	10.0%	6.3%	3.8%	6.3%	5.0%	1.3%	0.0%	3.8%
後期高齢者 (n=200)	32.5%	22.0%	20.5%	17.5%	14.5%	13.0%	11.5%	6.5%	4.5%	1.0%	1.5%	0.0%	3.5%

<手伝ってもらいたいことがある人>

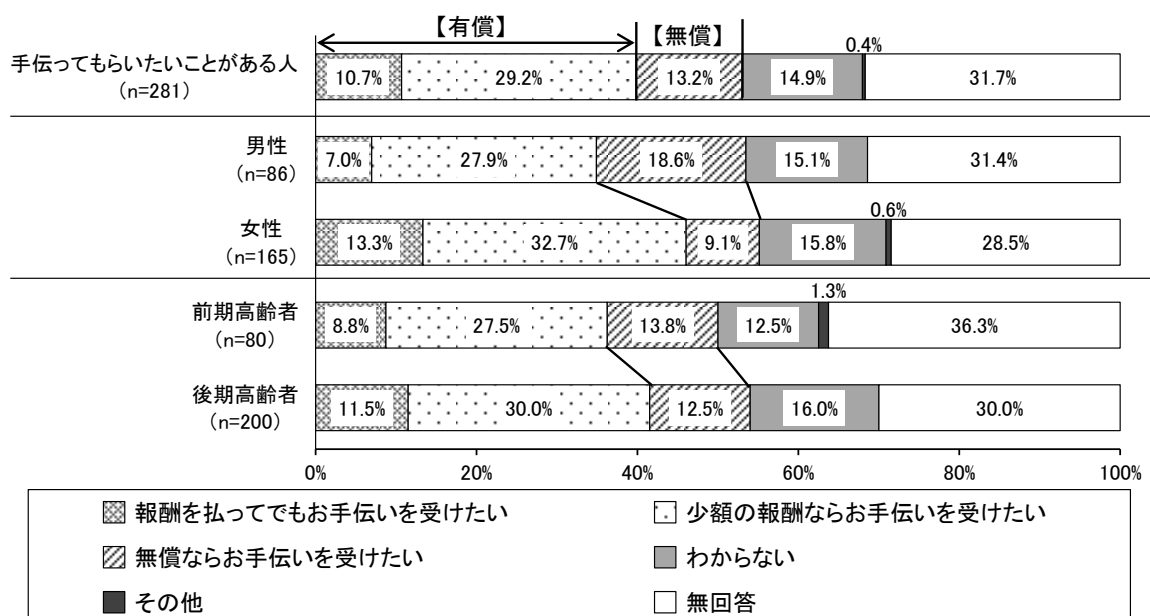
Q9-1. 地域の人のお手伝いに対する報酬について、どのように考えますか。

全体では、「有償」(「報酬を払ってでもお手伝いを受けたい」と「少額の報酬ならお手伝いを受けたい」の計:以下同じ)の割合が39.9%となっている。「無償ならお手伝いを受けたい」は13.2%となっている。

性別でみると、「有償」の割合(男性:34.9%、女性:46.0%)は、女性が男性を11.1ポイント上回っている。一方、「無償ならお手伝いを受けたい」(男性:18.6%、女性:9.1%)は、男性が女性を9.5ポイント上回っている。

年代別では、「有償」の割合(前期高齢者:36.3%、後期高齢者:41.5%)は後期高齢者が前期高齢者を5.2ポイント上回っている。一方、「無償ならお手伝いを受けたい」(前期高齢者:13.8%、後期高齢者:12.5%)は前期高齢者が後期高齢者を1.3ポイント上回っている。

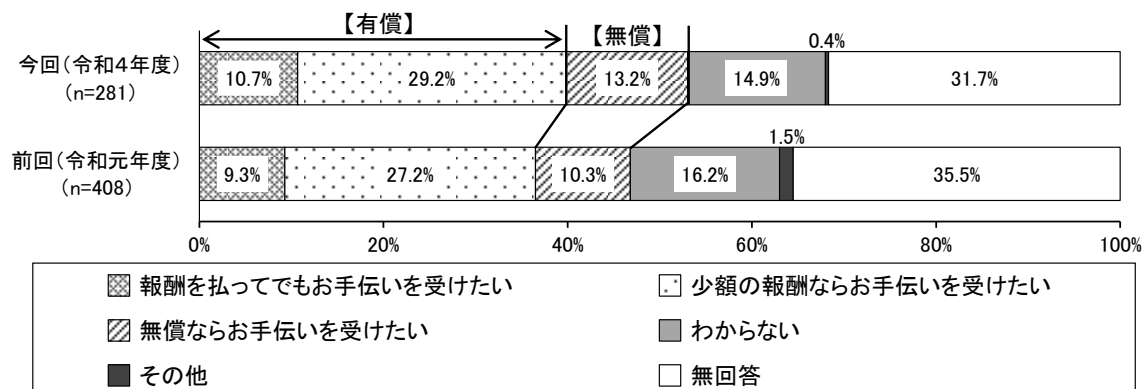
図表1-9-17 地域の人のお手伝いに対する報酬の考え



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「有償」の割合は前回が36.5%で3.4ポイント高まっている。「無償ならお手伝いを受けたい」は2.9ポイント高まっている。

図表1-9-18 地域の人のお手伝いに対する報酬の考え(前回調査との比較)



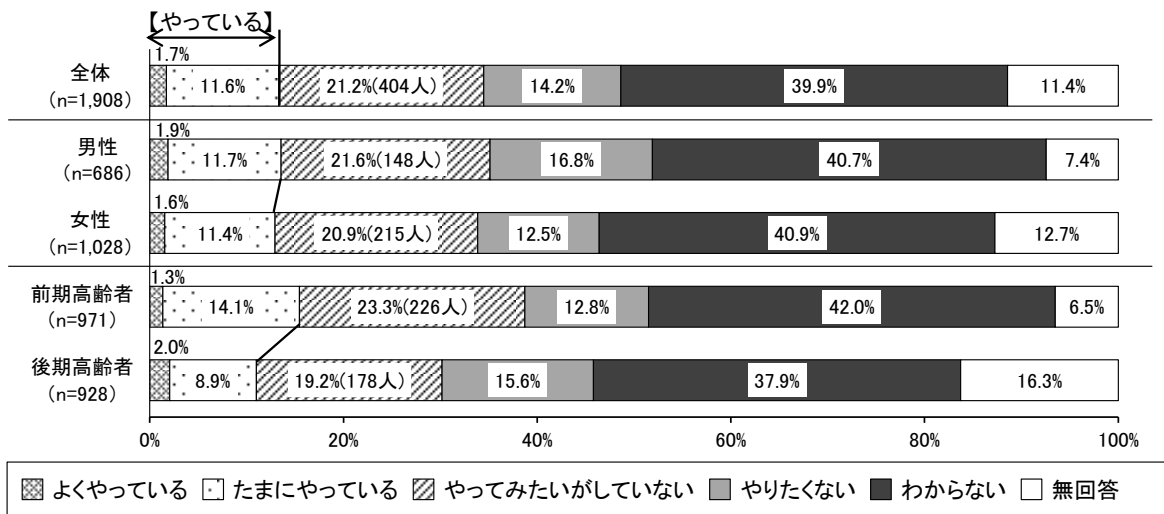
Q10. 誰かのお手伝いを必要としている近所の高齢者の困りごと(Q9で選択肢として挙がっていることなど)をお手伝いしてみたいと思いますか。

全体では、「わからない」の割合が39.9%で最も高くなっている。「やっている」「よくやっている」と「たまにやっている」の計:以下同じは13.3%、「やってみたいがしていない」は21.2%となっている。

性別でみると、「やっている」の割合(男性:13.6%、女性:13.0%)は、男性が女性を0.6ポイント上回っている。

年代別では、「やっている」の割合(前期高齢者:15.4%、後期高齢者:10.9%)は、前期高齢者が後期高齢者を4.5ポイント上回っている。

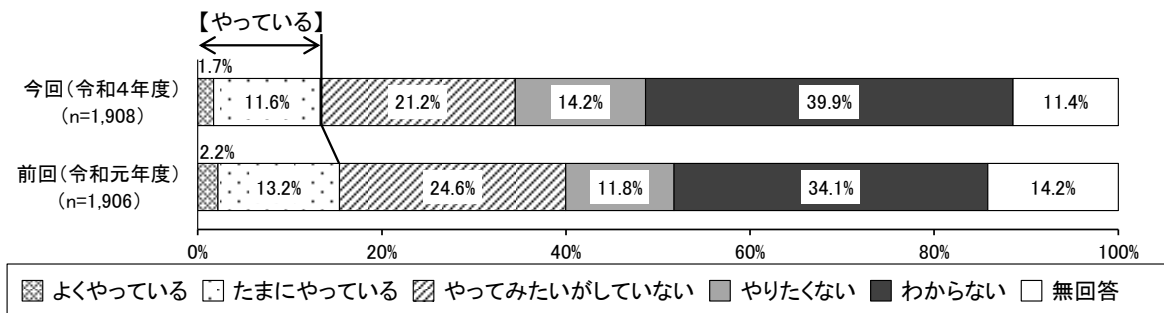
図表1-9-19 近所の高齢者の困りごとに対する手伝いの考え



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「やっている」の割合は前回は15.4%で2.1ポイント低下している。「やってみたいがしていない」は3.4ポイント低下している。

図表1-9-20 近所の高齢者の困りごとに対する手伝いの考え(前回調査との比較)



<手伝いをやってみたいがしていない人>

Q10-1. 理由を教えてください。(複数回答)

全体では、「機会がない」と「誰が困っているかわからない」の割合がそれぞれ51.5%で最も高くなっている。

年代別では「機会がない」と「誰が困っているかわからない」の割合(前期高齢者:55.8%、後期高齢者:46.1%)は、前期高齢者が後期高齢者を9.7ポイント上回っている。

図表1-9-21 手伝いをやってみたいがしていない理由

※P74を参照	機会がない	誰が困っているかわからない	自分からは言い出せない	仕事や介護、育児等で忙しい	地域外(近所でない)で活動を既にしていない	その他
手伝いをやってみたいがしていない人 (n=404)	51.5%	51.5%	23.8%	10.4%	2.7%	7.2%
男性 (n=148)	56.1%	49.3%	22.3%	9.5%	1.4%	5.4%
女性 (n=215)	50.2%	53.0%	24.7%	10.7%	3.7%	8.4%
前期高齢者 (n=226)	55.8%	55.8%	26.1%	15.0%	3.1%	4.4%
後期高齢者 (n=178)	46.1%	46.1%	20.8%	4.5%	2.2%	10.7%

10. 健康について(問9)

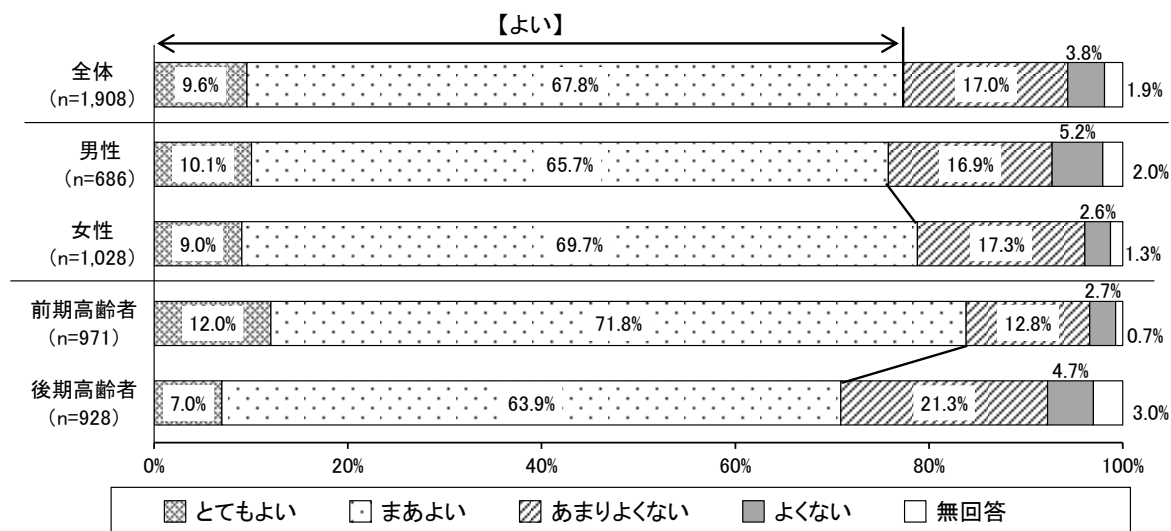
Q1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

全体では、「よい」(「とてもよい」と「まあよい」の計:以下同じ)の割合は77.4%となっている。

性別で見ると、「よい」の割合(男性:75.8%、女性:78.7%)は、女性が男性を2.9ポイント上回っている。

年代別では、「よい」の割合(前期高齢者:83.8%、後期高齢者:70.9%)は、後期高齢者が前期高齢者を12.9ポイント下回っている。

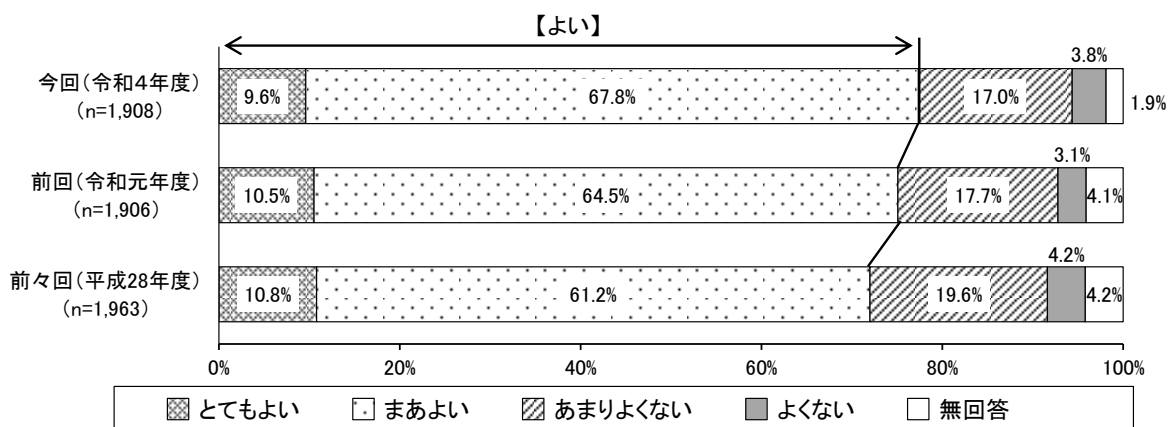
図表1-10-1 現在の健康状態



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「よい」の割合は前々回が72.0%、前回が75.0%で、前々回から5.4ポイント、前回から2.4ポイント高まっている。

図表1-10-2 現在の健康状態(過去2回の調査との比較)



Q2. あなたは、現在どの程度幸せですか。

全体では、「8点」の割合が22.9%で最も高く、次いで「5点」(18.1%)となっている。

性別でみると、男性は「5点」の割合が21.6%で最も高く、次いで「8点」(21.0%)となっている。女性は「8点」の割合(25.4%)が最も高く、次いで「10点」(16.9%)となっている。

年代別では、前期高齢者、後期高齢者とも「8点」の割合(前期高齢者:24.4%、後期高齢者:21.6%)が最も高くなっている。

図表1-10-3 幸福度

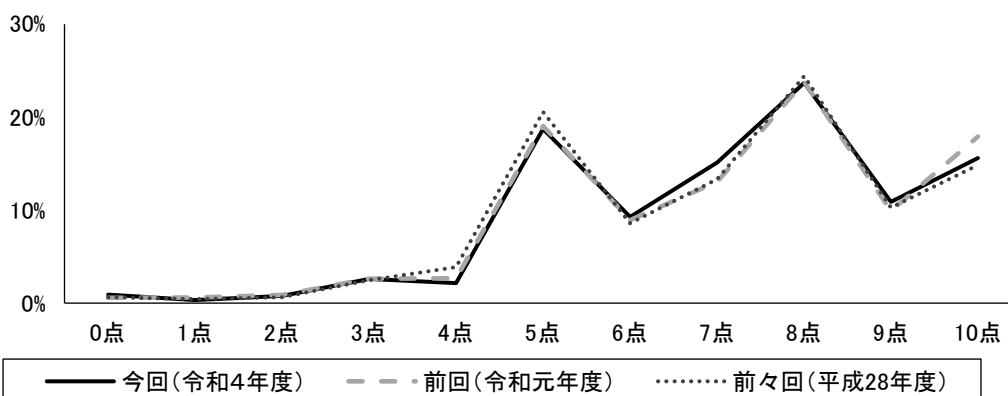
	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答	合計
全体 (n=1,908)	0.9%	0.3%	0.7%	2.5%	2.1%	18.1%	9.0%	14.6%	22.9%	10.5%	15.1%	3.2%	100.0%
男性 (n=686)	1.3%	0.6%	1.2%	3.1%	2.5%	21.6%	9.5%	16.0%	21.0%	8.0%	13.0%	2.3%	100.0%
女性 (n=1,028)	0.6%	0.1%	0.5%	1.9%	1.8%	14.8%	8.0%	14.4%	25.4%	12.5%	16.9%	3.1%	100.0%
前期高齢者 (n=971)	0.9%	0.2%	0.6%	2.0%	2.5%	16.2%	10.4%	15.3%	24.4%	12.0%	14.0%	1.4%	100.0%
後期高齢者 (n=928)	0.9%	0.4%	0.9%	3.1%	1.7%	19.9%	7.4%	13.8%	21.6%	8.9%	16.4%	5.0%	100.0%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、いずれの調査も「8点」の割合が最も高く、次いで「5点」となっている。

図表1-10-4 幸福度(過去2回の調査との比較)

	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答	合計
今回(令和4年度) (n=1,908)	0.9%	0.3%	0.7%	2.5%	2.1%	18.1%	9.0%	14.6%	22.9%	10.5%	15.1%	3.2%	100.0%
前回(令和元年度) (n=1,906)	0.5%	0.6%	0.8%	2.5%	2.5%	17.9%	8.4%	12.3%	22.4%	9.3%	16.8%	6.0%	100.0%
前々回(平成28年度) (n=1,963)	0.6%	0.4%	0.6%	2.3%	3.6%	19.3%	8.0%	12.5%	22.9%	9.6%	13.9%	6.3%	100.0%



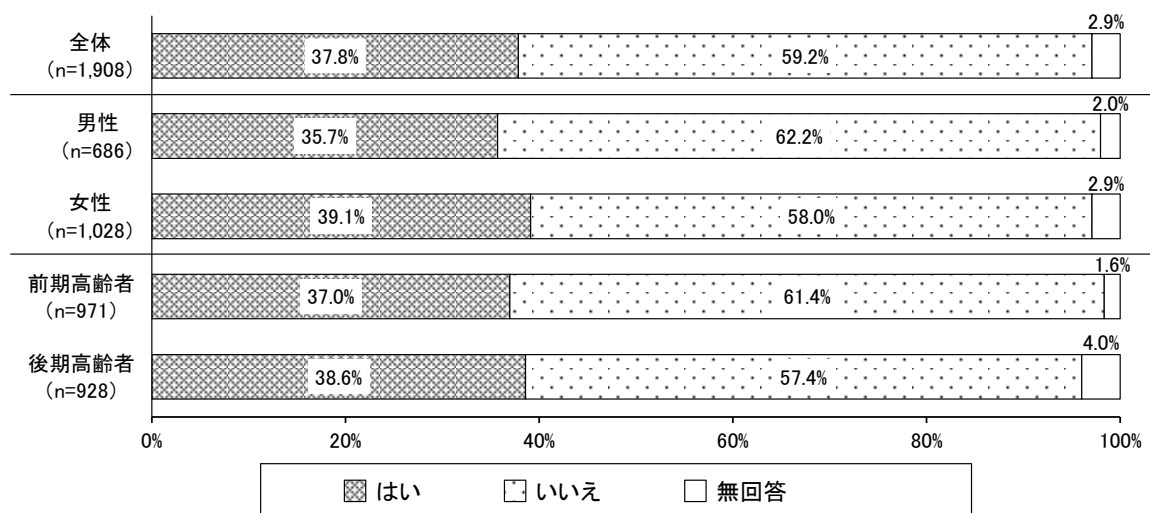
Q3. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

全体では、「いいえ」の割合が59.2%であり、「はい」は37.8%となっている。

性別でみると、「はい」の割合(男性:35.7%、女性:39.1%)は、女性が男性を3.4ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:37.0%、後期高齢者:38.6%)は、後期高齢者が前期高齢者を1.6ポイント上回っている。

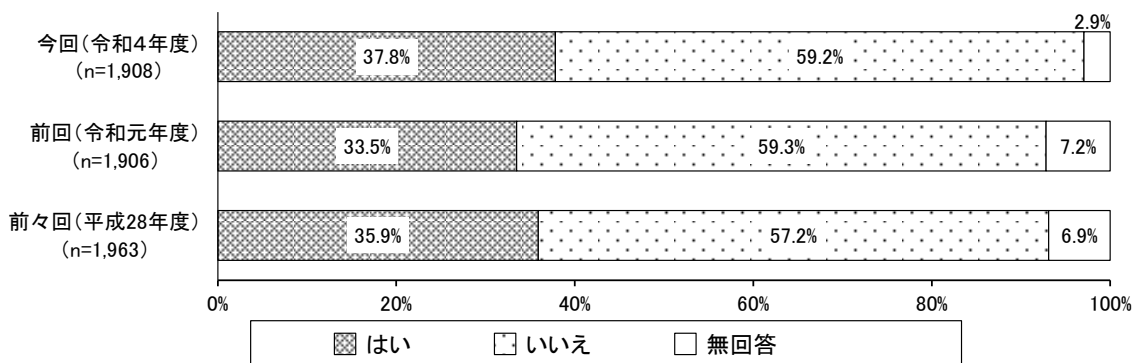
図表1-10-5 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりした経験



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「はい」の割合は前々回から1.9ポイント、前回から4.3ポイント高まっている。

図表1-10-6 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりした経験(過去2回の調査との比較)



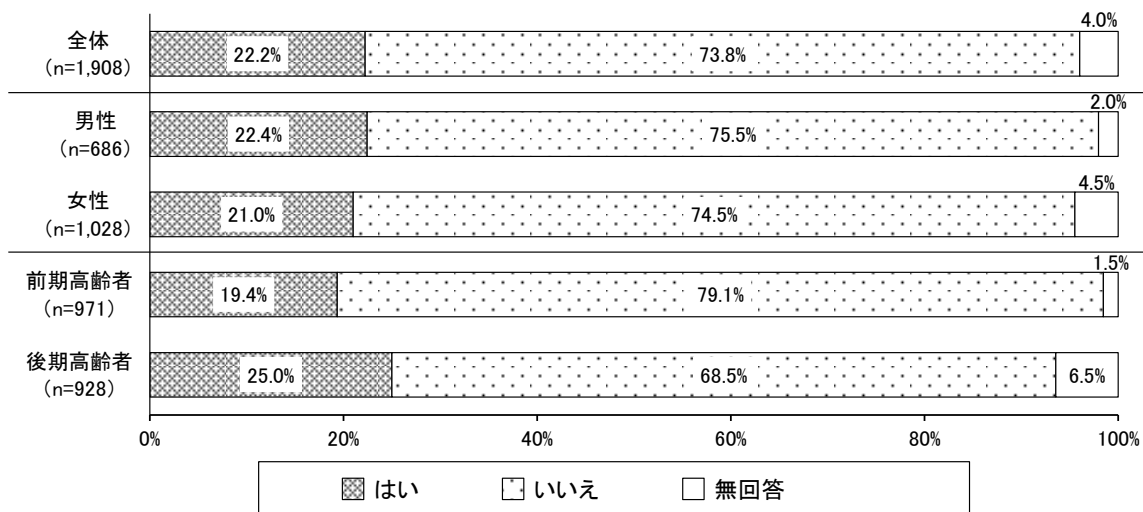
Q4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

全体では、「いいえ」の割合が73.8%であり、「はい」は22.2%となっている。

性別で見ると、「はい」の割合(男性:22.4%、女性:21.0%)は、男性が女性を1.4ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:19.4%、後期高齢者:25.0%)は、後期高齢者が前期高齢者を5.6ポイント上回っている。

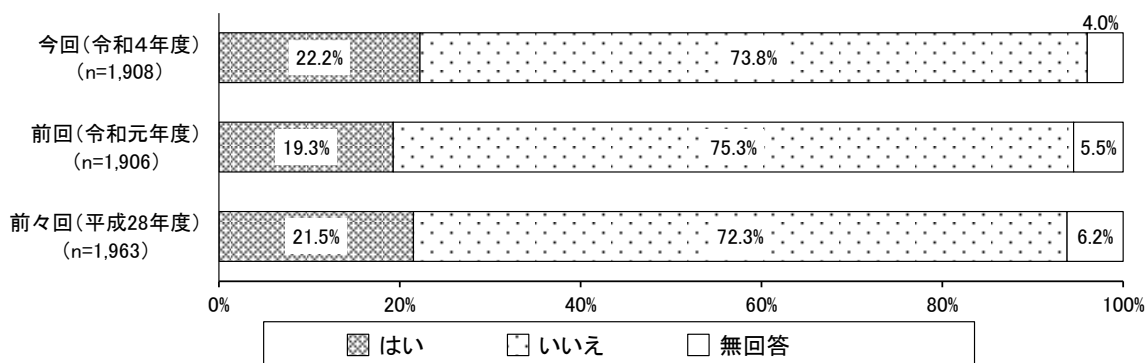
図表1-10-7 物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じの有無



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「はい」の割合は前々回から0.7ポイント、前回から2.9ポイント高まっている。

図表1-10-8 物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じの有無(過去2回の調査との比較)



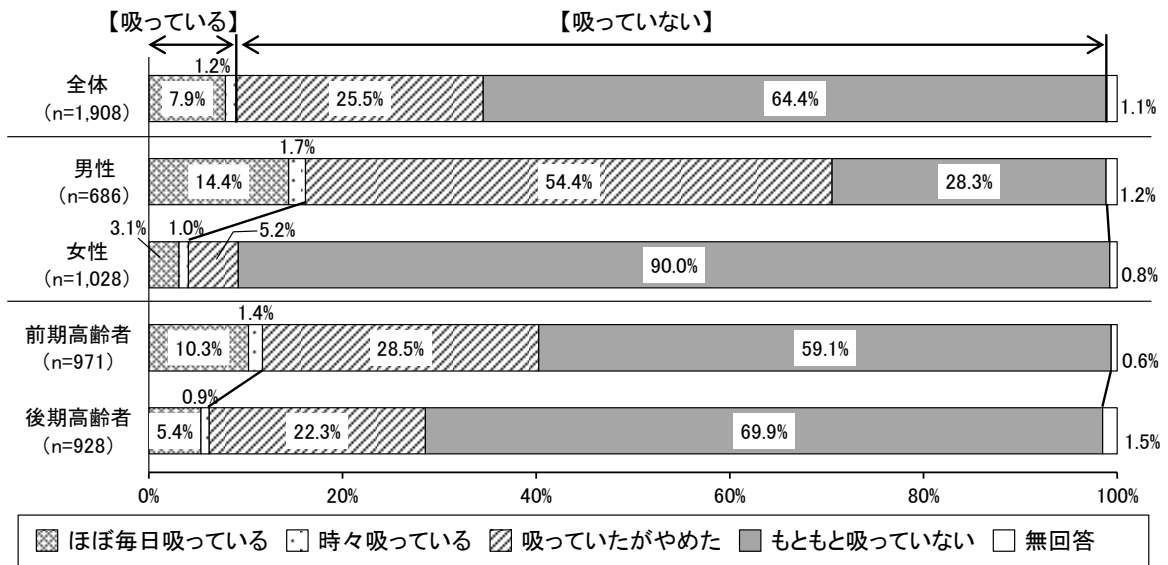
Q5. タバコは吸っていますか。

全体では、「吸っていない」(「吸っていたがやめた」と「もともと吸っていない」の計:以下同じ)の割合が89.9%となっている。また、「吸っている」(「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の計:以下同じ)は9.1%となっている。

性別でみると、「吸っていない」の割合(男性:82.7%、女性:95.2%)は、女性が男性を12.5ポイント上回っている。

年代別では、「吸っていない」の割合(前期高齢者:87.6%、後期高齢者:92.2%)は、後期高齢者が前期高齢者を4.6ポイント上回っている。

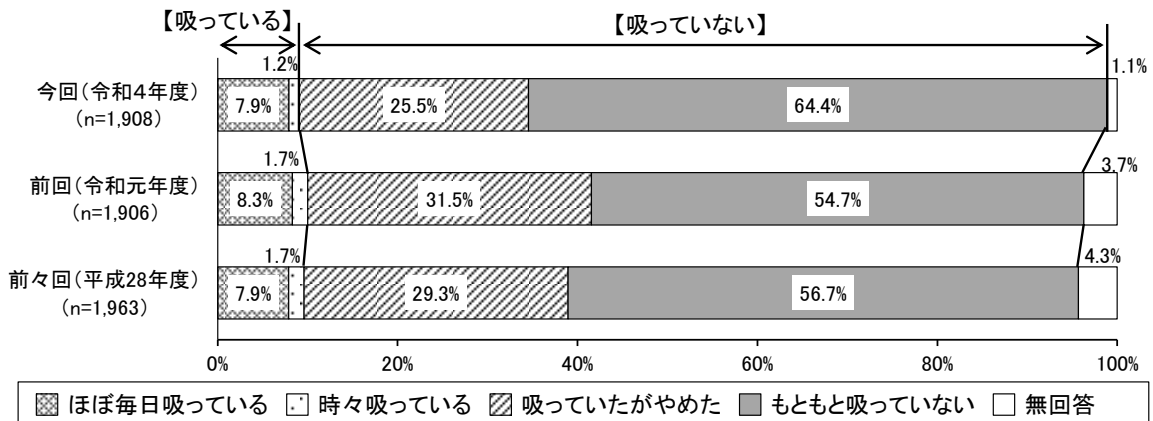
図表1-10-9 喫煙の状況



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「吸っている」の割合は前々回が9.6%、前回は10.0%で、前々回から0.5ポイント、前回から0.9ポイント低下している。

図表1-10-10 喫煙の状況(過去2回の調査との比較)



Q6. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

全体では、「高血圧」の割合が46.8%で最も高くなっている。次いで「目の病気」(15.1%)、「高脂血症(脂質異常)」(14.1%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(13.8%)などが続いている。

性別でみると、男女とも「高血圧」の割合が最も高くなっている。また、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」の割合(男性:4.4%、女性:20.2%)は、女性が男性を15.8ポイント上回っている。

年代別では、前期高齢者、後期高齢者とも「高血圧」の割合(前期高齢者:40.0%、後期高齢者:54.0%)が最も高くなっている。「高血圧」の割合と「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(前期高齢者:9.4%、後期高齢者:18.5%)は、後期高齢者が前期高齢者をそれぞれ14.0ポイント、9.1ポイント上回っている。

図表1-10-11 治療中、後遺症のある病気

	高血圧	目の病気	高脂血症(脂質異常)	筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	糖尿病	心臓病	腎臓・前立腺の病気	耳の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	がん(悪性新生物)	外傷(転倒・骨折等)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	その他	ない
全体(n=1,908)	46.8%	15.1%	14.1%	13.8%	13.3%	9.3%	8.9%	6.2%	5.4%	4.8%	3.9%	3.4%	3.2%	1.4%	1.2%	1.0%	0.4%	9.2%	13.5%
男性(n=686)	51.5%	14.4%	13.1%	4.4%	17.3%	12.0%	18.8%	5.5%	4.8%	4.4%	4.7%	1.6%	3.9%	1.2%	0.4%	0.9%	0.4%	7.6%	14.3%
女性(n=1,028)	44.0%	16.4%	15.8%	20.2%	10.8%	7.9%	1.9%	6.5%	5.9%	5.0%	3.2%	4.7%	2.5%	1.3%	1.8%	1.2%	0.5%	10.5%	13.3%
前期高齢者(n=971)	40.0%	13.3%	15.4%	9.4%	12.9%	5.5%	5.6%	5.3%	5.1%	4.0%	3.2%	1.9%	1.8%	1.1%	1.3%	0.1%	0.3%	10.1%	18.5%
後期高齢者(n=928)	54.0%	16.9%	12.8%	18.5%	13.8%	13.3%	12.4%	7.1%	5.7%	5.6%	4.6%	5.0%	4.6%	1.7%	1.1%	2.0%	0.5%	8.3%	8.4%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、病気の上位1項目の順位は同じとなっている。「高血圧」の割合(前々回から4.2ポイント、前回から2.0ポイント)と「高脂血症(脂質異常)」(前々回から3.9ポイント、前回から2.2ポイント)は高まっている。

図表1-10-12 治療中、後遺症のある病気(過去2回の調査との比較)

	高血圧	目の病気	高脂血症(脂質異常)	筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	糖尿病	心臓病	腎臓・前立腺の病気	耳の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	がん(悪性新生物)	外傷(転倒・骨折等)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	その他	ない
今回(令和4年度)(n=1,908)	46.8%	15.1%	14.1%	13.8%	13.3%	9.3%	8.9%	6.2%	5.4%	4.8%	3.9%	3.4%	3.2%	1.4%	1.2%	1.0%	0.4%	9.2%	13.5%
前回(令和元年度)(n=1,906)	44.8%	14.7%	11.9%	11.4%	13.2%	10.7%	11.4%	6.4%	6.7%	5.1%	4.0%	2.7%	4.4%	0.8%	0.9%	1.0%	0.7%	6.9%	14.9%
前々回(平成28年度)(n=1,963)	42.6%	15.8%	10.2%	13.4%	10.0%	11.2%	10.3%	7.4%	7.2%	5.1%	4.2%	3.5%	4.2%	1.6%	1.4%	1.0%	0.4%	9.0%	15.9%

Q7. フレイル[※]を知っていましたか。

※フレイルとは、健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のこと。

※設問の内容に応じて回答の選択肢を分類している。

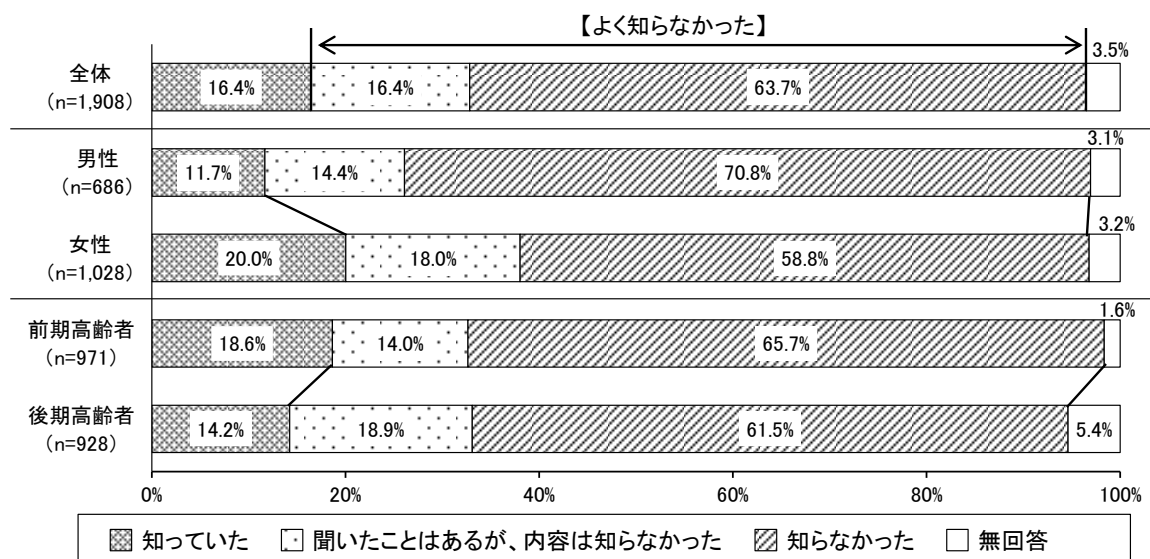
[設問の内容: ○○を知っていましたか? → 回答: 「知っていた」と「よく知らなかった」に分類]…以下同じ

全体では、「よく知らなかった」(「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」と「知らなかった」の計: 以下同じ)の割合は80.1%となっている。

性別でみると、「よく知らなかった」の割合(男性: 85.2%、女性: 76.8%)は男性が女性を8.4ポイント上回っている。

年代別では、「よく知らなかった」の割合(前期高齢者: 79.7%、後期高齢者: 80.4%)は、後期高齢者が前期高齢者を0.7ポイント上回っている。

図表1-10-13 フレイルの認知度



Q8. 以下の中で取り組んでいることはありますか。(複数回答)

全体では、「1日3食(朝・昼・夕)食べている」の割合が76.5%で最も高くなっている。次いで「口の手入れをしている(毎食後の歯磨き、入れ歯の清掃等)」(59.0%)、「自宅での体操や自宅周辺の散歩等」(56.4%)などが続いている。また、「取り組んでいない」は7.0%となっている。

性別でみると、上位1項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。また、「その他」と「取り組んでいない」以外の全ての項目で女性の割合が男性を上回っている。割合の差が大きいのは「口の手入れをしている(毎食後の歯磨き、入れ歯の清掃等)」(16.6ポイント)、「家族以外の人との交流を心がけている」(11.3ポイント)、「1日3食(朝・昼・夕)食べている」(8.7ポイント)、「定期的に歯科受診をしている」(8.7ポイント)となっている。

年代別では、上位7項目の順位は前期高齢者、後期高齢者とも全体と同じとなっている。

図表1-10-14 取り組んでいること

	1日3食(朝・昼・夕)食べている	口の手入れをしている(毎食後の歯磨き、入れ歯の清掃等)	自宅での体操や自宅周辺の散歩等	バランスの良い食事をとっている	定期的に歯科受診をしている	家族以外の人との交流を心がけている	地域のボランティア活動や趣味活動をしている	有料のスポーツジム等に通っている	地域の健康運動教室等に行っている	医師からの食事制限の指示を守っている	口腔体操をしている	その他	取り組んでいない
全体 (n=1,908)	76.5%	59.0%	56.4%	42.8%	37.3%	29.6%	10.0%	6.9%	5.9%	5.3%	5.1%	3.1%	7.0%
男性 (n=686)	71.7%	50.0%	55.5%	40.7%	32.7%	23.9%	9.3%	5.1%	2.9%	5.2%	2.6%	3.9%	9.5%
女性 (n=1,028)	80.4%	66.6%	58.9%	46.5%	41.4%	35.2%	10.8%	8.7%	7.9%	5.3%	7.0%	2.9%	5.0%
前期高齢者 (n=971)	77.3%	57.6%	55.9%	43.9%	39.0%	29.2%	10.8%	9.0%	4.0%	4.3%	3.8%	1.9%	6.6%
後期高齢者 (n=928)	75.8%	60.9%	57.0%	41.8%	35.8%	30.2%	9.2%	4.8%	8.0%	6.4%	6.4%	4.4%	7.4%

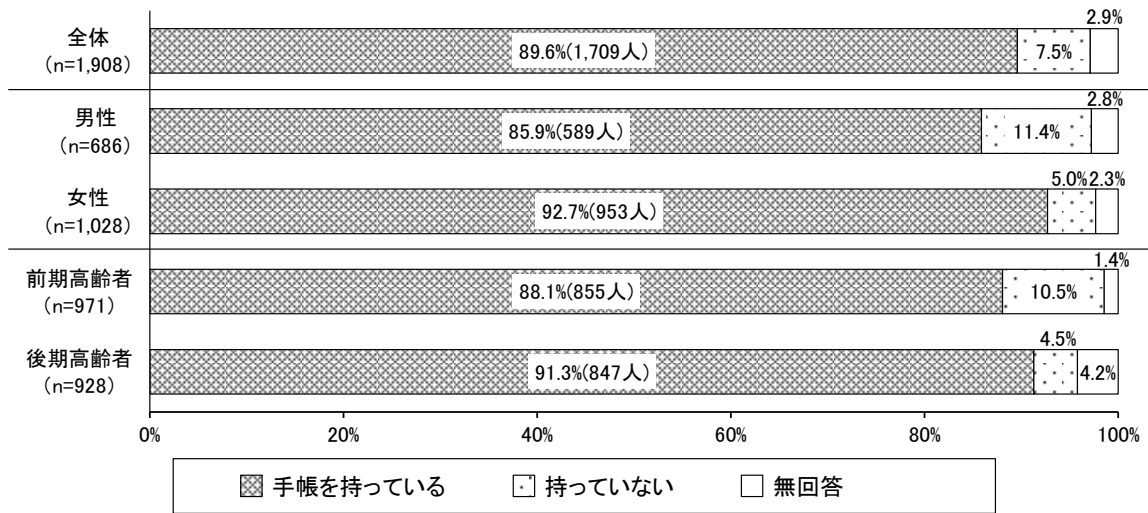
Q9. 健康等に関する手帳を持っていますか。

全体では、「手帳を持っている」の割合が89.6%となっている。「持っていない」は7.5%となっている。

性別でみると、「手帳を持っている」の割合(男性:85.9%、女性:92.7%)は、女性が男性を6.8ポイント上回っている。

年代別では、「手帳を持っている」の割合(前期高齢者:88.1%、後期高齢者:91.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を3.2ポイント上回っている。

図表1-10-15 健康等に関する手帳の所持状況



<手帳を持っている人>

○持っている手帳の種類※電子版は除きます。(複数回答)

全体では、「お薬手帳」の割合が98.5%で最も高くなっている。次いで「血压手帳」(27.6%)などが続いている。

性別でみると上位5項目で、年代別では上位3項目で、手帳の種類順位は、それぞれ全体と同じとなっている。

図表1-10-16 持っている手帳の種類

	お薬手帳	血压手帳	糖尿病連携手帳	市が交付している健康手帳	「宮崎市版エンディングノート」 「わたしの想いをつなぐノート」	市販の健康手帳	心不全手帳	認知症連携パス(オレンジ手帳)	その他
※図表1-10-15を参照									
手帳を持っている人 (n=1,709)	98.5%	27.6%	5.9%	3.9%	3.0%	0.6%	0.6%	0.4%	1.8%
男性 (n=589)	98.1%	27.7%	7.6%	2.7%	1.5%	0.5%	0.7%	0.2%	1.5%
女性 (n=953)	98.6%	26.8%	5.0%	4.6%	4.0%	0.7%	0.5%	0.2%	2.0%
前期高齢者 (n=855)	98.7%	24.3%	5.8%	2.7%	3.2%	0.4%	0.4%	0.5%	1.9%
後期高齢者 (n=847)	98.5%	30.7%	6.0%	5.1%	3.0%	0.9%	0.8%	0.2%	1.7%

<手帳を持っている人>

Q9-1. 健康等に関する手帳をどのような目的で活用していますか。(複数回答)

全体では、「薬の管理」の割合が71.9%で最も高くなっている。次いで「血压管理」(29.9%)、「健診結果の管理」(14.2%)などが続いている。

性別でみると、活用目的の上位4項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。

年代別では、活用目的の上位4項目の順位は前期高齢者、後期高齢者とも全体と同じ結果となっている。「血压管理」の割合(前期高齢者:26.2%、後期高齢者:33.6%)は、後期高齢者が前期高齢者を7.4ポイント上回っている。

図表1-10-17 手帳の活用目的

	薬の管理	血压管理	健診結果の管理	病気の管理	受けられる時に適切に記入している	体重管理	食事管理	家族との情報共有	その他	活用していない
※P84を参照										
手帳を持っている人 (n=1,709)	71.9%	29.9%	14.2%	12.1%	8.1%	7.8%	4.0%	3.9%	1.0%	6.7%
男性 (n=589)	70.5%	33.1%	14.4%	13.6%	5.8%	10.4%	4.9%	3.4%	1.4%	8.8%
女性 (n=953)	73.5%	27.4%	14.2%	11.9%	9.8%	6.2%	3.0%	4.3%	0.8%	4.8%
前期高齢者 (n=855)	73.0%	26.2%	12.7%	11.5%	8.5%	5.7%	2.1%	3.2%	1.4%	7.6%
後期高齢者 (n=847)	70.7%	33.6%	15.7%	12.8%	7.8%	9.7%	5.9%	4.7%	0.6%	5.8%

Q10. 健康に関する情報をどこから入手していますか。(複数回答)

全体では、「テレビ」の割合が78.8%で最も高くなっている。次いで「新聞」(43.8%)、「人から聞く」(31.4%)、「本や雑誌(印刷物)」(26.8%)、「インターネット(スマートフォンやタブレット等の携帯端末)」(24.6%)などが続いている。

性別でみると、情報の入手源の上位2項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。「テレビ」の割合(男性:73.3%、女性:83.0%)と「新聞」(男性:39.5%、女性:48.9%)は女性が男性を9.7ポイント、9.4ポイント上回っている。

年代別では、情報の入手源の上位2項目の順位は前期高齢者、後期高齢者とも全体と同じとなっている。「インターネット(スマートフォンやタブレット等の携帯端末)」の割合(前期高齢者:39.3%、後期高齢者:9.4%)は、前期高齢者が後期高齢者を29.9ポイント上回っている。

図表1-10-18 健康に関する情報の入手源

	テレビ	新聞	人から聞く	本や雑誌(印刷物)	インターネット等の携帯端末(スマートフォンやタブレット)	市広報や回覧板	ラジオ	インターネット(パソコン)	その他
全体 (n=1,908)	78.8%	43.8%	31.4%	26.8%	24.6%	22.9%	20.1%	8.7%	2.1%
男性 (n=686)	73.3%	39.5%	25.7%	20.6%	27.0%	19.2%	17.1%	13.0%	2.5%
女性 (n=1,028)	83.0%	48.9%	36.5%	31.4%	23.1%	26.8%	22.5%	6.0%	2.0%
前期高齢者 (n=971)	81.1%	42.3%	31.7%	31.1%	39.3%	21.3%	21.5%	12.5%	1.3%
後期高齢者 (n=928)	76.8%	45.7%	31.3%	22.5%	9.4%	24.7%	18.8%	4.7%	3.0%

<前回調査との比較>

前回調査との比較では、情報の入手源の上位4項目の順位は同じとなっている。「テレビ」(前回から5.9ポイント)、「新聞」(前回から6.1ポイント)といった「マスコミ」の割合は低下している。一方、「インターネット(スマートフォンやタブレット等の携帯端末)」の割合は前回から10.0ポイント高まっている。

図表1-10-19 健康に関する情報の入手源(前回調査との比較)

	テレビ	新聞	人から聞く	本や雑誌(印刷物)	インターネット等の携帯端末(スマートフォンやタブレット)	市広報や回覧板	ラジオ	インターネット(パソコン)	その他
今回(令和4年度) (n=1,908)	78.8%	43.8%	31.4%	26.8%	24.6%	22.9%	20.1%	8.7%	2.1%
前回(令和元年度) (n=1,906)	84.7%	49.9%	31.5%	30.4%	14.6%	23.6%	19.5%	11.0%	2.3%

11. 今後の生活について(問10)

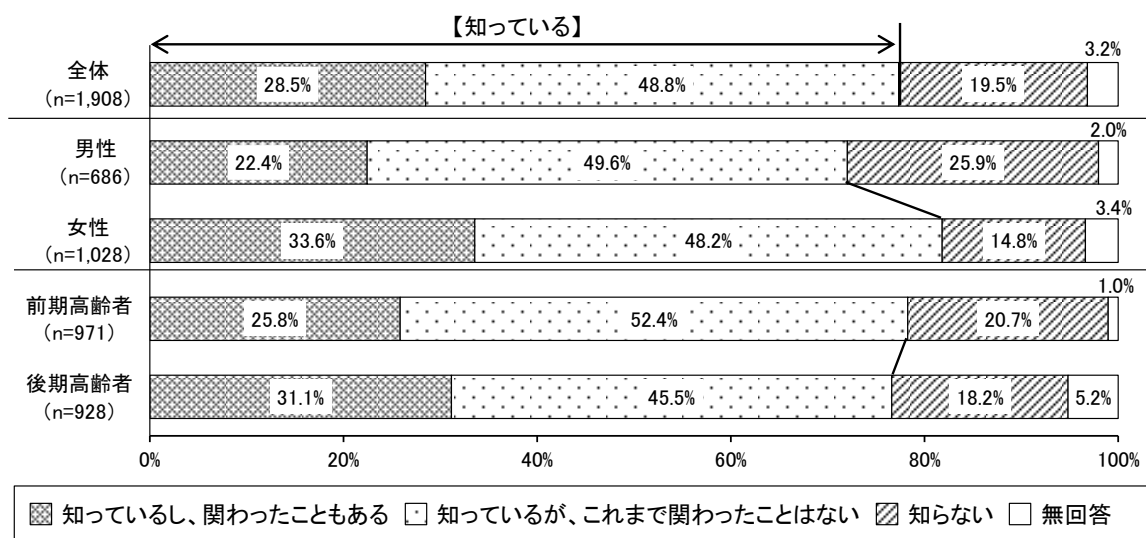
Q1. 高齢者の介護や日常生活の困りごとに関する総合相談窓口として、各地域に市が委託している地域包括支援センターがあることを知っていますか。

全体では、「知っている」(「知っているし、関わったこともある」と「知っているが、これまで関わったことはない」の計:以下同じ)の割合は77.3%となっている。

性別でみると、「知っている」の割合(男性:72.0%、女性:81.8%)は女性が男性を9.8ポイント上回っている。

年代別では、「知っている」の割合(前期高齢者:78.2%、後期高齢者:76.6%)は、前期高齢者が後期高齢者を1.6ポイント上回っている。

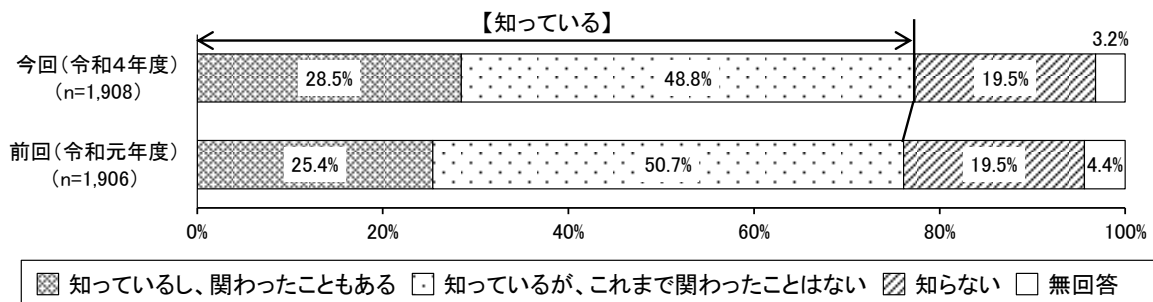
図表1-11-1 地域包括支援センターの認知度



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「知っている」の割合は前回は76.1%で、1.2ポイント高まっている。

図表1-11-2 地域包括支援センターの認知度(前回調査との比較)



Q2. あなたが仮に介護または病気療養が必要になった時、日常生活をどのように過ごしたいと思いますか(すでに医療や介護を受けている方は今後についてお答えください)。

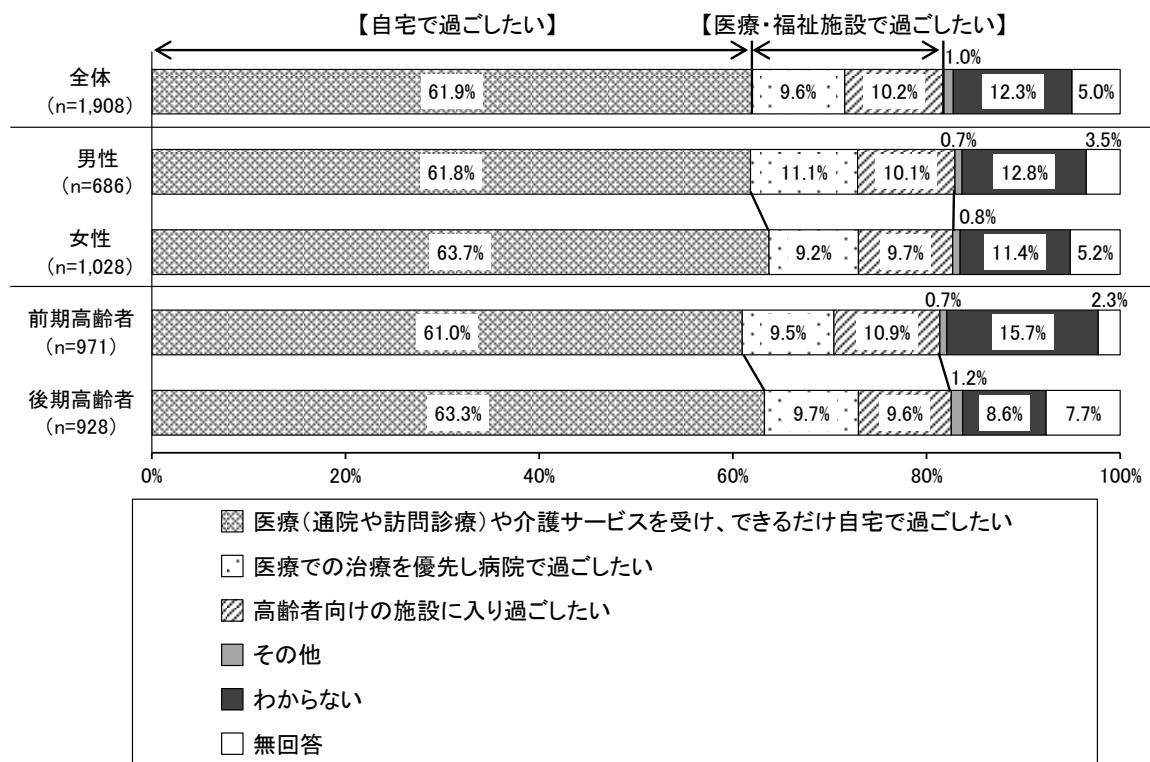
a. <全体、性別、年代別>

全体では、「自宅で過ごしたい」(「医療(通院や訪問診療)や介護サービスを受け、できるだけ自宅で過ごしたい」:以下同じ)の割合は61.9%となっている。「医療・福祉施設で過ごしたい」(「医療での治療を優先し病院で過ごしたい」と「高齢者向けの施設に入り過ごしたい」の計:以下同じ)は19.8%となっている。

性別でみると、「自宅で過ごしたい」の割合(男性:61.8%、女性:63.7%)は、女性が男性を1.9ポイント上回っている。

年代別では、「自宅で過ごしたい」の割合(前期高齢者:61.0%、後期高齢者:63.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を2.3ポイント上回っている

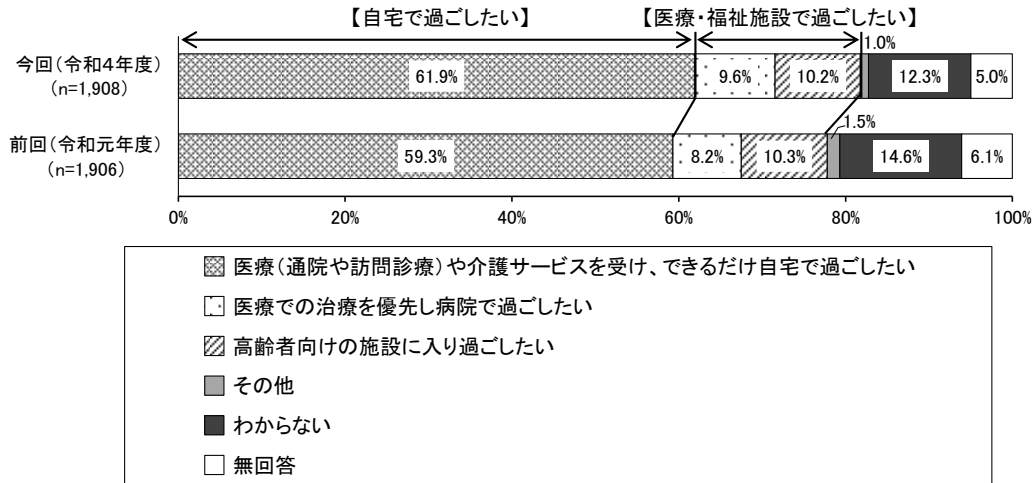
図表1-11-3 自分自身が介護等が必要になった時、日常生活をどのように過ごしたいか



b. <前回調査との比較>

前回調査との比較では、「自宅で過ごしたい」の割合は2.6ポイント高まっている。

図表1-11-4 自分自身が介護等が必要になった時、日常生活をどのように過ごしたいか(前回調査との比較)



c. <家族構成別、地域4ブロック別> ※地域別は22の地域自治区を4ブロックに区分した。

22の地域自治区は、下記の通り4ブロックに区分している。

- (1) 中央ブロック(中央東、中央西、小戸、櫛)
- (2) 北ブロック(大宮、東大宮、住吉、北、佐土原)
- (3) 西ブロック(大淀、大塚、大塚台、生目台、小松台、生目、高岡)
- (4) 南ブロック(赤江、本郷、木花、青島、田野、清武)

(1) 1人暮らし

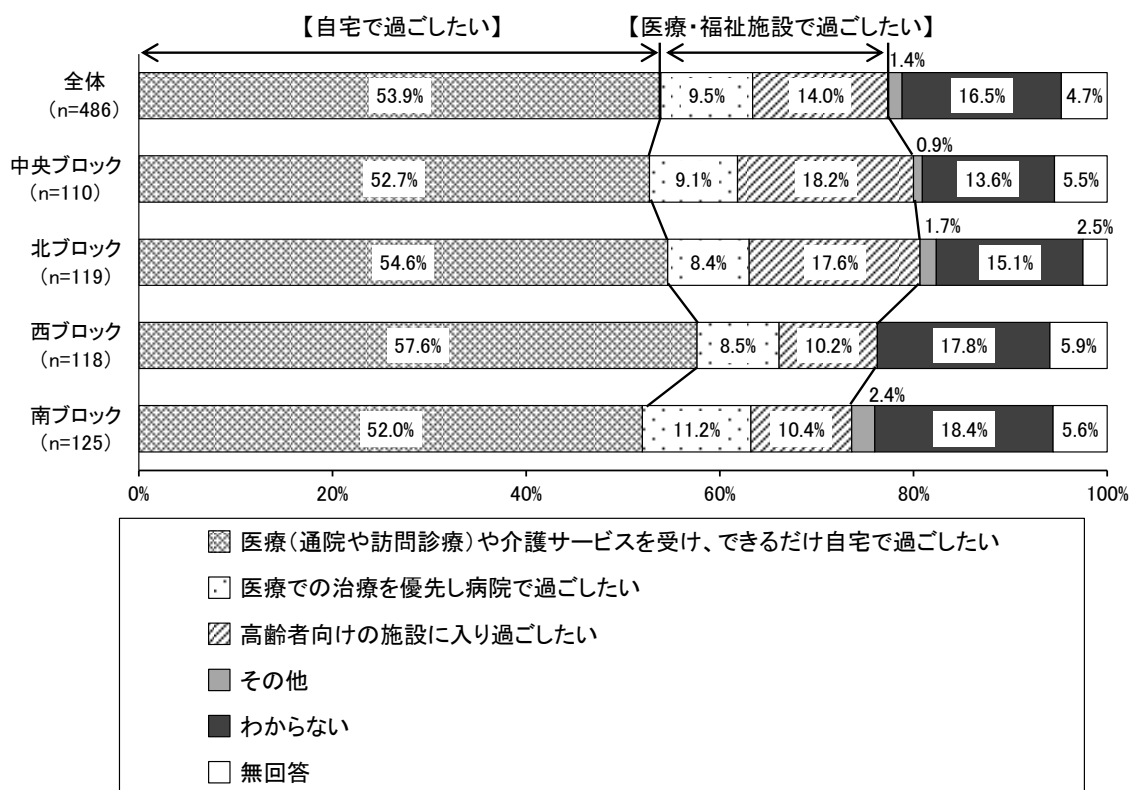
①「自宅で過ごしたい」割合

南ブロック(52.0%) < 中央ブロック(52.7%) < 全体(53.9%) < 北ブロック(54.6%) < 西ブロック(57.6%)

②「医療・福祉施設で過ごしたい」割合

西ブロック(18.7%) < 南ブロック(21.6%) < 全体(23.5%) < 北ブロック(26.0%) < 中央ブロック(27.3%)

図表1-11-5 自分自身が介護等が必要になった時、日常生活をどのように過ごしたいか(1人暮らし、地域別)



(2) 夫婦2人暮らし

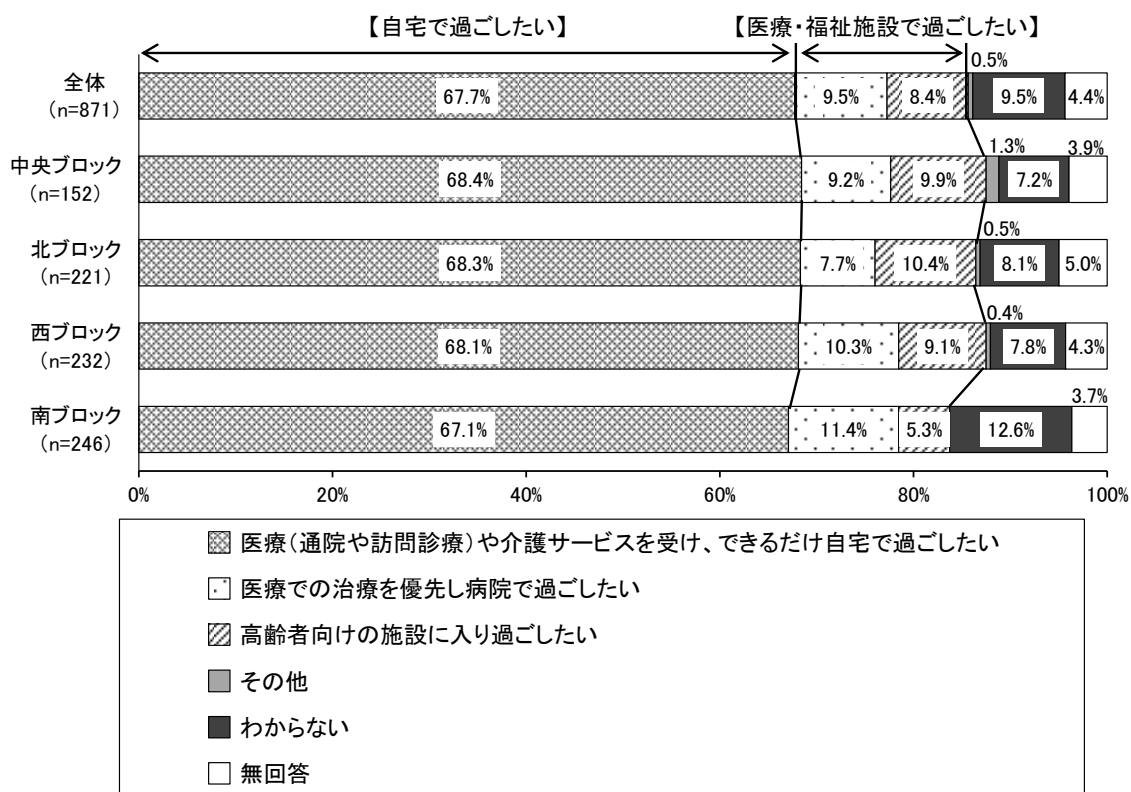
①「自宅で過ごしたい」割合

南ブロック(67.1%) < **全体(67.7%)** < 西ブロック(68.1%) < 北ブロック(68.3%) < 中央ブロック(68.4%)

②「医療・福祉施設で過ごしたい」割合

南ブロック(16.7%) < **全体(17.9%)** < 北ブロック(18.1%) < 中央ブロック(19.1%) < 西ブロック(19.4%)

図表1-11-6 自分自身が介護等が必要になった、日常生活をどのように過ごしたいか(夫婦2人暮らし、地域別)



(3)子どもとの2世帯

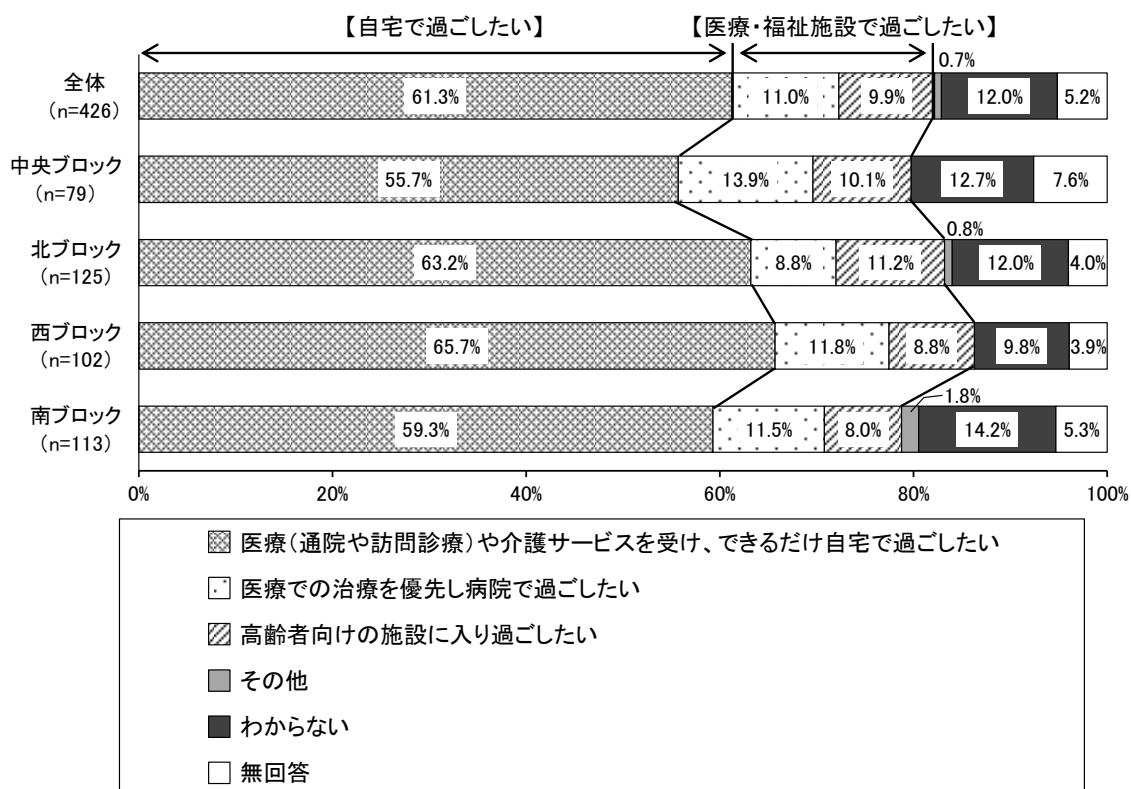
①「自宅で過ごしたい」割合

中央ブロック(55.7%) < 南ブロック(59.3%) < **全体(61.3%)** < 北ブロック(63.2%) < 西ブロック(65.7%)

②「医療・福祉施設で過ごしたい」割合

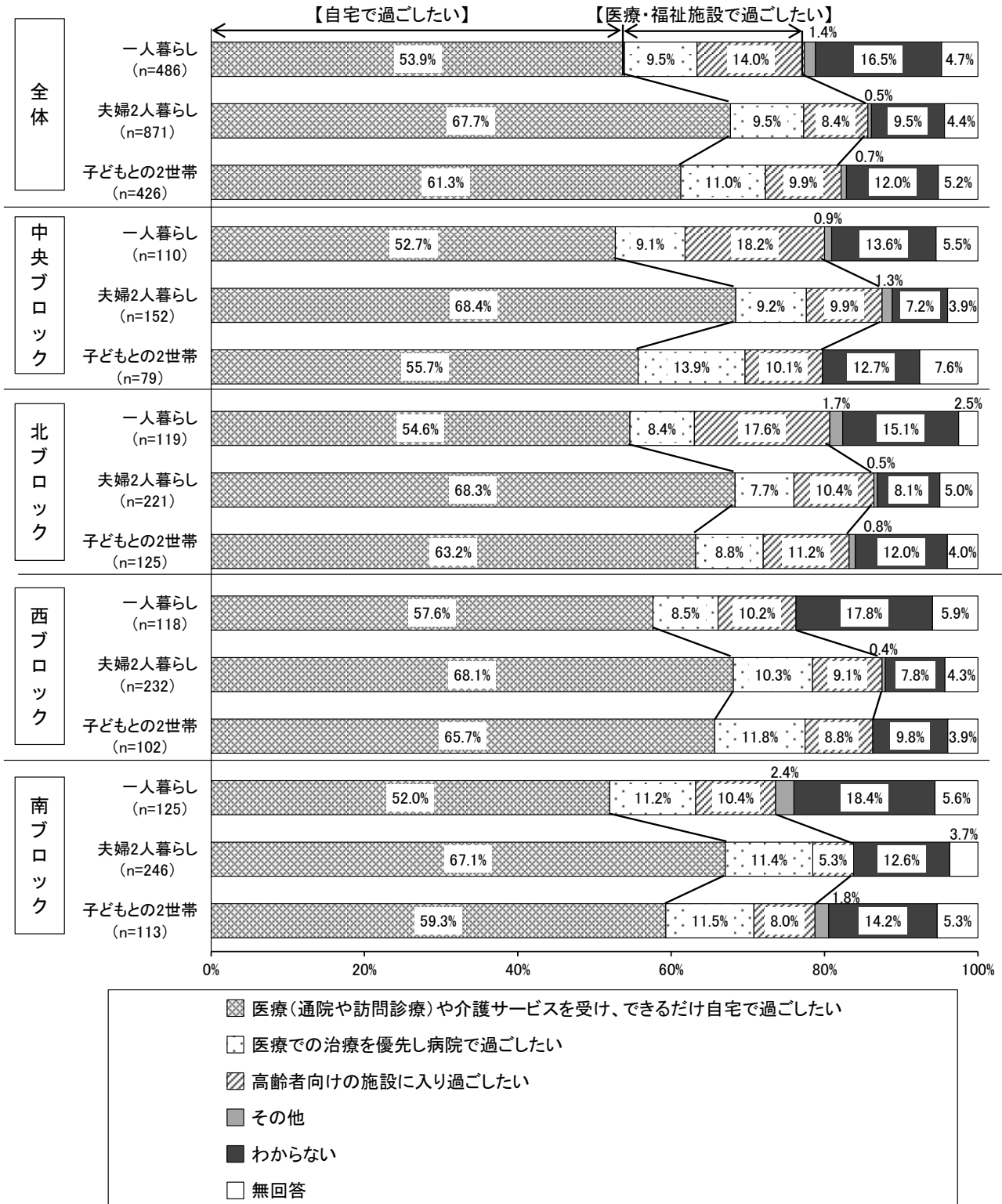
南ブロック(19.5%) < 北ブロック(20.0%) < 西ブロック(20.6%) < **全体(20.9%)** < 中央ブロック(24.0%)

図表1-11-7 自分自身が介護等が必要になった時、日常生活をどのように過ごしたいか(子どもとの2世帯、地域別)



<参考>

図表1-11-8 自分自身が介護等が必要になった時、日常生活をどのように過ごしたいか(地域別、家族構成別)



12. 認知症について(問11)

Q1. 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。

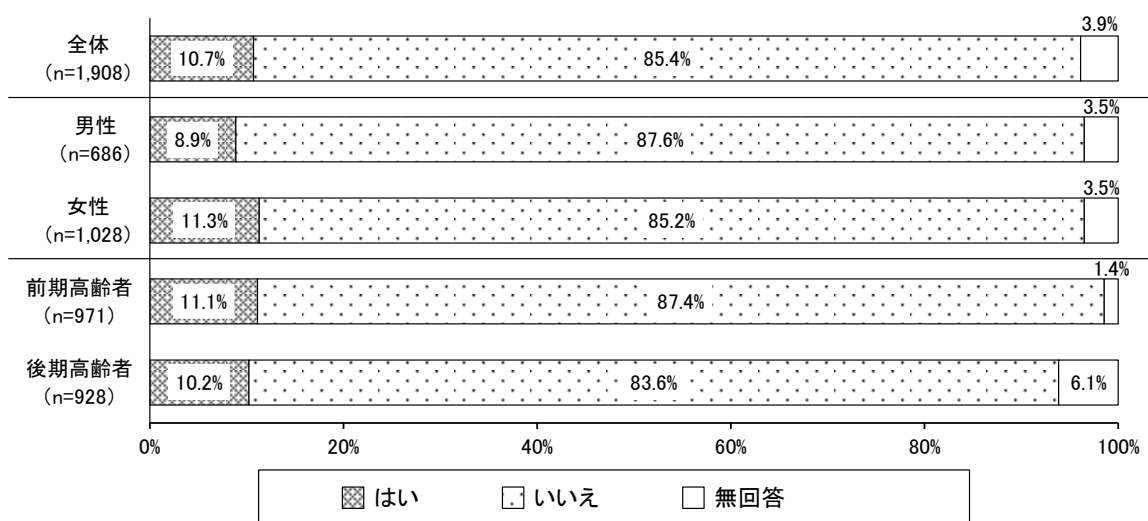
a. <全体、性別、年代別>

全体では、「いいえ」の割合が85.4%、「はい」が10.7%となっている。

性別で見ると、「はい」の割合(男性:8.9%、女性:11.3%)は、女性が男性を2.4ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:11.1%、後期高齢者:10.2%)は、前期高齢者が後期高齢者を0.9ポイント上回っている

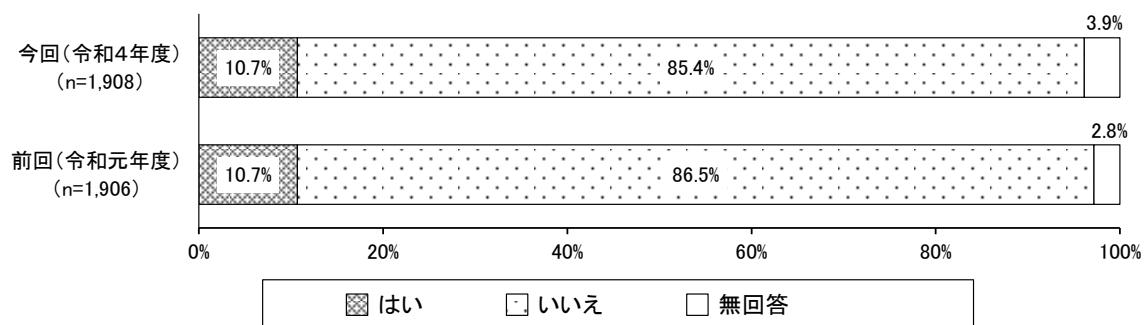
図表1-12-1 自分自身または家族に認知症の症状がある人がいるか



b. <前回調査との比較>

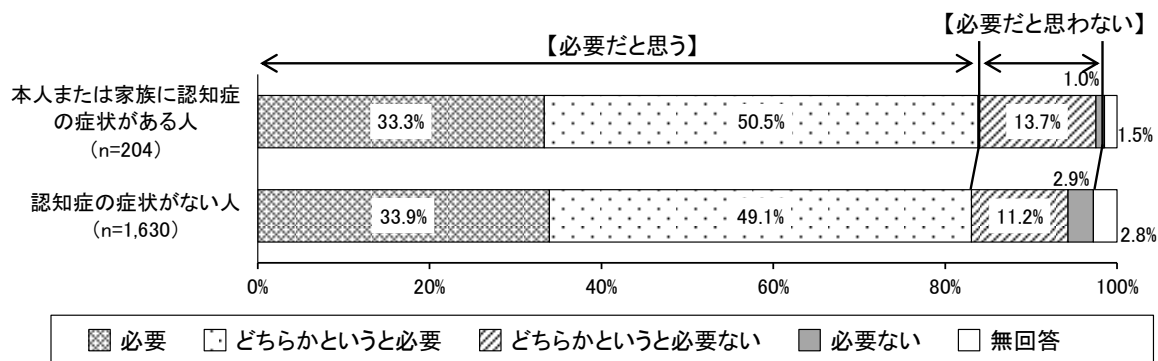
前回調査との比較では、「はい」の割合は同率となっている。

図表1-12-2 自分自身または家族に認知症の症状がある人がいるか(前回調査との比較)



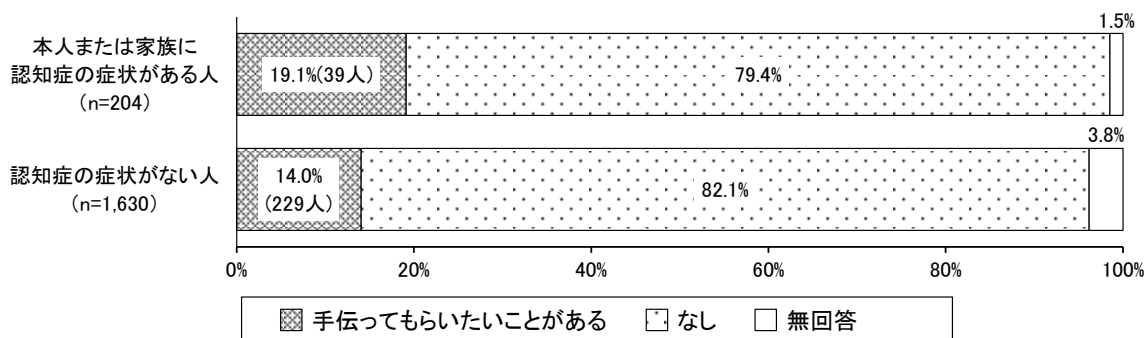
c. <問11 Q1. 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。>と
 <問8 Q8. 住民同士で互いに見守り、たすけあう仕組みが必要だと思いますか。(P71)>のクロス
 「必要だと思う」の割合は、「本人または家族に認知症の症状がある人」(83.8%)が「認知症の症状がない人」(83.0%)を0.8ポイント上回っている。

図表1-12-3 住民同士で互いに見守り、たすけあう仕組みの必要性(認知症の症状の有無別)



d. <問11 Q1. 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。>と
 <問8 Q9. 日常生活において、地域の人に何かお手伝いしてもらいたいことの有無。(P72)>のクロス
 「手伝ってもらいたいことがある」の割合は、「本人または家族に認知症の症状がある人」(19.1%)が「認知症の症状がない人」(14.0%)を5.1ポイント上回っている。

図表1-12-4 地域の人に手伝ってもらいたいことの有無(認知症の症状の有無別)



e. <問11 Q1. 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。>と
 <問8 Q9. 日常生活において、地域の人に何かお手伝いしてもらいたいことの内容(身体に触れることを除く)。(複数回答)(P72)>のクロス

手伝ってもらいたいことの内容を「本人または家族に認知症の症状がある人」で見ると、第1位は「買物や通院の送迎」と「庭の除草や剪定」が同率で30.8%となっている。次いで「話し相手」(28.2%)などが続いている。

「認知症の症状がない人」では、第1位は「庭の除草や剪定」(34.5%)となっている。第2位は「話し相手」(21.4%)、第3位は「買物や通院の送迎」と「ごみ出し」(同率で19.2%)となっている。

また、「買物や通院の送迎」の割合は、「本人または家族に認知症の症状がある人」が「認知症の症状がない人」を11.6ポイント上回っている。「話し相手」の割合は、「本人または家族に認知症の症状がある人」が「認知症の症状がない人」を6.8ポイント上回っている。

図表1-12-5 日常生活で地域の人に手伝ってもらいたいことの内容(認知症の症状の有無別)

	買物や通院の送迎	庭の除草や剪定	話し相手	食品や日用品の買出し	ごみ出し	お墓の掃除	室内の掃除	電球交換	洗濯	ペットの世話	食事の準備	金銭管理	その他のお手伝い
※P96を参照													
本人または家族に認知症の症状がある人で、手伝ってもらいたいことがある人 (n=39)	30.8%	30.8%	28.2%	12.8%	10.3%	7.7%	5.1%	5.1%	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%	7.7%
認知症の症状がない人で、手伝ってもらいたいことがある人 (n=229)	19.2%	34.5%	21.4%	14.0%	19.2%	3.9%	13.1%	11.4%	1.3%	2.2%	7.0%	0.0%	3.1%

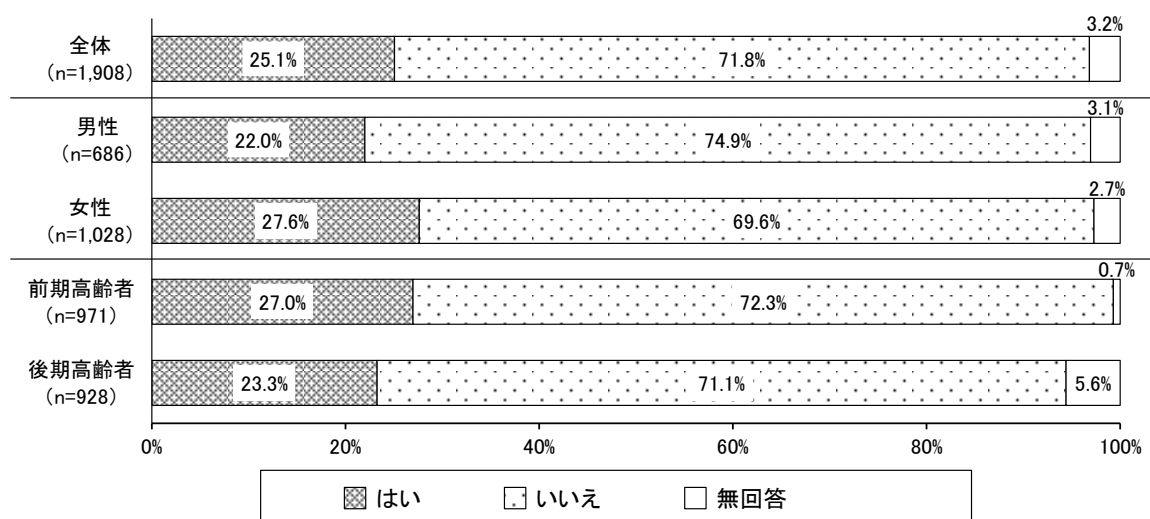
Q2. 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

全体では、「いいえ」の割合が71.8%、「はい」が25.1%となっている。

性別でみると、「はい」の割合(男性:22.0%、女性:27.6%)は女性が男性を5.6ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:27.0%、後期高齢者:23.3%)は前期高齢者が後期高齢者を3.7ポイント上回っている。

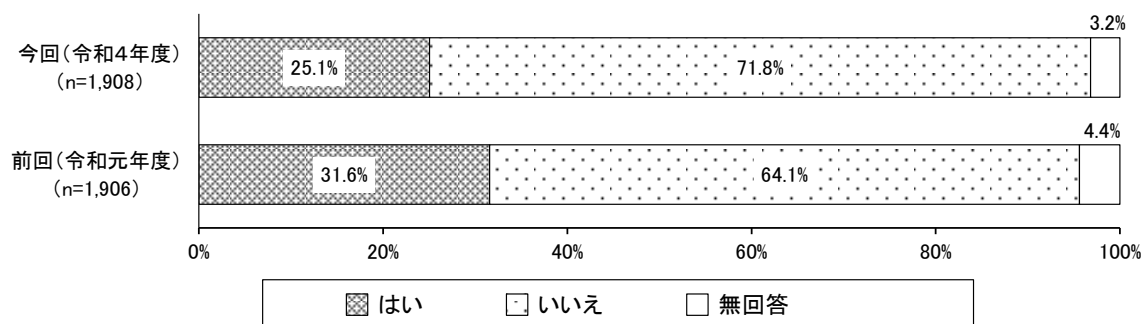
図表1-12-6 認知症に関する相談窓口の認知度



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「はい」の割合は6.5ポイント低下している。

図表1-12-7 認知症に関する相談窓口の認知度(前回調査との比較)



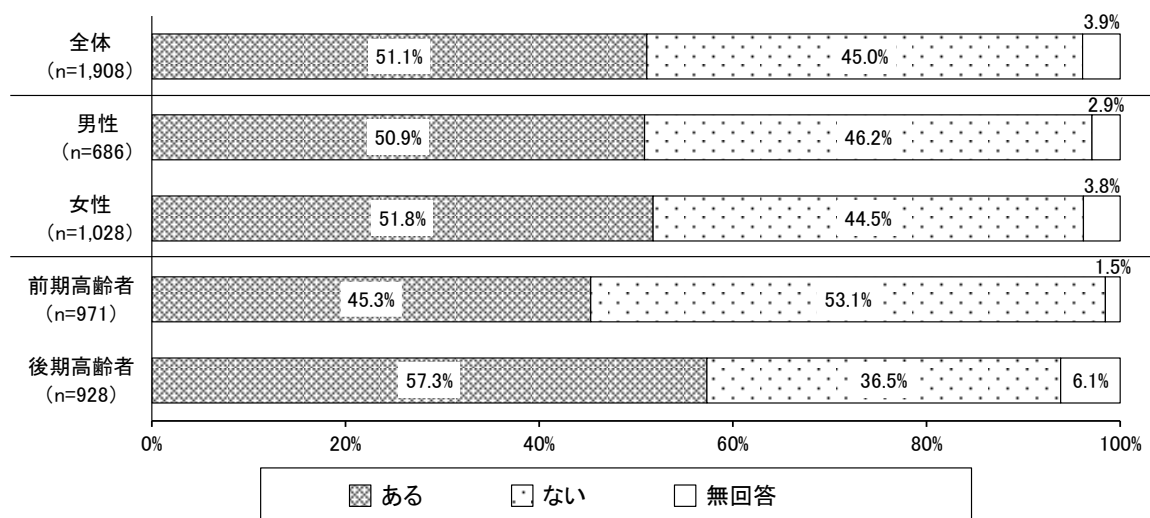
Q3. 認知症かもしれないと思った時に、相談できるかかりつけ医(医療機関)がありますか。

全体では、「ある」の割合は51.1%、「ない」は45.0%となっている。

性別でみると、「ある」の割合(男性:50.9%、女性:51.8%)は、女性が男性を0.9ポイント上回っている。

年代別では、「ある」の割合(前期高齢者:45.3%、後期高齢者:57.3%)は、後期高齢者が前期高齢者を12.0ポイント上回っている。

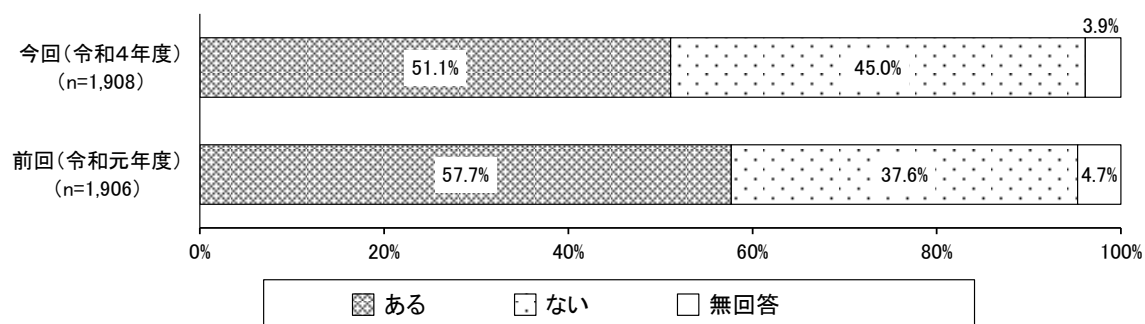
図表1-12-8 認知症かもしれないと思った時に、相談できるかかりつけ医の有無



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「ある」の割合は6.6ポイント低下している。

図表1-12-9 認知症かもしれないと思った時に、相談できるかかりつけ医の有無(前回調査との比較)



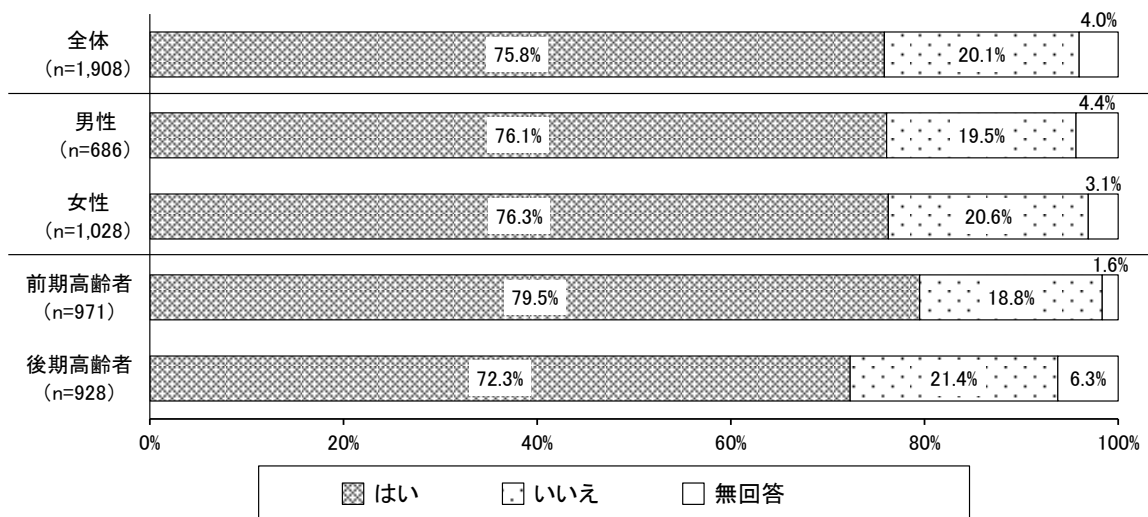
Q4. 道に迷っている高齢者(認知症の疑いのある)を発見した時に、声をかけることができると思いますか。

全体では、「はい」の割合は75.8%、「いいえ」は20.1%となっている。

性別で見ると、「はい」の割合(男性:76.1%、女性:76.3%)は、女性が男性を0.2ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合(前期高齢者:79.5%、後期高齢者:72.3%)は、前期高齢者が後期高齢者を7.2ポイント上回っている。

図表1-12-10 認知症の疑いがある人を見つけた時に、声をかけることができるか



13. 権利擁護について(問12)

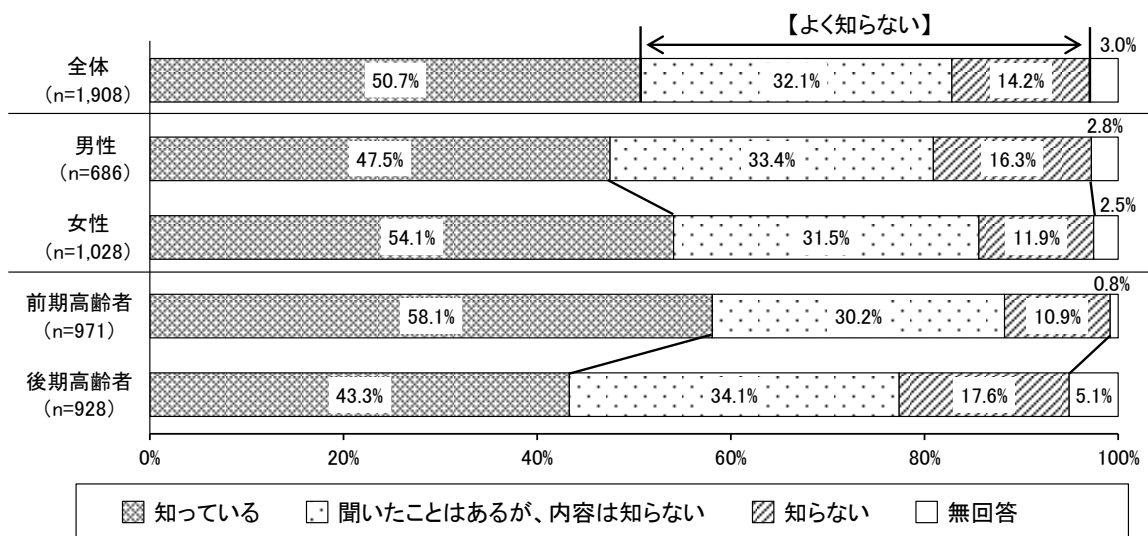
Q1. 高齢者の虐待には、①身体的虐待、②心理的虐待、③性的虐待、④経済的虐待、⑤介護・世話の放棄・放任(ネグレクト)があることを知っていますか。

全体では、「知っている」の割合は50.7%、「よく知らない」は46.3%となっている。

性別でみると、「知っている」の割合(男性:47.5%、女性:54.1%)は、女性が男性を6.6ポイント上回っている。

年代別では、「知っている」の割合(前期高齢者:58.1%、後期高齢者:43.3%)は前期高齢者が後期高齢者を14.8ポイント上回っている。

図表1-13-1 高齢者に対する虐待の認知度



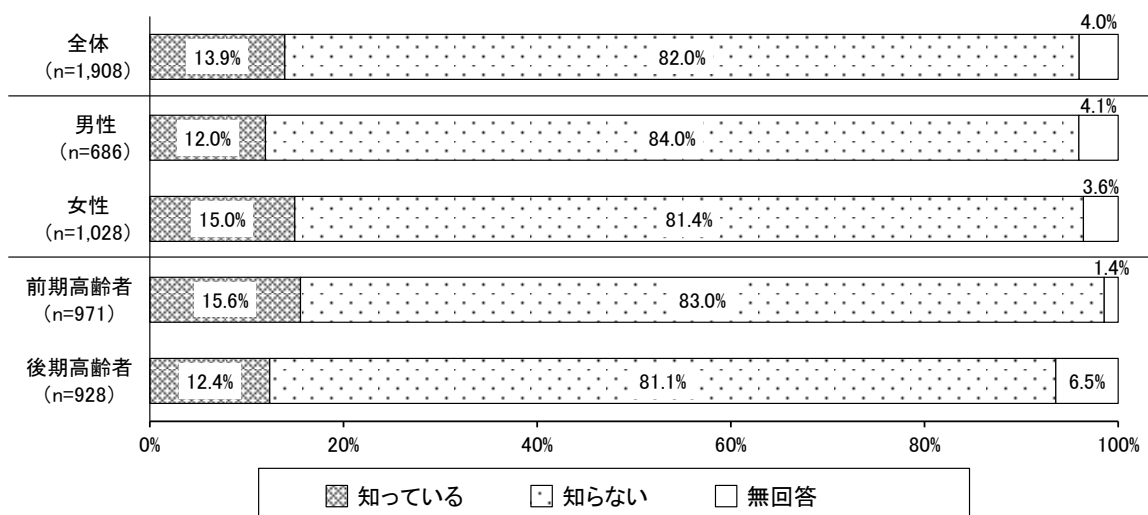
Q2. 高齢者虐待の相談窓口を知っていますか。

全体では、「知らない」の割合は82.0%で高く、「知っている」は13.9%となっている。

性別でみると、「知っている」の割合(男性:12.0%、女性:15.0%)は、女性が男性を3.0ポイント上回っている。

年代別では、「知っている」の割合(前期高齢者:15.6%、後期高齢者:12.4%)は前期高齢者が後期高齢者を3.2ポイント上回っている。

図表1-13-2 高齢者虐待の相談窓口の認知度



Q3. 自分自身が虐待を受けているかもしれないと感じたり、高齢者の虐待かもしれないと思えることを見たり聞いたりした時、あなたはどこ(だれ)に相談しますか。(複数回答)

全体では、「自分の家族」の割合が47.0%で最も高くなっている。次いで「市役所(地域包括ケア推進課、介護保険課)」(33.4%)、「地域包括支援センター」(26.3%)、「警察」(20.9%)などが続いている。

性別でみると、相談相手の上位2項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。「自分の家族」の割合(男性:42.6%、女性:51.5%)は女性が男性を8.9ポイント上回っている。「警察」(男性:26.2%、女性:17.7%)は男性が女性を8.5ポイント上回っている。

年代別では、相談相手の上位3項目の順位は前期高齢者、後期高齢者とも全体と同じとなっている。「市役所(地域包括ケア推進課、介護保険課)」の割合(前期高齢者:38.7%、後期高齢者:27.9%)と「警察」(前期高齢者:27.2%、後期高齢者:14.2%)は、前期高齢者が後期高齢者をそれぞれ10.8ポイント、13.0ポイント上回っている。

図表1-13-3 高齢者に対する虐待を見聞きした時の相談先

	自分の家族	市役所(地域包括ケア推進課、介護保険課)	地域包括支援センター	警察	民生委員	近所の人	担当ケアマネジャー	その他	相談しない
全体 (n=1,908)	47.0%	33.4%	26.3%	20.9%	16.1%	9.7%	8.2%	3.6%	3.7%
男性 (n=686)	42.6%	35.1%	23.5%	26.2%	14.6%	5.8%	6.9%	3.2%	5.5%
女性 (n=1,028)	51.5%	33.6%	29.5%	17.7%	17.9%	12.5%	8.8%	4.0%	2.3%
前期高齢者 (n=971)	47.8%	38.7%	28.5%	27.2%	14.1%	9.2%	7.9%	3.9%	3.1%
後期高齢者 (n=928)	46.2%	27.9%	23.9%	14.2%	18.3%	10.3%	8.4%	3.2%	4.3%

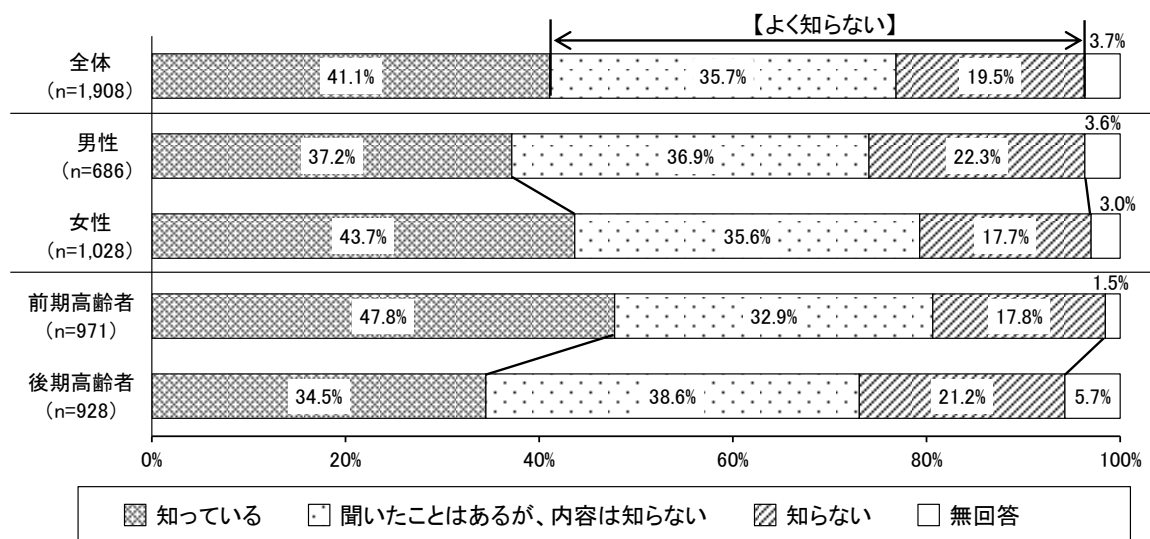
Q4. 認知症、知的障がいなどの理由で判断能力が不十分な方々の権利を守り、支援する(不動産や預貯金などの財産管理、介護サービスなどの契約等)成年後見制度を知っていますか。

全体では、「よく知らない」(「聞いたことはあるが、内容は知らない」と「知らない」の計:以下同じ)の割合は55.2%となっている。「知っている」は41.1%となっている。

性別でみると、「よく知らない」の割合(男性:59.2%、女性:53.3%)は、男性が女性を5.9ポイント上回っている。

年代別では、「よく知らない」の割合(前期高齢者:50.7%、後期高齢者:59.8%)は後期高齢者が前期高齢者を9.1ポイント上回っている。

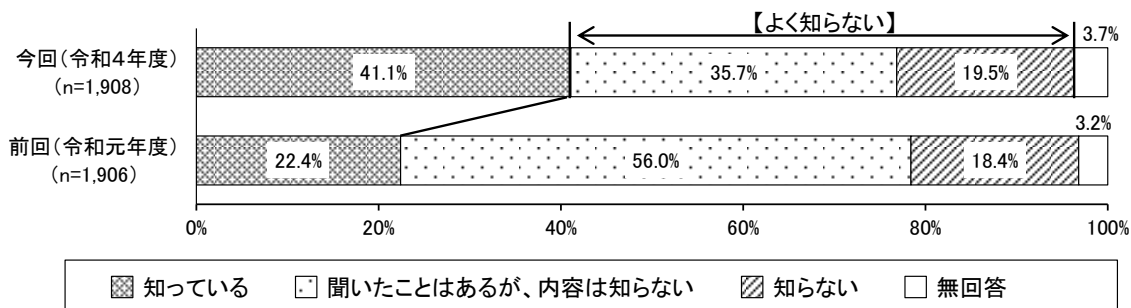
図表1-13-4 成年後見制度の認知度



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「よく知らない」の割合は前回は74.4%で、19.2ポイント低下している。

図表1-13-15 成年後見制度の認知度(前回調査との比較)



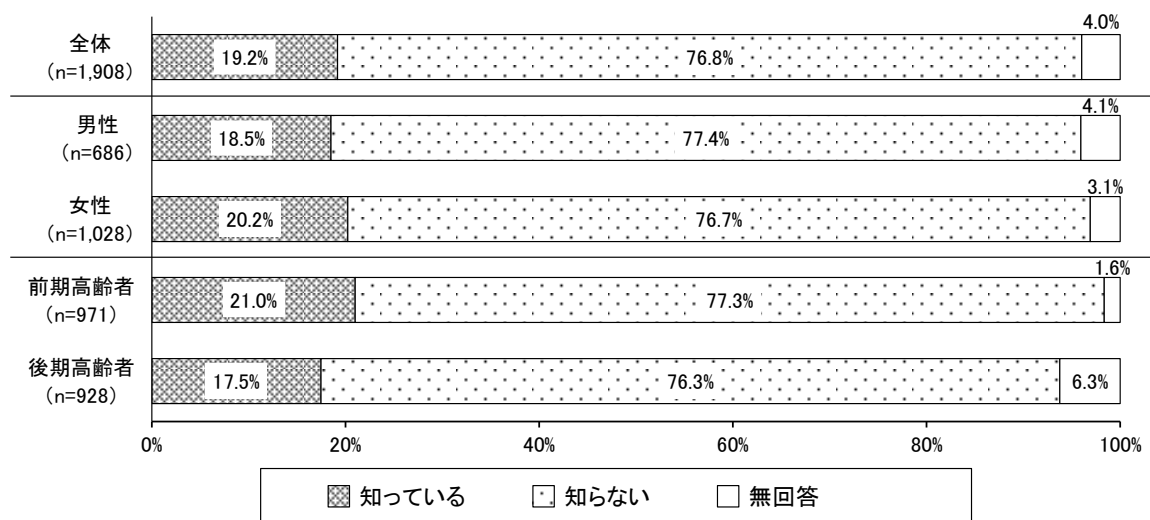
Q5. 成年後見制度の相談窓口を知っていますか。

全体では、「知らない」の割合が76.8%となっている。「知っている」は19.2%となっている。

性別でみると、「知らない」の割合(男性:77.4%、女性:76.7%)は、男性が女性を0.7ポイント上回っている。

年代別では、「知らない」の割合(前期高齢者:77.3%、後期高齢者:76.3%)は、前期高齢者が後期高齢者を1.0ポイント上回っている。

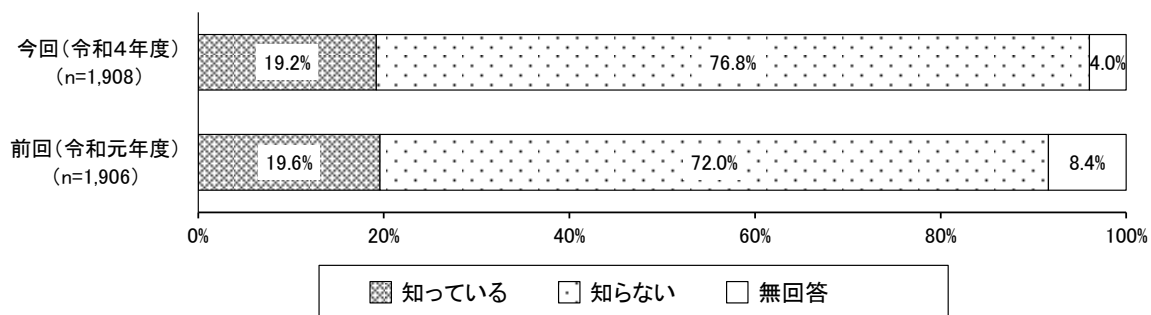
図表1-13-16 成年後見制度の相談窓口の認知度



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「知らない」の割合は4.8ポイント高まっている。

図表1-13-17 成年後見制度の相談窓口の認知度(前回調査との比較)



Q6. 成年後見制度を利用したいと思った時、あなたはどこ(だれ)に相談しますか。(複数回答)

全体では、「自分の家族」の割合が46.9%で最も高くなっている。次いで「市役所(福祉総務課)」(39.7%)、「地域包括支援センター」(21.4%)などが続いている。

性別でみると、「自分の家族」の割合(男性:41.1%、女性:51.6%)は、女性が男性を10.5ポイント上回っている。

年代別では、「市役所(福祉総務課)」の割合(前期高齢者:46.2%、後期高齢者:32.9%)は、前期高齢者が後期高齢者を13.3ポイント上回っている。

図表1-13-18 成年後見制度を利用したいと思った時の相談先

	自分の家族	市役所(福祉総務課)	地域包括支援センター	弁護士や司法書士	民生委員	公証人役場	担当ケアマネジャー	家庭裁判所	近所の人	介護保険事業所	その他	わからない
全体 (n=1,908)	46.9%	39.7%	21.4%	10.2%	8.2%	6.0%	5.1%	4.7%	1.7%	1.5%	1.5%	11.6%
男性 (n=686)	41.1%	41.8%	21.4%	11.5%	8.6%	5.0%	4.1%	6.0%	1.0%	1.6%	1.9%	12.7%
女性 (n=1,028)	51.6%	38.5%	22.3%	9.9%	8.3%	6.4%	5.4%	3.7%	1.9%	1.6%	1.3%	11.0%
前期高齢者 (n=971)	43.7%	46.2%	20.6%	12.4%	6.3%	7.0%	4.4%	5.5%	1.4%	2.2%	1.4%	13.1%
後期高齢者 (n=928)	50.3%	32.9%	22.3%	8.0%	10.3%	5.0%	5.8%	3.9%	1.9%	0.9%	1.6%	10.2%

14. その他(問13)

Q1. 次のサービスや事業で詳しく知りたいものはありますか。(複数回答)

全体では、「地域包括支援センターに相談できる内容について」の割合が34.1%で最も高くなっている。次いで「在宅生活を支援する医療(看護)や介護サービスについて」(29.5%)、「介護保険サービスの種類と利用料について」(26.9%)などが続いている。

性別、年代別でも、上位1項目の順位は全体と同じとなっている。

図表1-14-1 サービスや事業で詳しく知りたいもの

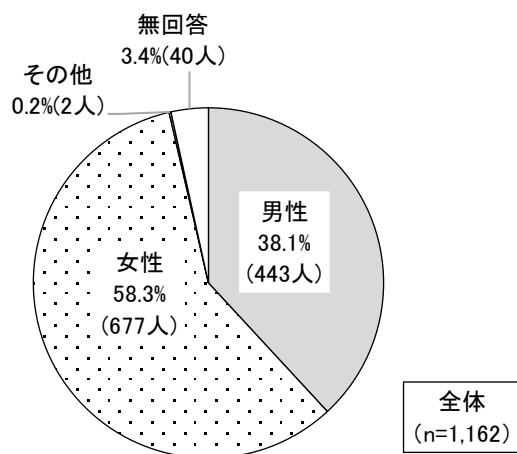
	地域包括支援センターに相談できる内容について	在宅生活を支援する医療(看護)や介護サービスについて	介護保険サービスの種類と利用料について	認知症の予防や治療について	介護保険の認定について	在宅での介護の仕方について	介護保険料の決め方や使われ方について	自費のサービス(商品配達サービス、家事代行サービス等)について	人生の最期を迎える人へのケアについて	住宅改修について	健康予防事業について	介護者同士の交流について	介護施設等でのボランティアについて	介護施設等での就労について	その他	特になし
全体 (n=1,908)	34.1%	29.5%	26.9%	19.2%	15.3%	14.4%	12.8%	12.3%	6.9%	6.5%	6.4%	1.8%	1.6%	0.8%	1.3%	25.6%
男性 (n=686)	34.7%	29.0%	27.7%	17.2%	16.5%	13.4%	12.5%	9.5%	6.1%	6.3%	4.8%	1.6%	0.7%	0.9%	0.9%	29.6%
女性 (n=1,028)	35.3%	31.2%	27.5%	21.2%	14.7%	15.7%	13.1%	15.2%	7.2%	6.5%	7.2%	1.9%	2.3%	0.8%	1.6%	23.5%
前期高齢者 (n=971)	35.6%	27.8%	26.2%	19.4%	14.5%	13.2%	15.1%	11.5%	6.6%	7.2%	6.9%	1.9%	1.6%	0.7%	1.1%	28.7%
後期高齢者 (n=928)	32.9%	31.5%	27.9%	19.1%	16.2%	15.7%	10.5%	13.3%	7.2%	5.7%	6.0%	1.8%	1.6%	0.9%	1.4%	22.5%

第3章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(第2号被保険者)の結果

1. 回答者の属性(問1)

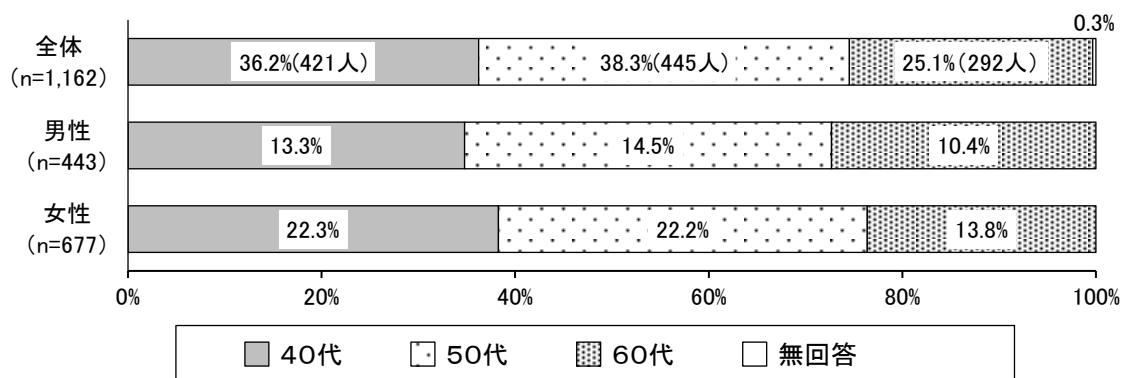
(1)性別[Q2]

図表2-1 性別



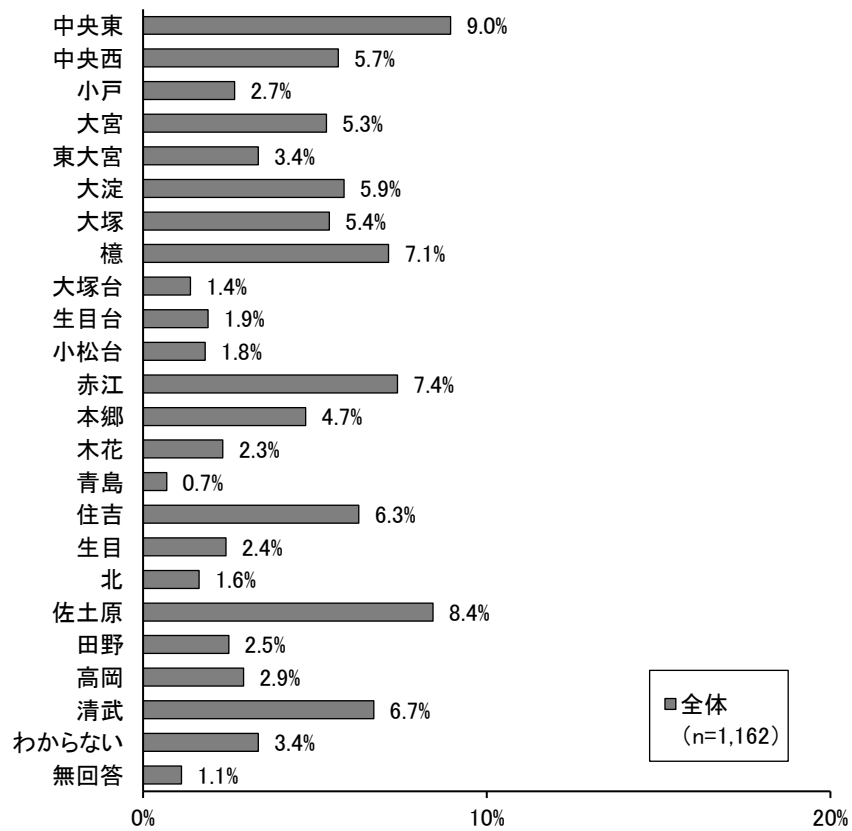
(2)年齢[Q1]

図表2-2 年齢



(3)住まい(地域自治区)[Q3]

図表2-3 住まい



(4)回答者自身の介護の経験[Q4(複数回答)]

全体では、「これまで介護には携わっていない」の割合が66.7%で最も高くなっている。次いで「過去に家庭内で介護をしていた」(16.4%)などが続いている。

性別で見ると、介護の経験の上位4項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。「これまで介護には携わっていない」の割合(男性:72.5%、女性:63.1%)は、男性が女性を9.4ポイント上回っている。「過去に家庭内で介護をしていた」(男性:11.3%、女性:20.1%)は、女性が男性を8.8ポイント上回っている。

年代別では、介護の経験の上位3項目の順位は各年代とも全体と同じとなっている。「これまで介護には携わっていない」の割合は年代が低くなるほど高まっている。また、「過去に家庭内で介護をしていた」と「現在家庭内で介護をしている」の割合は年代が高くなるほど高まっている。

図表2-4 介護の経験

	携これ わつ ま で い な い に は	介 護 を し て い た で	介 護 を し て い る	介 護 を し て い る 又 は 施 設 で	介 護 を し て い る	介 護 を し て い た	そ の 他
全体 (n=1,162)	66.7%	16.4%	7.2%	2.8%	0.7%	0.7%	6.0%
男性 (n=443)	72.5%	11.3%	7.2%	2.3%	0.7%	0.7%	5.2%
女性 (n=677)	63.1%	20.1%	7.1%	3.2%	0.7%	0.6%	6.6%
40代 (n=421)	78.9%	9.0%	3.3%	1.4%	1.4%	0.5%	5.5%
50代 (n=445)	65.6%	16.2%	7.9%	3.8%	0.0%	0.2%	6.5%
60代 (n=292)	51.4%	27.7%	11.3%	3.1%	0.7%	1.7%	6.2%

<前回調査との比較>

前回調査との比較では、介護の経験の順位は同じとなっている。

図表2-5 介護の経験(前回調査との比較)

	携これ わつ ま で い な い に は	介 護 を し て い た で	介 護 を し て い る	介 護 を し て い る 又 は 施 設 で	介 護 を し て い る	介 護 を し て い た	そ の 他
今回(令和4年度) (n=1,162)	66.7%	16.4%	7.2%	2.8%	0.7%	0.7%	6.0%
前回(令和元年度) (n=385)	64.4%	17.7%	7.5%	1.6%	1.0%	1.0%	3.9%

(5)住宅の形態[Q5]

図表2-6 住宅の形態

	持家 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅	借家	民間賃貸住宅 (一戸建て)	その他	無回答	合計
全体 (n=1,162)	61.7%	17.3%	10.7%	3.5%	3.2%	2.6%	0.9%	0.2%	100.0%
男性 (n=443)	64.3%	16.5%	9.3%	2.9%	3.4%	2.0%	1.6%	0.0%	100.0%
女性 (n=677)	60.3%	17.7%	11.7%	4.0%	3.0%	2.8%	0.4%	0.1%	100.0%
40代 (n=421)	58.0%	20.4%	8.6%	4.0%	4.8%	3.6%	0.7%	0.0%	100.0%
50代 (n=445)	60.0%	18.2%	12.6%	3.1%	3.1%	1.8%	1.1%	0.0%	100.0%
60代 (n=292)	69.9%	11.3%	11.0%	3.4%	1.0%	2.4%	0.7%	0.3%	100.0%

<前回調査との比較>

図表2-7 住宅の形態(前回調査との比較)

	持家 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅	借家	民間賃貸住宅 (一戸建て)	その他	無回答	合計
今回(令和4年度) (n=1,162)	61.7%	17.3%	10.7%	3.5%	3.2%	2.6%	0.9%	0.2%	100.0%
前回(令和元年度) (n=385)	65.7%	12.2%	7.8%	4.7%	4.4%	1.3%	1.8%	2.1%	100.0%

2. 仕事やセカンドライフ(老後)への考えについて(問2)

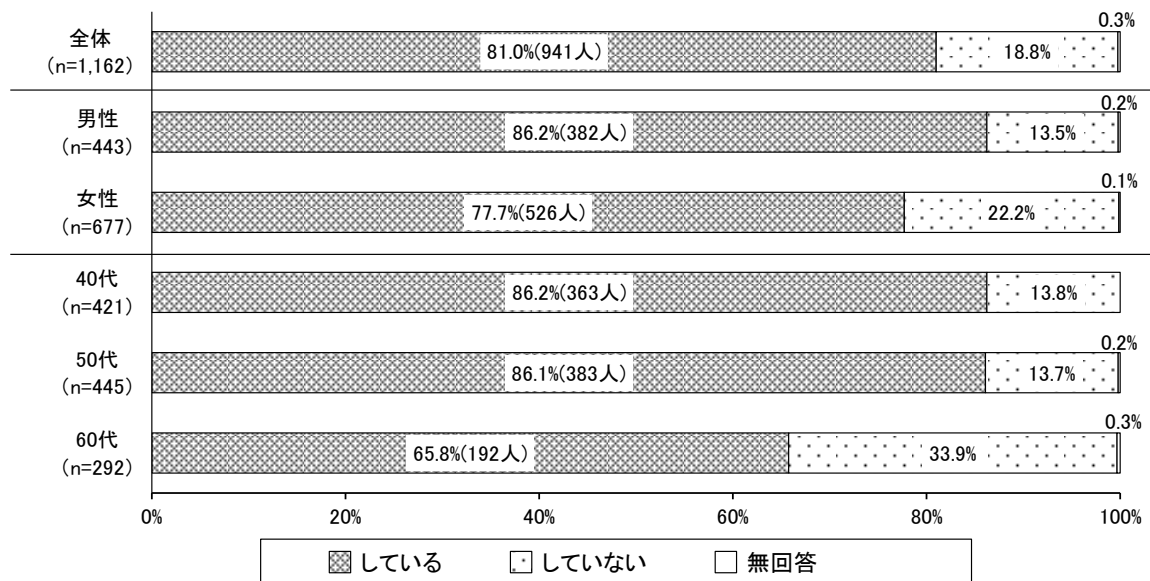
Q1. あなたは現在、就労していますか(収入を得て仕事をしていますか)。

全体では、「仕事をしている」の割合は81.0%となっている。

性別で見ると、「仕事をしている」の割合(男性:86.2%、女性:77.7%)は男性が女性を8.5ポイント上回っている。

年代別では、「仕事をしている」の割合は、年代が高くなるほど低くなっている。

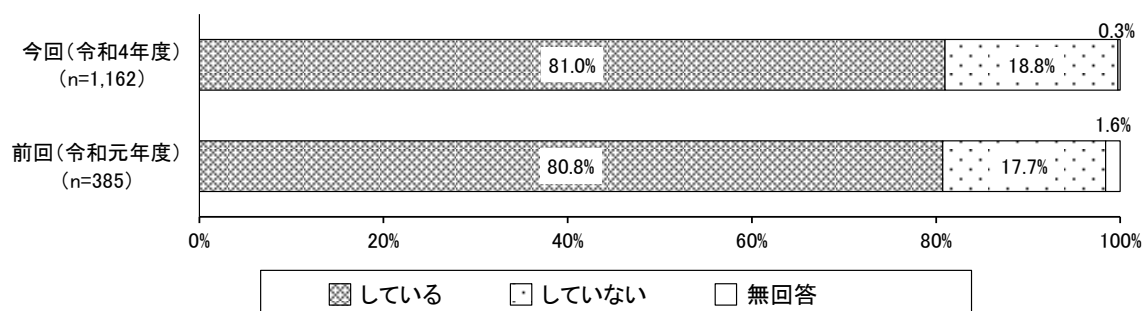
図表2-2-1 就労状況



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「仕事をしている」の割合は0.2ポイント高まっている。

図表2-2-2 就労状況(前回調査との比較)



<仕事をしている人>

Q1-1. 何歳まで働きたいですか。仕事の種類や就労時間は問いません。

全体では、「65歳くらいまで」の割合が35.6%で最も高く、次いで「働けるうちはいつまでも」(23.0%)などが続いている。

性別で見ると、男女とも「65歳くらいまで」の割合が最も高い。次に割合が高いのは、男性は「70歳くらいまで」(23.3%)、女性は「働けるうちはいつまでも」(26.0%)となっている。

年代別では、各年代とも「65歳くらいまで」の割合が最も高い。また、「70歳くらいまで」の割合は、年代が高くなるほど高まっている。

図表2-2-3 就労を希望する年齢

	60歳くらいまで	65歳くらいまで	70歳くらいまで	75歳くらいまで	80歳くらいまで	働けるうちはいつまでも	その他	無回答	合計
※P111を参照									
仕事をしている人 (n=941)	14.9%	35.6%	19.3%	4.9%	0.5%	23.0%	1.2%	0.6%	100.0%
男性 (n=382)	14.4%	35.6%	23.3%	5.8%	0.3%	18.8%	1.0%	0.8%	100.0%
女性 (n=526)	15.8%	35.2%	16.3%	4.0%	0.8%	26.0%	1.3%	0.6%	100.0%
40代 (n=363)	18.7%	34.4%	14.6%	1.7%	0.8%	27.8%	1.7%	0.3%	100.0%
50代 (n=383)	18.0%	35.8%	18.5%	6.5%	0.5%	19.6%	0.8%	0.3%	100.0%
60代 (n=192)	1.6%	37.5%	29.7%	7.8%	0.0%	20.3%	1.0%	2.1%	100.0%

<前回調査との比較>

前回調査との比較では、上位5項目の順位は同じとなっている。

図表2-2-4 就労を希望する年齢(前回調査との比較)

	60歳くらいまで	65歳くらいまで	70歳くらいまで	75歳くらいまで	80歳くらいまで	働けるうちはいつまでも	その他	仕事をしたいと思わない	無回答	合計
今回(令和4年度) (n=1,162)	14.9%	35.6%	19.3%	4.9%	0.5%	23.0%	1.2%	-	0.6%	100.0%
前回(令和元年度) (n=311)	13.5%	34.4%	19.3%	2.6%	1.3%	26.0%	0.3%	1.9%	0.6%	100.0%

Q2. あなたが、セカンドライフ(老後)の「生きがい」として考えているものは何ですか。(〇は2つまで)

全体では、「趣味や娯楽」の割合が53.3%で最も高く、次いで「家族との関わり」(48.9%)、「買物や旅行」(28.0%)、「友人・知人との交流」(25.6%)などが続いている。

性別で見ると、「趣味や娯楽」の割合(男性:63.9%、女性:46.8%)は、男性が女性を17.1ポイント上回っている。また、「友人・知人との交流」(男性:18.7%、女性:30.6%)は11.9ポイント、「家族との関わり」(男性:44.9%、女性:51.7%)は6.8ポイント、「買物や旅行」(男性:23.9%、女性:30.7%)は6.8ポイント女性が男性を上回っている。

年代別では、「趣味や娯楽」と「買物や旅行」の割合は年代が高くなるほど低くなっている。また、「友人・知人との交流」の割合は年代が高くなるほど高まっている。

図表2-2-5 セカンドライフ(老後)の生きがい

	趣味や娯楽	家族との関わり	買物や旅行	友人・知人との交流	仕事	スポーツ	学習や教養を高める活動	ボランティア活動	地域での活動	老人クラブ(さんさんクラブ)活動	その他
全体 (n=1,162)	53.3%	48.9%	28.0%	25.6%	7.9%	7.1%	6.3%	4.6%	1.8%	0.4%	1.9%
男性 (n=443)	63.9%	44.9%	23.9%	18.7%	8.4%	9.3%	6.8%	3.2%	2.5%	0.2%	1.6%
女性 (n=677)	46.8%	51.7%	30.7%	30.6%	7.5%	5.9%	5.9%	5.6%	1.5%	0.6%	2.1%
40代 (n=421)	55.6%	48.7%	28.5%	24.2%	6.2%	6.4%	5.5%	4.0%	2.1%	0.5%	2.6%
50代 (n=445)	54.2%	46.3%	29.4%	26.3%	8.3%	9.0%	7.0%	5.8%	1.6%	0.4%	1.3%
60代 (n=292)	48.6%	53.8%	25.0%	27.1%	9.9%	5.1%	6.5%	3.8%	1.7%	0.3%	1.7%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、上位の8項目の順位はこれまでと同じとなっている。「趣味や娯楽」(前々回から3.9ポイント、前回から7.1ポイント)、「家族との関わり」(前々回から8.8ポイント、前回から8.9ポイント)、「買物や旅行」(前々回から5.9ポイント、前回から1.5ポイント)、「友人・知人との交流」(前々回から4.9ポイント、前回から2.0ポイント)は割合が高まっている。また、「仕事」の割合は前々回から12.1ポイント、前回から3.8ポイント低下している。

図表2-2-6 セカンドライフ(老後)の生きがい(過去2回の調査との比較)

	趣味や娯楽	家族との関わり	買物や旅行	友人・知人との交流	仕事	スポーツ	学習や教養を高める活動	ボランティア活動	地域での活動	（さんさんクラブ）活動	老人クラブ	その他
今回(令和4年度) (n=1,162)	53.3%	48.9%	28.0%	25.6%	7.9%	7.1%	6.3%	4.6%	1.8%	0.4%	1.9%	
前回(令和元年度) (n=385)	46.2%	40.0%	26.5%	23.6%	11.7%	10.4%	7.8%	2.9%	0.0%	0.5%	2.3%	
前々回(平成28年度) (n=421)	49.4%	40.1%	22.1%	20.7%	20.0%	15.7%	9.0%	6.2%	0.2%	0.5%	1.7%	

割合が高まる傾向 割合が低下傾向

Q3. あなたが、セカンドライフを自分らしくいきいきと生活するにあたり、心配なことや不安に感じていることはありますか。(複数回答)

全体では、「身体機能の衰えへの不安」の割合(58.5%)、次いで「経済的な不安」(56.8%)で半数以上となっている。

性別で見ると、項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。また、第3位の「病気や障がい等への不安」の割合(男性:49.7%、女性:39.4%)は男性が女性を10.3ポイント上回っている。

年代別では、「身体機能の衰えへの不安」の割合は年代が高くなるほど高まっている。「経済的な不安」の割合は年代が高くなるほど低下している。

図表2-2-7 セカンドライフ(老後)の心配なことや不安

	身体機能の衰えへの不安	経済的な不安	病気や障がい等への不安	家族・親族等への不安	「生きがい」や「楽しみ」を持てるか不安	地域と上手く関わっていきけるか不安	その他
全体 (n=1,162)	58.5%	56.8%	43.3%	12.0%	8.0%	3.4%	1.8%
男性 (n=443)	58.7%	55.3%	49.7%	9.0%	8.1%	3.4%	1.4%
女性 (n=677)	58.6%	57.9%	39.4%	14.0%	7.5%	3.5%	2.2%
40代 (n=421)	50.1%	62.0%	48.2%	11.4%	8.3%	4.3%	1.4%
50代 (n=445)	62.2%	62.0%	38.2%	12.1%	7.9%	3.1%	1.1%
60代 (n=292)	65.8%	41.4%	44.5%	12.3%	7.9%	2.7%	3.4%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、項目の順位は同じとなっている。

図表2-2-8 セカンドライフ(老後)の心配なことや不安(過去2回の調査との比較)

	身体機能の衰えへの不安	経済的な不安	病気や障がい等への不安	家族・親族等への不安	「生きがい」や「楽しみ」を持てるか不安	地域と上手く関わっていけるか不安	その他
今回(令和4年度) (n=1,162)	58.5%	56.8%	43.3%	12.0%	8.0%	3.4%	1.8%
前回(令和元年度) (n=385)	54.8%	51.4%	42.1%	13.5%	6.0%	3.9%	2.6%
前々回(平成28年度) (n=421)	59.6%	55.8%	42.8%	10.7%	8.6%	3.1%	2.4%

3. あなたの介護に関する考え方について(問3)

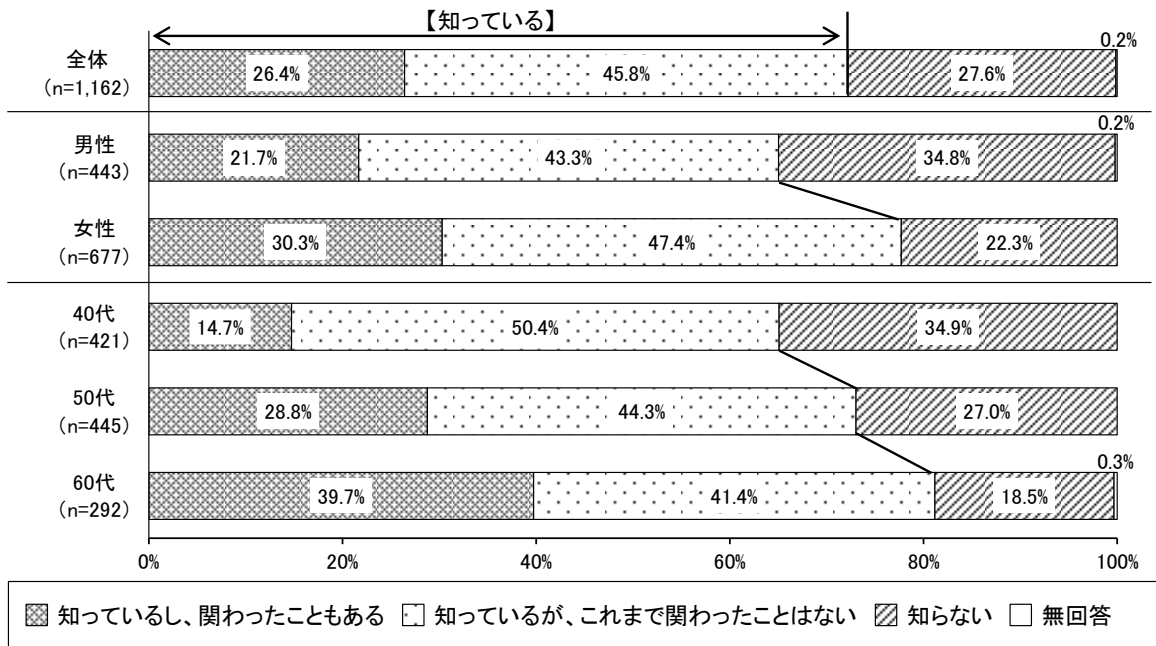
Q1. 高齢者の介護や日常生活の困りごとに関する総合相談窓口として、各地域に市が委託している地域包括支援センターがあることを知っていますか。

全体では、「知っている」(「知っているし、関わったこともある」と「知っているが、これまで関わったことはない」の計:以下同じ)の割合は72.2%となっている。「知らない」は27.6%となっている。

性別では、男女とも「知っている」の割合(男性:65.0%、女性:77.7%)は女性が男性を12.7ポイント上回っている。

年代別では、「知っている」の割合は、年代が高くなるほど高まっている。

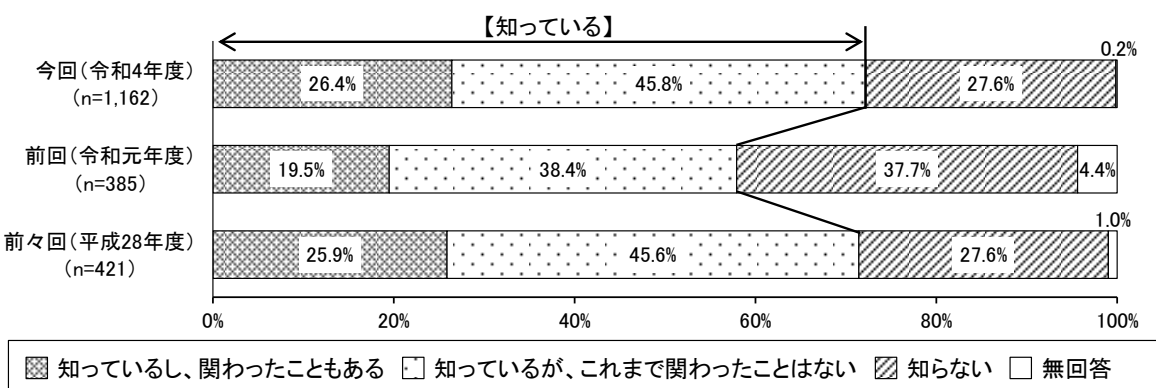
図表2-3-1 地域包括支援センターの認知度



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「知っている」の割合は前々回が71.5%、前回は57.9%で、前々回から0.7ポイント、前回から14.3ポイント高まっている。

図表2-3-2 地域包括支援センターの認知度(過去2回の調査との比較)



Q2. 同居のご家族に○をつけてください。(複数回答)

全体では、「配偶者」の割合が64.1%で最も高く、次いで「息子・娘(息子・娘の配偶者も含む)」(46.0%)などが続いている。

性別では、同居家族の上位7項目の順位は男女とも全体と同じになっている。「息子・娘(息子・娘の配偶者も含む)」の割合(男性:38.6%、女性:52.0%)は、女性が男性を13.4ポイント上回っている。

年代別では、「息子・娘(息子・娘の配偶者も含む)」の割合は年代が高くなるほど低くなっている。なお、「同居の家族はいない」の割合は年代が高くなるほど高くなっている。

図表2-3-3 同居している家族

	配偶者	息子・娘 (息子・娘の配偶者も含む)	母親 (配偶者の母親を含む)	父親 (配偶者の父親を含む)	兄弟姉妹	孫	祖母 (配偶者の祖母を含む)	祖父 (配偶者の祖父を含む)	その他の方	同居の家族はいない
全体 (n=1,162)	64.1%	46.0%	18.2%	9.5%	2.8%	0.7%	0.3%	0.2%	1.8%	12.8%
男性 (n=443)	64.1%	38.6%	19.9%	11.1%	1.8%	0.7%	0.0%	0.2%	2.0%	15.8%
女性 (n=677)	64.4%	52.0%	17.6%	8.4%	2.8%	0.7%	0.4%	0.1%	1.6%	10.6%
40代 (n=421)	62.9%	63.2%	23.3%	16.2%	3.3%	0.2%	0.5%	0.2%	2.1%	8.8%
50代 (n=445)	64.5%	40.9%	17.1%	6.3%	2.5%	0.2%	0.2%	0.2%	2.0%	12.8%
60代 (n=292)	65.4%	29.1%	13.0%	4.5%	2.4%	2.1%	0.0%	0.0%	1.0%	18.5%

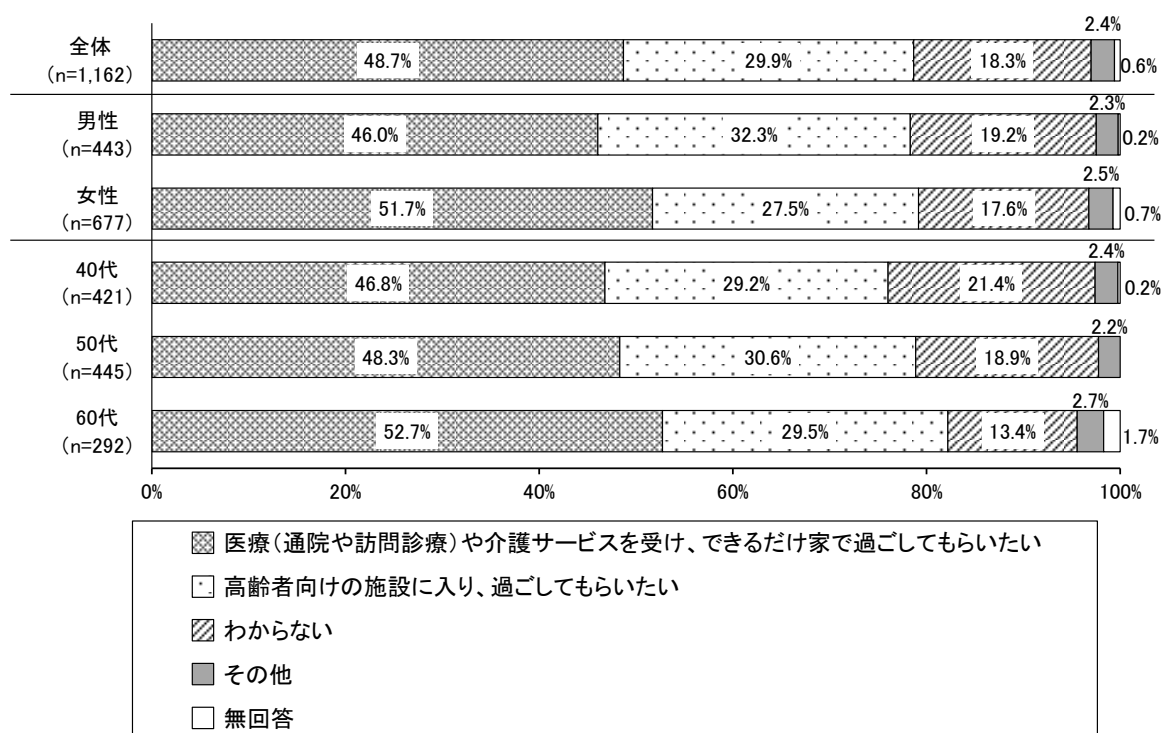
Q3. あなたの家族が介護を必要とし、あなたが主介護者となった時に(現在、主介護者となっている場合も含む)、その方にどのような生活を送ってみたいですか。

全体では、「医療(通院や訪問診療)や介護サービスを受け、できるだけ家で過ごしてもらいたい」の割合が48.7%で最も高く、次が「高齢者向けの施設に入り、過ごしてもらいたい」(29.9%)となっている。

性別でみると、「医療(通院や訪問診療)や介護サービスを受け、できるだけ家で過ごしてもらいたい」の割合(男性:46.0%、女性:51.7%)が男女とも最も高くなっている。

年代別では、「医療(通院や訪問診療)や介護サービスを受け、できるだけ家で過ごしてもらいたい」の割合は年代が高くなるほど高まっている。

図表2-3-4 介護が必要となった家族にどのような生活を送ってみたいか



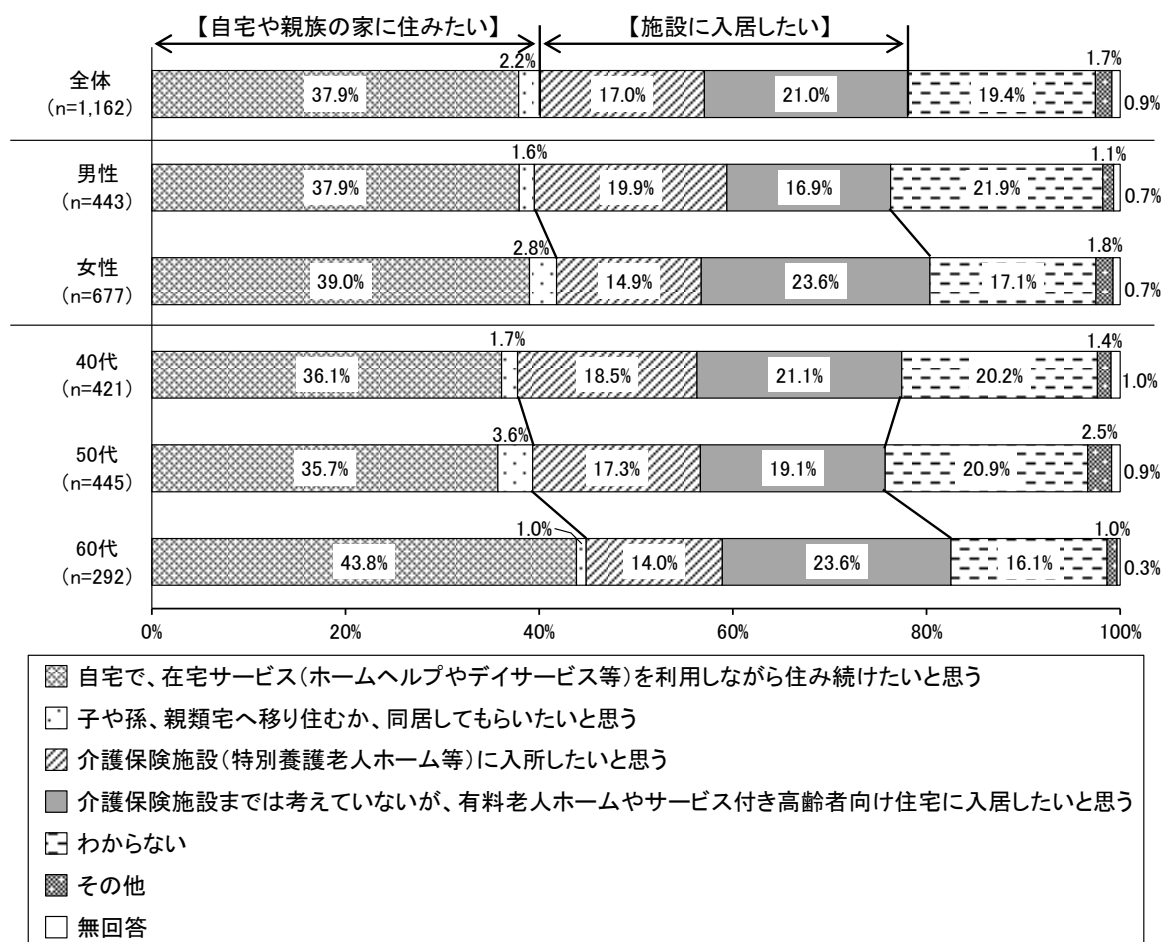
Q4. あなた自身が介護が必要となった時(現在介護を受けている方も含む)、現在のお住まいから介護サービスが付いている住宅・施設等に住み替えたいと思いますか。

全体では、「自宅や親族の家に住みたい」(「自宅で、在宅サービス(ホームヘルプやデイサービス等)を利用しながら住み続けたいと思う」と「子や孫、親類宅へ移り住むか、同居してもらいたいと思う」の計:以下同じ)の割合は40.1%となっている。「施設に入居したい」(「介護保険施設(特別養護老人ホーム等)に入所したいと思う」と「介護保険施設までは考えていないが、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に入居したいと思う」の計:以下同じ)の割合は38.0%となっている。

性別でみると、「自宅や親族の家に住みたい」の割合(男性:39.5%、女性41.8%)は、女性が男性を2.3ポイント上回っている。

年代別では、「自宅や親族の家に住みたい」の割合(40代:37.8%、50代:39.3%、60代:44.8%)は年代が高くなるほど高まっている。

図表2-3-5 自分自身が介護が必要となった時の住まいの希望



<家族構成別、地域4ブロック別>

22の地域自治区は、下記の通り4ブロックに区分している。

- (1)中央ブロック(中央東、中央西、小戸、檜)
- (2)北ブロック(大宮、東大宮、住吉、北、佐土原)
- (3)西ブロック(大淀、大塚、大塚台、生目台、小松台、生目、高岡)
- (4)南ブロック(赤江、本郷、木花、青島、田野、清武)

(1)1人暮らし

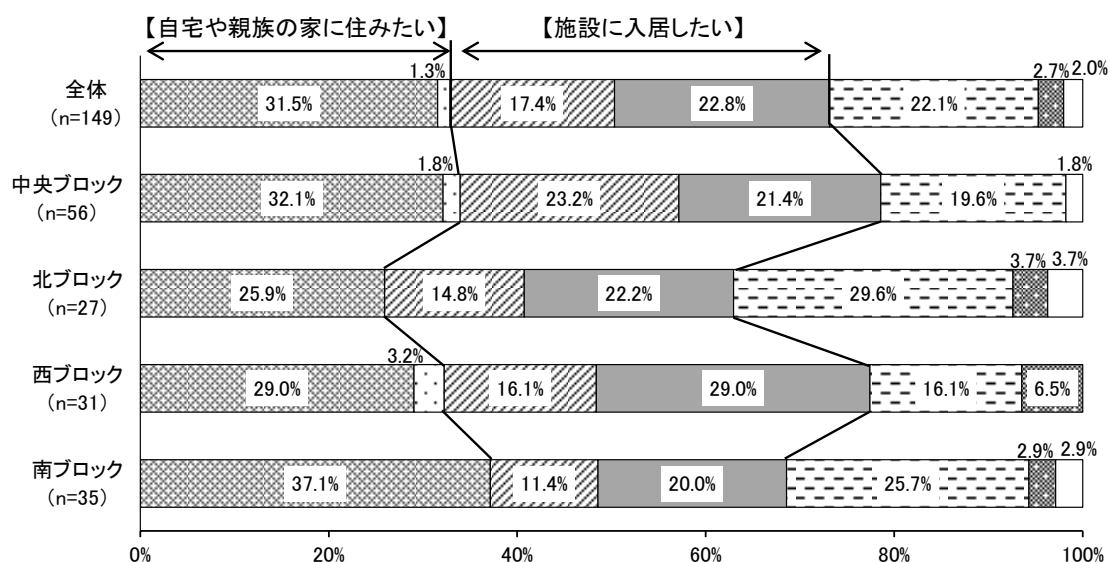
①「自宅や親族の家に住みたい」割合

北ブロック(25.9%) < 西ブロック(32.2%) < 全体(32.8%) < 中央ブロック(33.9%) < 南ブロック(37.1%)

②「施設に入居したい」割合

南ブロック(31.4%) < 北ブロック(37.0%) < 全体(40.2%) < 中央ブロック(44.6%) < 西ブロック(45.1%)

図表2-3-6 自分自身が介護が必要となった時の住まいの希望(1人暮らし、地域別)



- 自宅で、在宅サービス(ホームヘルプやデイサービス等)を利用しながら住み続けたいと思う
- 子や孫、親類宅へ移り住むか、同居してもらいたいと思う
- ▨ 介護保険施設(特別養護老人ホーム等)に入所したいと思う
- 介護保険施設までは考えていないが、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に入居したいと思う
- わからない
- その他
- 無回答

(2) 夫婦2人暮らし

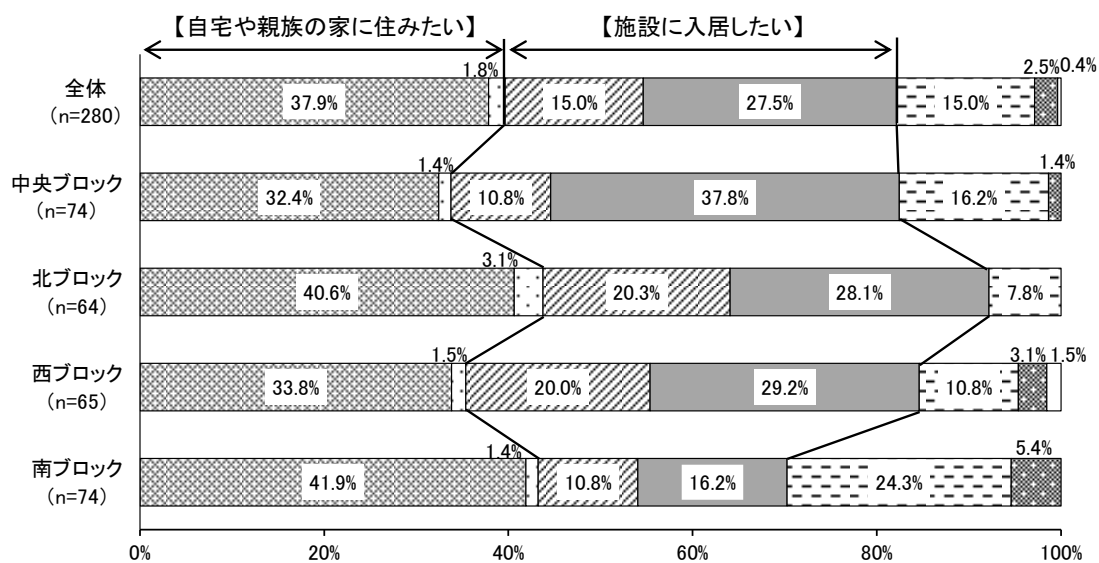
①「自宅や親族の家に住みたい」割合

中央ブロック(33.8%) < 西ブロック(35.3%) < **全体(39.7%)** < 南ブロック(43.3%) < 北ブロック(43.7%)

②「施設に入居したい」割合

南ブロック(27.0%) < **全体(42.5%)** < 北ブロック(48.4%) < 中央ブロック(48.6%) < 西ブロック(49.2%)

図表2-3-7 自分自身が介護が必要となった時の住まいの希望(夫婦2人暮らし、地域別)



- 自宅で、在宅サービス(ホームヘルプやデイサービス等)を利用しながら住み続けたいと思う
- 子や孫、親類宅へ移り住むか、同居してもらいたいと思う
- ▨ 介護保険施設(特別養護老人ホーム等)に入所したいと思う
- 介護保険施設までは考えていないが、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に入居したいと思う
- わからない
- その他
- 無回答

(3) 2世帯以上

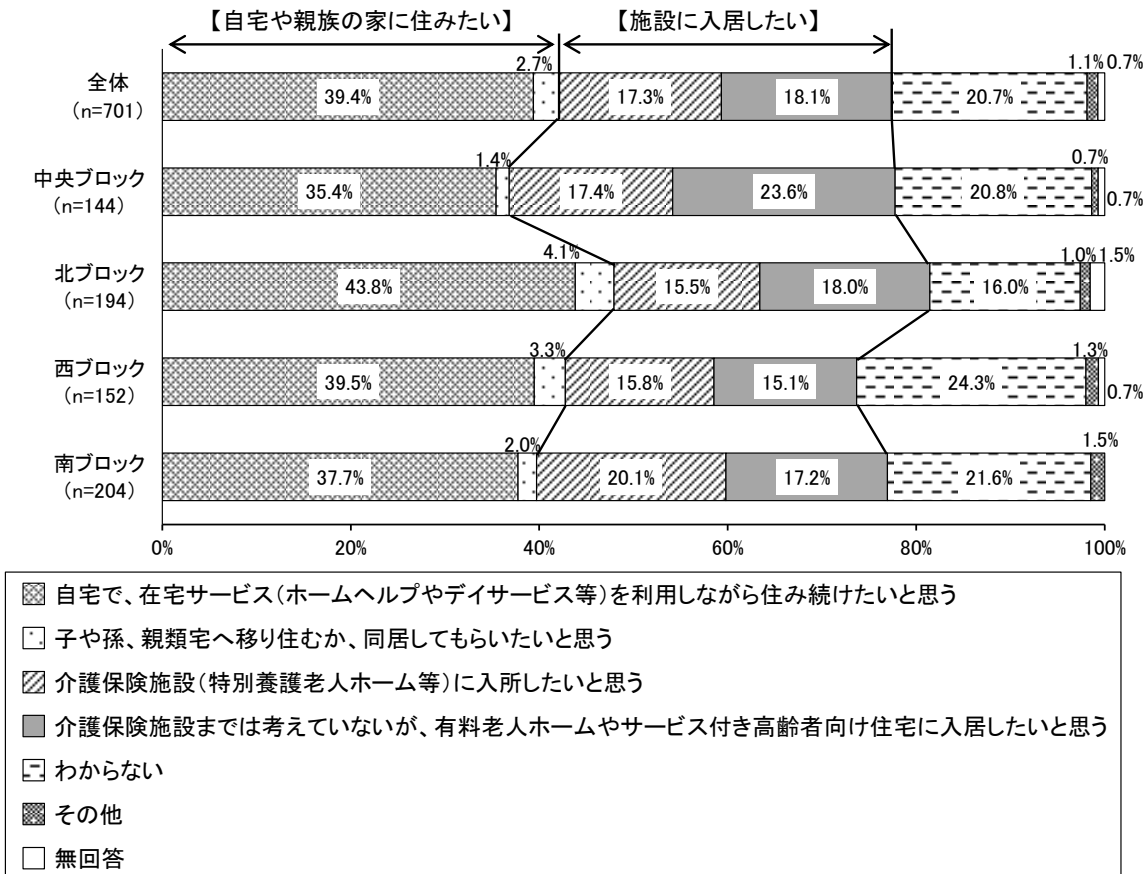
①「自宅や親族の家に住みたい」割合

中央ブロック(36.8%) < 南ブロック(39.7%) < 全体(42.1%) < 西ブロック(42.8%) < 北ブロック(47.9%)

②「施設に入居したい」割合

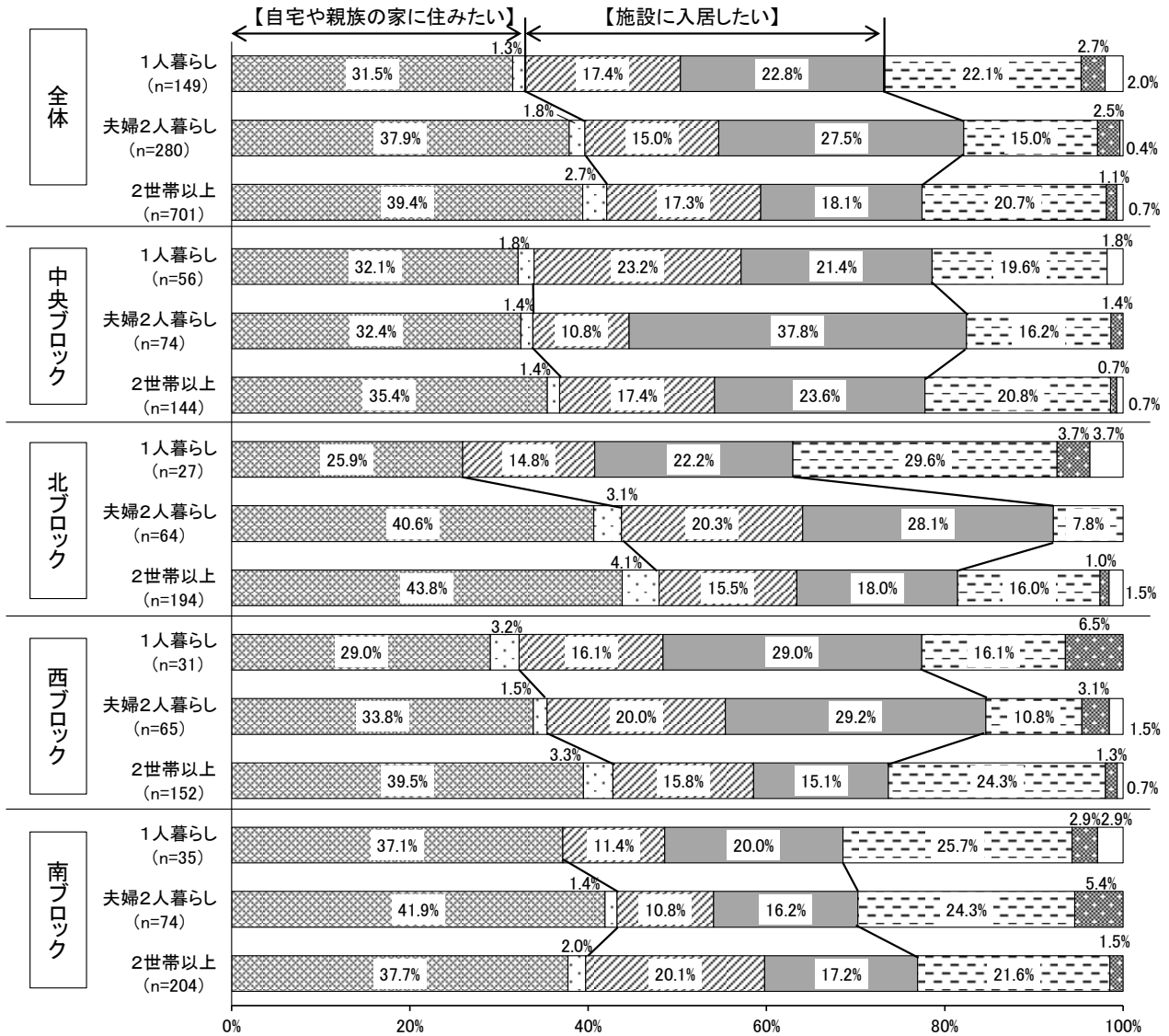
西ブロック(30.9%) < 北ブロック(33.5%) < 全体(35.4%) < 南ブロック(37.3%) < 中央ブロック(41.0%)

図表2-3-8 自分自身が介護が必要となった時の住まいの希望(2世帯以上、地域別)



<参考>

図表2-3-9 自分自身が介護が必要となった時の住まいの希望(地域別、家族構成別)



- 自宅で、在宅サービス(ホームヘルプやデイサービス等)を利用しながら住み続けたいと思う
- 子や孫、親類宅へ移り住むか、同居してもらいたいと思う
- ▨ 介護保険施設(特別養護老人ホーム等)に入所したいと思う
- 介護保険施設までは考えていないが、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に入居したいと思う
- わからない
- その他
- 無回答

Q5. 次のサービスや事業で詳しく知りたいものはありますか。(複数回答)

全体では、「介護保険サービスの種類と利用料について」の割合が40.7%で最も高くなっている。次いで「在宅生活を支援する医療(看護)や介護サービスについて」(39.4%)、「地域包括支援センターに相談できる内容について」(35.2%)、「自費のサービス(商品配達サービス、家事代行サービス等)について」(25.0%)、「認知症の予防や治療について」(21.5%)などが続いている。

性別では、上位3項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。「介護保険サービスの種類と利用料について」の割合(男性:36.8%、女性:43.0%)は6.2ポイント、「在宅生活を支援する医療(看護)や介護サービスについて」(男性:35.9%、女性:42.5%)は6.6ポイント、「自費のサービス(商品配達サービス、家事代行サービス等)について」(男性:21.0%、女性:27.8%)は6.8ポイント女性が男性を上回っている。

年代別では、「介護保険サービスの種類と利用料について」、「在宅生活を支援する医療(看護)や介護サービスについて」、「認知症の予防や治療について」の割合は年代が高くなるほど高まっている。

図表2-3-10 サービスや事業で詳しく知りたいもの

	介護保険サービスの種類と利用料について	在宅生活を支援する医療(看護)や介護サービスについて	地域包括支援センターに相談できる内容について	自費のサービス(商品配達サービス、家事代行サービス等)について	認知症の予防や治療について	介護保険の認定について	介護保険料の決め方や使われ方について	在宅での介護の仕方について	生活習慣病予防や介護予防について	住宅改修について	人生の最期を迎える人へのケアについて	介護施設等でのボランティアについて	介護者同士の交流について	介護施設等での就労について	その他	特にない
全体 (n=1,162)	40.7%	39.4%	35.2%	25.0%	21.5%	17.9%	16.8%	16.8%	14.1%	12.7%	11.9%	3.8%	3.5%	3.0%	0.9%	16.4%
男性 (n=443)	36.8%	35.9%	33.9%	21.0%	23.0%	18.5%	18.3%	12.2%	15.1%	12.2%	9.3%	2.7%	3.6%	2.9%	0.5%	19.0%
女性 (n=677)	43.0%	42.5%	36.9%	27.8%	21.1%	17.9%	15.4%	20.1%	13.4%	13.3%	13.9%	4.6%	3.5%	3.1%	1.3%	14.6%
40代 (n=421)	36.3%	34.0%	39.0%	24.7%	19.7%	16.2%	17.1%	18.1%	13.5%	13.8%	11.2%	4.3%	5.0%	4.5%	0.7%	19.5%
50代 (n=445)	40.9%	41.3%	33.0%	25.8%	20.0%	19.3%	14.4%	17.8%	13.5%	11.9%	14.8%	4.0%	3.6%	2.9%	1.1%	16.2%
60代 (n=292)	46.6%	44.9%	33.2%	23.6%	26.7%	18.5%	19.9%	13.7%	16.1%	12.3%	8.6%	2.7%	1.4%	1.0%	1.0%	12.7%

4. 認知症について(問4)

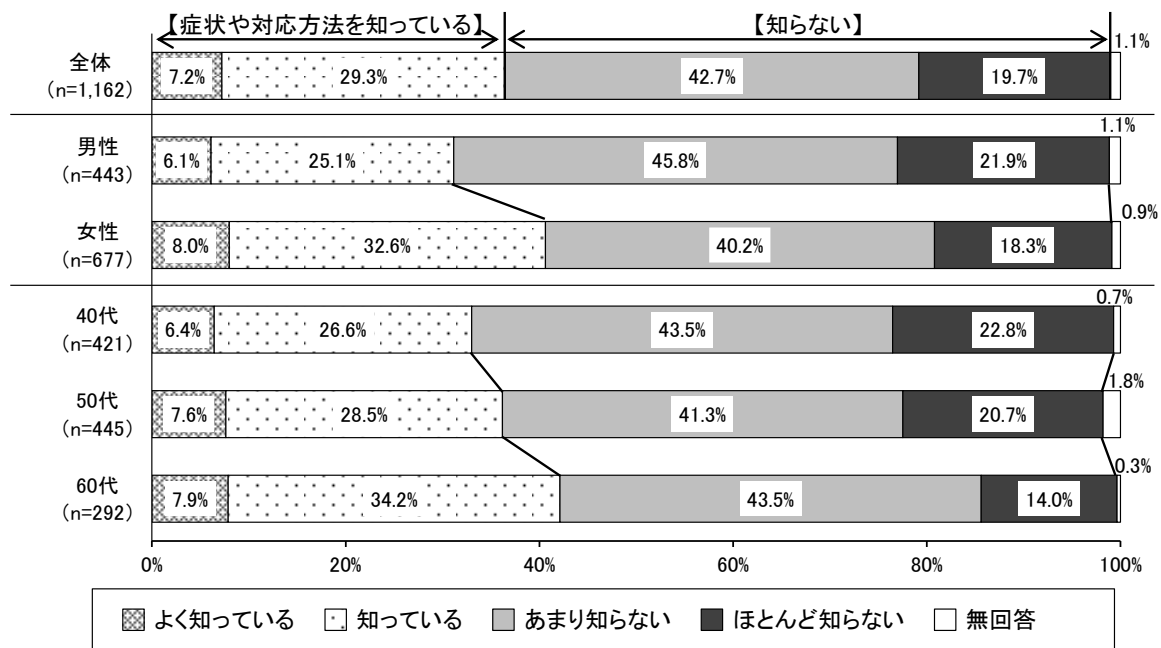
Q1. 認知症の症状や対応方法について知っていますか。

全体では、「知らない」(「あまり知らない」と「ほとんど知らない」の計:以下同じ)の割合(62.4%)は、「症状や対応方法を知っている」(「よく知っている」と「知っている」の計:以下同じ)の36.5%を25.9ポイント上回っている。

性別では、「知らない」の割合(男性:67.7%、女性:58.5%)は男性が女性を9.2ポイント上回っている。

年代別では、「知らない」の割合(40代:66.3%、50代:62.0%、60代:57.5%)は年代が高くなるほど低くなっている。

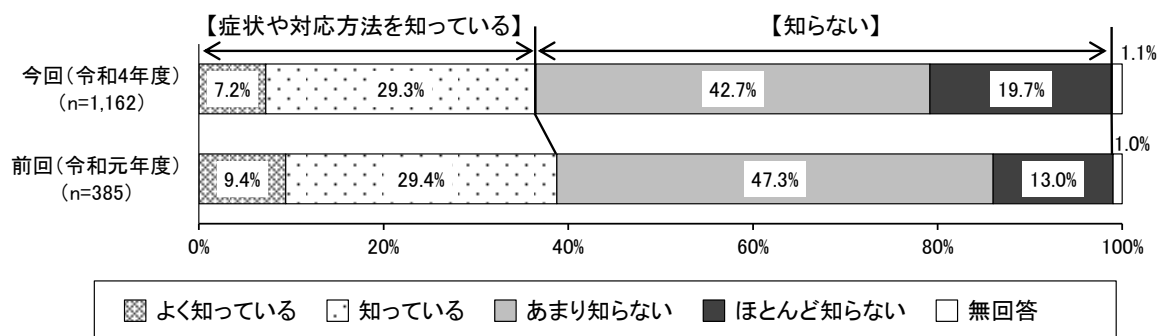
図表2-4-1 認知症の症状や対応方法の認知度



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「知らない」の割合は前回は60.3%で2.1ポイント高まっている。

図表2-4-2 認知症の症状や対応方法の認知度(前回調査との比較)



Q2. 認知症に関する事業について、知っているものを選んでください。(複数回答)

全体では、「知らない」の割合が64.7%で最も高くなっている。知っている事業の第1位は「認知症サポーター養成講座」(14.6%)で、次いで「認知症カフェ」(12.8%)などが続いている。

性別では、男女とも「知らない」の割合(男性:72.0%、女性:60.0%)が最も高く、男性が女性を12.0ポイント上回っている。知っている事業の上位の3項目の順位は男女とも全体と同じになっている。「認知症サポーター養成講座」の割合(男性:9.3%、女性:17.7%)と「認知症カフェ」(男性:8.4%、女性:15.8%)は女性が男性をそれぞれ8.4ポイント、7.4ポイント上回っている。

年代別では、上位4項目の順位は各年代とも全体と同じとなっている。

図表2-4-3 認知症に関する事業の認知度

	認知症サポーター養成講座	認知症カフェ	見守りシール	オレンジ手帳	認知症疾患医療センター	SOSネットワーク	認知症見守り声かけ模擬訓練	認知症地域支援推進員	オレンジドクター	認知症初期集中支援チーム	知らない
全体 (n=1,162)	14.6%	12.8%	8.9%	6.8%	6.6%	6.4%	6.1%	6.1%	4.2%	2.9%	64.7%
男性 (n=443)	9.3%	8.4%	6.8%	4.1%	4.7%	6.3%	4.5%	3.4%	3.4%	2.3%	72.0%
女性 (n=677)	17.7%	15.8%	10.0%	8.4%	8.0%	6.4%	7.1%	7.8%	4.7%	3.4%	60.0%
40代 (n=421)	14.3%	13.5%	8.3%	8.1%	6.4%	7.6%	3.8%	7.4%	4.0%	3.8%	64.1%
50代 (n=445)	15.7%	12.6%	9.4%	7.2%	7.2%	5.8%	6.7%	5.4%	5.4%	2.5%	65.6%
60代 (n=292)	13.7%	12.3%	8.9%	4.5%	6.2%	5.5%	8.6%	5.5%	2.7%	2.4%	64.0%

<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「知らない」の割合は6.0ポイント高まっている。

図表2-4-4 認知症に関する事業の認知度(前回調査との比較)

	認知症サポーター養成講座	認知症カフェ	見守りシール	オレンジ手帳	認知症疾患医療センター	SOSネットワーク	認知症見守り声かけ模擬訓練	認知症地域支援推進員	オレンジドクター	認知症初期集中支援チーム	知らない
今回(令和4年度) (n=1,162)	14.6%	12.8%	8.9%	6.8%	6.6%	6.4%	6.1%	6.1%	4.2%	2.9%	64.7%
前回(令和元年度) (n=385)	18.4%	17.1%	11.7%	6.2%	8.8%	9.4%	8.1%	8.1%	3.9%	3.1%	58.7%

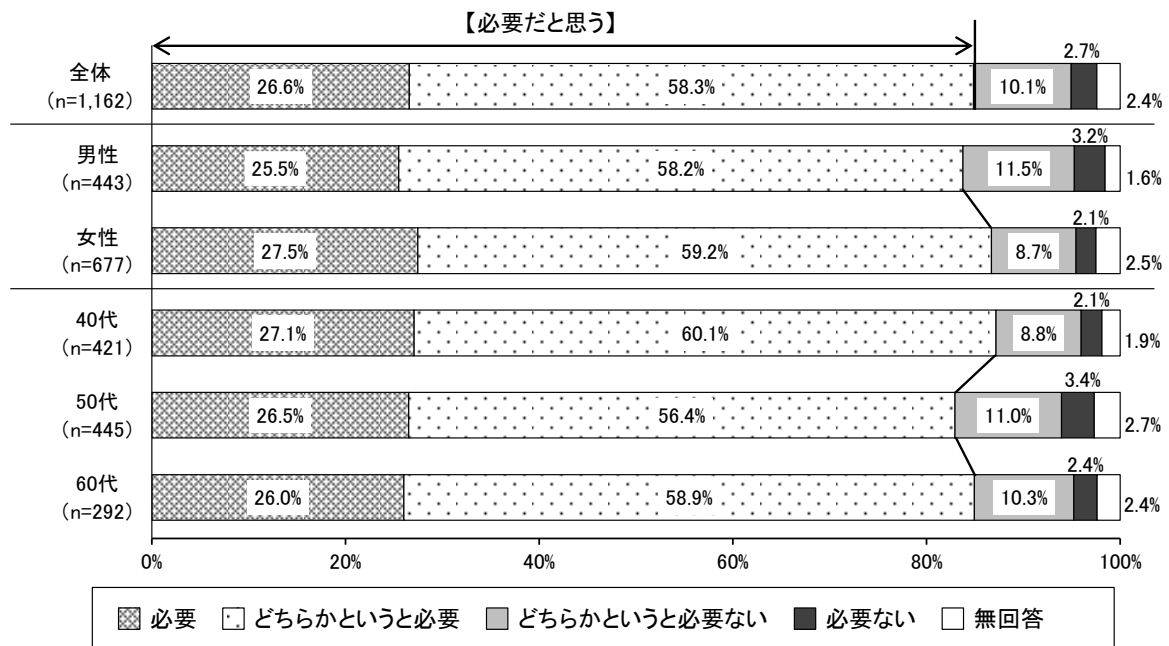
5. たすけあいについて(問5)

Q1. 地域の住民同士で互に見守り、たすけあう仕組みが必要だと思いますか。

全体では、「必要だと思う」(「必要」と「どちらかという必要」の計:以下同じ)の割合が84.9%となっている。性別でみると、「必要だと思う」の割合(男性:83.7%、女性:86.7%)は、女性が男性を3.0ポイント上回っている。

年代別では、「必要だと思う」の割合は、「40代」(87.2%)が他の年代(50代:82.9%、60代:84.9%)を上回っている。

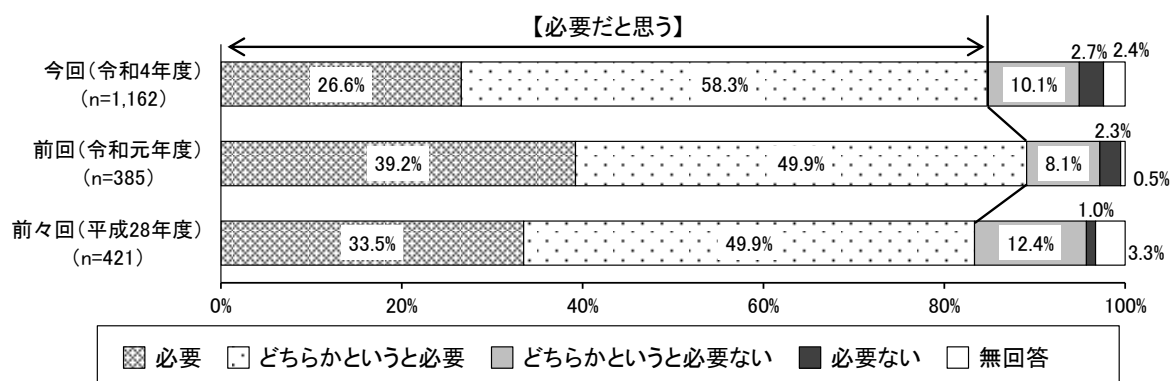
図表2-5-1 住民同士が互に見守り、たすけあう仕組みの必要性



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「必要だと思う」の割合は前々回が83.4%、前回は89.1%で、前々回から1.5ポイント高まり、前回から4.2ポイント低下している。

図表2-5-2 住民同士が互に見守りたすけあう仕組みの必要性(過去2回の調査との比較)

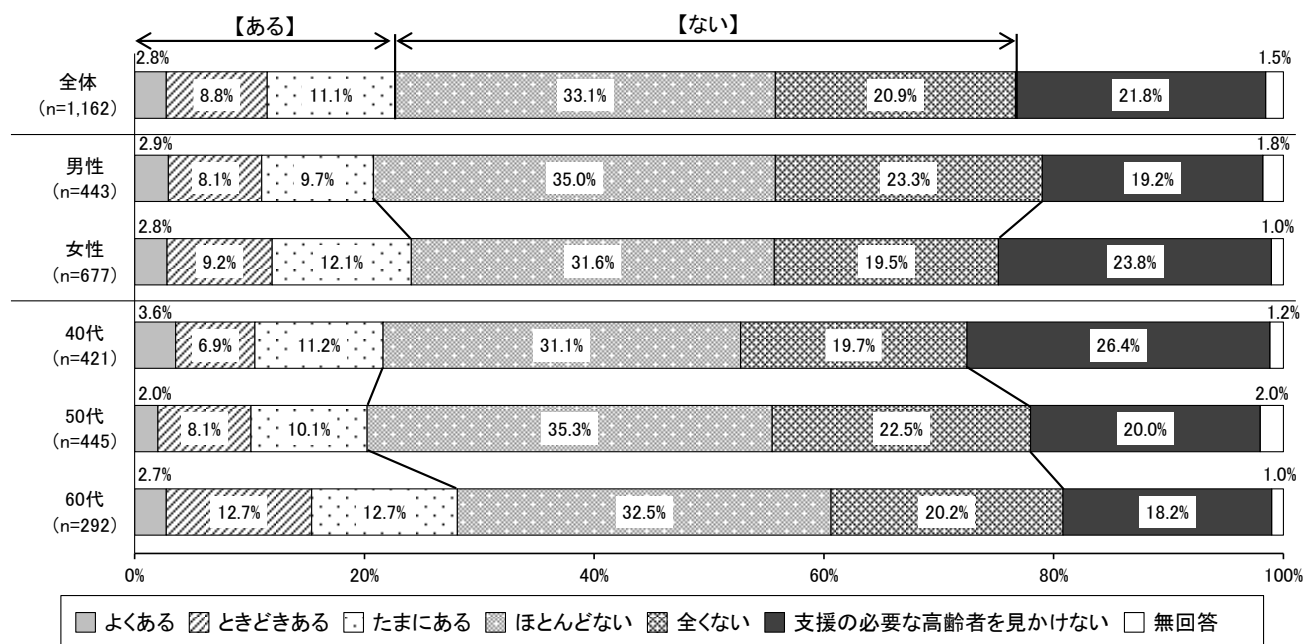


Q2. あなたの住んでいる家や建物の周りで支援が必要な高齢者（認知症や身体の不自由な高齢者）に声をかけることはありますか。

全体では、「ある」（「よくある」と「ときどきある」と「たまにある」の計：以下同じ）の割合が22.7%となっている。「ない」（「ほとんどない」と「全くない」の計：以下同じ）は54.0%となっている。

性別でみると、「ある」の割合（男性：20.7%、女性：24.1%）は、女性が男性を3.4ポイント上回っている。年代別では、60代の「ある」の割合（28.1%）は他の年代（40代：21.7%、50代：20.2%）を上回っている。

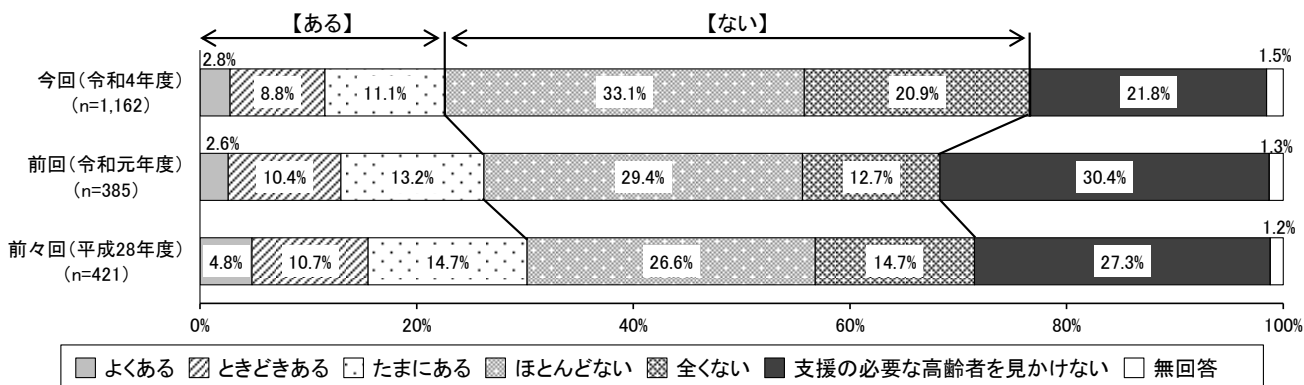
図表2-5-3 支援が必要な高齢者に対する声かけの有無



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「ある」の割合は前々回が30.2%、前回は26.2%で、前々回から7.5ポイント、前回から3.5ポイント低下している。

図表2-5-4 支援が必要な高齢者に対する声かけの有無（過去2回の調査との比較）



Q3. 普段の生活で、食料品や日用品の買物に行く際は、主にどの交通手段で行きますか。(〇は2つまで)

全体では、「自動車(自分で運転)」の割合が86.1%で最も高くなっている。次いで「徒歩」(27.8%)などが続いている。

性別でみると上位2項目で、年代別では上位4項目で、交通手段の順位は全体と同じとなっている。

図表2-5-5 普段の生活の交通手段

	自動車 (自分で運転)	徒歩	自転車	自動車 (人に乗せてもらう)	バイク	バス	タクシー	電車	自分では買物に行かない	その他
全体 (n=1,162)	86.1%	27.8%	12.9%	9.4%	2.4%	2.0%	0.7%	0.0%	0.8%	0.8%
男性 (n=443)	87.1%	29.1%	14.4%	5.6%	4.7%	2.0%	0.7%	0.0%	1.4%	0.7%
女性 (n=677)	85.8%	26.4%	11.5%	11.7%	0.9%	1.9%	0.7%	0.0%	0.4%	0.9%
40代 (n=421)	88.1%	26.4%	13.1%	10.7%	1.9%	0.7%	0.2%	0.0%	1.2%	0.7%
50代 (n=445)	86.5%	29.4%	13.5%	7.9%	2.0%	2.9%	0.9%	0.0%	0.4%	0.4%
60代 (n=292)	83.2%	27.1%	11.6%	9.9%	3.4%	2.4%	1.0%	0.0%	0.7%	1.4%

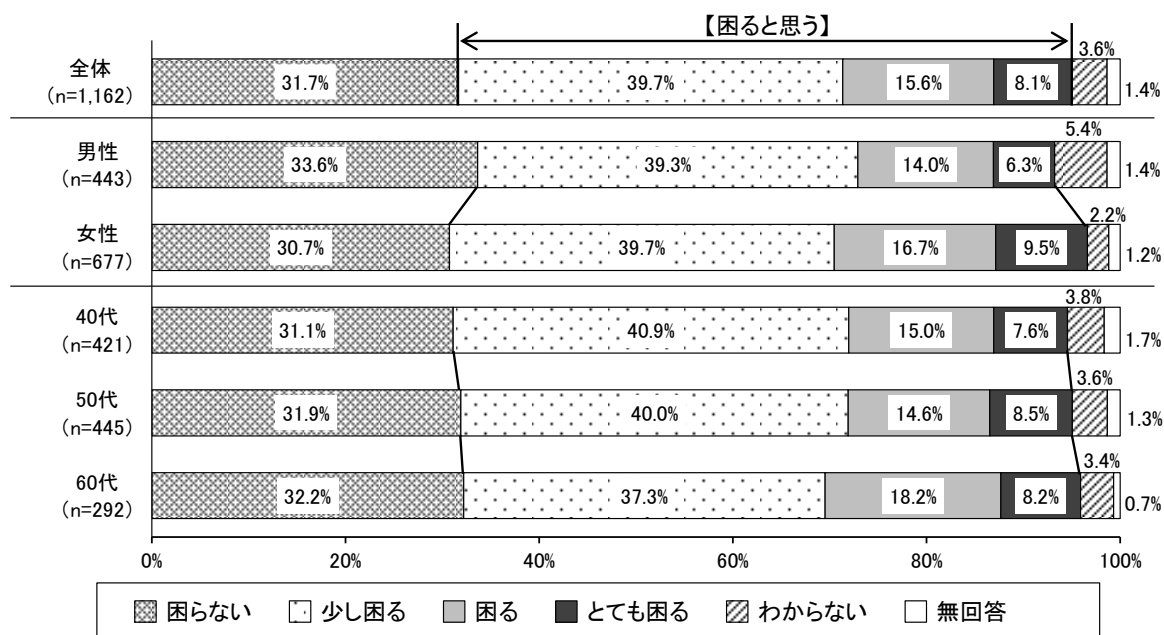
Q4. あなたが今の年齢より高齢になっても今住んでいる家や建物のある場所で、買物や病院に行くのに困らないと思いますか。

全体では、「困ると思う」(「少し困る」と「困る」と「とても困る」の計:以下同じ)の割合が63.4%で、「困らない」(31.7%)の2倍となっている。

性別でみると、「困ると思う」の割合(男性:59.6%、女性:65.9%)は、女性が男性を6.3ポイント上回っている。

年代別では、「困ると思う」の割合は、40代が63.5%、50代が63.1%、60代が63.7%となっている。

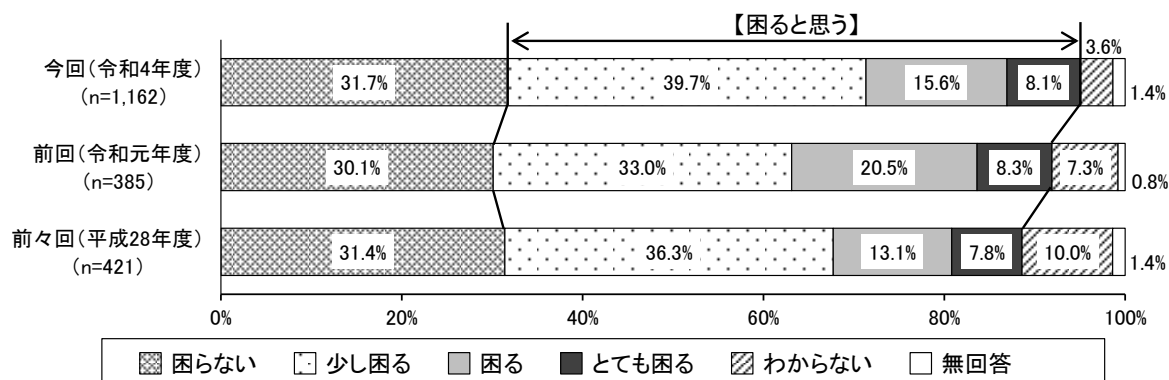
図表2-5-6 高齢になって買物や病院に行くのに困らないと思うか



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「困ると思う」の割合は前々回が57.2%、前回は61.8%で、前々回から6.2ポイント、前回から1.6ポイント高まっている。

図表2-5-7 高齢になって買物や病院に行くのに困らないと思うか



Q5. 一人暮らしの高齢者や高齢世帯は、日頃、どんなお手伝いを希望していると思いますか(身体に触れることを除く)。(〇は2つまで)

全体では、「買物や通院の送迎」の割合が71.8%で最も高く、次いで「食品や日用品の買出し」(45.9%)、「話し相手」(20.8%)、「食事の準備」(20.3%)などが続いている。

性別、年代別で見ると、上位2項目の順位は全体と同じとなっている。

図表2-5-8 高齢者が希望していると思うお手伝いの内容

	買物や通院の送迎	食品や日用品の買出し	話し相手	食事の準備	庭の除草や剪定	室内の掃除	ごみ出し	電球交換	洗濯	金銭管理	お墓の掃除	ペットの世話	その他のお手伝い	特にない
全体 (n=1,162)	71.8%	45.9%	20.8%	20.3%	10.8%	8.3%	8.0%	3.2%	2.2%	2.1%	1.7%	0.6%	0.9%	1.4%
男性 (n=443)	69.5%	46.0%	20.5%	21.7%	11.1%	7.7%	5.6%	2.3%	2.5%	3.4%	2.7%	0.7%	1.1%	2.5%
女性 (n=677)	73.1%	45.6%	21.7%	19.5%	11.1%	8.3%	9.6%	3.8%	2.1%	1.2%	1.2%	0.6%	0.7%	0.4%
40代 (n=421)	71.7%	45.6%	21.4%	19.7%	12.1%	9.0%	7.6%	4.0%	2.9%	1.4%	1.7%	0.5%	0.2%	1.0%
50代 (n=445)	71.2%	47.0%	21.1%	18.9%	10.3%	8.1%	8.1%	3.1%	2.2%	2.9%	1.3%	0.7%	1.8%	1.1%
60代 (n=292)	72.6%	44.9%	19.9%	23.6%	9.9%	6.8%	8.6%	2.1%	1.4%	1.7%	2.4%	0.7%	0.3%	2.4%

<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「買物や通院の送迎」(前々回から25.5ポイント、前回から8.4ポイント)、「食品や日用品の買出し」(前々回から2.4ポイント、前回から8.8ポイント)、「食事の準備」(前々回から15.8ポイント、前回から4.7ポイント)の割合は高まっている。一方、「話し相手」は前々回から12.9ポイント、前回から12.4ポイント低下している。

図表2-5-9 高齢者が希望していると思うお手伝いの内容(過去2回の調査との比較)

	買物や通院の送迎	食品や日用品の買出し	話し相手	食事の準備	庭の除草や剪定	室内の掃除	ごみ出し	電球交換	洗濯	金銭管理	お墓の掃除	ペットの世話	その他のお手伝い	特にない
今回(令和4年度) (n=1,162)	71.8%	45.9%	20.8%	20.3%	10.8%	8.3%	8.0%	3.2%	2.2%	2.1%	1.7%	0.6%	0.9%	1.4%
前回(令和元年度) (n=385)	63.4%	37.1%	33.2%	15.6%	9.9%	6.2%	7.3%	3.6%	2.1%	1.0%	2.1%	1.0%	0.3%	1.0%
前々回(平成28年度) (n=421)	46.3%	43.5%	33.7%	4.5%	14.0%	-	-	-	-	2.6%	-	-	0.2%	-

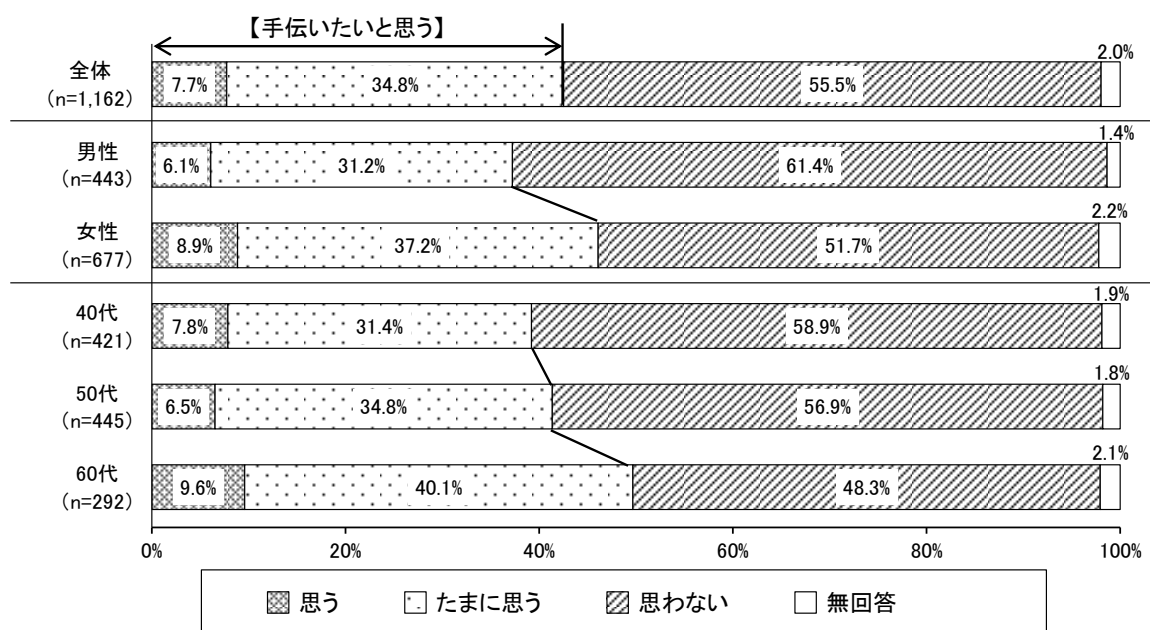
Q6. あなたは休暇の時などに、地域で困っている高齢者の家事や買物のお手伝いをしてみたいと思いますか。

全体では、「手伝いたいと思う」(「思う」と「たまに思う」の計:以下同じ)の割合が42.5%となっている。「思わない」は55.5%となっている。

性別で見ると、「手伝いたいと思う」の割合(男性:37.3%、女性:46.1%)は、女性が男性を8.8ポイント上回っている。

年代別では、「手伝いたいと思う」の割合(40代:39.2%、50代:41.3%、60代:49.7%)は年代が高くなるほど高まっている。

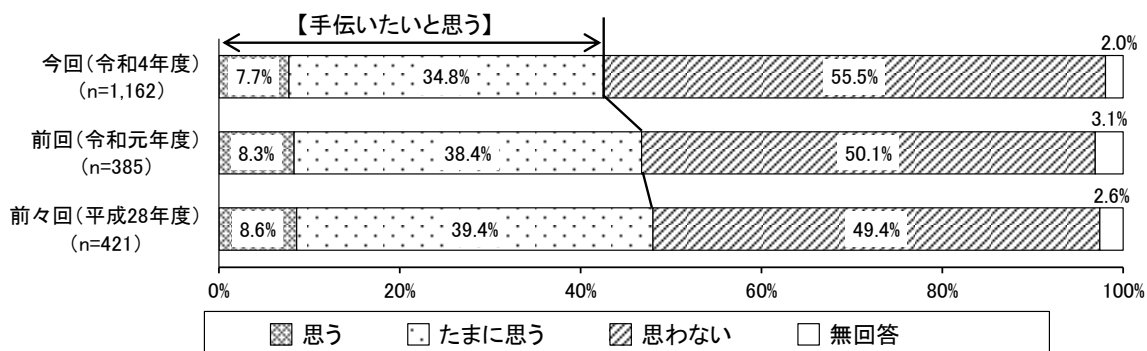
図表2-5-10 地域の高齢者の家事や買物の手伝いをしてみたいと思うか



<過去2回の調査との比較>

過去2回の調査との比較では、「手伝いたいと思う」の割合は前々回が48.0%、前回は46.7%で、前々回から5.5ポイント、前回から4.2ポイント低下している。

図表2-5-11 地域の高齢者の家事や買物の手伝いをしてみたいと思うか(過去2回の調査との比較)



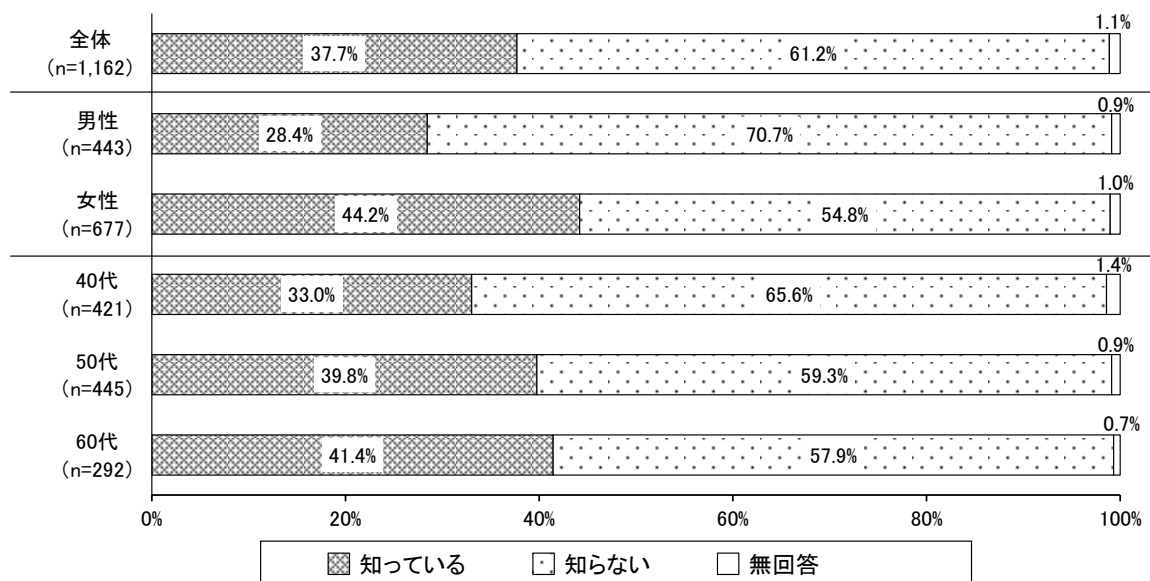
Q7. あなたは、おおむね60歳以上を対象として、生きがいつくりや健康づくりなどのために各地域で活動している「老人クラブ(さんさんクラブ)」を知っていますか。

全体では、「知らない」の割合が61.2%で、「知っている」は37.7%となっている。

性別で見ると、「知っている」の割合(男性:28.4%、女性:44.2%)は、女性が男性を15.8ポイント上回っている。

年代別では、「知っている」の割合は年代が高くなるほど高まっている。

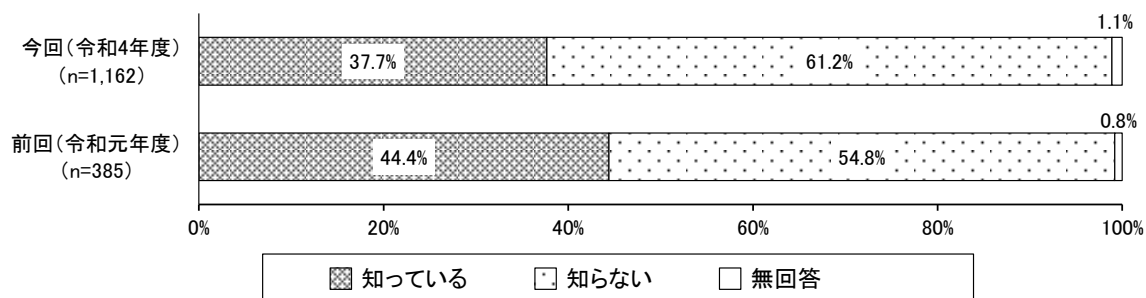
図表2-5-12 老人クラブ(さんさんクラブ)の認知度



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「知っている」の割合は6.7ポイント低下している。

図表2-5-13 老人クラブ(さんさんクラブ)の認知度(前回調査との比較)



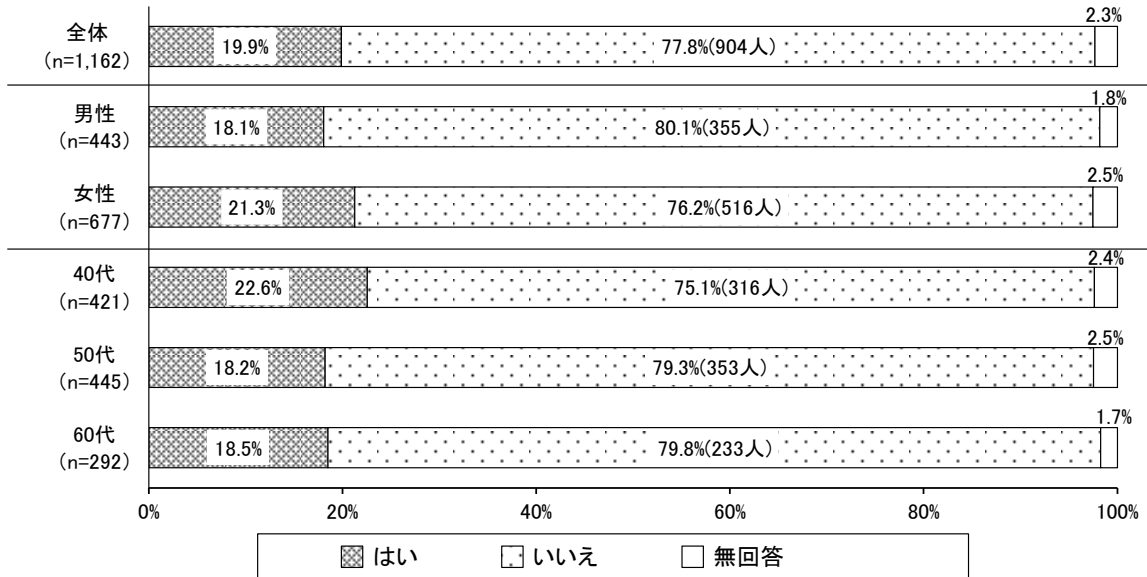
Q8. 将来、「老人クラブ(さんさんクラブ)」に加入しようと思いますか。

全体では、「いいえ」の割合が77.8%で、「はい」(19.9%)を大きく上回っている。

性別で見ると、「いいえ」の割合(男性:80.1%、女性:76.2%)は、男性が女性を3.9ポイント上回っている。

年代別では、40代の「いいえ」の割合(75.1%)は他の年代(50代:79.3%、60代:79.8%)を下回っている。

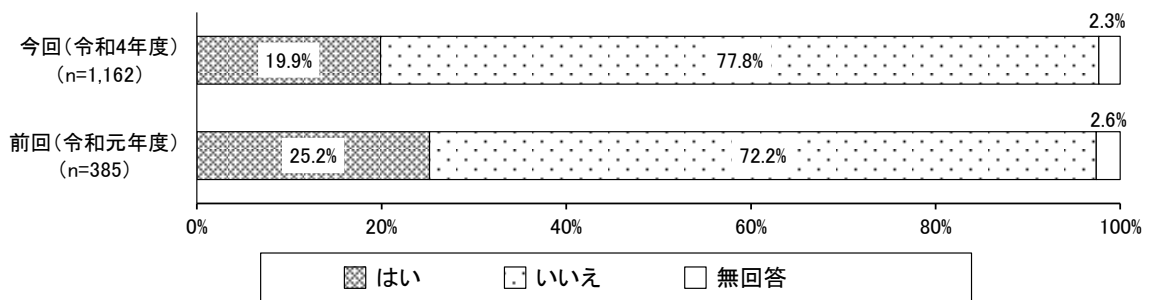
図表2-5-14 老人クラブ(さんさんクラブ)への加入意向



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「いいえ」の割合は5.6ポイント高まっている。

図表2-5-15 老人クラブ(さんさんクラブ)への加入意向(前回調査との比較)



<老人クラブに加入したくない人>

Q8-1. 加入したいと思わない理由は何ですか。(複数回答)

全体では、「人間関係が煩わしい」の割合が39.7%で最も高くなっている。次いで「個人の趣味や娯楽がある」(39.2%)、「仕事等で忙しい」(27.1%)、「活動内容に魅力を感じない」(18.4%)などが続いている。

性別で見ると、「個人の趣味や娯楽がある」の割合(男性:42.3%、女性:38.2%)と「活動内容に魅力を感じない」(男性:22.0%、女性:16.1%)は、男性が女性をそれぞれ4.1ポイント、5.9ポイント上回っている。

年代別では、「個人の趣味や娯楽がある」の割合は、年代が高くなるほど高まっている。

図表2-5-16 老人クラブに加入したいと思わない理由

	人間関係が煩わしい	個人の趣味や娯楽がある	仕事等で忙しい	活動内容に魅力を感じない	参加方法がわからない	近くに老人クラブがない	その他
※P135を参照							
老人クラブに加入したいと思わない人 (n=904)	39.7%	39.2%	27.1%	18.4%	12.1%	3.4%	7.1%
男性 (n=355)	38.9%	42.3%	27.0%	22.0%	12.1%	3.4%	5.6%
女性 (n=516)	39.7%	38.2%	26.7%	16.1%	11.8%	3.5%	8.3%
40代 (n=316)	41.8%	35.1%	22.2%	17.7%	13.0%	2.2%	10.8%
50代 (n=353)	36.8%	40.2%	30.0%	18.1%	12.7%	4.5%	4.8%
60代 (n=233)	41.2%	43.3%	29.2%	19.7%	9.9%	3.4%	5.6%

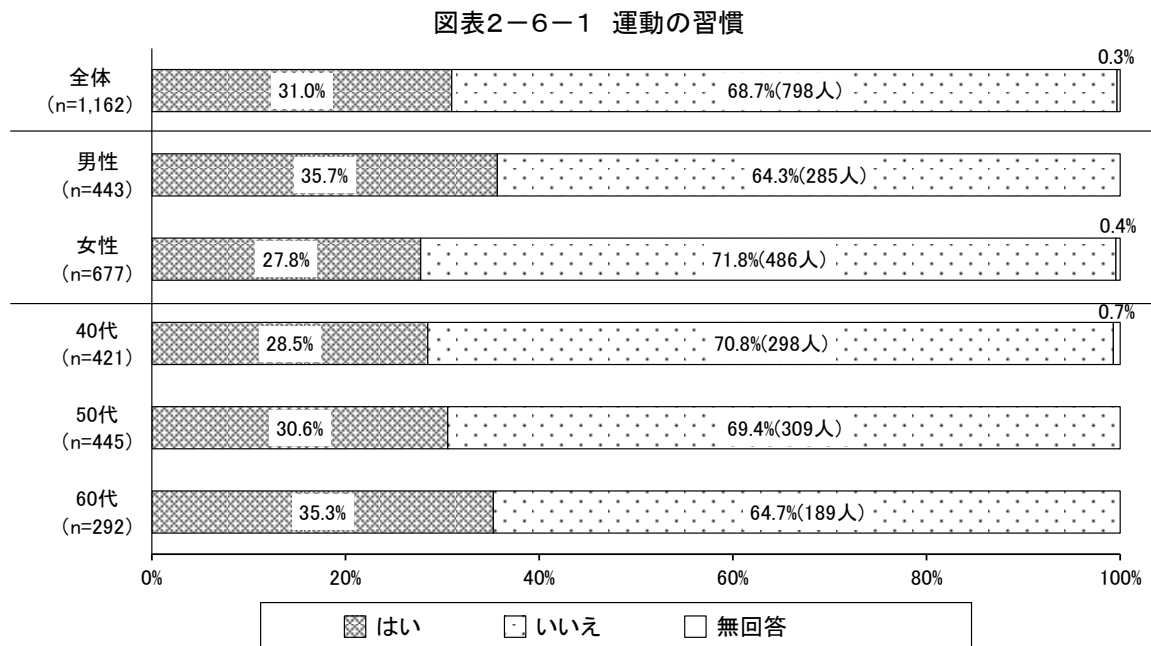
6. 健康づくりについて(問6)

Q1. 1回30分以上の軽い汗をかく運動を週に2日以上、1年以上実施していますか。

全体では、「いいえ」の割合は68.7%、「はい」は31.0%となっている。

性別で見ると、「いいえ」の割合(男性:64.3%、女性:71.8%)は女性が男性を7.5ポイント上回っている。

年代別では、「いいえ」の割合は年代が高くなるほど低くなっている。



<運動をしていない人>

Q1-1. その理由は何ですか。(複数回答)

全体では、「仕事等で忙しく時間がない」の割合が57.8%で最も高くなっている。次いで「面倒」(23.4%)、「もともと運動が苦手」(17.5%)、「子育て中で時間がない」(15.3%)などが続いている。

性別でみると、「仕事等で忙しく時間がない」の割合(男性:62.5%、女性:55.8%)と「面倒」(男性:27.7%、女性:20.6%)は、男性が女性をそれぞれ6.7ポイント、7.1ポイント上回っている。また、「もともと運動が苦手」の割合(男性:9.8%、女性:22.4%)と「子育て中で時間がない」(男性:5.3%、女性:21.4%)は、女性が男性をそれぞれ12.6ポイント、16.1ポイント上回っている。

年代別では、「仕事等で忙しく時間がない」と「子育て中で時間がない」の割合は年代が低くなるほど高まっている。

図表2-6-2 運動をしていない理由

※P137を参照	仕事等で忙しく時間がない	面倒	もともと運動が苦手	子育て中で時間がない	きっかけがない	持病がありできない	興味がない	介護で時間がない	まだ必要ない	その他
運動をしていない人 (n=798)	57.8%	23.4%	17.5%	15.3%	13.0%	6.3%	5.5%	3.0%	3.0%	7.3%
男性 (n=285)	62.5%	27.7%	9.8%	5.3%	10.9%	5.3%	7.4%	1.8%	5.3%	5.6%
女性 (n=486)	55.8%	20.6%	22.4%	21.4%	14.4%	6.2%	4.1%	3.5%	1.6%	8.4%
40代 (n=298)	61.4%	24.2%	18.1%	34.6%	11.1%	2.3%	5.0%	1.3%	1.3%	4.7%
50代 (n=309)	61.2%	25.2%	16.2%	6.1%	12.6%	6.1%	4.9%	3.2%	3.2%	7.8%
60代 (n=189)	46.6%	19.6%	19.0%	0.0%	16.9%	12.7%	7.4%	4.8%	5.3%	10.6%

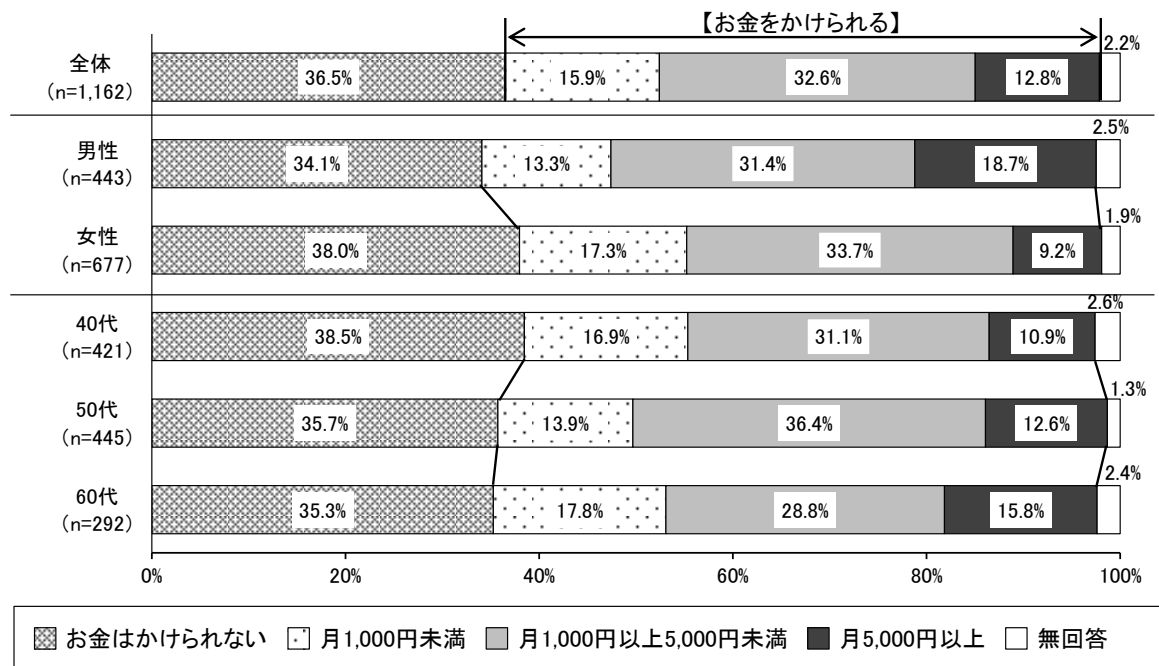
Q2. 運動にどの程度お金をかけられますか。

全体では、「お金をかけられる」（「月1,000円未満」と「月1,000円以上5,000円未満」と「月5,000円以上」の計：以下同じ）の割合は61.3%となっている。「お金はかけられない」は36.5%となっている。

性別でみると、「お金をかけられる」の割合（男性：63.4%、女性：60.2%）は男性が女性を3.2ポイント上回っている。

年代別では、「お金をかけられる」の割合は40代が58.9%、50代が62.9%、60代が62.4%となっている。

図表2-6-3 運動にお金をかけられる程度



Q3. フレイルを知っていましたか。

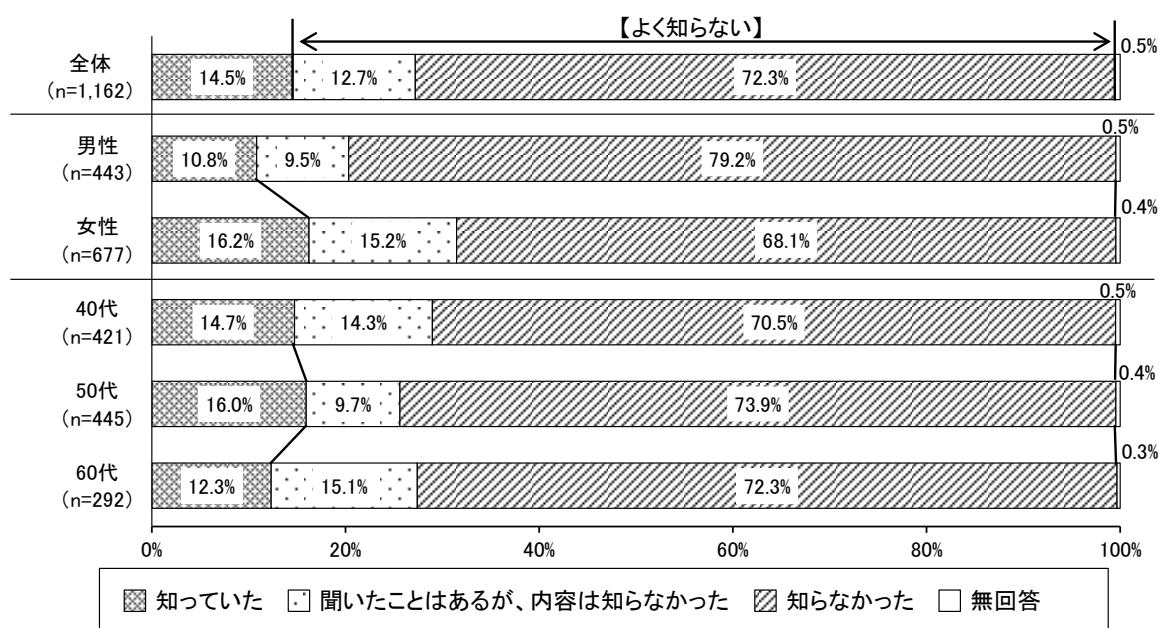
※フレイルとは、健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のこと。

全体では、「よく知らない」(「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」と「知らなかった」の計:以下同じ)の割合は85.0%となっている。「知っていた」は14.5%となっている。

性別でみると、「よく知らない」の割合(男性:88.7%、女性:83.3%)は、男性が女性を5.4ポイント上回っている。

年代別では、60代の「よく知らない」の割合(87.4%)は他の年代(40代:84.8%、50代:83.6%)を上回っている。

図表2-6-4 フレイルの認知度



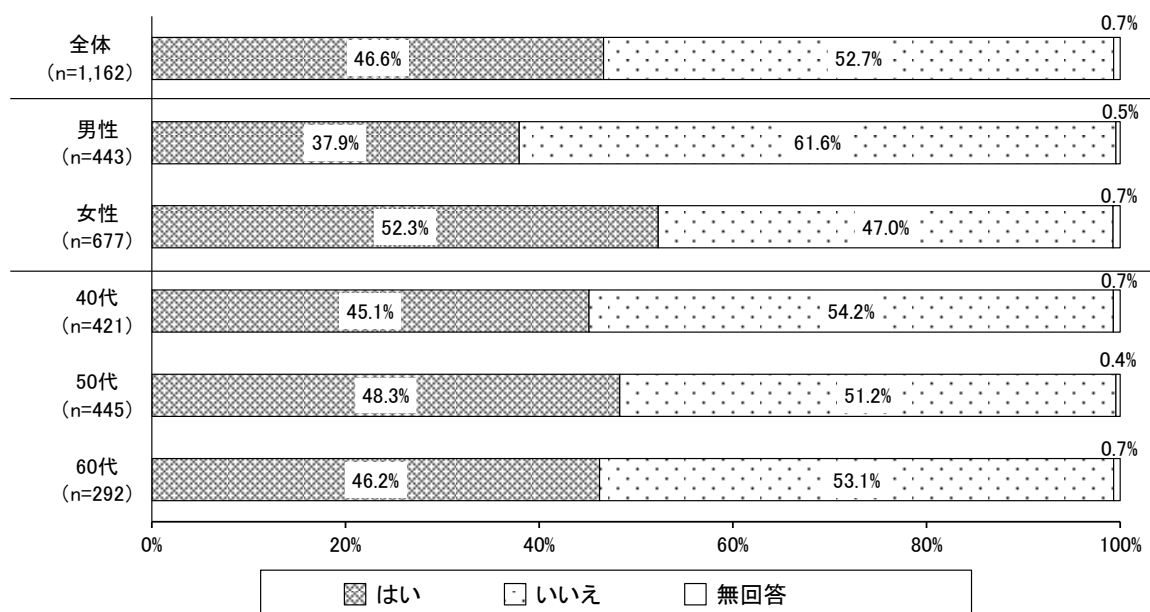
Q4. 定期的に歯科健診を受診していますか。

全体では、「はい」の割合は46.6%となっている。

性別で見ると、「はい」の割合(男性:37.9%、女性:52.3%)は女性が男性を14.4ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合は、40代が45.1%、50代が48.3%、60代が46.2%となっている。

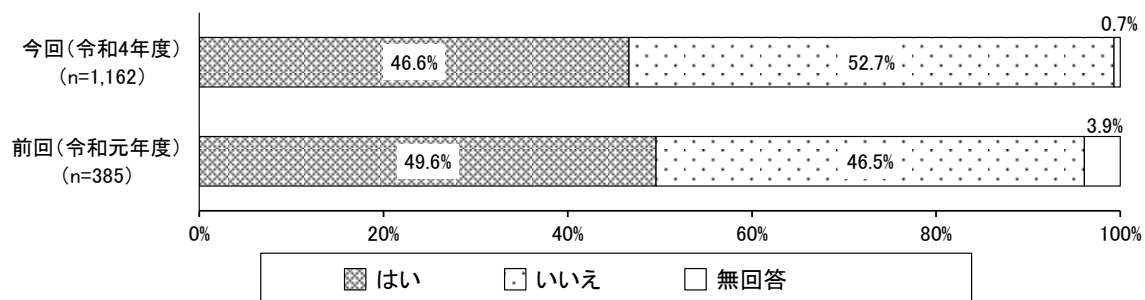
図表2-6-5 定期的な歯科健診の受診状況



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「はい」の割合は3.0ポイント低下している。

図表2-6-6 定期的な歯科健診の受診状況(前回調査との比較)



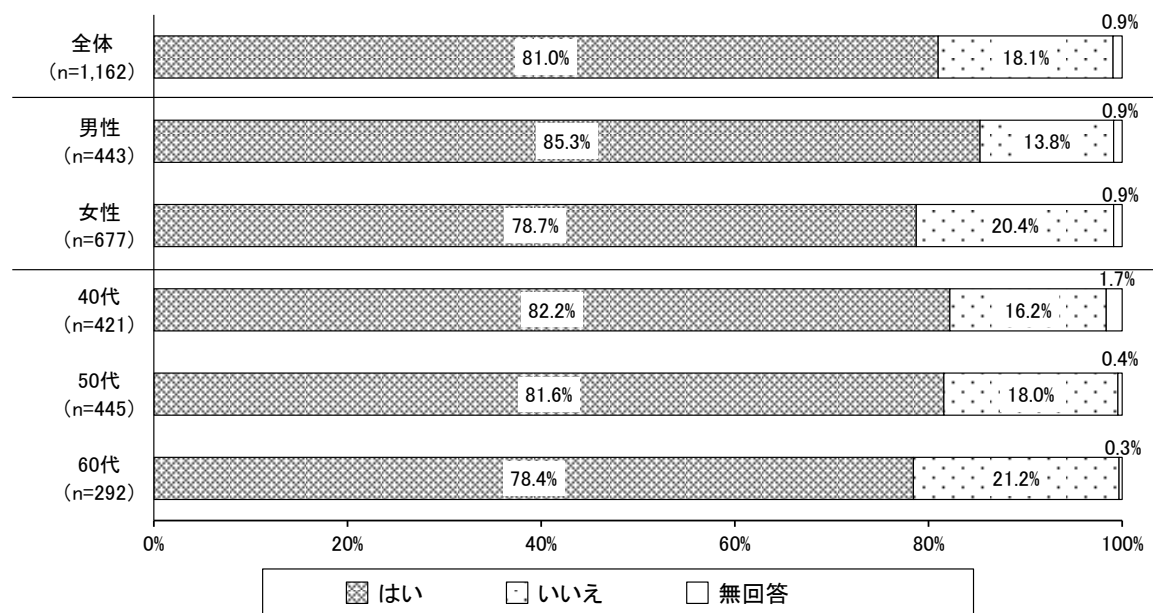
Q5. 定期的に健康診断を受けていますか。

全体では、「はい」の割合は81.0%となっている。

性別で見ると、「はい」の割合(男性:85.3%、女性:78.7%)は男性が女性を6.6ポイント上回っている。

年代別では、「はい」の割合は年代が高くなるほど低くなっている。

図表2-6-7 定期的な健康診断の受診状況



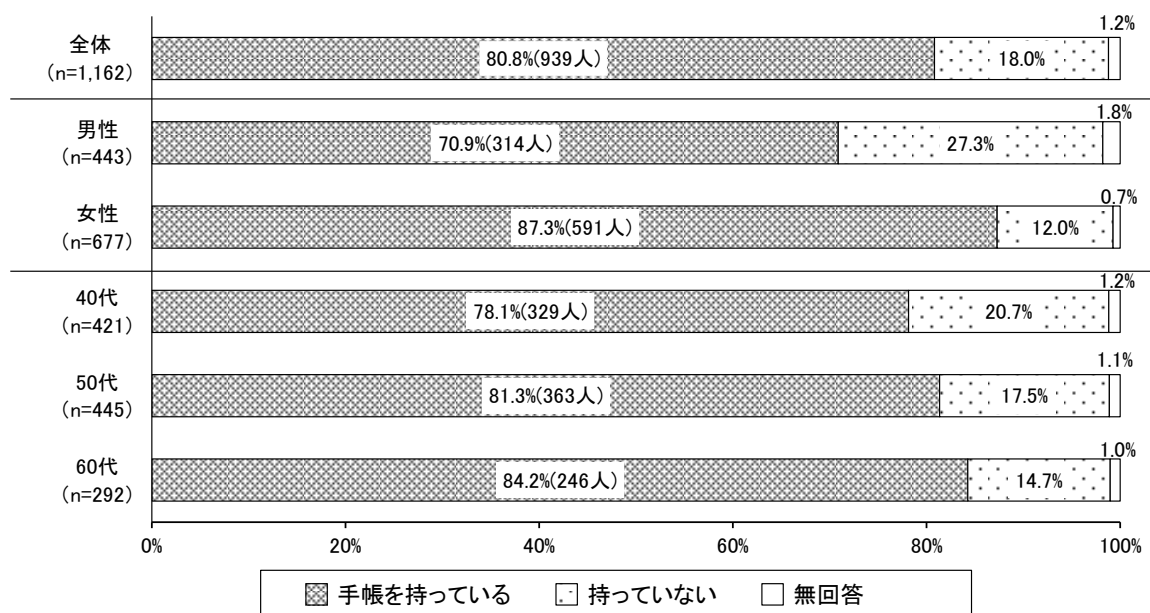
Q6. 健康等に関する手帳を持っていますか。

全体では、「手帳を持っている」の割合は80.8%となっている。

性別でみると、「手帳を持っている」の割合(男性:70.9%、女性:87.3%)は女性が男性を16.4ポイント上回っている。

年代別では、「手帳を持っている」の割合は年代が高くなるほど高まっている。

図表2-6-8 健康等に関する手帳の所持状況



<手帳を持っている人>

○持っている手帳に○をつけてください。※電子版は除きます。(複数回答)

全体では、「お薬手帳」の割合は98.3%で最も高くなっている。次いで「血压手帳」(13.8%)などが続いている。

性別、年代別とも、手帳の種類の上位2項目の順位は全体と同じとなっている。年代別では「血压手帳」の割合は年代が高くなるほど高まっている。

図表2-6-9 持っている手帳の種類

	お薬手帳	血压手帳	糖尿病連携手帳	宮崎市版エンディングノート 「わたしの想いをつなぐノート」	市が交付している健康手帳	心不全手帳	市販の健康手帳	認知症連携パス(オレンジ手帳)	その他
※P143を参照									
手帳を持っている人 (n=939)	98.3%	13.8%	1.7%	1.5%	1.2%	0.1%	0.0%	0.0%	1.4%
男性 (n=314)	96.8%	15.6%	3.5%	1.0%	1.3%	0.3%	0.0%	0.0%	1.9%
女性 (n=591)	99.2%	12.5%	0.7%	1.7%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
40代 (n=329)	99.4%	6.7%	0.6%	0.6%	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	1.5%
50代 (n=362)	97.0%	16.6%	1.4%	1.9%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
60代 (n=246)	98.8%	19.1%	3.7%	2.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%

<手帳を持っている人>

Q6-1. 健康等に関する手帳をどのような目的で活用していますか。(複数回答)

全体では、「薬の管理」の割合は76.9%で最も高くなっている。次いで「血圧管理」(14.1%)などが続いている。

性別でみると、活用目的の上位4項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。「薬の管理」の割合(男性:73.9%、女性:78.7%)は女性が男性を4.8ポイント上回っている。「血圧管理」(男性:16.6%、女性:12.2%)は男性が女性を4.4ポイント上回っている。

年代別では、「薬の管理」と「血圧管理」の割合は、年代が高くなるほど高まっている。

図表2-6-10 手帳の活用目的

	薬の管理	血圧管理	病気の管理	受けられる時に適切な記入している	健診結果の管理	体重管理	家族との情報共有	食事管理	その他	活用していない
※P143を参照										
手帳を持っている人 (n=939)	76.9%	14.1%	8.9%	6.5%	4.2%	2.8%	2.4%	1.2%	1.0%	11.6%
男性 (n=314)	73.9%	16.6%	9.6%	5.4%	6.1%	4.1%	2.2%	1.3%	0.3%	13.4%
女性 (n=591)	78.7%	12.2%	8.1%	6.9%	3.0%	1.7%	2.5%	1.0%	1.4%	10.8%
40代 (n=329)	73.6%	5.8%	8.5%	4.9%	3.6%	2.1%	2.7%	0.3%	1.2%	13.1%
50代 (n=362)	77.9%	16.9%	7.2%	5.8%	3.3%	2.2%	2.5%	0.8%	1.1%	10.5%
60代 (n=246)	79.7%	20.7%	11.8%	9.8%	6.1%	4.5%	2.0%	2.8%	0.4%	11.4%

Q7. 健康に関する情報をどこから入手していますか。(複数回答)

全体では、「テレビ」の割合が69.5%で最も高くなっている。次いで「インターネット(スマートフォンやタブレット等の携帯端末)」(65.7%)、「人から聞く」(25.5%)、「本や雑誌(印刷物)」(20.7%)などが続いている。

性別でみると、上位2項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。「テレビ」の割合(男性:63.4%、女性:73.9%)は10.5ポイント、「インターネット(スマートフォンやタブレット等の携帯端末)」(男性:62.3%、女性:68.4%)は6.1ポイント女性が男性を上回っている。なお、男性は「インターネット(パソコン)」(男性:27.8%、女性:13.1%)が第3位となっており、女性を14.7ポイント上回っている。

年代別では、「テレビ」の割合は年代が高くなるほど高まっている。「インターネット(スマートフォンやタブレット等の携帯端末)」の割合は年代が高くなるほど低くなっている。

図表2-6-11 健康に関する情報の入手源

	テレビ	インターネット等の携帯端末(スマートフォンやタブレット)	人から聞く	本や雑誌(印刷物)	新聞	インターネット(パソコン)	ラジオ	市広報や回覧板	その他
全体 (n=1,162)	69.5%	65.7%	25.5%	20.7%	20.1%	18.8%	11.9%	10.8%	1.7%
男性 (n=443)	63.4%	62.3%	20.5%	16.3%	21.2%	27.8%	13.1%	7.7%	2.0%
女性 (n=677)	73.9%	68.4%	29.1%	23.3%	19.2%	13.1%	11.1%	13.1%	1.6%
40代 (n=421)	66.3%	74.6%	24.2%	17.1%	14.7%	18.8%	8.1%	8.1%	1.7%
50代 (n=445)	68.1%	67.4%	24.5%	20.2%	20.0%	20.2%	11.7%	9.4%	2.0%
60代 (n=292)	77.4%	50.7%	29.1%	26.0%	28.4%	16.4%	17.8%	16.8%	1.4%

<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「インターネット(スマートフォンやタブレット等の携帯端末)」の割合は15.6ポイント高まっている。

図表2-6-12 健康に関する情報の入手源(前回調査との比較)

	テレビ	インターネット等の携帯端末(スマートフォンやタブレット)	人から聞く	本や雑誌(印刷物)	新聞	インターネット(パソコン)	ラジオ	市広報や回覧板	その他
今回(令和4年度) (n=1,162)	69.5%	65.7%	25.5%	20.7%	20.1%	18.8%	11.9%	10.8%	1.7%
前回(令和元年度) (n=385)	78.7%	50.1%	34.5%	29.9%	23.1%	22.9%	11.9%	11.4%	1.8%

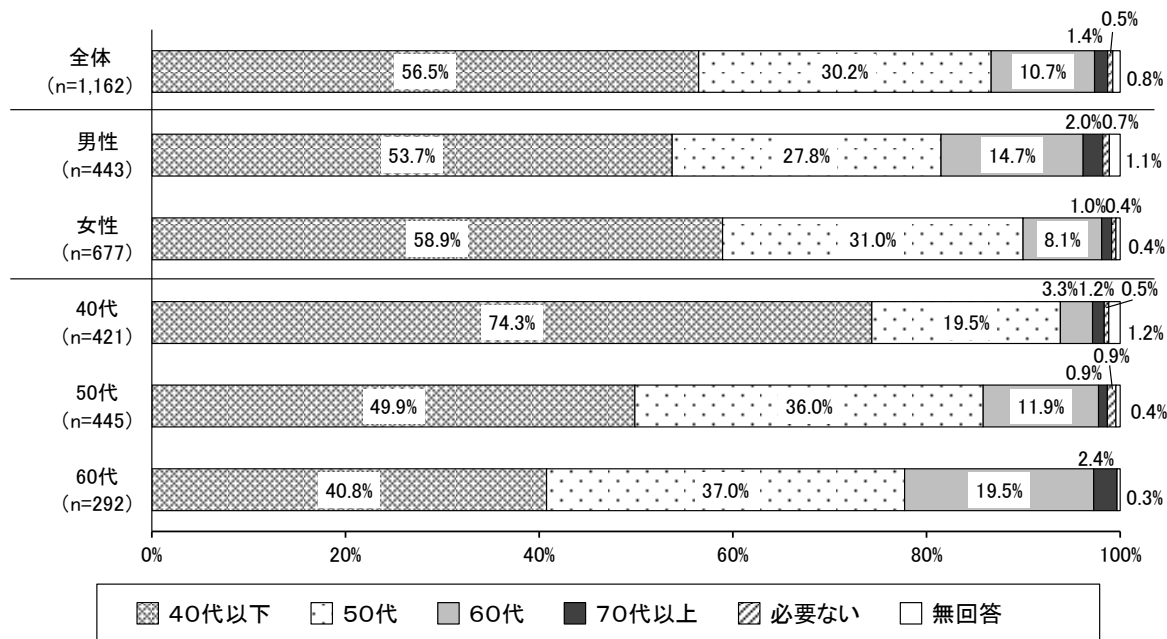
Q8. 要介護状態にならず、いつまでも自立した生活を送るためには、何歳から生活習慣に気をつければ良いと思いますか。

全体では、「40代以下」の割合が56.5%で最も高く、年代が低くなるほど割合が高くなっている。

性別で見ると、「40代以下」の割合(男性:53.7%、女性:58.9%)は女性が男性を5.2ポイント上回っている。

年代別では、40代の「40代以下」の割合(74.3%)は、他の年代(50代:49.9%、60代:40.8%)を上回っている。

図表2-6-13 何歳から生活習慣に気をつければ良いと思うか



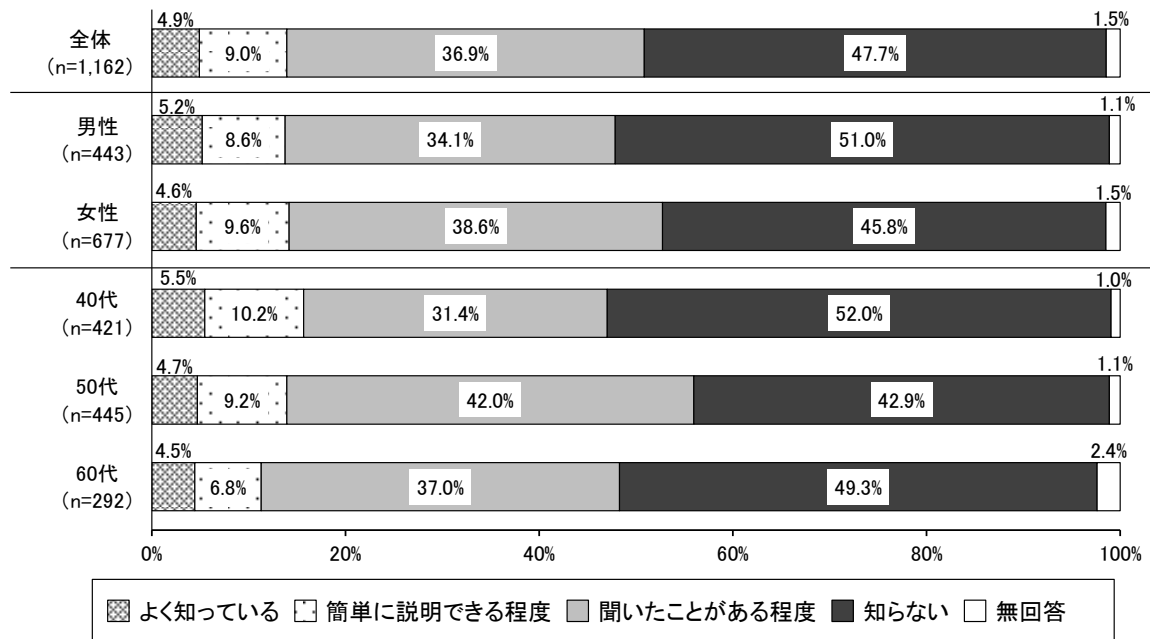
7. 地域包括ケアシステムについて(問7)

Q1. 2025年問題、2040年問題という言葉を知っていますか。

全体では、「知らない」の割合が47.7%で最も高くなっている。次に「聞いたことがある程度」が36.9%となっている。

性別で見ると、「知らない」の割合(男性:51.0%、女性:45.8%)は男性が女性を5.2ポイント上回っている。年代別では、「知らない」の割合は40代で52.0%となっており、他の年代よりも高くなっている。

図表2-7-1 2025年問題、2040年問題の認知度



Q2. あなたは、ご自身の高齢期(65歳～)の生活を考えた時に、何か不安に感じることなどはありますか。(複数回答)

全体では、「自分の健康や病気について」の割合が68.2%で最も高くなっている。次いで「生活費について」(61.4%)、「自分の介護について」(44.1%)、「家族や親戚に対する介護について」(31.4%)などが続いている。

性別では、不安に感じることの上位4項目の順位は男女とも全体と同じとなっている。「自分の健康や病気について」(男性:65.9%、女性:70.0%)と「家族や親戚に対する介護について」(男性:27.5%、女性:34.6%)の割合は、女性が男性をそれぞれ4.1ポイント、7.1ポイント上回っている。

年代別では、「自分の健康や病気について」の割合は年代が高くなるほど高まっている。また、「生活費について」、「自分の介護について」、「家族や親戚に対する介護について」の割合は、年代が高くなるほど低くなっている。

図表2-7-2 高齢期の生活を考えた時に不安に感じること

	自分の健康や病気について	生活費について	自分の介護について	家族や親戚に対する介護について	子や孫の将来について	家族や親戚との人間関係について	通院の介助や手段について	食事の用意や配食などについて	財産の管理や遺産相続などについて	掃除や洗濯などの日常生活のことについて	友人や知人、近所の人との人間関係について	話し相手がないことについて	特に悩みや不安はない	その他
全体 (n=1,162)	68.2%	61.4%	44.1%	31.4%	21.1%	18.8%	15.5%	12.8%	11.3%	10.9%	10.5%	8.7%	4.7%	1.4%
男性 (n=443)	65.9%	63.2%	44.7%	27.5%	19.4%	21.7%	14.0%	16.0%	12.4%	12.6%	11.1%	9.7%	4.3%	1.1%
女性 (n=677)	70.0%	60.4%	44.6%	34.6%	22.6%	16.7%	16.7%	11.1%	10.6%	9.9%	10.3%	8.0%	4.6%	1.3%
40代 (n=421)	65.6%	69.4%	47.7%	35.4%	24.2%	20.9%	17.8%	13.5%	11.4%	12.6%	12.4%	10.5%	5.5%	1.7%
50代 (n=445)	68.3%	63.6%	43.1%	32.6%	18.0%	19.3%	13.9%	9.4%	12.6%	9.9%	9.9%	7.4%	3.1%	1.3%
60代 (n=292)	71.9%	46.6%	41.1%	24.3%	21.2%	15.1%	14.4%	17.1%	9.2%	10.3%	8.9%	8.2%	6.2%	1.0%

Q3. 介護保険制度では、40歳～64歳の方の保険料と65歳以上の方の保険料は異なり、65歳以上になると各市町村で決めた保険料になります。

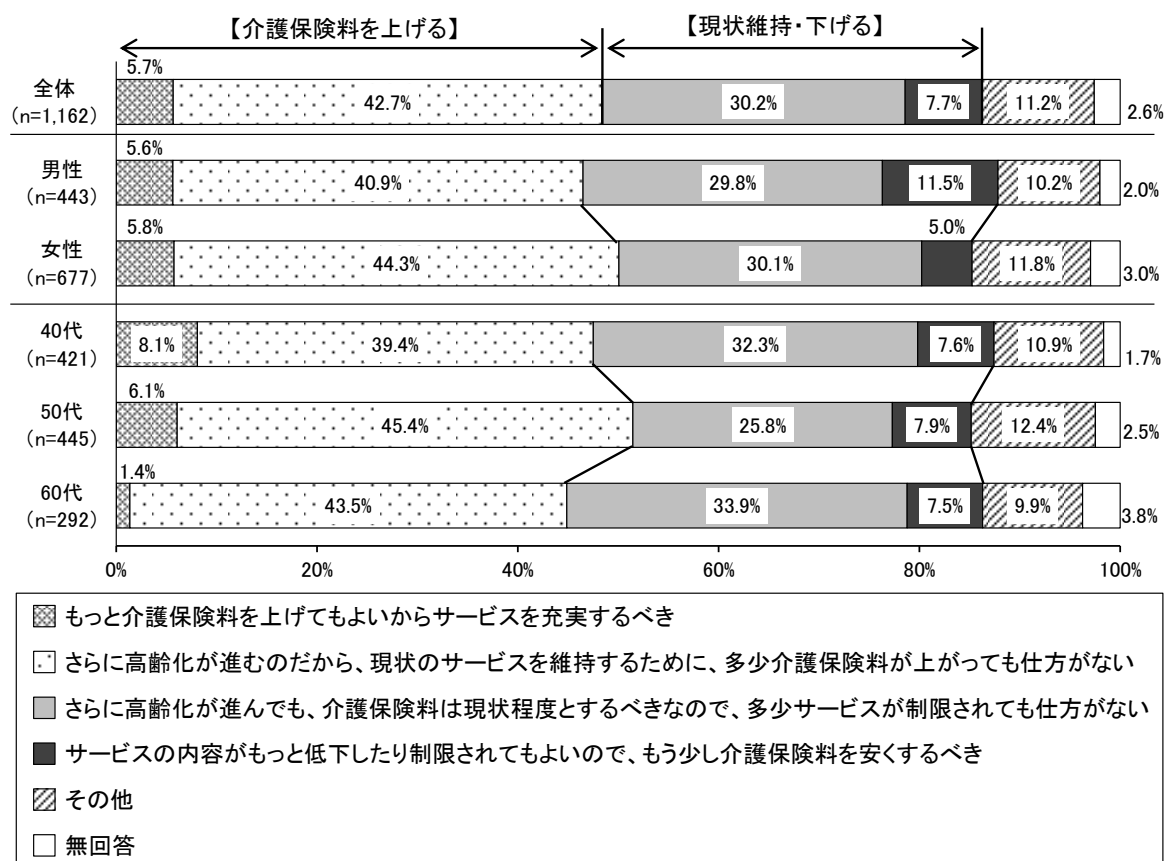
今後、高齢化が進み、介護保険制度を支えるための負担が増えていくことが予想されますが、あなたは、40歳～64歳の方の介護保険料の負担についてどのように考えますか。

全体では、「介護保険料を上げる」(「もっと介護保険料を上げてよいからサービスを充実するべき」と「さらに高齢化が進むのだから、現状のサービスを維持するために、多少介護保険料が上がっても仕方がない」の計: 以下同じ)の割合は48.4%となっている。一方、「現状維持・下げる」(「さらに高齢化が進んでも、介護保険料は現状程度とするべきなので、多少サービスが制限されても仕方がない」と「サービスの内容がもっと低下したり制限されてもよいので、もう少し介護保険料を安くするべき」の計: 以下同じ)は37.9%となっている。

性別でみると、「介護保険料を上げる」の割合(男性:46.5%、女性:50.1%)は女性が男性を3.6ポイント上回っている。

年代別では、「介護保険料を上げる」の割合(40代:47.5%、50代:51.5%、60代:44.9%)は、50代が他の年代を上回っている。

図表2-7-3 介護保険料の負担について



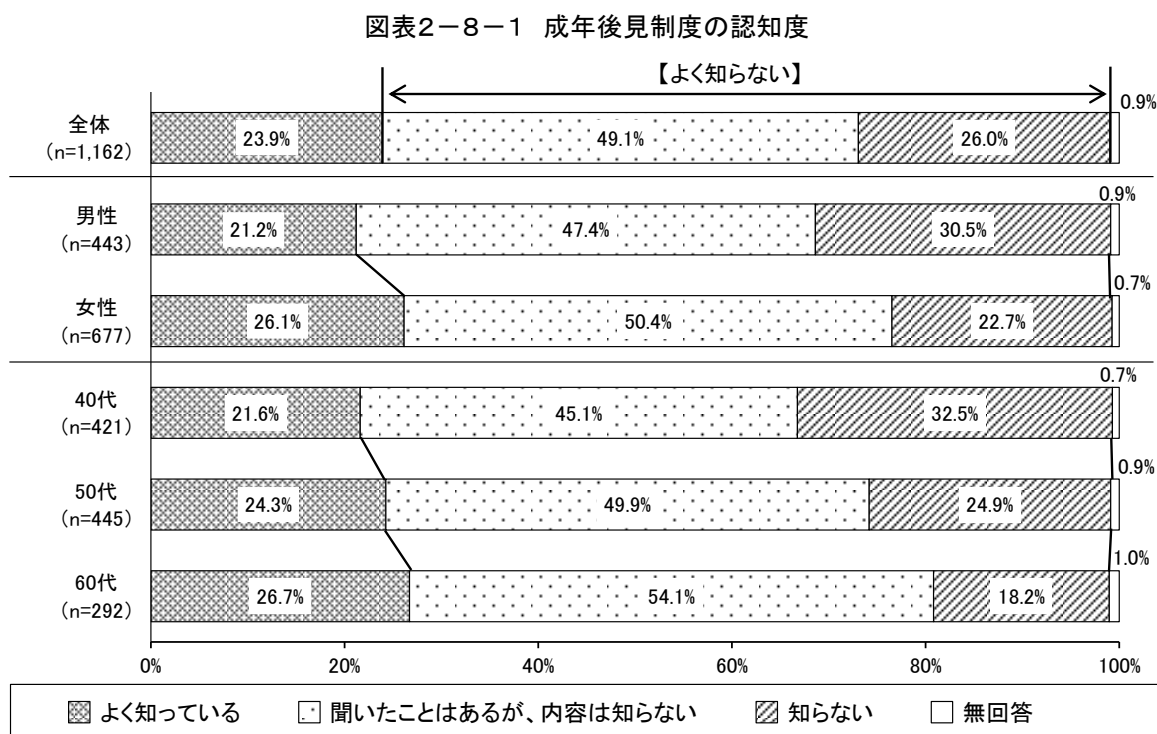
8. 権利擁護について(問8)

Q1. 認知症、知的障がいなどの理由で判断能力が不十分な方々の権利を守り、支援する(不動産や預貯金などの財産管理、介護サービスなどの契約等)成年後見制度を知っていますか。

全体では、「よく知らない」(「聞いたことはあるが、内容は知らない」と「知らない」の計:以下同じ)の割合は75.1%となっている。

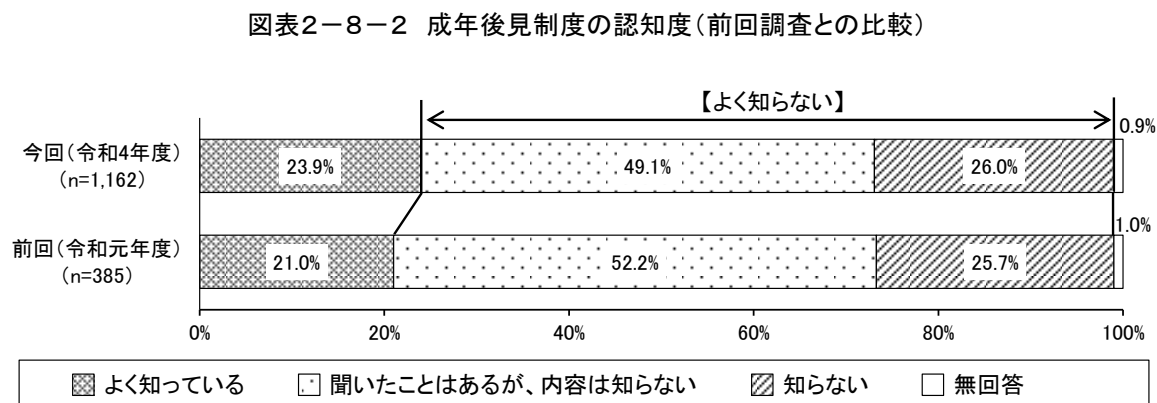
性別でみると、「よく知らない」の割合(男性:77.9%、女性:73.1%)は男性が女性を4.8ポイント上回っている。

年代別では、「よく知らない」の割合(40代:77.6%、50代:74.8%、60代:72.3%)は年代が低くなるほど高まっている。



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「よく知らない」の割合は前回は77.9%で2.8ポイント低下している。



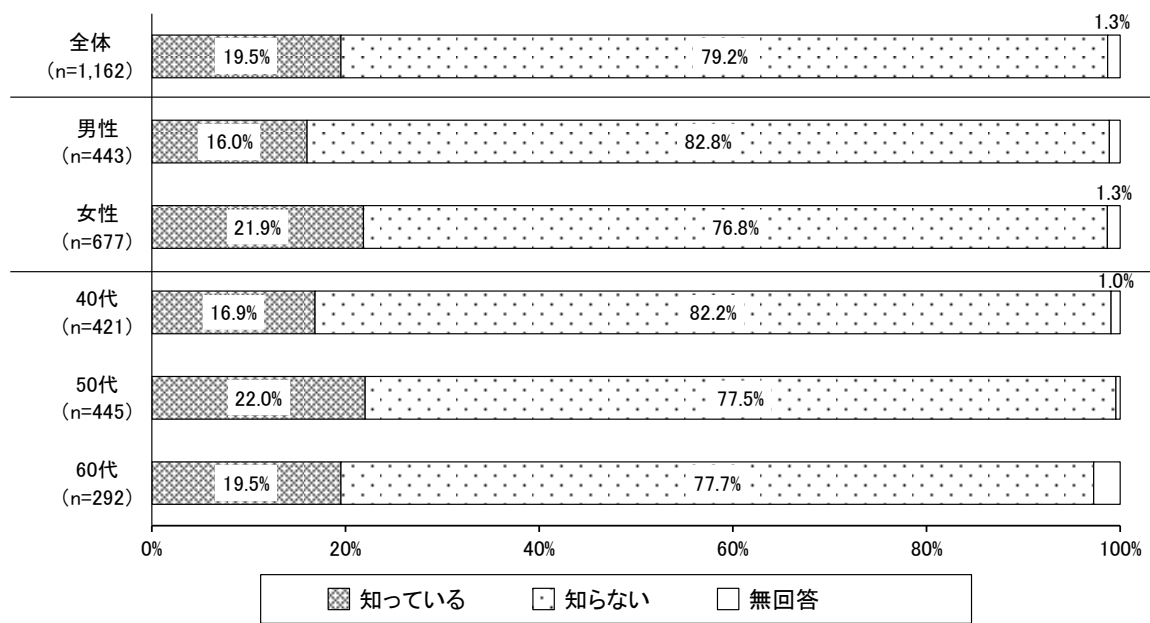
Q2. 成年後見制度の相談窓口を知っていますか。

全体では、「知らない」の割合は79.2%となっている。

性別でみると、「知らない」の割合(男性:82.8%、女性:76.8%)は男性が女性を6.0ポイント上回っている。

年代別では、「知らない」の割合は40代が82.2%、50代が77.5%、60代が77.7%となっている。

図表2-8-3 成年後見制度の相談窓口の認知度



Q3. 成年後見制度を利用したいと思った時、あなたはどこ(だれ)に相談しますか。(複数回答)

全体では、「市役所(福祉総務課)」の割合が55.5%で最も高くなっている。次いで「自分の家族」(28.1%)、「地域包括支援センター」(26.1%)などが続いている。

性別で見ると、「自分の家族」の割合(男性:21.0%、女性:32.5%)は女性が男性を11.5ポイント上回っている。

年代別では、「市役所(福祉総務課)」の割合は年代が高まるほど低下している。また、「地域包括支援センター」は年代が高くなるほど高まっている。

図表2-8-5 成年後見制度を利用したいと思った時の相談先

	市役所 (福祉総務課)	自分の家族	地域包括支援センター	弁護士や司法書士	担当ケアマネジャー	家庭裁判所	公証人役場	民生委員	介護保険事業所	近所の人	その他	わからない
全体 (n=1,162)	55.5%	28.1%	26.1%	12.7%	11.8%	5.3%	4.1%	2.8%	2.2%	1.1%	1.3%	13.9%
男性 (n=443)	56.0%	21.0%	28.0%	13.5%	7.9%	6.5%	3.4%	3.2%	1.8%	0.9%	1.8%	15.6%
女性 (n=677)	56.0%	32.5%	25.1%	12.0%	14.2%	4.6%	4.6%	2.5%	2.5%	1.3%	1.0%	13.0%
40代 (n=421)	59.6%	27.8%	23.3%	12.4%	10.7%	4.3%	4.3%	2.4%	1.2%	1.4%	1.2%	13.8%
50代 (n=445)	54.4%	23.6%	26.5%	13.5%	9.4%	5.6%	3.6%	2.0%	2.9%	0.7%	1.1%	16.6%
60代 (n=292)	51.7%	35.3%	29.8%	11.6%	16.8%	6.2%	4.8%	4.5%	2.4%	1.4%	1.7%	10.3%

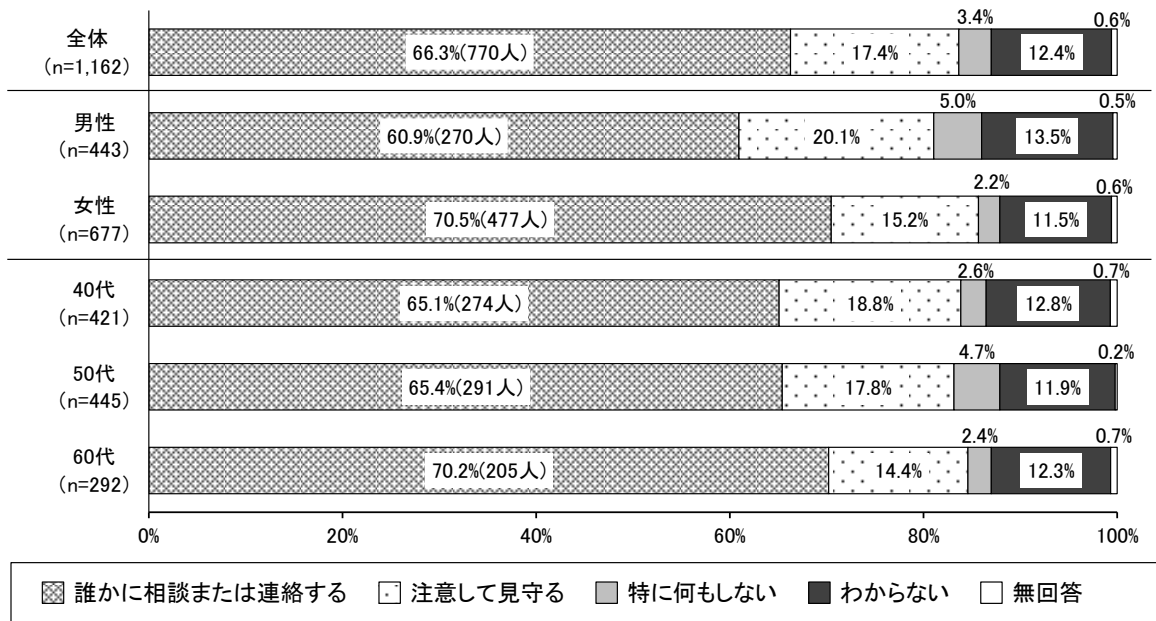
Q4. 高齢者の虐待かもしれないと思えることを見たり聞いたりした時、あなたはどうしますか。

全体では、「誰かに相談または連絡する」の割合は66.3%となっている。

性別でみると、「誰かに相談または連絡する」の割合(男性:60.9%、女性:70.5%)は女性が男性を9.6ポイント上回っている。

年代別では、「誰かに相談または連絡する」の割合(40代:65.1%、50代:65.4%、60代:70.2%)は60代が他の年代よりやや高くなっている。

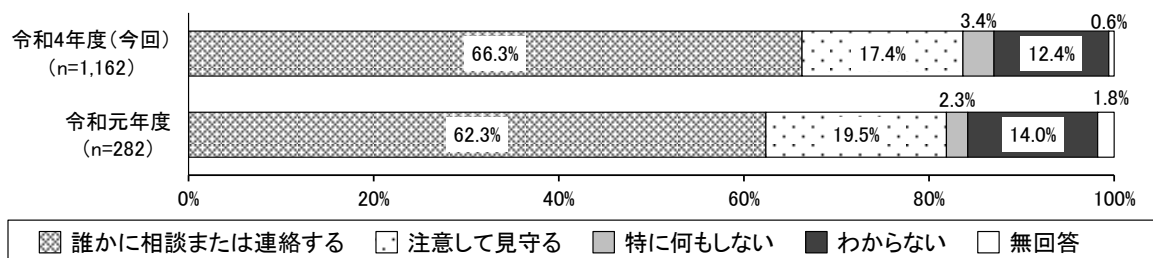
図表2-8-6 高齢者に対する虐待を見聞きした時の対応



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「誰かに相談または連絡する」の割合は4.0ポイント高まっている。

図表2-8-7 高齢者に対する虐待を見聞きした時の対応(前回調査との比較)



<誰かに相談または連絡する人>

Q4-1. どこ(だれ)に相談または連絡しますか。(複数回答)

全体では、「市役所(地域包括ケア推進課、介護保険課)」の割合が63.2%で最も高くなっている。次いで「警察」(44.9%)、「地域包括支援センター」(30.4%)、「自分の家族」(23.1%)などが続いている。

性別で見ると、相談先の上位5項目の順位は、男女とも全体と同じとなっている。「市役所(地域包括ケア推進課、介護保険課)」の割合(男性:66.3%、女性:61.6%)と「警察」(男性:49.3%、女性:41.9%)は男性が女性をそれぞれ4.7ポイント、7.4ポイント上回っている。また、「自分の家族」(男性:16.3%、女性:26.4%)は女性が男性を10.1ポイント上回っている。

年代別では、相談先の上位2項目の順位は各年代とも全体と同じとなっている。「市役所(地域包括ケア推進課、介護保険課)」の割合は40代が58.8%、50代が67.0%、60代が63.9%となっている。

図表2-8-8 高齢者に対する虐待を見聞きした時の相談、連絡先

	市役所(地域包括ケア推進課、 介護保険課)	警察	地域包括支援センター	自分の家族	民生委員	担当ケアマネジャー	近所の人	その他
※P155を参照								
相談または連絡する人 (n=770)	63.2%	44.9%	30.4%	23.1%	13.9%	10.9%	9.1%	0.9%
男性 (n=270)	66.3%	49.3%	30.7%	16.3%	13.7%	7.8%	8.1%	0.4%
女性 (n=477)	61.6%	41.9%	30.8%	26.4%	14.0%	13.2%	9.0%	1.3%
40代 (n=274)	58.8%	46.4%	28.5%	28.5%	11.7%	9.1%	10.9%	0.7%
50代 (n=291)	67.0%	47.8%	28.5%	17.9%	12.7%	9.3%	6.9%	0.7%
60代 (n=205)	63.9%	39.0%	35.6%	23.4%	18.5%	15.6%	9.8%	1.5%

<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「市役所(地域包括ケア推進課、介護保険課)」の割合は前回から20.7ポイント、「警察」は前回から12.0ポイント高まっている。

図表2-8-9 高齢者に対する虐待を見聞きした時の相談、連絡先(前回調査との比較)

	市役所(地域包括ケア推進課、 介護保険課)	警察	地域包括支援センター	自分の家族	民生委員	担当ケアマネジャー	近所の人	その他
今回(令和4年度) (n=770)	63.2%	44.9%	30.4%	23.1%	13.9%	10.9%	9.1%	0.9%
前回(令和元年度) (n=240)	42.5%	32.9%	22.9%	17.9%	16.7%	8.3%	7.9%	2.5%

9. その他

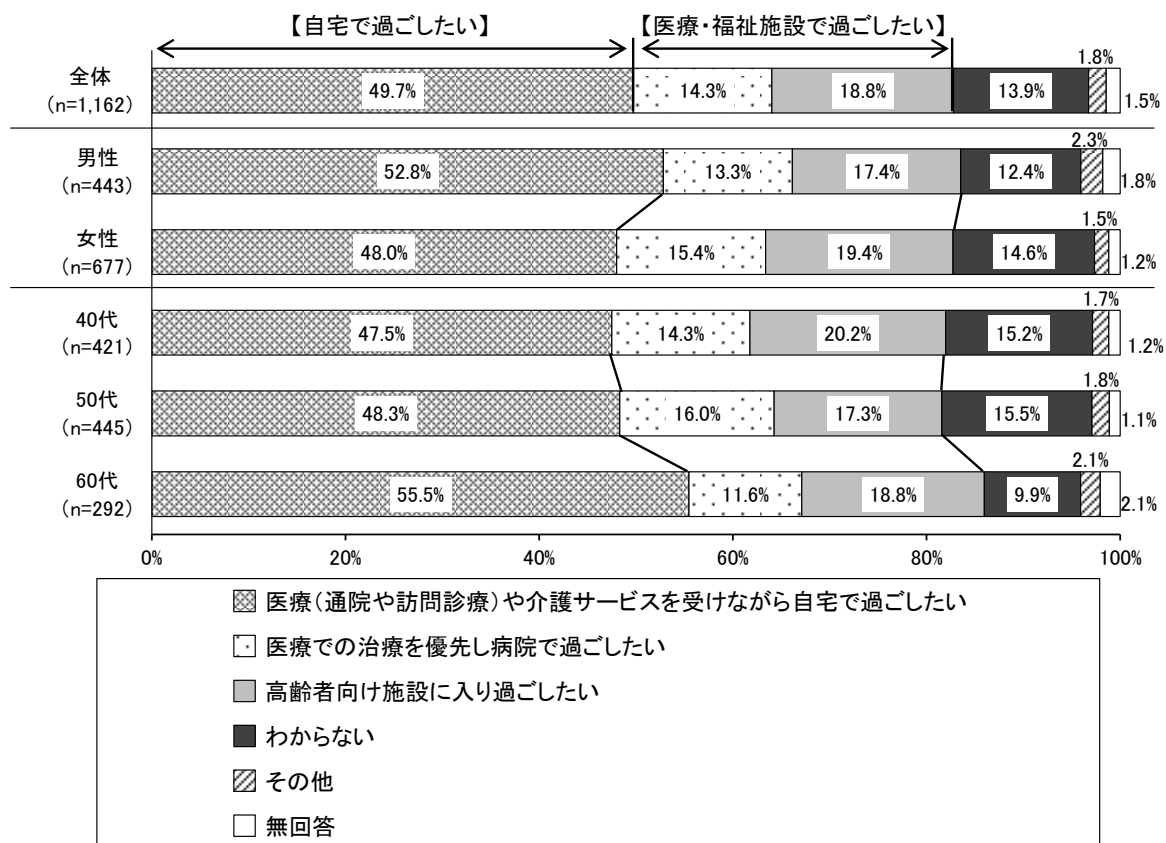
Q1. あなたが仮に介護や病気療養が必要となった時、日常生活をどのように過ごしたいと思いますか
(すでに医療や介護を受けている方は今後についてお答えください)。

全体では、「自宅で過ごしたい」(「医療(通院や訪問診療)や介護サービスを受け、できるだけ自宅で過ごしたい」:以下同じ)の割合は49.7%となっている。「医療・福祉施設で過ごしたい」(「医療での治療を優先し病院で過ごしたい」と「高齢者向けの施設に入り過ごしたい」の計:以下同じ)は33.1%となっている。

性別でみると、「自宅で過ごしたい」の割合(男性:52.8%、女性:48.0%)は男性が女性を4.8ポイント上回っている。

年代別では、「自宅で過ごしたい」の割合(40代:47.5%、50代:48.3%、60代:55.5%)は、60代は他の年代よりも高くなっている。

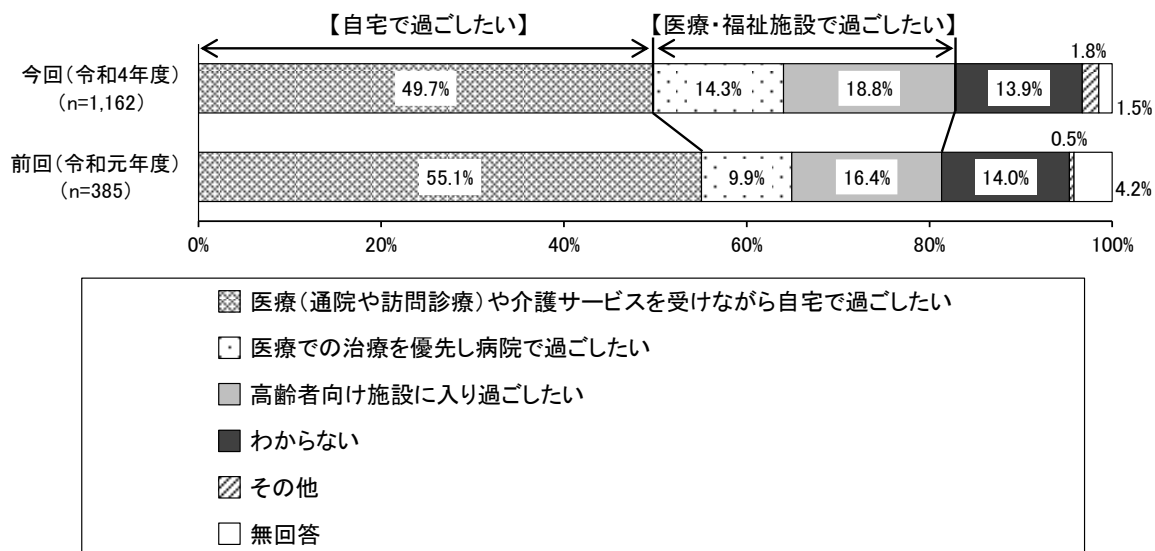
図表2-9-1 自分自身が介護等が必要になった時、日常生活をどのように過ごしたいか



<前回調査との比較>

前回調査との比較では、「自宅で過ごしたい」の割合は5.4ポイント低下している。また、「医療・福祉施設で過ごしたい」の割合は前回は26.3%で、6.8ポイント高まっている。

図表2-9-2 自分自身が介護等が必要になった時、日常生活をどのように過ごしたいか(前回調査との比較)



Q2. 介護や病氣療養が必要になっても、できるだけ在宅での生活を維持するとしたら、どのようなことに不安があると思いますか。(複数回答)

全体では、「介護する家族の負担が大きい」の割合が65.7%で最も高くなっている。次いで「往診や訪問診療してくれるかかりつけ医師がいない」(41.0%)、「症状が悪化した時にすぐ入院できるか不安」(33.0%)などが続いている。

性別で見ると、不安なことの順位は、男女とも全体と同じとなっている。また、上位3項目は女性の割合が男性を上回っている。

年代別では、不安なことの順位は全体と同じとなっている。「介護する家族の負担が大きい」の割合は年代が高くなるほど低くなっている。一方、「往診や訪問診療してくれるかかりつけ医師がいない」の割合は、年代が高くなるほど高まっている。

図表2-9-3 要介護等の状態になって在宅で生活を送る上で不安なこと

	介護する家族の負担が大きい	往診や訪問診療してくれるかかりつけ医師がいない	症状が悪化した時にすぐ入院できるか不安	訪問看護(看護師の訪問)の体制が整っていない	訪問介護(ホームヘルパー)の体制が整っていない	24時間相談に乗ってくれるところがない	特に不安はない	その他
全体 (n=1,162)	65.7%	41.0%	33.0%	22.6%	18.8%	17.0%	3.4%	2.7%
男性 (n=443)	60.7%	39.5%	30.9%	23.9%	18.5%	14.7%	4.5%	2.5%
女性 (n=677)	69.1%	41.8%	34.7%	22.3%	19.5%	18.6%	2.4%	3.0%
40代 (n=421)	73.6%	39.2%	32.1%	22.6%	20.2%	19.7%	3.3%	2.4%
50代 (n=445)	62.9%	39.8%	30.8%	20.4%	18.2%	14.2%	4.0%	3.6%
60代 (n=292)	58.6%	45.5%	38.4%	26.4%	18.2%	17.5%	2.7%	1.7%

<前回調査との比較>

前回調査との比較では、不安なことの順位は同じ結果となっている。「介護する家族の負担が大きい」の割合は6.5ポイント低下し、「往診や訪問診療してくれるかかりつけ医師がいない」は4.4ポイント高まっている。

図表2-9-4 要介護等の状態になって在宅で生活を送る上で不安なこと(前回調査との比較)

	介護する家族の負担が大きい	往診や訪問診療してくれるかかりつけ医師がいない	症状が悪化した時にすぐ入院できるか不安	訪問看護(看護師の訪問)の体制が整っていない	訪問介護(ホームヘルパー)の体制が整っていない	24時間相談に乗ってくれるところがない	特に不安はない	その他
今回(令和4年度) (n=1,162)	65.7%	41.0%	33.0%	22.6%	18.8%	17.0%	3.4%	2.7%
前回(令和元年度) (n=385)	72.2%	36.6%	32.7%	19.5%	17.7%	14.3%	3.4%	4.2%

Q3. アドバンス・ケア・プランニング※(ACP)もしくはその愛称「人生会議」を知っていましたか。

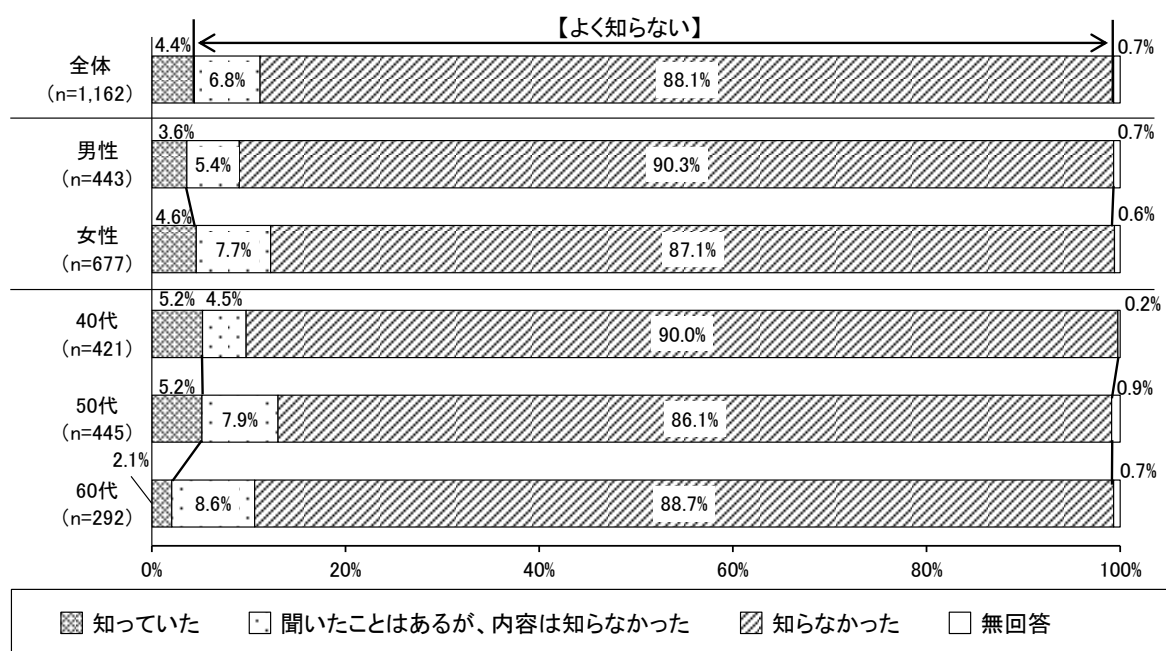
※人生の最終段階における医療・ケアについて、患者本人と家族が医療者(介護者)と一緒に話し合うこと。

全体では、「よく知らない」(「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」と「知らなかった」の計:以下同じ)の割合は94.9%となっている。

性別でみると、「よく知らない」の割合(男性:95.7%、女性:94.8%)は男性が女性を0.9ポイント上回っている。

年代別では、「よく知らない」の割合(40代:94.5%、50代:94.0%、60代:97.3%)は、60代は他の年代よりも高くなっている。

図表2-9-5 アドバンス・ケア・プランニングの認知度



Q4.「宮崎市版エンディングノート(わたしの想いをつなぐノート)」を宮崎市が配付していることを知っていますか。

全体では、「知らない」の割合は76.0%となっている。「知っていた」は23.4%となっている。
 性別で見ると、「知らない」の割合(男性:86.2%、女性:69.3%)は男性が女性を16.9ポイント上回っている。
 年代別では、「知らない」の割合は、40代は75.1%、50代は75.7%、60代は77.7%となっている。

図表2-9-6 宮崎市版エンディングノート(わたしの想いをつなぐノート)の認知度

